

第2回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 気候変動への適応
- (2) 環境に配慮した生活
- (3) 生物多様性
- (4) 鳥獣被害
- (5) かながわの広報
- (6) スポーツ
- (7) 地域コミュニティ
- (8) 地域社会との関わり
- (9) 「未病改善」の取組
- (10) かかりつけ薬剤師・薬局
- (11) 肝炎・アルコール依存症対策
- (12) 妊娠・出産等に関するライフプランニング
- (13) 地震対策の取組
- (14) 自転車損害賠償責任保険等への加入

3 調査設計

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| (1) 調査地域 | 神奈川県全域 |
| (2) 調査対象 | 県内在住の満18歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 3,000標本 |
| (4) 標本抽出方法 | 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用 |
| (6) 調査期間 | 令和元年11月1日（金）～11月25日（月） |
| (7) 調査委託機関 | 株式会社 アストジェイ |

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,353標本 〔 郵送回答 : 1,108件 インターネット回答 : 245件 〕
有効回収率	45.1%

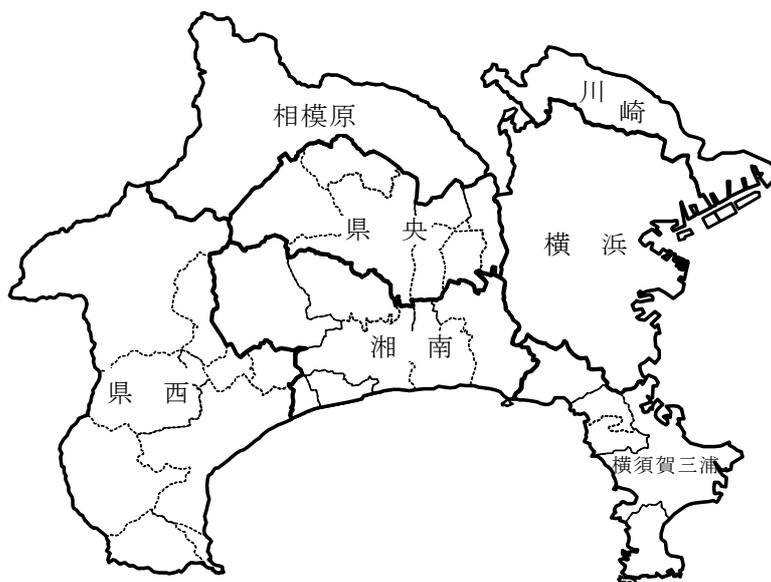
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	539	44.9%
川崎	川崎市	460	167	36.3%
相模原	相模原市	220	94	42.7%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	120	46.2%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	112	37.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	201	45.7%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	65	54.2%
無 回 答			55	
全 体		3,000	1,353	45.1%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成30年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,151,992人 60地点 1,200標本	-	-	3,151,992人 60地点 1,200標本
川 崎	1,244,734人 23地点 460標本	-	-	1,244,734人 23地点 460標本
相模原	610,951人 11地点 220標本	-	-	610,951人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	577,545人 12地点 240標本	26,234人 1地点 20標本	603,779人 13地点 260標本
県 央	-	677,542人 14地点 280標本	36,298人 1地点 20標本	713,840人 15地点 300標本
湘 南	-	1,006,774人 20地点 400標本	90,954人 2地点 40標本	1,097,728人 22地点 440標本
県 西	-	199,901人 4地点 80標本	93,570人 2地点 40標本	293,471人 6地点 120標本
人口計	5,007,677人	2,461,762人	247,056人	7,716,495人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成30年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差をとり、「・・・ポイント増（減）」等と記載した。
- (7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度95%のときの標本誤差 (%) を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) \ 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,353	± 2.31	± 3.08	± 3.52	± 3.77	± 3.84
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,353 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.77%以内（真の値は、56.23%～63.77%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 353) (%)

横浜	39.8
川崎	12.3
相模原	6.9
横須賀三浦	8.9
県央	8.3
湘南	14.9
県西	4.8

(無回答 4.1)

(2) 性別 (n=1, 353) (%)

男性	42.8
女性	50.8

(無回答 6.4)

(3) 年齢 (n=1, 353) (%)

18～19歳	0.1
20～29歳	5.9
30～39歳	13.6
40～49歳	20.5
50～59歳	19.1
60～69歳	18.0
70～74歳	8.3
75歳以上	10.7

(無回答 3.8)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 353) (%)

小学校入学前	12.2
小学校在学中	13.7
中学校在学中	6.9
高校在学中	7.8
短大、専門学校等在学中	0.7
大学、大学院等在学中	7.4
学校教育終了[未婚]	22.7
学校教育終了[既婚]	25.6
その他	3.5
子どもはいない	23.8

(無回答 4.5)

(5) 家族形態

(n=1, 353) (%)

一人暮らし (単身世帯)	9.9
夫婦のみ (1世代世帯)	28.5
親と子の世帯 (2世代世帯)	50.0
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	5.9
その他の世帯	4.8

(無回答 0.8)

(6) 職業区分

(n=1, 353) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.6
	家族従業者	1.6
勤め・内職	勤め (フルタイム)	39.0
	勤め (パートタイム)	16.1
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めについていない)	17.8	
学生	0.9	
無職	15.1	
その他	1.0	

(無回答 2.8)

(6-1) 有職者の職業内容

(n=845) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.5
	商工サービス業	5.6
	自由業	4.9
勤め・内職	経営・管理職	8.8
	専門・技術職	19.1
	事務職	23.9
	教育職	6.2
	技能・労務職	9.8
	販売・サービス職	19.2

(無回答 2.2)

第 2 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

第1章 気候変動への適応

1 「気候変動への適応」の認知度 (P355)

「気候変動への適応」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が42.9%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が27.1%であった。

2 「気候変動への適応」への関心 (P357)

「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(52.0%)と「どちらかといえば関心がある」(37.6%)を合わせた《関心がある》が89.7%であった。

一方、「関心がない」(1.1%)と「どちらかといえば関心がない」(4.2%)を合わせた《関心がない》は5.3%であった。

3 「気候変動への適応」の中で関心があるもの (P359)

「気候変動への適応」への関心(問2)で、《関心がある》と回答した1,213人に「気候変動への適応」の中で特に関心があるものを複数回答(2つまで選択可)で尋ねたところ、「強い台風や激しい雨による交通・電気・水道などのインフラへの被害の対処」が65.5%で最も多く、次いで「水害をもたらす高い波や土砂災害などの自然災害が増加することへの対処」が53.8%であった。

4 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由 (P361)

「気候変動への適応」への関心(問2)で、《関心がない》と回答した72人に「気候変動への適応」に関心を持つことが難しいと思う理由を複数回答(2つまで選択可)で尋ねたところ、「具体的に何をしたらいいのかわからないから」が41.7%で最も多く、「気候変動によりどのような影響があるのかよくわからないから」(30.6%)と「気候変動による影響の危機感が感じられないから」(29.2%)が約3割で続いた。

第2章 環境に配慮した生活

1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望 (P363)

多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が29.1%であった。

一方、「購入したいと思わない」は、17.7%であった。

2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望 (P365)

多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が45.1%であった。

一方、「購入したいと思わない」は、10.9%であった。

3 環境問題の情報収集の有無 (P367)

興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」が24.0%であった。

一方、「収集していない」は、43.2%であった。

4 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望 (P369)

NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したいと思う、すでに参加している」が11.2%であった。

一方、「参加したいと思わない」は、31.6%であった。

5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献 (P371)

企業等の持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思うか尋ねたところ、「生かされていると思う」が42.1%であった。

一方、「生かされていると思わない」は、20.7%であった。

第3章 生物多様性

1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (P373)

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が37.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が32.2%であった。

2 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの (P375)

神奈川県における生物多様性の保全について、どの取組が重要だと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」が84.8%で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組」が59.8%であった。

3 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組 (P377)

生物多様性について知る、または行動する機会として、どの取組に参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」が37.5%で最も多く、次いで「自然や生きものとふれあう自然観察会」が30.5%であった。

第4章 鳥獣被害

1 被害を及ぼす野生鳥獣として知っているもの (P379)

人と野生鳥獣とのあつれきにより発生している農林業被害、人身被害、生活被害などを及ぼす野生鳥獣として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「カラス」(75.4%)と「イノシシ」(74.2%)がともに7割台であった。

2 鳥獣被害が生じる原因 (P381)

神奈川県で鳥獣被害が生じる原因について複数回答で尋ねたところ、「地球温暖化による生息環境の変化」が56.2%で最も多く、次いで「外来生物の移入」が46.6%であった。

3 鳥獣被害問題を解決するために参加したい取組 (P383)

鳥獣被害問題を解決するためにどのような取組であれば参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修」が28.8%で最も多く、「鳥獣被害を防ぐためのやぶ刈作業、防護柵の設置等の実技研修」(19.3%)と「担い手不足解消のための農業ボランティア」(19.2%)が約2割で続いた。

第5章 かながわの広報

1 県の広報の達成度 (P385)

神奈川県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えていると思う」(9.3%)と「どちらかといえば伝えていると思う」(38.9%)を合わせた《伝えていると思う》は48.2%であった。

一方、「伝えていないと思う」(9.8%)と「どちらかといえば伝えていないと思う」(14.2%)を合わせた《伝えていないと思う》は23.9%であった。

2 県の広報媒体の認知度 (P387)

神奈川県が県政情報を伝える広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が75.2%で最も多く、次いで「県のホームページ」が29.6%であった。

3 神奈川県の情報の入手先 (P389)

神奈川県の情報(事業や行事、お知らせなど)を、どこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が64.2%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオのニュースなど」が24.2%であった。

4 今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法 (P391)

神奈川県が情報を発信する上で、今後、積極的に力を入れたほうがよいと思う広報の方法を複数回答(3つまで選択可)で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が45.7%で最も多く、次いで「県のホームページ」が27.1%であった。

第6章 スポーツ

1 1年間のスポーツ実施日数 (P393)

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度(年151日~250日)」が15.9%で最も多く、次いで「週に2日程度(年に101日~150日)」(14.6%)と「月に1~3日程度(年12日~50日)」(14.2%)が続いた。

2 「3033(サンマルサンサン)運動」の認知度 (P395)

「3033(サンマルサンサン)運動」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が81.6%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.6%であった。

3 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度 (P397)

「総合型地域スポーツクラブ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が75.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が13.9%であった。

4 「かながわのパラスポーツ」の認知度 (P399)

「かながわパラスポーツ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が79.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が13.1%であった。

5 横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況 (P401)

横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019を観戦したか複数回答で尋ねたところ、「テレビで観戦した」が72.1%で最も多く、次いで「全く観戦しなかった」が21.7%であった。

6 ラグビーへの興味 (P403)

横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況(問22)で「直接試合会場で観戦した」、「ファンゾーンで観戦した」、「ファンゾーン以外のパブリックビューイングで観戦した」、「テレビで観戦した」のいずれかを選択した1,001人にラグビーに対して興味を持ったか尋ねたところ、「ワールドカップを見て、ラグビーに興味を持った」が62.6%で最も多く、次いで「以前からファンだったが、さらに興味が深まった」が17.9%であった。

第7章 地域コミュニティ

1 将来の親族等との同居・近居意向 (P405)

将来、親や子、親族の近くに、あるいは一緒に住みたいという考えがあるか尋ねたところ、「ある」(24.3%)と「どちらかといえばある」(27.9%)を合わせた《ある》は52.2%であった。

一方、「ない」(9.2%)と「どちらかといえばない」(6.0%)を合わせた《ない》は15.2%であった。

2 コミュニケーション相手の年代 (P407)

日頃、地域において、どの年代の人とコミュニケーションを取っているか複数回答で尋ねたところ、「年代は問わず取っている」が28.4%で最も多く、「60代」(26.5%)と「70代」(23.5%)が続いた。

一方、「取っていない」は、21.1%であった。

3 コミュニケーションに期待しているもの (P409)

コミュニケーション相手の年代(問24)で「年代は問わず取っている」、「10代以下」、「20代」、「30代」、「40代」、「50代」、「60代」、「70代」、「80代以上」のいずれかを選択した1,028人に、その年代の方とのコミュニケーションに期待しているものを複数回答で尋ねたところ、「情報が得られる」が69.2%で最も多く、次いで「楽しさが得られる」が52.6%であった。

4 「地域コミュニティ」としてイメージする範囲 (P411)

「地域コミュニティ」のイメージはどの範囲か複数回答で尋ねたところ、「自治会、町内会」が54.5%で最も多く、次いで「範囲にこだわらず幅広い」が27.3%であった。

第8章 地域社会との関わり

1 地域社会との関わり方に関する意識 (P413)

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が67.8%であった。

一方、「そう思わない」は、27.8%であった。

2 退職後や65歳以降の人生でやりたいこと (P415)

退職後や65歳以降の人生でやりたいと考えていることを尋ねたところ、「趣味の活動（運動等を含む）」が43.3%で最も多く、次いで「仕事」が10.2%であった。

3 地域活動への参加頻度 (P417)

地域活動（ボランティア、自治会等）の参加頻度について尋ねたところ、「参加していない」が53.4%で最も多く、次いで「年に1、2回程度」が15.2%であった。

4 地域活動の参加の妨げとなる理由 (P419)

地域活動への参加頻度（問28）で「半年に1、2回程度」、「年に1、2回程度」、「参加していない」のいずれかを選択した1,041人に地域活動の参加の妨げとなる理由を尋ねたところ、「時間がない」が38.3%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」が22.6%であった。

5 地域活動に参加するための支援やきっかけ (P421)

地域活動に関して、どのような支援やきっかけがあれば参加しやすくなると思うか尋ねたところ、「知人や家族等からの誘い」が51.4%で最も多く、次いで「広告、チラシやウェブサイト、SNS等による情報提供」が16.3%であった。

6 地域での課題 (P423)

住んでいる地域で課題だと感じていることを尋ねたところ、「特にない」が25.1%で最も多く、次いで「自治会等の地域活動の担い手が不足している」が23.2%であった。

第9章 「未病改善」の取組

1 「未病（ME-BYO）」の認知度 (P425)

「未病（ME-BYO）」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」が61.4%であった。

一方、「聞いたことがない（今回の調査で初めて聞いた）」は、36.1%であった。

2 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度（P427）

「未病（ME－BYO）」の認知度（問31）で、「聞いたことがある」と回答した831人に、「未病（ME－BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が67.1%であった。

一方、「言葉の意味は知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、31.3%であった。

3 「未病改善」の取組の実践（P429）

過去の1年間で「未病改善」の取組（バランスの良い食事、運動、人との交流等）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」が31.7%で最も多く、次いで「以前から行っておらず、今も行っていない」が24.2%であった。

4 「未病改善」の取組に必要なと思うもの（P431）

「未病改善」の取組（バランスの良い食事、運動、人との交流等）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設」が42.3%で最も多く、「医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス」（41.7%）と「健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報」（38.7%）が約4割で続いた。

第10章 かかりつけ薬剤師・薬局

1 薬局を選ぶ基準（P433）

医療機関で処方箋を受け取った場合、どのような基準で薬局を選ぶか尋ねたところ、「処方箋を受け取った医療機関からの距離が近い」が62.9%で最も多く、次いで「自宅からの距離が近い」が14.4%であった。

2 薬局の薬剤師への相談意向（P435）

薬局で調剤された薬を受け取る時以外に、いつどのように薬の効き目や副作用等に関することを、薬局の薬剤師に相談したいか尋ねたところ、「薬を服用している期間中に体調に変化があり、副作用等を疑うとき」が37.7%で最も多く、次いで「相談したいと思うことはない」が23.8%であった。

3 かかりつけの薬剤師・薬局に対するニーズ（P437）

かかりつけの薬剤師・薬局にどのようなことをしてほしいか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「服用している薬の効果や副作用の継続的な確認」が50.2%で最も多く、「服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談」（27.9%）と「ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する情報提供」（27.2%）が続いた。

第11章 肝炎・アルコール依存症対策

1 ウイルス性肝炎の認知度 (P439)

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「どのような病気か知っている」が46.6%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が40.7%であった。

2 「肝炎ウイルス検査」の受診状況 (P441)

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」が23.5%であった。

一方、「受けたことがない」は、62.1%であった。

3 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由 (P443)

「肝炎ウイルス検査」の受診状況(問38)で肝炎ウイルス検査を「受けたことがない」と回答した840人に、受診しない理由について尋ねたところ、「健康なので必要ないから」が56.8%で最も多く、次いで「日程や場所がわからなかったから」が24.5%であった。

4 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの (P445)

アルコール依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関(病院や診療所など)」が76.3%で最も多く、次いで「公的機関(精神保健福祉センターや保健所など)」が34.7%であった。

第12章 妊娠・出産等に関するライフプランニング

1 妊娠・出産等について知っていること (P447)

妊娠・出産等について知っていることを複数回答で尋ねたところ、「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」が81.4%で最も多く、次いで「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」が78.4%であった。

2 妊娠・出産や不妊に関する情報の入手先 (P449)

妊娠・出産等について知っていること(問40)で「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」、「卵子は胎児のうちに一生分作られ、出生後に新たに作られることはない」、「精子は加齢とともに徐々に作られる数が減少する」、「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」、「不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなる」のいずれかを選択した1,190人に妊娠・出産や不妊に関する情報をどこから入手しているかを複数回答で尋ねたところ、「テレビ番組・テレビCM」が19.7%で最も多く、次いで「インターネット(SNSやアプリなども含む)」が13.2%であった。

3 妊娠・出産と年齢との関係について知っておきたい年代 (P451)

男女の加齢により妊娠しにくくなるなど、妊娠・出産と年齢との関係についての情報をいつでも知っておくのがよいと思うか尋ねたところ、「高校生の頃 (15～17歳頃)」が29.2%で最も多く、次いで「中学生の頃 (12～14歳頃)」が28.0%であった。

4 妊娠・出産等に関するライフプランの有無 (P453)

「将来、自分が子どもを持つのか持たないのか、どのようにその希望を実現するか」といった観点から人生設計 (ライフプラン) を考えたことがあるか尋ねたところ、「考えたことがある」が60.5%であった。

一方、「考えたことがない」は、17.7%であった。

第13章 地震対策の取組

1 大きな地震に備えた対策 (P455)

神奈川県では、首都直下地震や南海トラフ地震、神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水を備蓄している」が66.6%で最も多く、次いで「非常持ち出し品を準備している」が47.8%であった。

2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度 (P457)

大きな地震に備えた対策 (問43) で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している (一部固定を含む)」と回答した559人に、家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策がどの程度までできているか尋ねたところ、「重量のある家具・家電などの一部の固定はできている」が41.3%で最も多く、次いで「重量のある家具・家電などの固定はできている」が29.2%であった。

3 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由 (P459)

大きな地震に備えた対策 (問43) で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している (一部固定を含む)」と回答しなかった794人に、家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由を複数回答で尋ねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」が32.9%で最も多く、「家具や壁などに傷をつけるから」(19.1%) と「面倒だから」(19.0%) が約2割で続いた。

4 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動 (P461)

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する (地震後、5分以内で避難を開始)」が88.2%で最も多かった。

5 津波に対する知識 (P463)

津波に関する10項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」(94.4%)、「津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」(92.1%)、「津波は、繰り返し襲ってくる」(91.0%)がそれぞれ9割を超えた。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗(『オレンジフラッグ』といいます)が出されることがある」が83.9%で最も多かった。

6 津波に対して実施が望まれる制度 (P470)

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、『津波災害警戒区域』の指定が17.1%で最も多く、『津波災害特別警戒区域』の指定(15.4%)と「津波防災地域づくりの総合防災ビジョンを示す『推進計画』の策定」(15.2%)が続いた。

第14章 自転車損害賠償責任保険等への加入

1 自転車の利用状況 (P472)

通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が35.0%であった。

一方、「利用していない」は、60.6%であった。

2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況 (P474)

自転車の利用状況(問47)で、「利用している」と回答した473人に、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険(自転車損害賠償責任保険等)に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が60.3%であった。

一方、「加入していない」は、31.5%であった。

3 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え (P476)

すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に参加することについてどう思うか尋ねたところ、「加入すべきである」が81.2%であった。

一方、「その必要はない」は、5.0%であった。

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイント増（減）」等という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

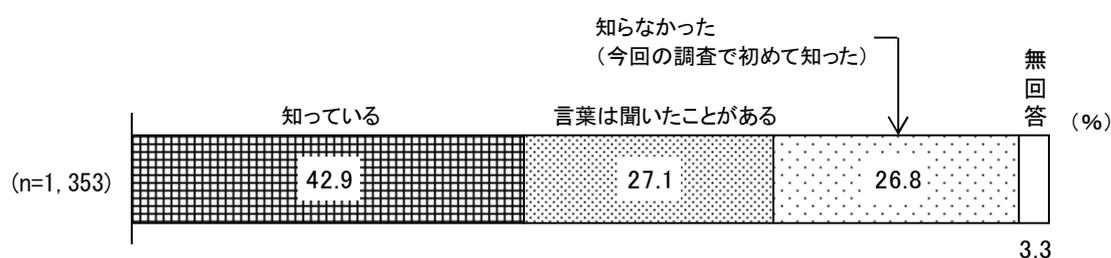
第1章 気候変動への適応【問1～問2-2】

1 「気候変動への適応」の認知度【問1】

【全体の状況】

「気候変動への適応」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が42.9%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が27.1%であった。（図表1-1-1）

図表1-1-1 「気候変動への適応」の認知度



【地域別の状況】

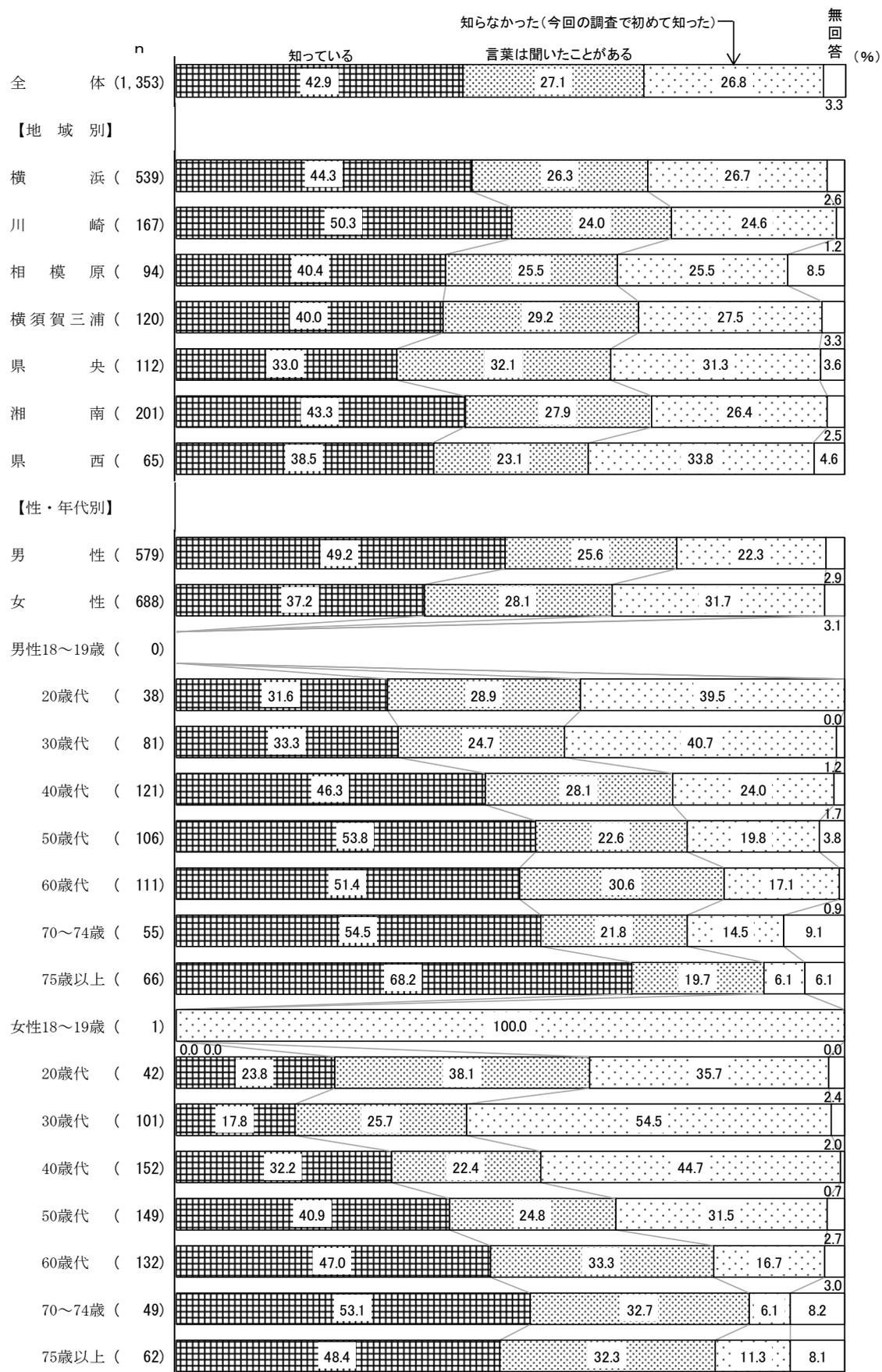
地域別にみると、「知っている」は、川崎が50.3%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、県央が32.1%で最も多かった。（図表1-1-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「知っている」は、男性（49.2%）が女性（37.2%）を12.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「知っている」は、男性の75歳以上が68.2%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、女性の20歳代が38.1%で最も多かった。（図表1-1-2）

図表1-1-2 「気候変動への適応」の認知度—地域別、性・年代別



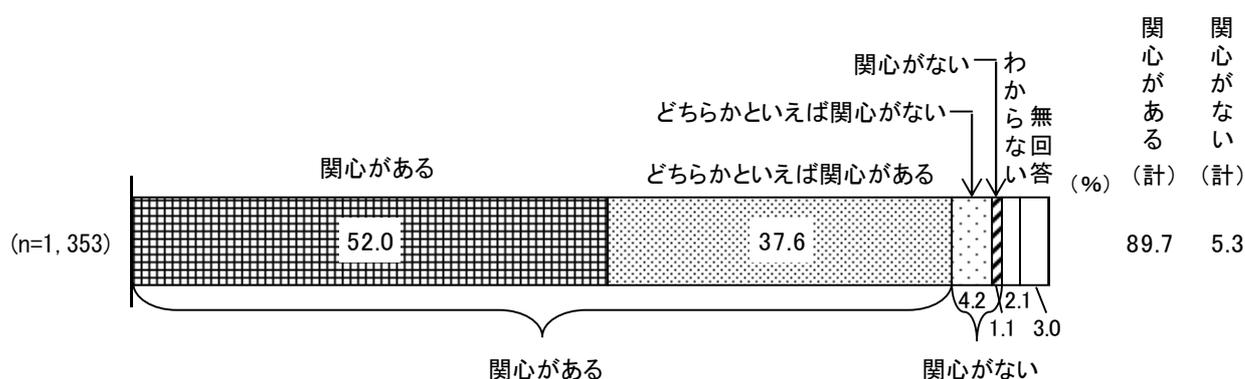
2 「気候変動への適応」への関心【問2】

【全体の状況】

「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(52.0%)と「どちらかといえば関心がある」(37.6%)を合わせた《関心がある》は89.7%であった。

一方、「関心がない」(1.1%)と「どちらかといえば関心がない」(4.2%)を合わせた《関心がない》は5.3%であった。(図表1-2-1)

図表1-2-1 「気候変動への適応」への関心



【地域別の状況】

地域別にみると、《関心がある》は、横須賀三浦が95.0%で最も多く、次いで川崎が94.0%であった。

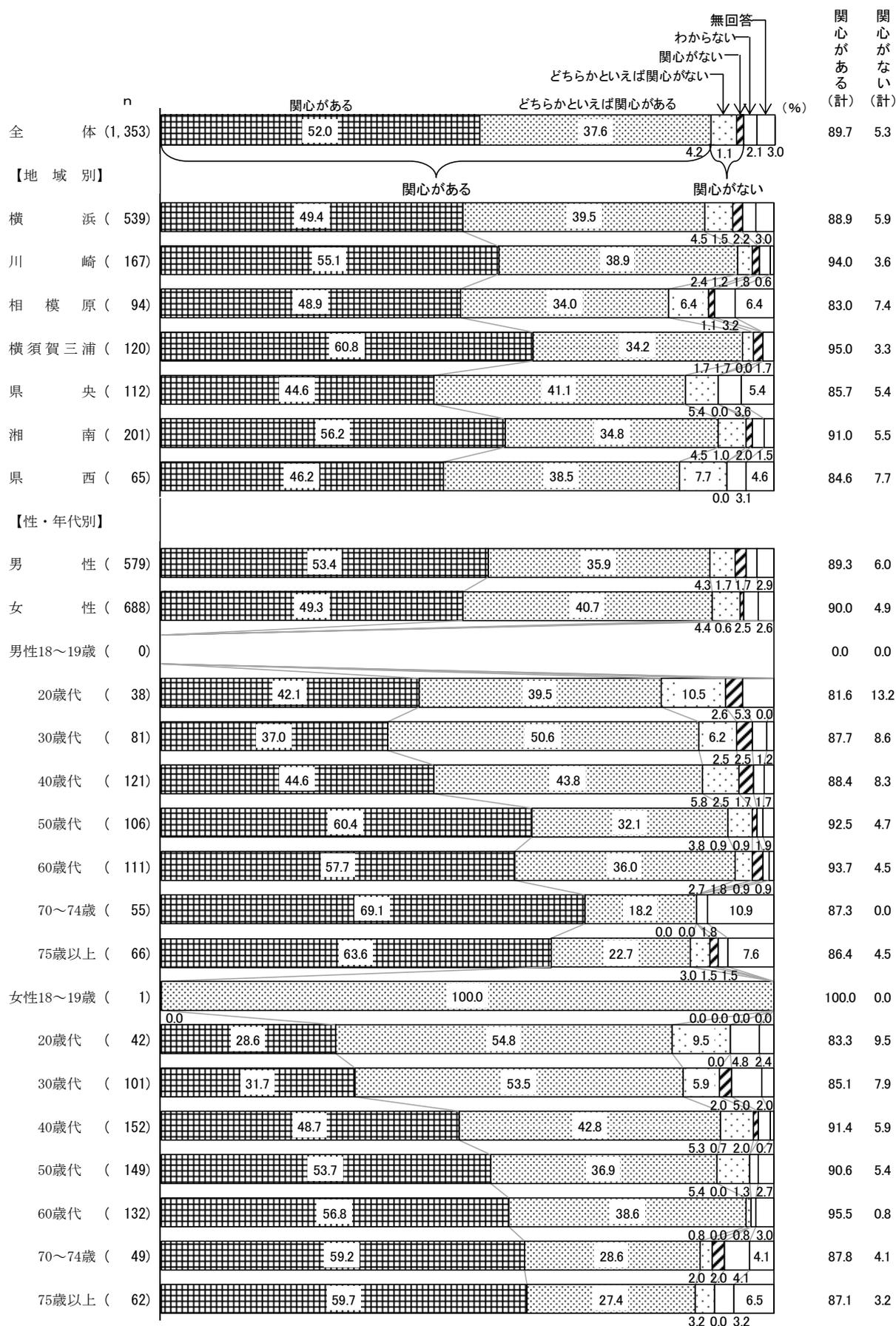
なお、《関心がない》は、全地域(3.3%~7.7%)で1割に満たなかった。(図表1-2-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《関心がある》は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、男性の50歳代(92.5%)・60歳代(93.7%)、女性の40~60歳代(90.6%~95.5%)がそれぞれ9割を超えた。

なお、《関心がない》は、男性20歳代(13.2%)を除くすべての性・年代(0.0%~9.5%)で1割に満たなかった。(図表1-2-2)

図表1-2-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別



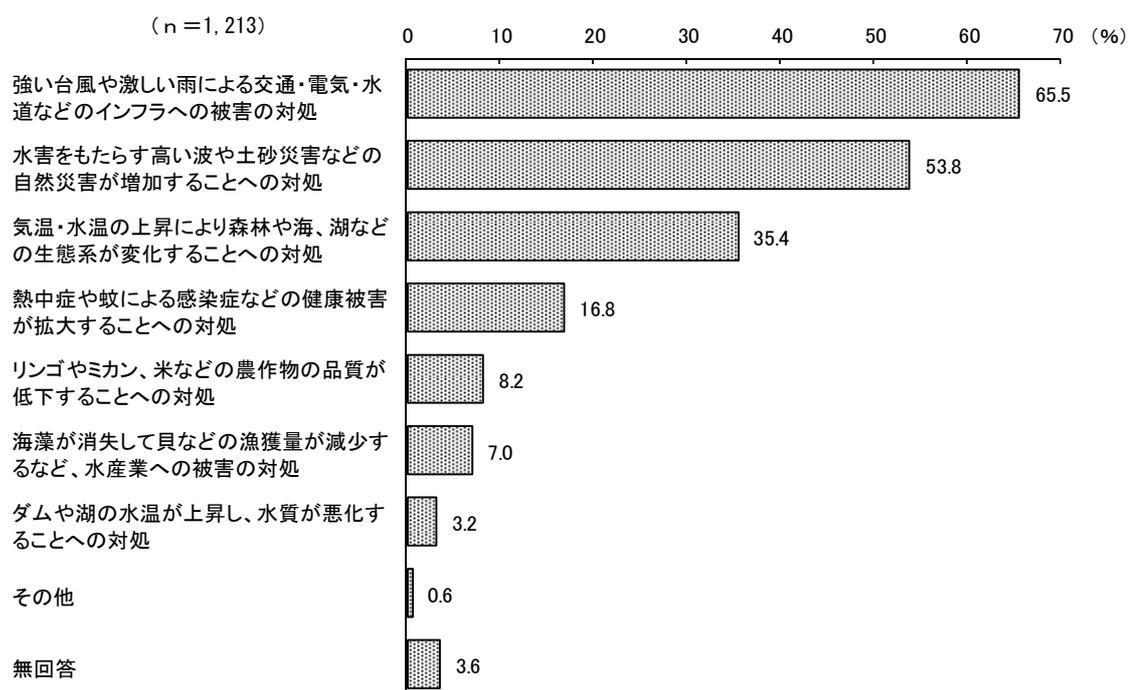
3 「気候変動への適応」の中で関心があるもの【問2-1】

【全体の状況】

「気候変動への適応」への関心（問2）で、「関心がある」と回答した1,213人に「気候変動への適応」の中で特に関心があるものを複数回答（2つまで選択可）で尋ねたところ、「強い台風や激しい雨による交通・電気・水道などのインフラへの被害の対処」が65.5%で最も多く、次いで「水害をもたらす高い波や土砂災害などの自然災害が増加することへの対処」が53.8%であった。

（図表1-3-1）

図表1-3-1 「気候変動への適応」の中で関心があるもの（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「強い台風や激しい雨による交通・電気・水道などのインフラへの被害の対処」は、県西が69.1%で最も多く、県央（68.8%）と湘南（68.3%）が約7割で続いた。また、「水害をもたらす高い波や土砂災害などの自然災害が増加することへの対処」は、横須賀三浦が61.4%で最も多く、湘南（59.0%）と川崎（58.6%）が約6割で続いた。（図表1-3-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「強い台風や激しい雨による交通・電気・水道などのインフラへの被害の対処」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の20歳代（71.0%）・60歳代（74.0%）・70～74歳（70.8%）、女性の75歳以上（72.2%）がそれぞれ7割を超えた。また、「水害をもたらす高い波や土砂災害などの自然災害が増加することへの対処」は、男性の70～74歳（62.5%）、女性の70～74歳（62.8%）・75歳以上（63.0%）がそれぞれ6割台であった。（図表1-3-2）

図表1-3-2 「気候変動への適応」の中で関心があるもの（複数回答）—地域別、性・年代別

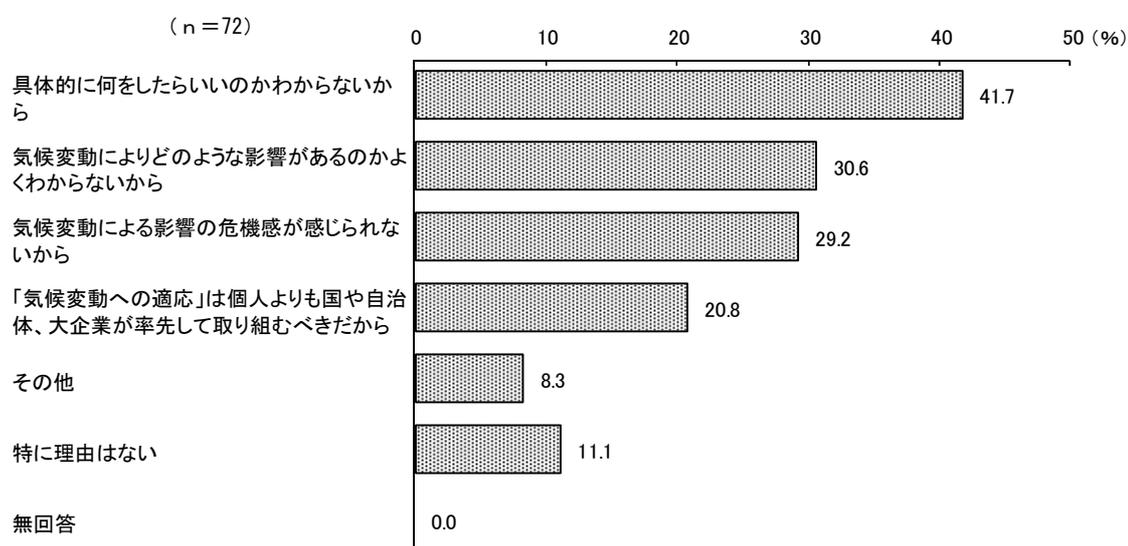
		(%)											
	n	対気強い 処・水 台風 など の激 しい 雨に よる 交通 被害 の電	処どの 自然 災害 が増 加す るこ とと 砂災 害な	湖水 など の生 態系 が変 化す るこ とと 海、	気温 の上 昇に よる 森林 や海	熱中 症や 蚊に よる 感染 症な どの 健康	被害 が拡 大す るこ とと への 対処	リン ゴや ミカ ン、 米な どの 農作 物の	品質 が低 下す るこ とと への 対処	少海 す藻 るが など 、消 失し て貝 など の漁 獲量 が減	化ダム するや こと湖 へのの 水温 が上 昇し 、水 質が 悪	その他	無 回 答
全 体	1,213	65.5	53.8	35.4	16.8	8.2	7.0	3.2	0.6	3.6			
【地 域 別】													
横 浜	479	65.3	50.7	37.4	18.0	6.5	5.6	4.0	0.6	4.8			
川 崎	157	60.5	58.6	36.9	14.6	8.9	8.9	2.5	-	3.8			
相 模 原	78	60.3	50.0	26.9	17.9	10.3	14.1	5.1	1.3	5.1			
横 須 賀 三 浦	114	64.0	61.4	36.8	9.6	10.5	8.8	2.6	-	1.8			
県 央	96	68.8	45.8	29.2	21.9	9.4	12.5	3.1	1.0	2.1			
湘 南	183	68.3	59.0	35.5	16.4	8.2	3.3	2.7	-	2.2			
県 西	55	69.1	49.1	40.0	18.2	9.1	5.5	-	1.8	3.6			
【性・年代別】													
男 性	517	67.5	52.6	35.6	16.1	7.2	6.8	3.1	0.6	3.9			
女 性	619	62.8	54.6	35.9	17.8	9.2	7.8	3.4	0.5	3.1			
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
20歳代	31	71.0	41.9	25.8	25.8	22.6	3.2	3.2	-	3.2			
30歳代	71	63.4	47.9	33.8	19.7	5.6	7.0	4.2	-	8.5			
40歳代	107	59.8	44.9	40.2	18.7	10.3	11.2	4.7	1.9	2.8			
50歳代	98	68.4	57.1	31.6	15.3	5.1	4.1	2.0	-	6.1			
60歳代	104	74.0	56.7	42.3	11.5	3.8	2.9	1.9	1.0	1.0			
70～74歳	48	70.8	62.5	35.4	10.4	-	8.3	-	-	6.3			
75歳以上	57	68.4	54.4	29.8	15.8	10.5	10.5	5.3	-	-			
女性18～19歳	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-			
20歳代	35	60.0	48.6	45.7	11.4	8.6	11.4	5.7	-	2.9			
30歳代	86	59.3	43.0	38.4	23.3	5.8	7.0	1.2	2.3	8.1			
40歳代	139	56.1	58.3	38.1	24.5	6.5	7.9	2.9	-	2.9			
50歳代	135	63.0	54.8	34.8	17.8	9.6	6.7	3.0	-	4.4			
60歳代	126	66.7	54.0	38.1	15.1	11.1	5.6	3.2	0.8	0.8			
70～74歳	43	69.8	62.8	23.3	9.3	11.6	11.6	9.3	-	-			
75歳以上	54	72.2	63.0	27.8	7.4	14.8	11.1	3.7	-	-			

4 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由【問2-2】

【全体の状況】

「気候変動への適応」への関心（問2）で、「関心がない」と回答した72人に「気候変動への適応」に関心を持つことが難しいと思う理由を複数回答（2つまで選択可）で尋ねたところ、「具体的に何をしたらいいのかわからないから」が41.7%で最も多く、「気候変動によりどのような影響があるのかよくわからないから」（30.6%）と「気候変動による影響の危機感が感じられないから」（29.2%）が約3割で続いた。（図表1-4-1）

図表1-4-1 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由（複数回答）



図表1-4-2 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

		（％）						
	n	具体的な何をしたらいいかわらないから	気候変動によりどのような影響があるのかよくわからないから	気候変動による影響の危機感が感じられないから	国や自治体、大企業が率先して取り組みべきだから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	72	41.7	30.6	29.2	20.8	8.3	11.1	-
【地 域 別】								
横 浜	32	37.5	31.3	34.4	18.8	12.5	9.4	-
川 崎	6	66.7	16.7	50.0	50.0	-	-	-
相 模 原	7	57.1	42.9	14.3	14.3	-	14.3	-
横 須 賀 三 浦	4	25.0	25.0	-	-	25.0	50.0	-
県 央	6	33.3	16.7	16.7	50.0	-	-	-
湘 南	11	36.4	36.4	27.3	9.1	9.1	9.1	-
県 西	5	40.0	40.0	40.0	-	-	20.0	-
【性・年代別】								
男 性	35	34.3	25.7	25.7	28.6	11.4	11.4	-
女 性	34	47.1	35.3	32.4	11.8	5.9	11.8	-
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
20 歳 代	5	40.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-
30 歳 代	7	14.3	28.6	28.6	28.6	-	14.3	-
40 歳 代	10	50.0	30.0	30.0	20.0	30.0	-	-
50 歳 代	5	20.0	20.0	-	60.0	-	20.0	-
60 歳 代	5	60.0	20.0	40.0	40.0	20.0	-	-
70～74歳	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	3	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
20 歳 代	4	75.0	25.0	50.0	-	-	-	-
30 歳 代	8	25.0	50.0	37.5	-	-	25.0	-
40 歳 代	9	55.6	-	44.4	22.2	11.1	11.1	-
50 歳 代	8	50.0	62.5	-	12.5	12.5	-	-
60 歳 代	1	-	-	100.0	-	-	-	-
70～74歳	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-
75歳以上	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-

第2章 環境に配慮した生活【問3～問7】

1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望【問3】

【全体の状況】

多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が29.1%であった。

一方、「購入したいと思わない」は、17.7%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望



【地域別の状況】

地域別にみると、「購入したいと思う」は、横須賀三浦が43.3%で最も多かった。

一方、「購入したいと思わない」は、県央(22.3%)と湘南(20.4%)がともに2割を超えた。

(図表2-1-2)

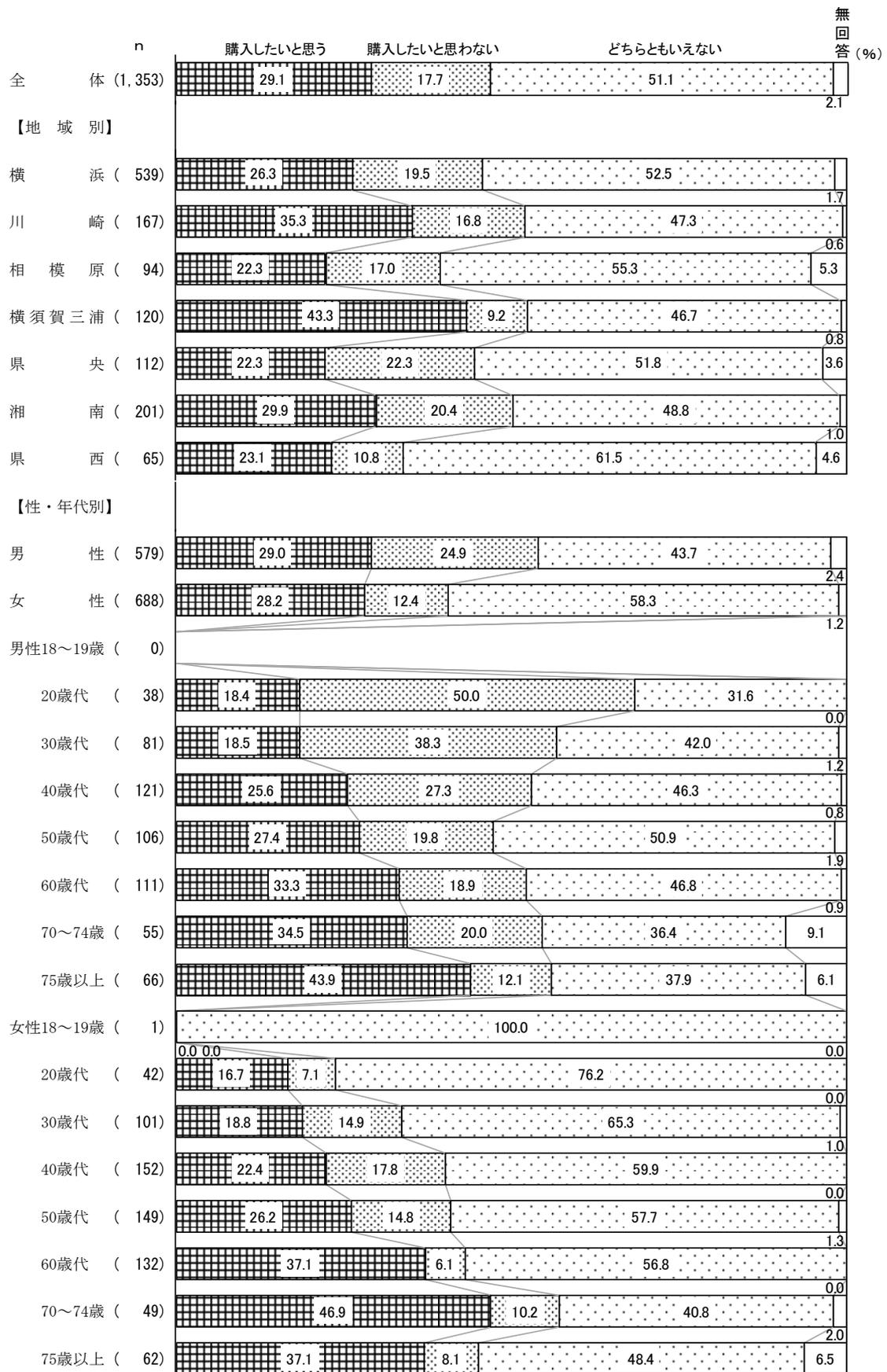
【性・年代別の状況】

性別にみると、「購入したいと思わない」は、男性(24.9%)が女性(12.4%)を12.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、「購入したいと思う」は、男性の75歳以上(43.9%)と女性の70～74歳(46.9%)がともに4割台であった。

一方、「購入したいと思わない」は、男性の20歳代が50.0%で最も多かった。(図表2-1-2)

図表2-1-2 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望－地域別、性・年代別



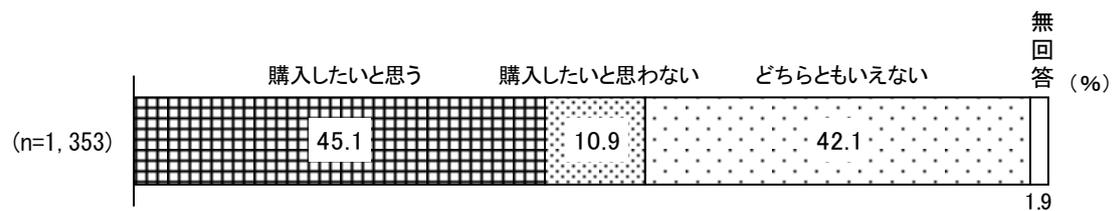
2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望【問4】

【全体の状況】

多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が45.1%であった。

一方、「購入したいと思わない」は、10.9%であった。（図表2-2-1）

図表2-2-1 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望



【地域別の状況】

地域別にみると、「購入したいと思う」は、川崎（50.3%）と横須賀三浦（50.0%）がともに5割以上であった。

一方、「購入したいと思わない」は、横須賀三浦（7.5%）と県西（9.2%）を除く5地域（10.2%～14.3%）でそれぞれ1割を超えた。（図表2-2-2）

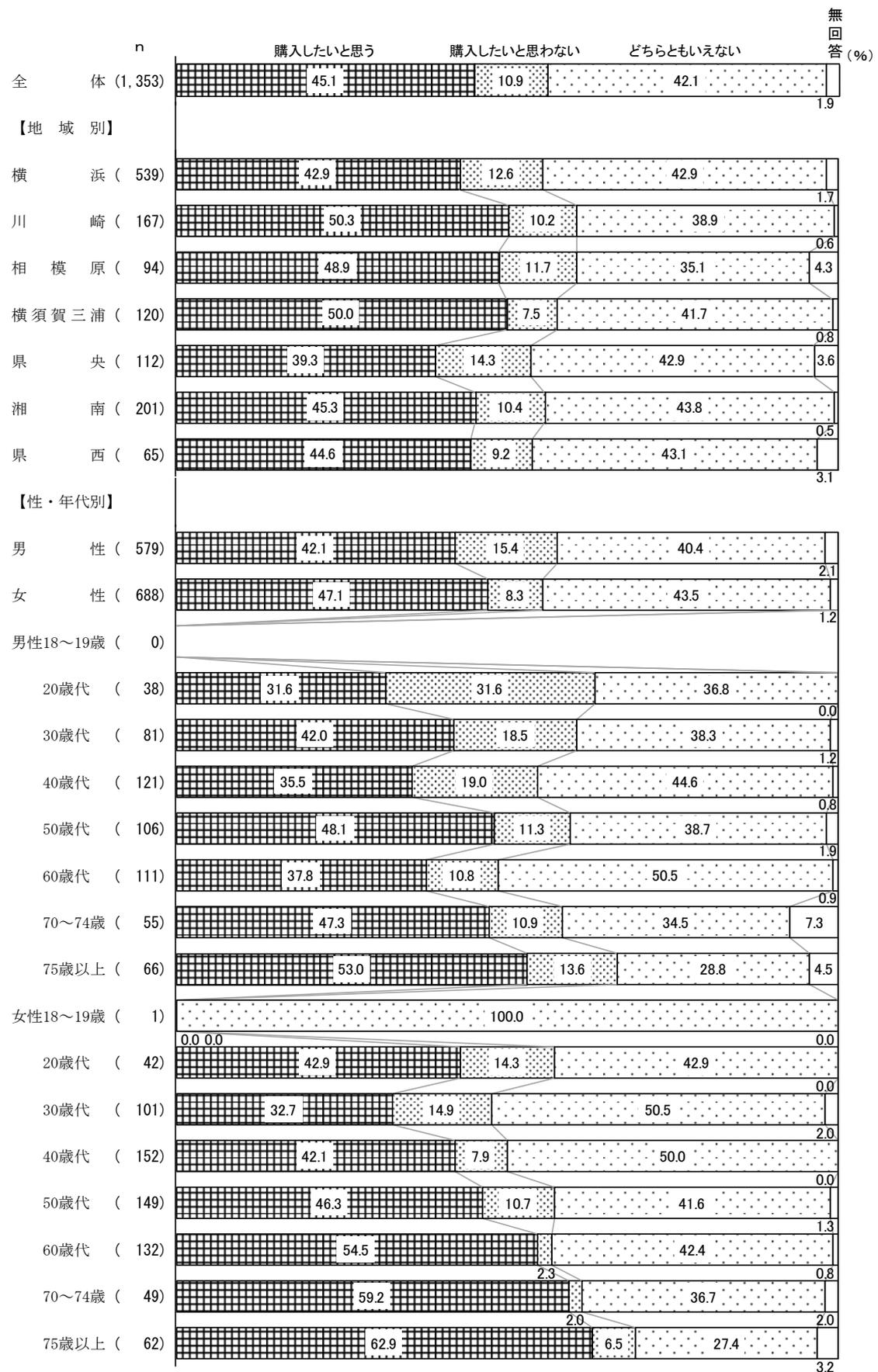
【性・年代別の状況】

性別にみると、「購入したいと思わない」は、男性（15.4%）が女性（8.3%）を7.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「購入したいと思う」は、女性の75歳以上が62.9%で最も多かった。

一方、「購入したいと思わない」は、男性の20歳代が31.6%で最も多く、男性の30歳代（18.5%）・40歳代（19.0%）が約2割で続いた。（図表2-2-2）

図表2-2-2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望－地域別、性・年代別



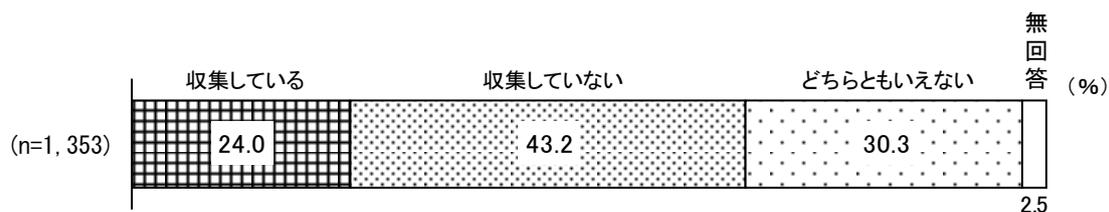
3 環境問題の情報収集の有無【問5】

【全体の状況】

興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」が24.0%であった。

一方、「収集していない」は、43.2%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 環境問題の情報収集の有無



【地域別の状況】

地域別にみると、「収集している」は、横須賀三浦が32.5%で最も多かった。

一方、「収集していない」は、相模原が56.4%で最も多く、県央(45.5%)と湘南(45.3%)が続いた。(図表2-3-2)

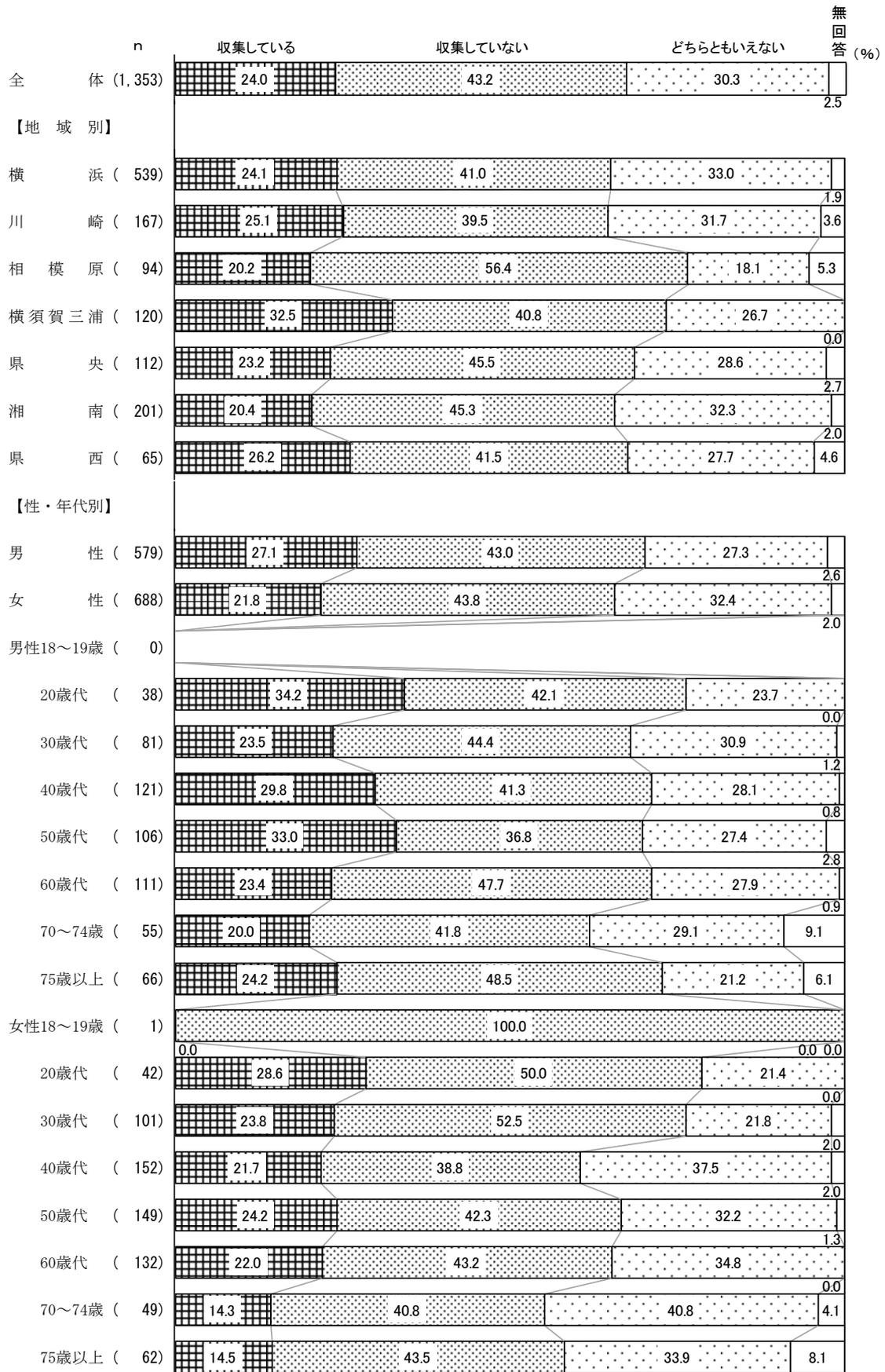
【性・年代別の状況】

性別にみると、「収集している」は、男性(27.1%)が女性(21.8%)を5.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「収集している」は、男性の20歳代が34.2%で最も多く、次いで男性の50歳代が33.0%であった。

一方、「収集していない」は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、女性の20歳代(50.0%)・30歳代(52.5%)がともに5割以上であった。(図表2-3-2)

図表2-3-2 環境問題の情報収集の有無—地域別、性・年代別



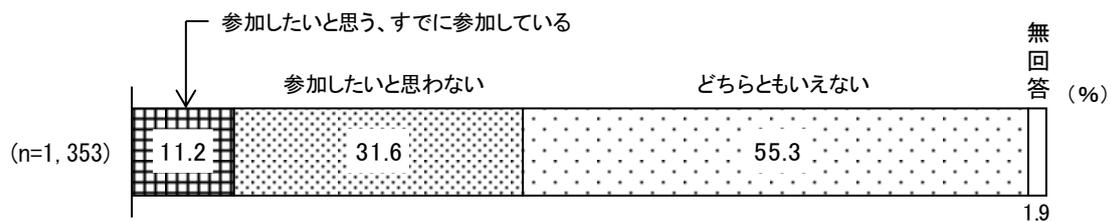
4 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望【問6】

【全体の状況】

NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したいと思う、すでに参加している」が11.2%であった。

一方、「参加したいと思わない」は、31.6%であった。（図表2-4-1）

図表2-4-1 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望



【地域別の状況】

地域別にみると、「参加したいと思う、すでに参加している」は、相模原が17.0%で最も多かった。

一方、「参加したいと思わない」は、相模原が35.1%で最も多く、次いで県央が34.8%であった。

（図表2-4-2）

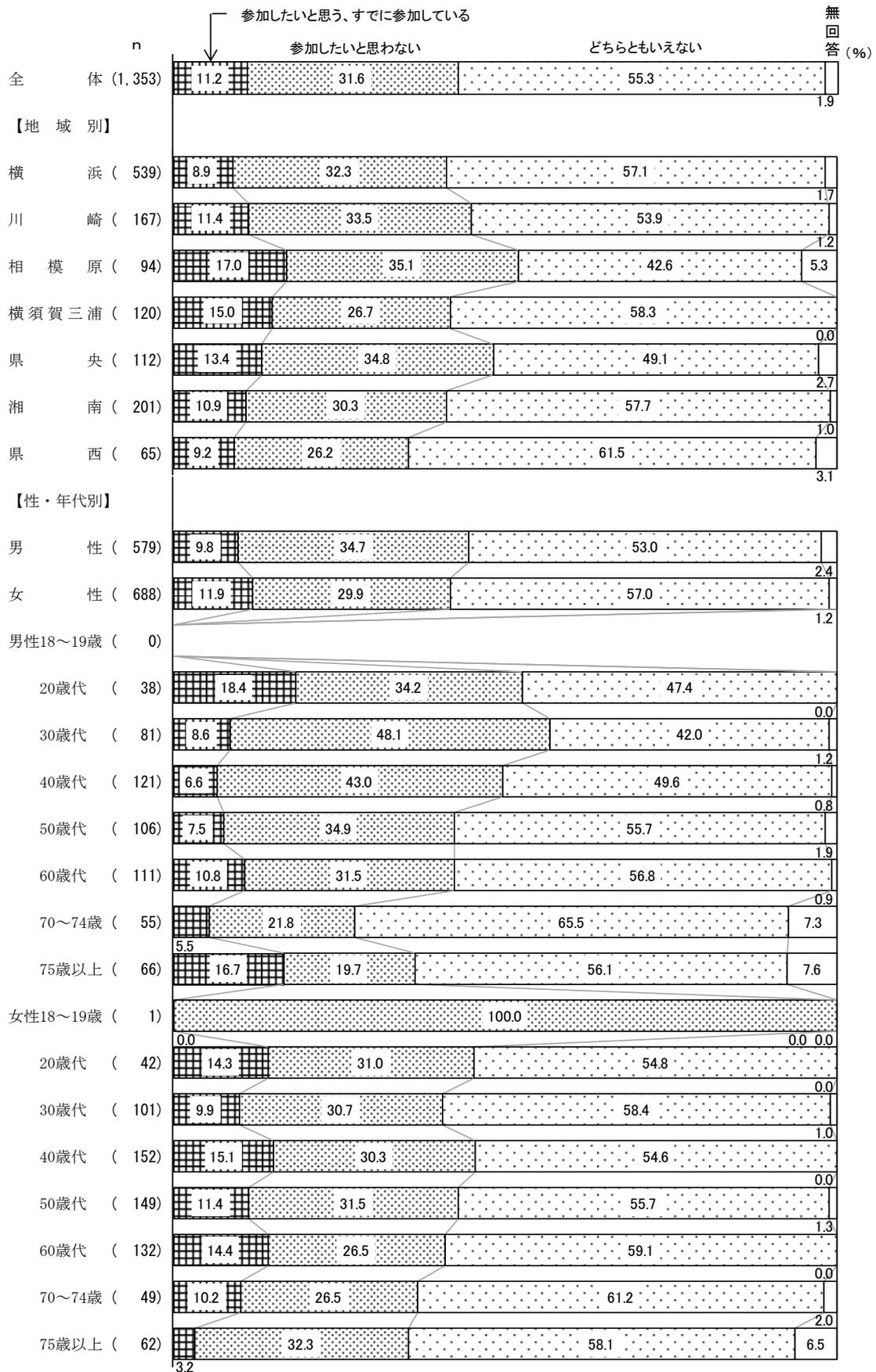
【性・年代別の状況】

性別にみると、「参加したいと思わない」は、男性（34.7%）が女性（29.9%）を4.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「参加したいと思う、すでに参加している」は、男性の20歳代が18.4%で最も多かった。

一方、「参加したいと思わない」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の30歳代（48.1%）・40歳代（43.0%）がともに4割を超えた。（図表2-4-2）

図表2-4-2 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望－地域別、性・年代別



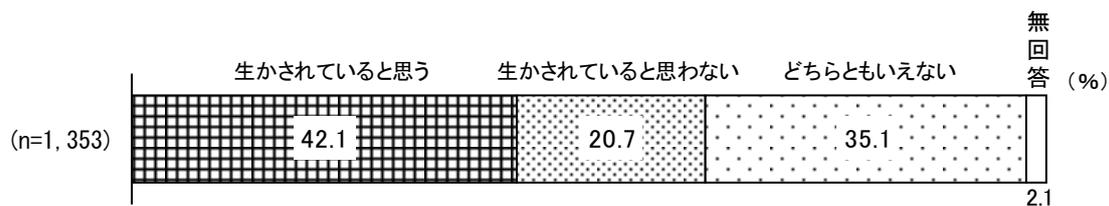
5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献【問7】

【全体の状況】

企業等の持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思うか尋ねたところ、「生かされていると思う」が42.1%であった。

一方、「生かされていると思わない」は、20.7%であった。(図表2-5-1)

図表2-5-1 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献



【地域別の状況】

地域別にみると、「生かされていると思う」は、川崎と県央が45.5%で最も多く、横浜（44.2%）と相模原（43.6%）が4割台で続いた。

一方、「生かされていると思わない」は、相模原が23.4%で最も多く、次いで湘南が22.9%であった。(図表2-5-2)

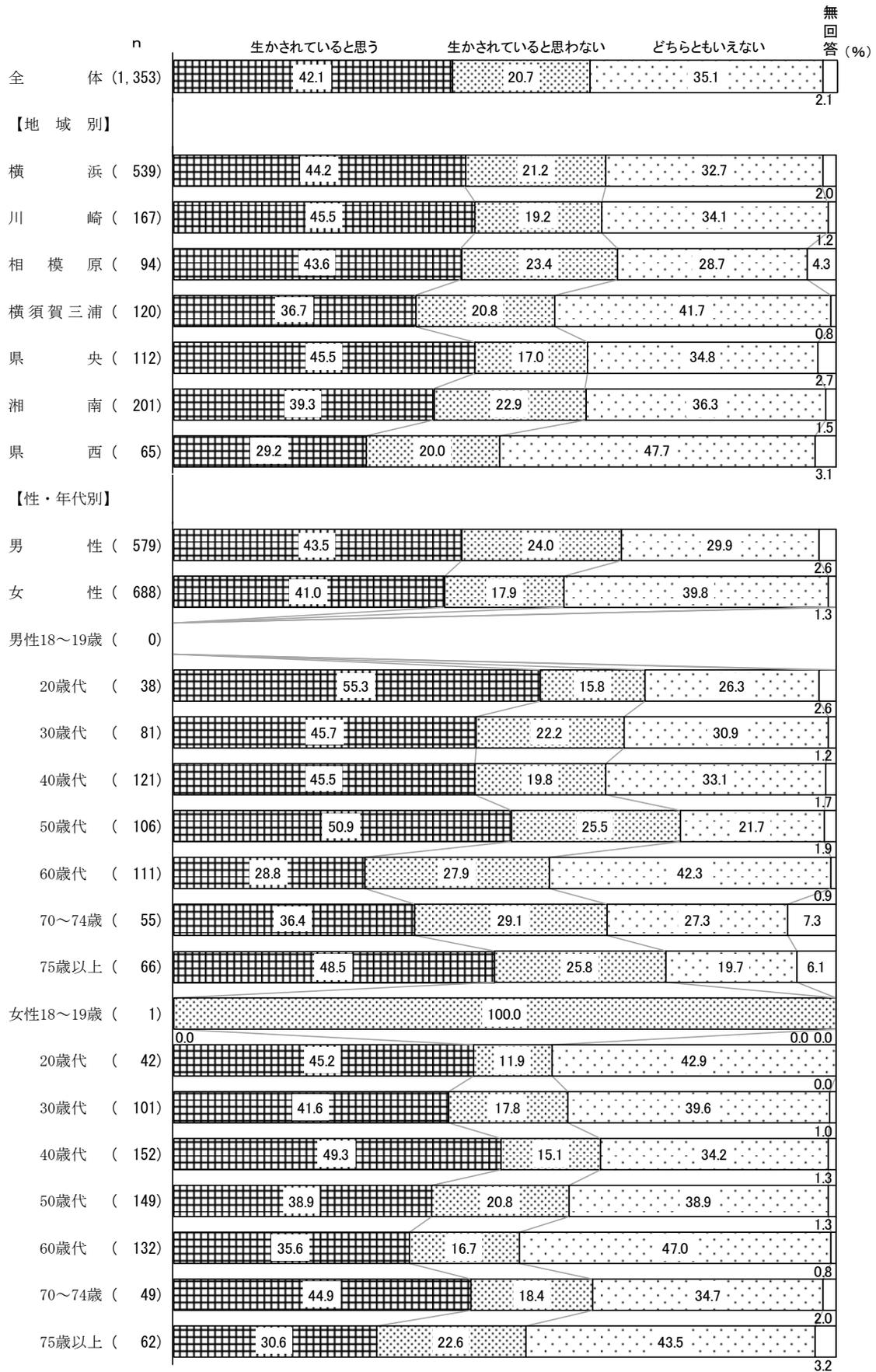
【性・年代別の状況】

性別にみると、「生かされていると思わない」は、男性（24.0%）が女性（17.9%）を6.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「生かされていると思う」は、男性の20歳代（55.3%）・50歳代（50.9%）がともに5割を超えた。

一方、「生かされていると思わない」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の70～74歳が29.1%で最も多く、次いで男性の60歳代が27.9%であった。(図表2-5-2)

図表2-5-2 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献—地域別、性・年代別



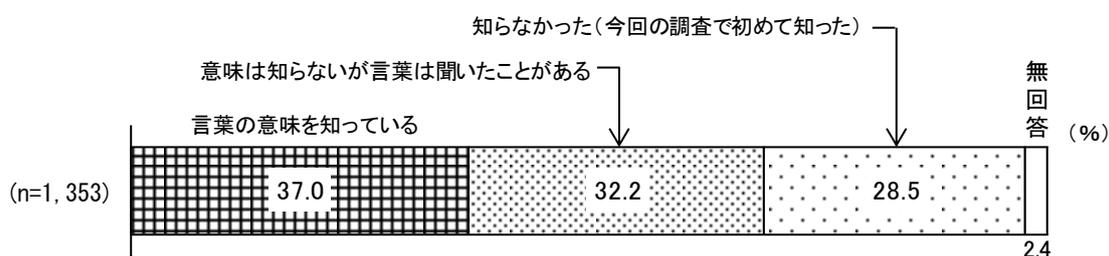
第3章 生物多様性【問8～問10】

1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問8】

【全体の状況】

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が37.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が32.2%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は、川崎が41.9%で最も多かった。また、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」は、県央が39.3%で最も多かった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、横須賀三浦が39.2%で最も多かった。

(図表3-1-2)

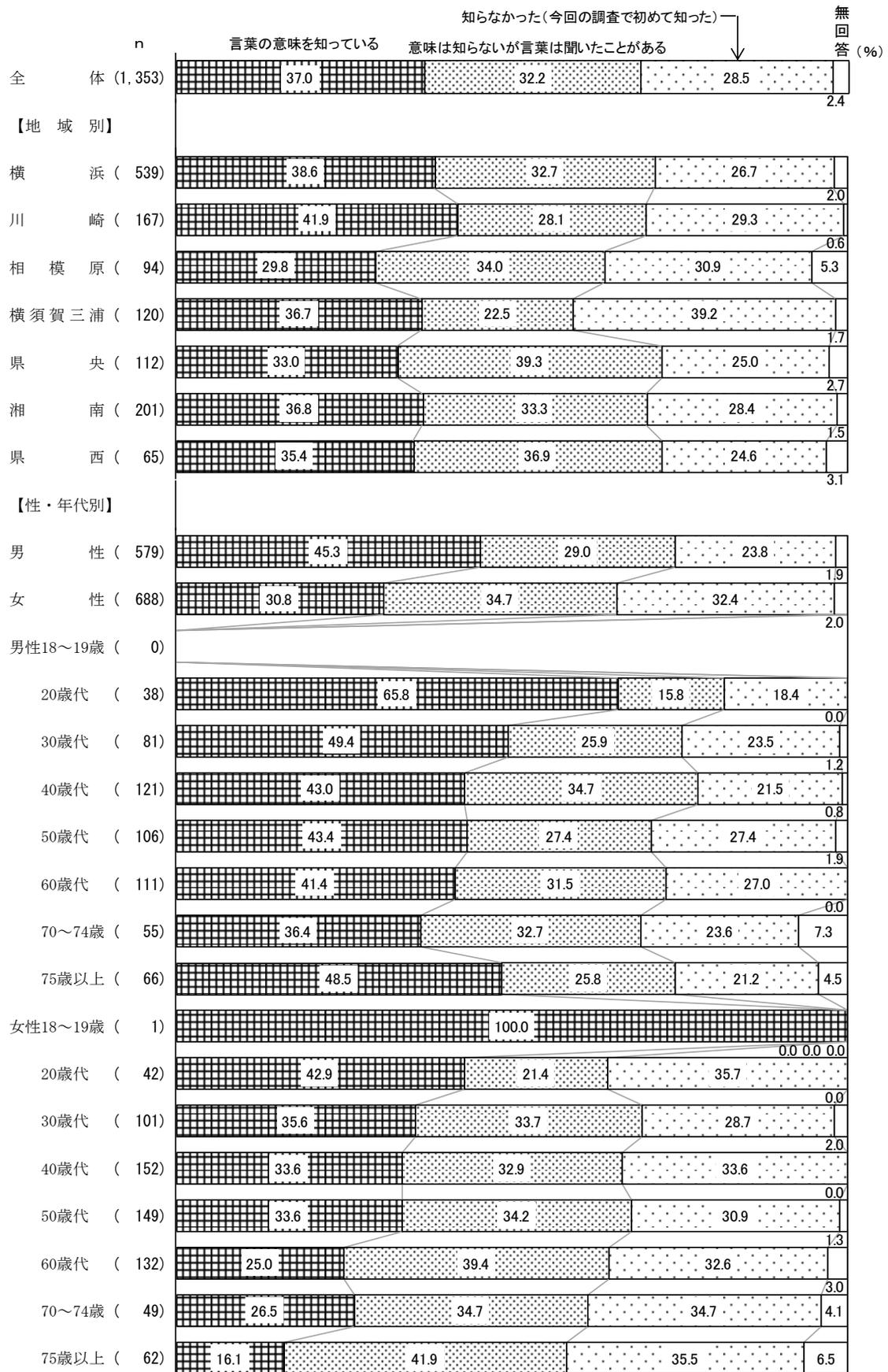
【性・年代別の状況】

性別にみると、「言葉の意味を知っている」は、男性(45.3%)が女性(30.8%)を14.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、「言葉の意味を知っている」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の20歳代が65.8%で最も多かった。また、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」は、女性の75歳以上が41.9%で最も多かった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、女性の20歳代が35.7%で最も多く、次いで女性の75歳以上が35.5%であった。(図表3-1-2)

図表3-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別

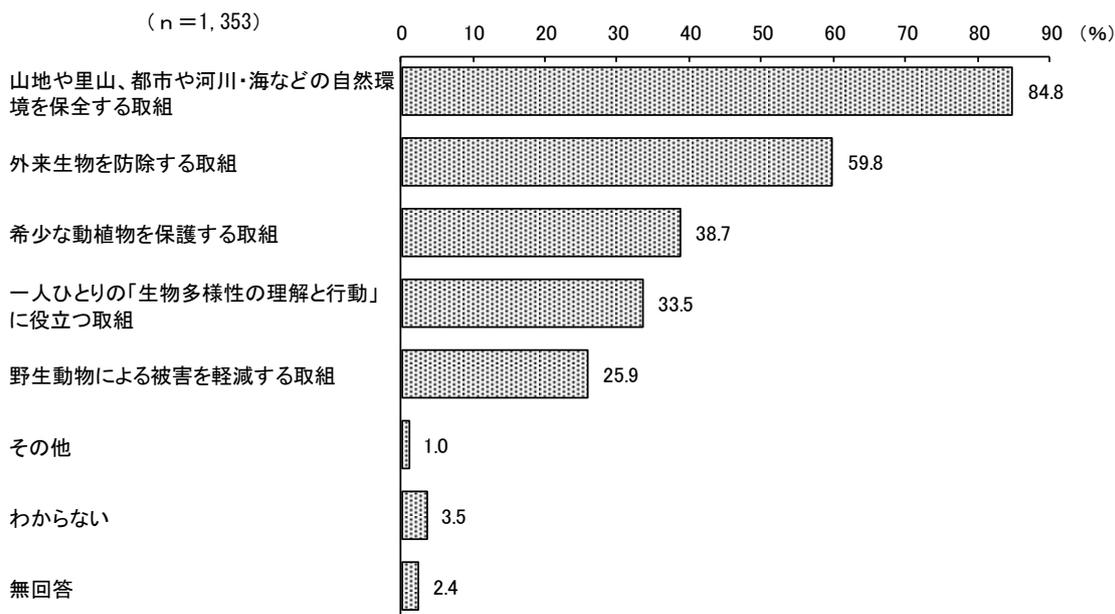


2 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの【問9】

【全体の状況】

神奈川県における生物多様性の保全について、どの取組が重要だと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」が84.8%で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組」が59.8%であった。（図表3-2-1）

図表3-2-1 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」は、湘南が90.0%で最も多かった。また、「外来生物を防除する取組」は、横須賀三浦が67.5%で最も多かった。

（図表3-2-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「野生動物による被害を軽減する取組」は女性（28.1%）が男性（23.1%）を5.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の60歳代が91.7%で最も多く、次いで女性の30歳代が89.1%であった。また、「外来生物を防除する取組」は、男性の20歳代が73.7%で最も多く、次いで女性の75歳以上が69.4%であった。（図表3-2-2）

図表3-2-2 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

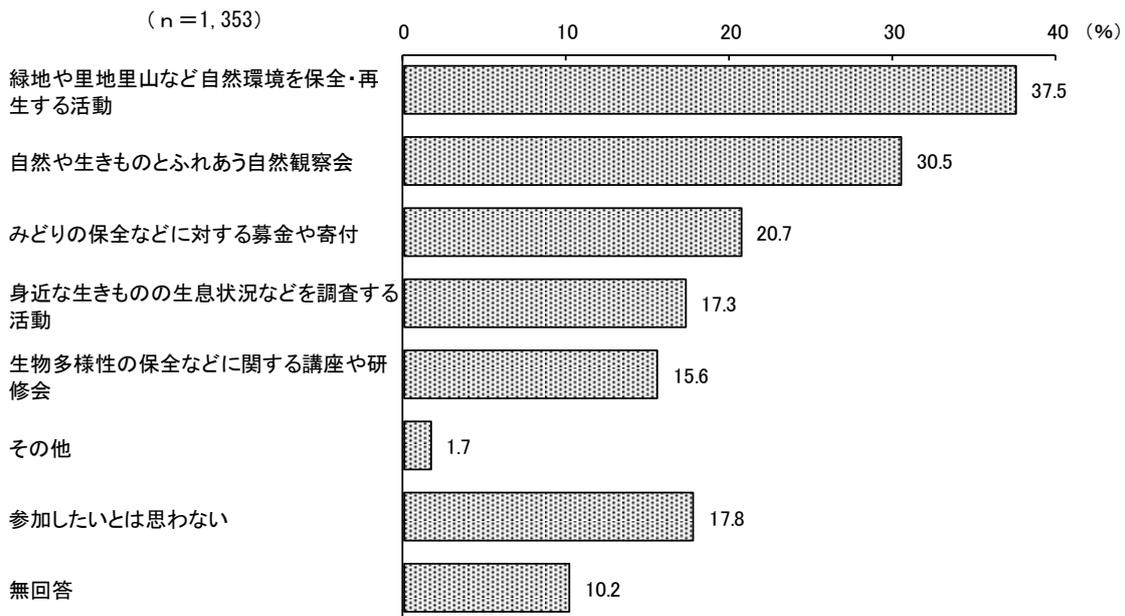
	n	自然環境を保全する取組	山地や里山、都市や河川・海などの	外来生物を防除する取組	希少な動植物を保護する取組	一人ひとりの「行動」に役立つ取組	野生動物による被害を軽減する取組	その他	わからない	無回答
全体	1,353	84.8	59.8	38.7	33.5	25.9	1.0	3.5	2.4	
【地域別】										
横浜	539	84.2	61.8	38.8	32.5	25.6	0.7	4.1	1.9	
川崎	167	86.2	56.3	40.1	39.5	18.6	1.2	3.6	3.0	
相模原	94	78.7	51.1	41.5	27.7	23.4	2.1	4.3	5.3	
横須賀三浦	120	86.7	67.5	31.7	41.7	30.0	0.8	2.5	0.8	
県央	112	75.0	60.7	41.1	25.9	27.7	1.8	4.5	2.7	
湘南	201	90.0	60.2	36.8	36.3	28.4	0.5	2.0	1.5	
県西	65	87.7	55.4	38.5	26.2	33.8	1.5	6.2	3.1	
【性・年代別】										
男性	579	82.4	61.7	39.7	32.1	23.1	1.6	3.5	2.6	
女性	688	86.8	58.4	38.1	34.9	28.1	0.6	4.1	1.5	
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	38	81.6	73.7	52.6	23.7	23.7	-	5.3	-	
30歳代	81	80.2	54.3	48.1	34.6	16.0	1.2	6.2	1.2	
40歳代	121	81.0	57.9	36.4	35.5	18.2	4.1	4.1	1.7	
50歳代	106	84.0	68.9	46.2	31.1	16.0	-	1.9	2.8	
60歳代	111	84.7	64.9	38.7	36.9	27.9	0.9	0.9	0.9	
70～74歳	55	78.2	60.0	23.6	25.5	34.5	-	3.6	9.1	
75歳以上	66	84.8	56.1	33.3	25.8	34.8	3.0	4.5	4.5	
女性18～19歳	1	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	
20歳代	42	81.0	42.9	47.6	23.8	21.4	-	9.5	-	
30歳代	101	89.1	47.5	37.6	39.6	17.8	2.0	5.0	1.0	
40歳代	152	86.2	60.5	43.4	38.2	23.0	-	5.3	-	
50歳代	149	86.6	60.4	38.3	31.5	28.2	0.7	3.4	2.0	
60歳代	132	91.7	63.6	33.3	35.6	34.8	0.8	2.3	0.8	
70～74歳	49	79.6	55.1	32.7	36.7	28.6	-	6.1	4.1	
75歳以上	62	83.9	69.4	32.3	30.6	46.8	-	-	4.8	

3 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組【問10】

【全体の状況】

生物多様性について知る、または行動する機会として、どの取組に参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」が37.5%で最も多く、次いで「自然や生きものとふれあう自然観察会」が30.5%であった。(図表3-3-1)

図表3-3-1 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」は、横須賀三浦が43.3%で最も多く、湘南（42.3%）と県西（41.5%）が続いた。また、「自然や生きものとふれあう自然観察会」は、川崎が38.3%で最も多かった。(図表3-3-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「みどりの保全などに対する募金や寄付」は、女性（24.7%）が男性（16.6%）を8.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の60歳代が44.7%で最も多く、次いで女性の50歳代が42.3%であった。また、「自然や生きものとふれあう自然観察会」は、男女ともに30歳代（男性40.7%、女性41.6%）が約4割であった。(図表3-3-2)

図表3-3-2 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組（複数回答）

－地域別、性・年代別

		(%)							
	n	全緑地や里山など自然環境を保全・再生する活動	自然や生きものとのふれあう自然観察会	みどりの保全などに対する募金や寄付	身近な生きものの生息状況などを調査する活動	生物多様性の保全などに関する講座や研修会	その他	参加したいとは思わない	無回答
全体	1,353	37.5	30.5	20.7	17.3	15.6	1.7	17.8	10.2
【地域別】									
横浜	539	36.0	29.7	19.1	15.8	14.3	2.6	18.7	9.3
川崎	167	34.1	38.3	25.7	24.0	19.8	1.2	15.6	6.6
相模原	94	39.4	31.9	17.0	10.6	17.0	1.1	19.1	13.8
横須賀三浦	120	43.3	29.2	17.5	20.8	20.8	1.7	11.7	16.7
県央	112	36.6	32.1	16.1	19.6	10.7	2.7	21.4	10.7
湘南	201	42.3	27.4	26.4	16.4	13.9	-	17.9	10.4
県西	65	41.5	30.8	29.2	24.6	15.4	-	15.4	3.1
【性・年代別】									
男性	579	34.9	32.6	16.6	19.5	15.2	1.0	20.6	9.0
女性	688	40.3	30.1	24.7	16.4	15.6	2.2	14.8	10.6
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	21.1	36.8	21.1	13.2	18.4	-	26.3	2.6
30歳代	81	32.1	40.7	14.8	25.9	6.2	2.5	25.9	2.5
40歳代	121	38.0	35.5	14.0	21.5	11.6	-	16.5	11.6
50歳代	106	36.8	23.6	19.8	22.6	12.3	-	23.6	8.5
60歳代	111	33.3	29.7	13.5	17.1	18.9	1.8	21.6	9.9
70～74歳	55	32.7	38.2	21.8	16.4	18.2	-	16.4	10.9
75歳以上	66	40.9	28.8	16.7	13.6	27.3	3.0	15.2	13.6
女性18～19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	33.3	38.1	23.8	21.4	11.9	2.4	16.7	11.9
30歳代	101	37.6	41.6	23.8	24.8	5.9	1.0	11.9	10.9
40歳代	152	41.4	32.9	21.1	19.7	13.2	2.0	17.1	6.6
50歳代	149	42.3	19.5	22.8	18.1	19.5	2.7	18.1	8.7
60歳代	132	44.7	26.5	34.8	8.3	18.9	0.8	9.8	15.2
70～74歳	49	40.8	36.7	26.5	2.0	20.4	2.0	14.3	12.2
75歳以上	62	30.6	27.4	17.7	16.1	19.4	6.5	16.1	12.9

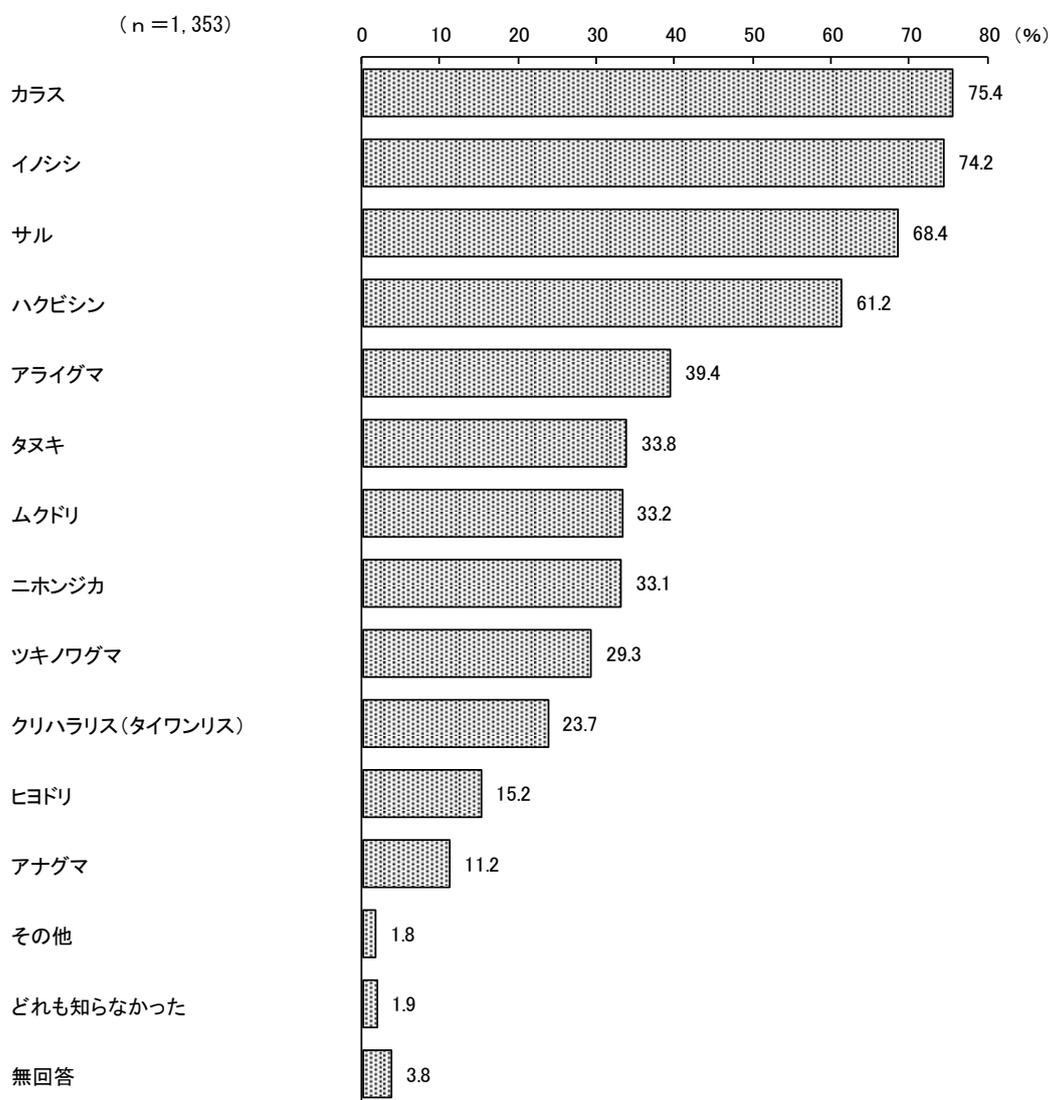
第4章 鳥獣被害【問11～問13】

1 被害を及ぼす野生鳥獣として知っているもの【問11】

【全体の状況】

人と野生鳥獣とのあつれきにより発生している農林業被害、人身被害、生活被害などを及ぼす野生鳥獣として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「カラス」(75.4%)と「イノシシ」(74.2%)がともに7割台であった。(図表4-1-1)

図表4-1-1 被害を及ぼす野生鳥獣として知っているもの(複数回答)



【地域別の状況】

地域別にみると、「カラス」は、川崎が79.0%で最も多かった。また、「イノシシ」は、県西(81.5%)と相模原(80.9%)がともに約8割であった。「クリハラリス(タイワンリス)」は、横須賀三浦が54.2%で最も多かった。(図表4-1-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「ニホンジカ」は、男性（37.7%）が女性（29.1%）を8.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、「カラス」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の70～74歳（80.0%）、女性の20歳代（85.7%）・40歳代（82.2%）・70～74歳（85.7%）がそれぞれ8割以上であった。また、「イノシシ」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が88.7%で最も多かった。（図表4-1-2）

図表4-1-2 被害を及ぼす野生鳥獣として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

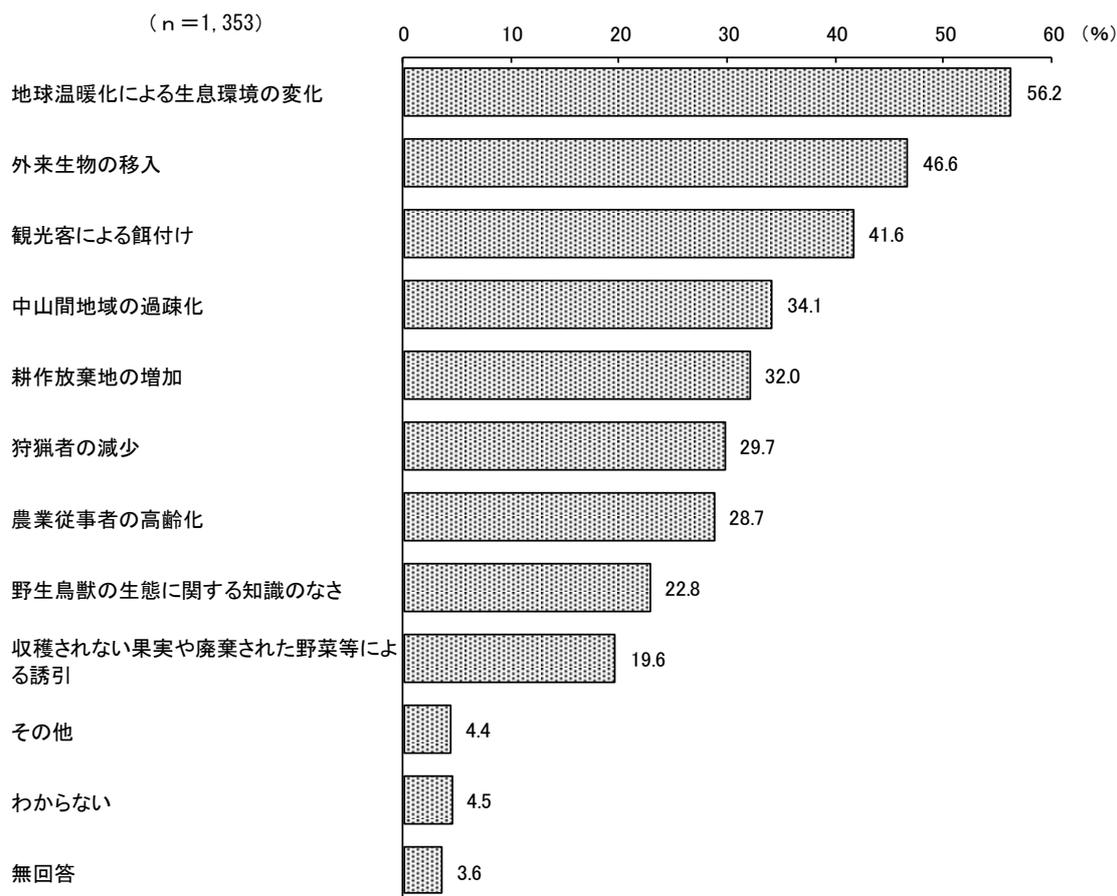
		(%)														
	n	カラス	イノシシ	サル	ハクビシン	アライグマ	タヌキ	ムクドリ	ニホンジカ	ツキノワグマ	クリハラリス（タイワンリス）	ヒヨドリ	アナグマ	その他	どれも知らなかった	無回答
全体	1,353	75.4	74.2	68.4	61.2	39.4	33.8	33.2	33.1	29.3	23.7	15.2	11.2	1.8	1.9	3.8
【地域別】																
横浜	539	76.1	72.9	68.3	59.6	36.7	34.7	30.4	33.6	31.0	22.8	10.9	10.2	2.0	2.4	3.3
川崎	167	79.0	74.9	64.7	55.7	41.3	36.5	29.3	32.9	26.9	15.0	13.8	10.2	3.0	2.4	3.6
相模原	94	74.5	80.9	79.8	61.7	41.5	30.9	39.4	37.2	38.3	18.1	20.2	9.6	1.1	3.2	2.1
横須賀三浦	120	73.3	69.2	59.2	68.3	55.0	35.0	36.7	18.3	18.3	54.2	23.3	13.3	1.7	-	8.3
県央	112	76.8	74.1	75.9	59.8	33.9	26.8	34.8	39.3	28.6	14.3	16.1	12.5	0.9	0.9	5.4
湘南	201	76.1	75.1	65.7	63.2	39.8	35.3	35.3	35.8	32.8	25.4	16.4	12.4	1.5	2.5	3.5
県西	65	64.6	81.5	80.0	66.2	30.8	30.8	35.4	29.2	21.5	12.3	20.0	9.2	3.1	-	1.5
【性・年代別】																
男性	579	71.7	75.0	67.4	59.4	38.0	32.1	32.1	37.7	27.3	24.0	13.8	11.4	1.0	2.9	2.9
女性	688	78.8	73.8	70.5	62.8	40.4	36.2	33.6	29.1	31.5	22.8	15.1	10.3	2.6	1.2	4.5
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	73.7	68.4	63.2	52.6	39.5	42.1	34.2	34.2	31.6	10.5	2.6	13.2	2.6	5.3	-
30歳代	81	69.1	67.9	64.2	50.6	25.9	37.0	21.0	29.6	30.9	14.8	9.9	7.4	1.2	7.4	1.2
40歳代	121	66.9	72.7	64.5	60.3	38.0	29.8	33.1	31.4	28.1	22.3	9.9	8.3	1.7	3.3	1.7
50歳代	106	70.8	75.5	72.6	61.3	46.2	34.9	27.4	46.2	32.1	26.4	10.4	16.0	0.9	1.9	2.8
60歳代	111	74.8	83.8	69.4	64.9	42.3	31.5	44.1	37.8	23.4	31.5	18.9	12.6	0.9	0.9	2.7
70～74歳	55	80.0	80.0	69.1	58.2	36.4	34.5	40.0	40.0	25.5	25.5	25.5	10.9	-	1.8	3.6
75歳以上	66	71.2	71.2	65.2	60.6	31.8	18.2	22.7	43.9	18.2	27.3	18.2	10.6	-	1.5	9.1
女性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	85.7	78.6	64.3	64.3	38.1	50.0	16.7	31.0	42.9	14.3	11.9	11.9	2.4	-	2.4
30歳代	101	72.3	72.3	69.3	54.5	31.7	40.6	25.7	26.7	32.7	12.9	13.9	9.9	4.0	2.0	4.0
40歳代	152	82.2	69.1	72.4	59.2	36.8	35.5	28.3	28.9	36.8	19.1	3.3	7.2	3.9	1.3	2.0
50歳代	149	77.9	67.8	68.5	60.4	40.9	34.2	33.6	27.5	26.8	24.8	18.8	12.1	2.7	0.7	5.4
60歳代	132	75.8	76.5	73.5	70.5	45.5	36.4	41.7	33.3	27.3	31.8	18.9	12.9	0.8	2.3	8.3
70～74歳	49	85.7	79.6	63.3	69.4	40.8	34.7	42.9	26.5	26.5	18.4	26.5	8.2	-	-	4.1
75歳以上	62	79.0	88.7	75.8	67.7	51.6	25.8	45.2	29.0	33.9	33.9	22.6	9.7	3.2	-	3.2

2 鳥獣被害が生じる原因【問12】

【全体の状況】

神奈川県で鳥獣被害が生じる原因について複数回答で尋ねたところ、「地球温暖化による生息環境の変化」が56.2%で最も多く、次いで「外来生物の移入」が46.6%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 鳥獣被害が生じる原因（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「地球温暖化による生息環境の変化」は、相模原（63.8%）と県央（63.4%）がともに6割台であった。「観光客による餌付け」は、県央が50.9%で最も多かった。また、「耕作放棄地の増加」は、県西が43.1%で最も多かった。（図表4-2-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「地球温暖化による生息環境の変化」は、女性（61.0%）が男性（50.8%）を10.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「地球温暖化による生息環境の変化」は、女性の20歳代（69.0%）・40歳代（63.8%）・50歳代（67.1%）・60歳代（64.4%）がそれぞれ6割を超えた。また、「耕作放棄地の増加」は、男性の75歳以上が62.1%で最も多かった。（図表4-2-2）

図表4-2-2 鳥獣被害が生じる原因（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

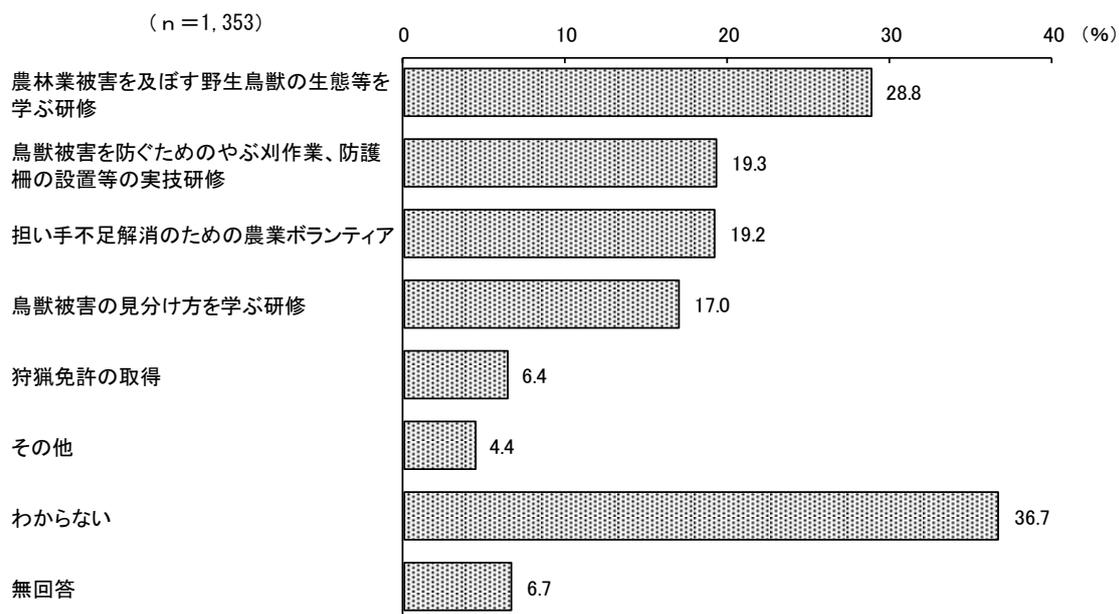
	n	地球温暖化による生息環境の変化	外来生物の移入	観光客による餌付け	中山間地域の過疎化	耕作放棄地の増加	狩猟者の減少	農業従事者の高齢化	野生鳥獣の生態に関する知識のなさ	収穫されない果実や廃棄された野菜等による誘引	その他	わからない	無回答
全体	1,353	56.2	46.6	41.6	34.1	32.0	29.7	28.7	22.8	19.6	4.4	4.5	3.6
【地域別】													
横浜	539	55.8	45.3	41.0	33.8	30.2	28.6	26.7	21.7	18.4	6.1	5.2	3.2
川崎	167	54.5	51.5	38.9	31.7	27.5	27.5	27.5	25.7	15.6	4.2	6.0	3.6
相模原	94	63.8	46.8	39.4	34.0	26.6	28.7	30.9	22.3	26.6	4.3	3.2	2.1
横須賀三浦	120	52.5	55.0	45.8	35.8	33.3	28.3	25.0	33.3	18.3	1.7	-	6.7
県央	112	63.4	47.3	50.9	37.5	33.0	33.0	34.8	26.8	23.2	1.8	5.4	4.5
湘南	201	56.2	42.3	38.3	33.8	37.3	31.8	27.9	17.9	19.9	4.0	4.5	3.5
県西	65	49.2	38.5	36.9	33.8	43.1	26.2	36.9	15.4	26.2	3.1	6.2	1.5
【性・年代別】													
男性	579	50.8	45.9	38.5	38.0	35.8	34.0	30.2	25.6	20.0	3.6	4.5	2.2
女性	688	61.0	46.8	44.0	30.4	28.3	24.7	26.6	20.6	18.6	5.4	4.7	4.5
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	44.7	42.1	28.9	34.2	10.5	28.9	15.8	28.9	26.3	2.6	10.5	-
30歳代	81	48.1	38.3	39.5	24.7	21.0	29.6	23.5	25.9	14.8	3.7	9.9	1.2
40歳代	121	43.8	46.3	37.2	26.4	28.1	31.4	28.1	24.8	14.0	5.8	5.8	0.8
50歳代	106	53.8	52.8	42.5	38.7	37.7	26.4	26.4	25.5	17.0	5.7	1.9	1.9
60歳代	111	57.7	48.6	38.7	48.6	38.7	38.7	31.5	28.8	22.5	2.7	0.9	1.8
70～74歳	55	52.7	40.0	43.6	43.6	50.9	41.8	40.0	20.0	34.5	1.8	3.6	3.6
75歳以上	66	51.5	47.0	34.8	54.5	62.1	45.5	47.0	22.7	22.7	-	3.0	7.6
女性18～19歳	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
20歳代	42	69.0	45.2	47.6	31.0	16.7	21.4	28.6	19.0	16.7	2.4	7.1	2.4
30歳代	101	47.5	38.6	43.6	22.8	20.8	20.8	22.8	18.8	17.8	8.9	7.9	5.0
40歳代	152	63.8	40.8	42.1	26.3	18.4	17.1	13.2	18.4	15.8	6.6	6.6	2.0
50歳代	149	67.1	49.0	45.0	26.2	25.5	16.1	21.5	20.1	12.1	6.7	3.4	5.4
60歳代	132	64.4	50.8	46.2	34.8	43.2	35.6	38.6	24.2	21.2	3.0	2.3	7.6
70～74歳	49	57.1	49.0	34.7	36.7	38.8	34.7	34.7	16.3	30.6	4.1	6.1	4.1
75歳以上	62	53.2	61.3	46.8	48.4	40.3	40.3	45.2	27.4	27.4	1.6	-	3.2

3 鳥獣被害問題を解決するために参加したい取組【問13】

【全体の状況】

鳥獣被害問題を解決するためにどのような取組であれば参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修」が28.8%で最も多く、「鳥獣被害を防ぐためのやぶ刈作業、防護柵の設置等の実技研修」(19.3%)と「担い手不足解消のための農業ボランティア」(19.2%)が約2割で続いた。(図表4-3-1)

図表4-3-1 鳥獣被害問題を解決するために参加したい取組（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修」は、横須賀三浦が35.0%で最も多かった。また、「鳥獣被害を防ぐためのやぶ刈作業、防護柵の設置等の実技研修」は、横須賀三浦(25.8%)、県西(24.6%)、湘南(20.4%)がそれぞれ2割を超えた。(図表4-3-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修」は、男性(32.6%)が女性(24.6%)を8.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修」は、男性の70~74歳(40.0%)・75歳以上(42.4%)がともに4割以上であった。また、「狩猟免許の取得」は、男性の30歳代が19.8%で最も多かった。(図表4-3-2)

図表4-3-2 鳥獣被害問題を解決するために参加したい取組（複数回答）—地域別、性・年代別

		(%)								
	n	農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修	鳥獣被害を防止するための実技研修	担い手不足解消のための農業ボランティア	鳥獣被害の見分け方を学ぶ研修	狩猟免許の取得	その他	わからない	無回答	
全体	1,353	28.8	19.3	19.2	17.0	6.4	4.4	36.7	6.7	
【地域別】										
横浜	539	24.7	18.2	17.4	16.0	6.7	5.2	39.3	5.8	
川崎	167	31.7	17.4	20.4	23.4	7.2	2.4	33.5	6.6	
相模原	94	27.7	19.1	24.5	13.8	5.3	1.1	44.7	7.4	
横須賀三浦	120	35.0	25.8	13.3	16.7	7.5	7.5	28.3	10.8	
県央	112	31.3	17.0	17.9	18.8	5.4	4.5	33.9	9.8	
湘南	201	32.3	20.4	21.4	17.4	5.0	3.5	33.8	6.0	
県西	65	27.7	24.6	24.6	15.4	4.6	3.1	36.9	3.1	
【性・年代別】										
男性	579	32.6	20.2	19.0	20.6	10.5	4.3	32.5	4.8	
女性	688	24.6	18.2	19.5	14.5	2.8	4.5	40.6	8.1	
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	38	34.2	21.1	21.1	23.7	15.8	-	23.7	2.6	
30歳代	81	17.3	21.0	21.0	14.8	19.8	6.2	32.1	4.9	
40歳代	121	26.4	15.7	23.1	13.2	15.7	6.6	33.9	3.3	
50歳代	106	34.9	19.8	15.1	24.5	4.7	1.9	41.5	1.9	
60歳代	111	37.8	19.8	14.4	18.9	9.0	3.6	36.9	4.5	
70～74歳	55	40.0	21.8	23.6	25.5	3.6	-	27.3	9.1	
75歳以上	66	42.4	27.3	16.7	30.3	4.5	9.1	18.2	10.6	
女性18～19歳	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
20歳代	42	26.2	26.2	28.6	23.8	2.4	-	33.3	4.8	
30歳代	101	19.8	21.8	25.7	12.9	5.0	6.9	39.6	6.9	
40歳代	152	20.4	18.4	20.4	10.5	3.3	4.6	45.4	3.3	
50歳代	149	30.2	18.8	16.8	15.4	2.0	0.7	42.3	7.4	
60歳代	132	23.5	16.7	18.2	14.4	1.5	5.3	37.1	12.1	
70～74歳	49	30.6	8.2	18.4	18.4	2.0	4.1	36.7	12.2	
75歳以上	62	25.8	16.1	11.3	16.1	3.2	11.3	40.3	14.5	

第5章 かながわの広報【問14～問17】

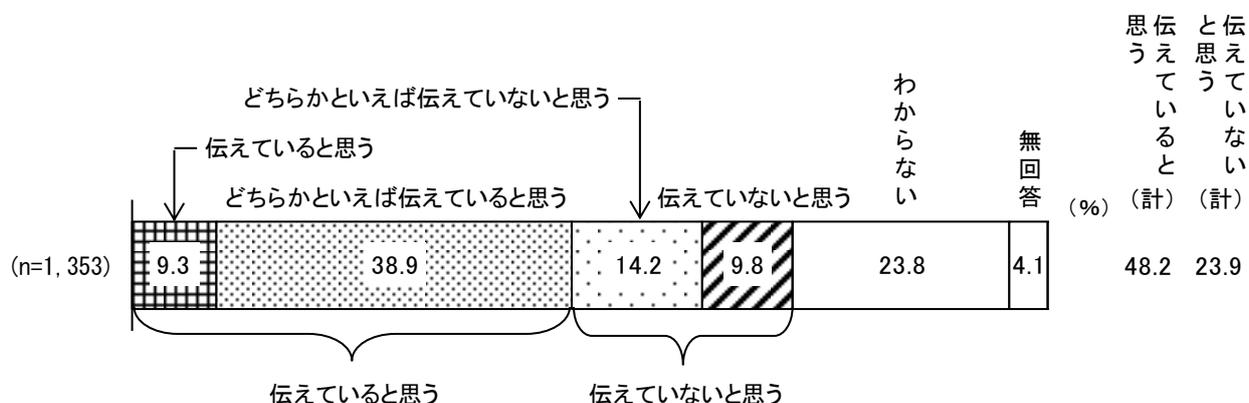
1 県の広報の達成度【問14】

【全体の状況】

神奈川県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えていると思う」(9.3%)と「どちらかといえば伝えていると思う」(38.9%)を合わせた《伝えていると思う》は48.2%であった。

一方、「伝えていないと思う」(9.8%)と「どちらかといえば伝えていないと思う」(14.2%)を合わせた《伝えていないと思う》は23.9%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 県の広報の達成度



【地域別の状況】

地域別にみると、《伝えていると思う》は、県西が56.9%で最も多く、次いで相模原が51.1%であった。

一方、《伝えていないと思う》は、川崎と湘南がともに26.9%であった。(図表5-1-2)

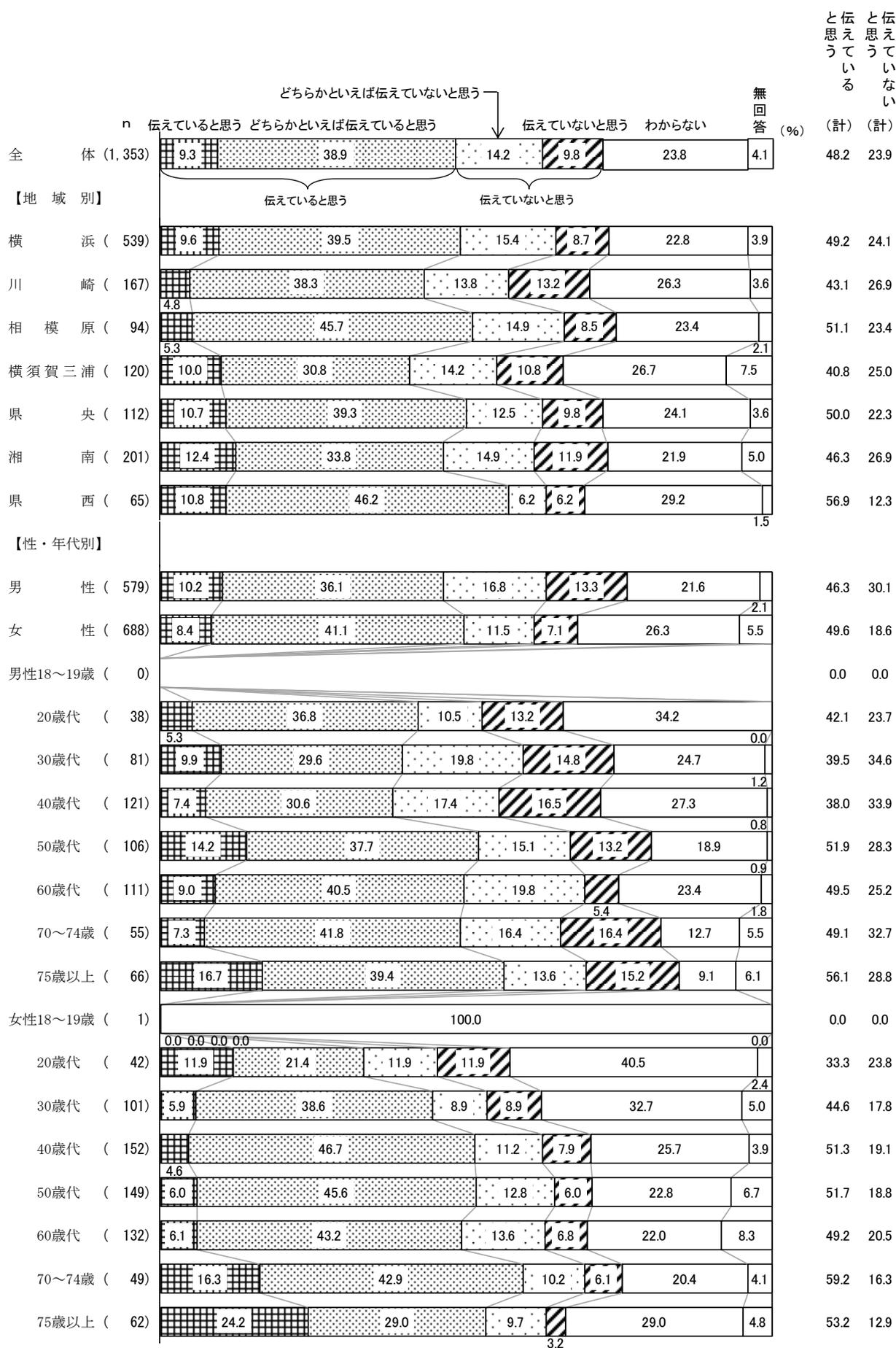
【性・年代別の状況】

性別にみると、《伝えていないと思う》は、男性(30.1%)が女性(18.6%)を11.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、《伝えていると思う》は、女性の70～74歳が59.2%で最も多かった。

一方、《伝えていないと思う》は、男性の30歳代(34.6%)・40歳代(33.9%)・70～74歳(32.7%)がそれぞれ3割台であった。(図表5-1-2)

図表5-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別

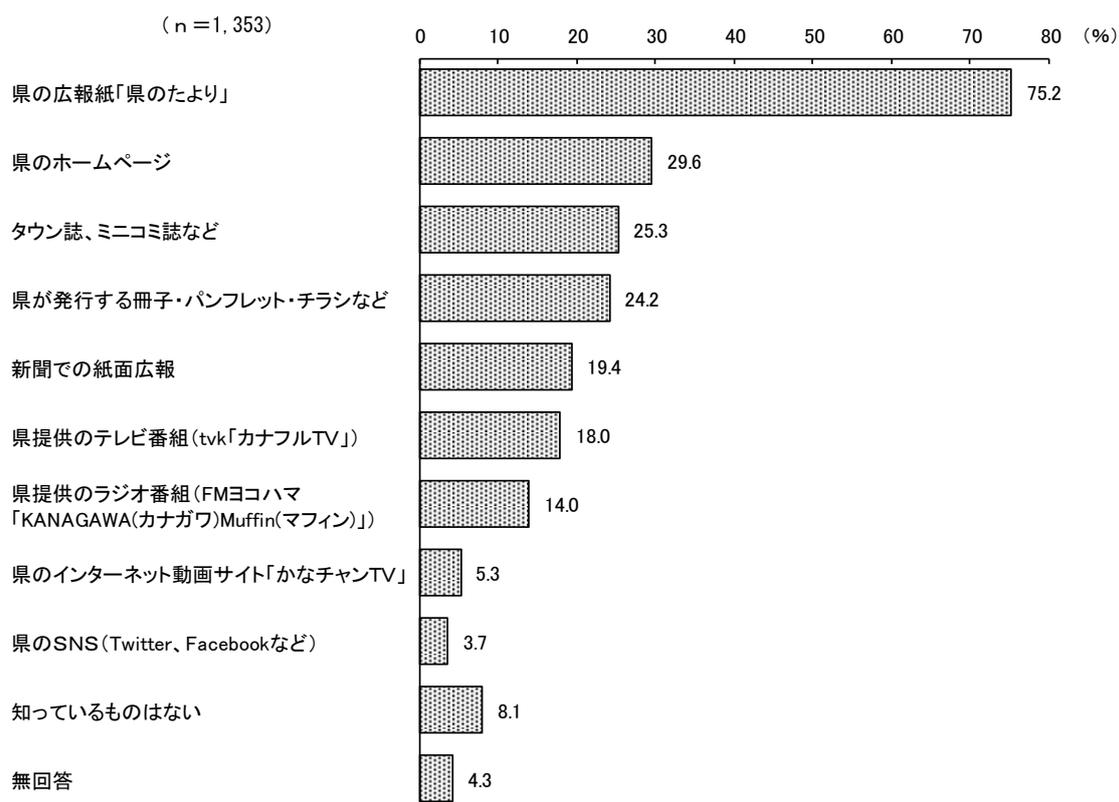


2 県の広報媒体の認知度【問15】

【全体の状況】

神奈川県が県政情報を伝える広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が75.2%で最も多く、次いで「県のホームページ」が29.6%であった。（図表5-2-1）

図表5-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、県西（81.5%）と横須賀三浦（80.0%）がともに8割以上であった。（図表5-2-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、女性（79.8%）が男性（68.9%）を10.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、女性の70～74歳（93.9%）・75歳以上（95.2%）がともに9割台であった。（図表5-2-2）

図表5-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

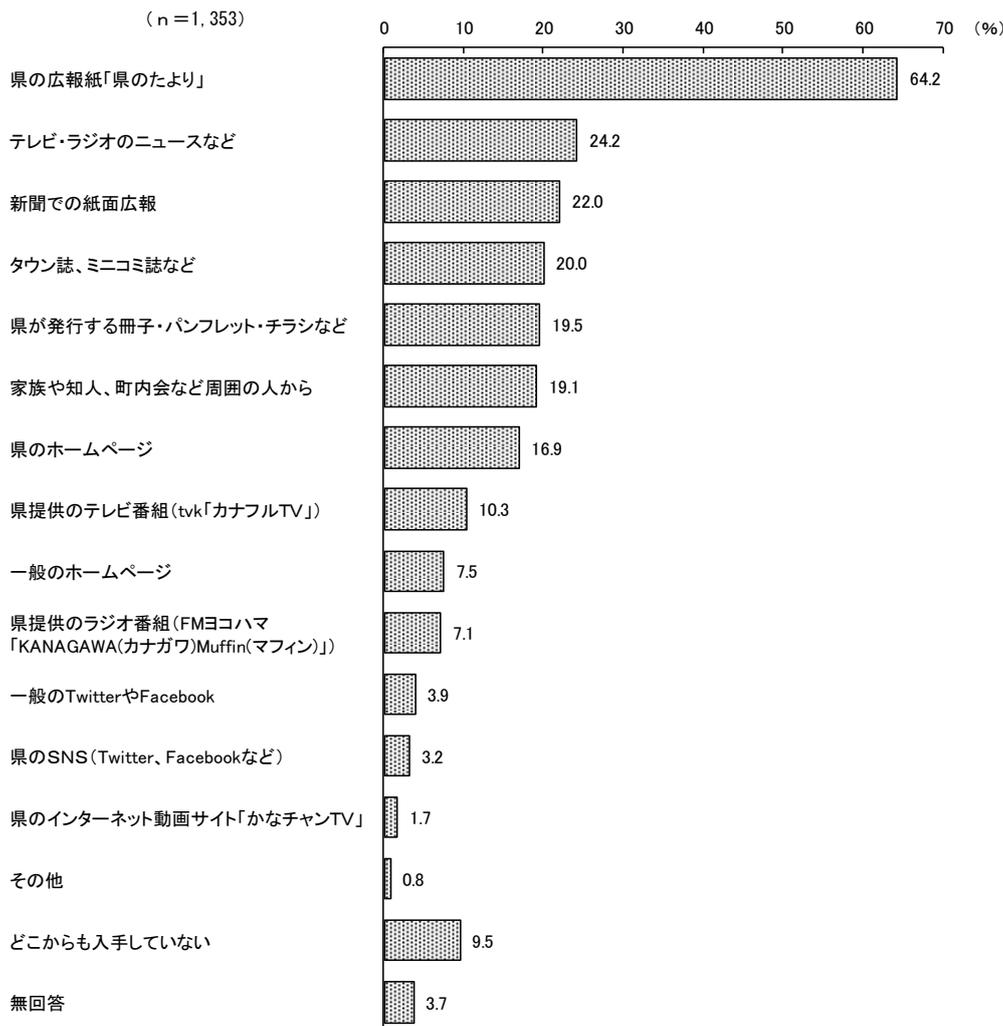
	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	タウン誌、ミニコミ誌など	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県提供のテレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県提供のラジオ番組（FMヨコハマ「KANAGAWA（カナガワ）Muffin（マフィン）」）	県のインターネット動画サイト「かなチャンTV」	県のSNS（Twitter、Facebookなど）	知っているものはない	無回答
全 体	1,353	75.2	29.6	25.3	24.2	19.4	18.0	14.0	5.3	3.7	8.1	4.3
【地 域 別】												
横 浜	539	76.4	33.4	26.7	23.4	17.4	18.7	14.8	5.0	2.8	7.4	3.7
川 崎	167	71.3	28.1	25.1	29.3	17.4	16.2	9.6	5.4	5.4	11.4	3.6
相 模 原	94	72.3	28.7	25.5	28.7	24.5	20.2	11.7	7.4	1.1	10.6	4.3
横 須 賀 三 浦	120	80.0	25.8	16.7	20.0	25.8	18.3	11.7	7.5	3.3	6.7	7.5
県 央	112	67.9	27.7	24.1	20.5	11.6	21.4	18.8	3.6	5.4	11.6	5.4
湘 南	201	73.1	27.4	19.4	21.4	20.4	16.4	12.9	5.5	5.0	8.0	4.5
県 西	65	81.5	24.6	41.5	29.2	21.5	18.5	29.2	1.5	3.1	3.1	3.1
【性・年代別】												
男 性	579	68.9	30.1	20.9	21.9	16.6	17.4	16.9	5.5	3.1	12.3	2.9
女 性	688	79.8	29.8	28.3	25.9	20.2	19.6	12.4	4.9	4.1	5.2	5.1
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	39.5	39.5	26.3	18.4	18.4	15.8	21.1	10.5	5.3	13.2	-
30歳代	81	39.5	32.1	14.8	23.5	8.6	12.3	22.2	3.7	9.9	25.9	6.2
40歳代	121	61.2	33.1	18.2	15.7	5.0	14.0	16.5	7.4	2.5	16.5	1.7
50歳代	106	79.2	43.4	20.8	15.1	13.2	21.7	15.1	1.9	0.9	9.4	0.9
60歳代	111	82.9	27.0	16.2	22.5	24.3	24.3	20.7	5.4	0.9	7.2	2.7
70～74歳	55	83.6	16.4	38.2	29.1	25.5	12.7	12.7	5.5	3.6	3.6	3.6
75歳以上	66	83.3	10.6	22.7	36.4	30.3	15.2	7.6	6.1	-	7.6	6.1
女性18～19歳	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	40.5	26.2	23.8	16.7	9.5	26.2	16.7	7.1	11.9	21.4	7.1
30歳代	101	57.4	40.6	30.7	25.7	8.9	9.9	7.9	4.0	9.9	12.9	6.9
40歳代	152	80.9	48.0	26.3	22.4	10.5	21.7	17.1	5.9	5.9	5.9	2.0
50歳代	149	87.9	29.5	20.1	22.1	14.8	17.4	15.4	4.0	0.7	2.0	5.4
60歳代	132	87.1	18.9	34.8	32.6	31.1	22.0	11.4	4.5	2.3	1.5	7.6
70～74歳	49	93.9	12.2	42.9	46.9	38.8	20.4	6.1	2.0	-	-	4.1
75歳以上	62	95.2	8.1	25.8	19.4	45.2	25.8	4.8	8.1	-	-	3.2

3 神奈川県の情報入手先【問16】

【全体の状況】

神奈川県の情報（事業や行事、お知らせなど）を、どこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が64.2%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオのニュースなど」が24.2%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 神奈川県の情報入手先（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、横須賀三浦が71.7%で最も多かった。また、「県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど」は、県西が30.8%で最も多く、次いで相模原が29.8%であった。（図表5-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、女性（68.6%）が男性（57.3%）を11.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、女性の70～74歳が95.9%で最も多く、女性の60歳代（84.1%）・75歳以上（87.1%）が8割台で続いた。（図表5-3-2）

図表5-3-2 神奈川県の情報入手先（複数回答）—地域別、性・年代別

(96)

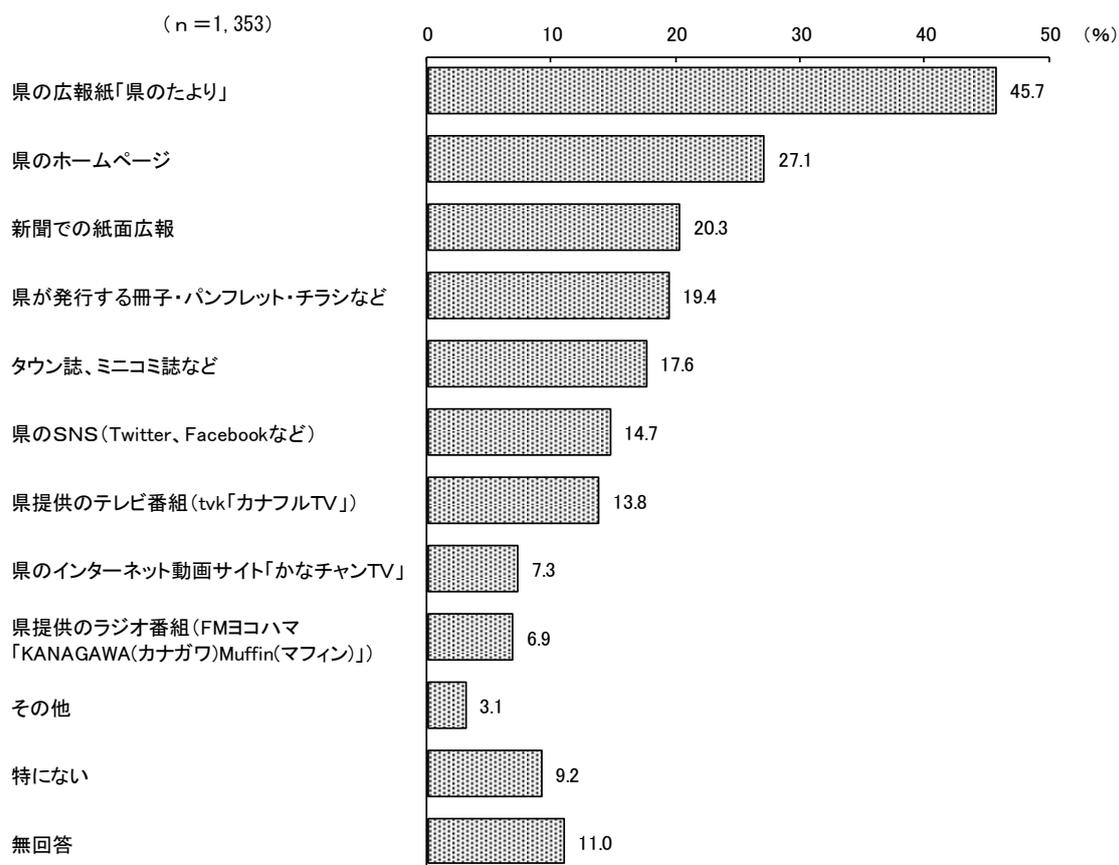
	n	県の広報紙「県のため」	テレビ・ラジオのニュースなど	新聞での紙面広報	タウン誌、ミニコミ誌など	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	家族や知人、町内会など周囲の人から	県のホームページ	県提供のテレビ番組（tvk「カナフルTV」）	一般のホームページ	県提供のラジオ番組（FMヨコハマ「KANAGAWA（カナガワ）Muffin（マフィン）」）	一般のTwitterやFacebook	県のSNS（Twitter、Facebookなど）	県のインターネット動画サイト「かなチャンネル」	その他	どこからも入手していない	無回答
全体	1,353	64.2	24.2	22.0	20.0	19.5	19.1	16.9	10.3	7.5	7.1	3.9	3.2	1.7	0.8	9.5	3.7
【地域別】																	
横浜	539	65.1	22.1	17.8	20.6	18.4	18.9	18.6	9.6	7.8	7.4	3.7	3.2	2.0	1.1	9.6	3.2
川崎	167	61.1	26.3	25.7	18.6	17.4	22.2	16.2	10.2	7.8	3.6	6.0	3.6	0.6	0.6	9.0	3.6
相模原	94	64.9	22.3	29.8	20.2	29.8	18.1	11.7	17.0	6.4	7.4	2.1	1.1	1.1	-	14.9	2.1
横須賀三浦	120	71.7	28.3	26.7	12.5	20.0	18.3	14.2	8.3	2.5	7.5	1.7	2.5	0.8	0.8	4.2	7.5
県央	112	59.8	23.2	17.9	18.8	16.1	16.1	19.6	17.0	9.8	8.9	5.4	2.7	2.7	1.8	10.7	4.5
湘南	201	58.2	27.9	20.9	20.9	17.4	19.4	17.9	7.5	9.5	4.0	4.0	4.5	1.5	-	11.4	4.0
県西	65	66.2	26.2	26.2	29.2	30.8	20.0	15.4	12.3	7.7	20.0	7.7	4.6	1.5	-	7.7	1.5
【性・年代別】																	
男性	579	57.3	24.0	19.3	16.6	18.5	14.9	18.7	11.4	8.8	8.3	3.3	3.1	2.2	0.5	13.1	2.6
女性	688	68.6	24.1	22.5	22.7	20.3	23.1	16.0	9.7	6.7	6.3	4.7	3.5	1.0	1.0	7.3	4.4
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	21.1	18.4	13.2	10.5	10.5	13.2	5.3	5.3	10.5	5.3	10.5	18.4	2.6	-	26.3	-
30歳代	81	28.4	19.8	6.2	11.1	14.8	23.5	22.2	2.5	16.0	9.9	7.4	4.9	1.2	-	25.9	2.5
40歳代	121	48.8	20.7	3.3	13.2	13.2	14.9	24.8	8.3	9.1	7.4	4.1	2.5	2.5	0.8	14.9	1.7
50歳代	106	62.3	25.5	22.6	16.0	10.4	11.3	26.4	16.0	13.2	7.5	2.8	2.8	0.9	-	12.3	0.9
60歳代	111	73.9	26.1	24.3	12.6	18.9	11.7	15.3	17.1	7.2	12.6	-	-	3.6	0.9	7.2	3.6
70～74歳	55	74.5	20.0	34.5	29.1	29.1	12.7	12.7	9.1	-	7.3	-	-	1.8	-	5.5	3.6
75歳以上	66	78.8	34.8	40.9	28.8	39.4	16.7	7.6	15.2	-	3.0	-	-	1.5	1.5	4.5	6.1
女性18～19歳	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	19.0	28.6	11.9	14.3	14.3	33.3	19.0	14.3	9.5	2.4	16.7	16.7	-	-	28.6	2.4
30歳代	101	46.5	15.8	7.9	17.8	19.8	36.6	21.8	1.0	15.8	3.0	10.9	6.9	1.0	2.0	11.9	4.0
40歳代	152	63.2	19.7	9.9	17.8	15.8	23.0	27.0	7.9	8.6	9.2	5.3	3.9	-	2.0	7.9	2.0
50歳代	149	73.2	21.5	19.5	19.5	15.4	15.4	15.4	7.4	4.7	7.4	2.7	0.7	1.3	0.7	7.4	5.4
60歳代	132	84.1	29.5	32.6	31.1	31.1	18.2	8.3	12.9	3.8	5.3	1.5	2.3	1.5	0.8	2.3	7.6
70～74歳	49	95.9	28.6	42.9	34.7	26.5	24.5	6.1	14.3	2.0	6.1	-	-	-	-	-	4.1
75歳以上	62	87.1	37.1	54.8	29.0	21.0	21.0	3.2	21.0	-	6.5	-	-	3.2	-	-	3.2

4 今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法【問17】

【全体の状況】

神奈川県が情報を発信する上で、今後、積極的に力を入れたほうがよいと思う広報の方法を複数回答(3つまで選択可)で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が45.7%で最も多く、次いで「県のホームページ」が27.1%であった。(図表5-4-1)

図表5-4-1 今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法(複数回答)



【地域別の状況】

地域別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、横須賀三浦が59.2%で最も多かった。また、「県のホームページ」は、横須賀三浦(18.3%)を除く6地域(20.0%~29.9%)がそれぞれ2割以上であった。(図表5-4-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「県のホームページ」は、男性(31.1%)が女性(25.0%)を6.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「県の広報紙『県のたより』」は、女性の70~74歳(75.5%)・75歳以上(72.6%)がともに7割台であった。また、「県のSNS (Twitter、Facebookなど)」は、男女ともに20歳代(男性28.9%、女性42.9%)が最も多かった。(図表5-4-2)

図表5-4-2 今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	新聞での紙面広報	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	タウン誌、ミニコミ誌など	F a c e b o o k などの SNS (Twitter、Facebook など)	県提供のテレビ番組 (tvk「カナフルTV」)	県のインターネット動画サイト「かなチャンネル」	M u f f i n (マフィン)	県提供のラジオ番組 (FMヨコハマ「KANAGAWA(カナガワ) Muffin」)	その他	特にない	無回答
全 体	1,353	45.7	27.1	20.3	19.4	17.6	14.7	13.8	7.3	6.9	3.1	9.2	11.0	
【地 域 別】														
横 浜	539	44.5	29.5	18.9	18.6	18.4	14.1	13.5	8.3	6.3	3.0	10.6	10.4	
川 崎	167	39.5	29.3	20.4	19.8	21.0	16.2	10.8	7.8	4.8	3.6	6.6	13.8	
相 模 原	94	43.6	27.7	25.5	14.9	12.8	14.9	19.1	6.4	7.4	5.3	9.6	12.8	
横 須 賀 三 浦	120	59.2	18.3	21.7	24.2	11.7	12.5	11.7	5.0	5.0	5.0	6.7	13.3	
県 央	112	46.4	24.1	16.1	23.2	13.4	18.8	16.1	5.4	6.3	2.7	8.9	8.9	
湘 南	201	42.8	29.9	20.4	17.4	14.4	14.4	15.4	7.0	9.0	3.0	10.4	10.0	
県 西	65	49.2	20.0	13.8	24.6	30.8	13.8	13.8	9.2	16.9	-	9.2	7.7	
【性・年代別】														
男 性	579	42.8	31.1	20.7	18.5	16.2	12.8	14.5	10.0	7.8	4.5	8.3	10.5	
女 性	688	46.7	25.0	18.2	20.1	18.5	17.0	13.4	5.4	6.4	2.2	10.3	10.9	
男性 18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20 歳 代	38	18.4	26.3	7.9	15.8	10.5	28.9	10.5	13.2	7.9	2.6	7.9	18.4	
30 歳 代	81	16.0	25.9	12.3	12.3	13.6	25.9	13.6	12.3	12.3	7.4	11.1	14.8	
40 歳 代	121	33.1	38.8	11.6	17.4	17.4	14.9	9.9	9.1	9.1	7.4	10.7	9.1	
50 歳 代	106	41.5	42.5	19.8	13.2	15.1	11.3	14.2	10.4	4.7	3.8	11.3	6.6	
60 歳 代	111	55.9	33.3	27.9	21.6	12.6	7.2	18.0	9.0	9.9	2.7	8.1	8.1	
70～74歳	55	67.3	18.2	29.1	23.6	25.5	3.6	21.8	12.7	9.1	-	1.8	9.1	
75歳以上	66	68.2	15.2	36.4	28.8	19.7	1.5	15.2	6.1	-	4.5	1.5	15.2	
女性 18～19歳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
20 歳 代	42	23.8	23.8	11.9	14.3	11.9	42.9	11.9	9.5	7.1	-	11.9	14.3	
30 歳 代	101	27.7	35.6	4.0	20.8	17.8	28.7	5.9	8.9	2.0	2.0	10.9	8.9	
40 歳 代	152	32.9	29.6	11.2	19.1	19.7	25.0	11.2	3.9	6.6	2.6	13.2	9.9	
50 歳 代	149	45.0	30.9	13.4	12.1	15.4	16.8	11.4	6.7	6.7	3.4	14.1	8.7	
60 歳 代	132	63.6	20.5	22.7	22.7	19.7	5.3	18.9	3.8	10.6	3.0	6.8	12.9	
70～74歳	49	75.5	8.2	40.8	38.8	30.6	-	18.4	2.0	2.0	-	-	14.3	
75歳以上	62	72.6	6.5	46.8	24.2	16.1	-	21.0	3.2	6.5	-	8.1	11.3	

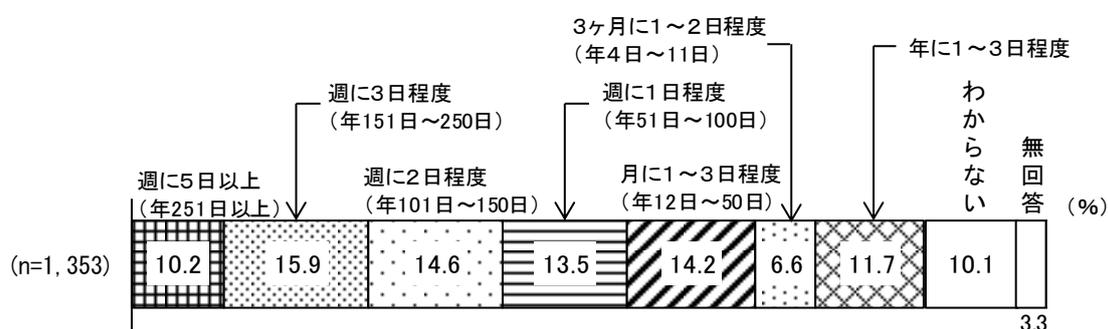
第6章 スポーツ【問18～問22-1】

1 1年間のスポーツ実施日数【問18】

【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度（年151日～250日）」が15.9%で最も多く、「週に2日程度（年に101日～150日）」（14.6%）と「月に1～3日程度（年12日～50日）」（14.2%）が続いた。（図表6-1-1）

図表6-1-1 1年間のスポーツ実施日数



【地域別の状況】

地域別にみると、「週に3日程度（年151日～250日）」は、県央が21.4%で最も多く、次いで横須賀三浦が20.8%であった。（図表6-1-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「週に3日程度（年151日～250日）」は、女性の70～74歳が30.6%で最も多く、次いで男性の75歳以上が30.3%であった。また、「週に2日程度（年に101日～150日）」は、女性の75歳以上が30.6%で最も多かった。（図表6-1-2）

図表6-1-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別



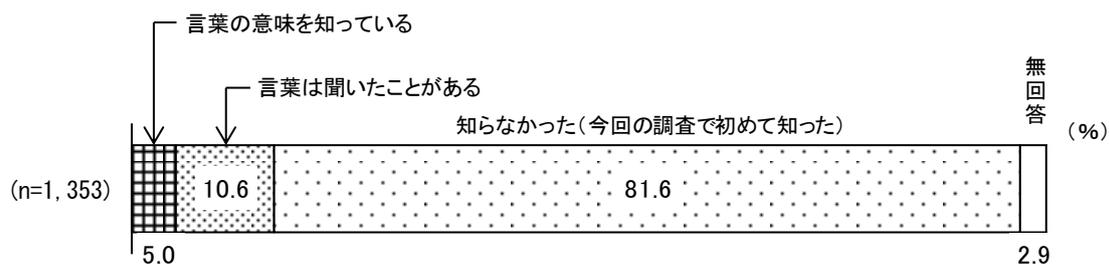
2 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度【問19】

【全体の状況】

「3033（サンマルサンサン）運動」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が81.6%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.6%であった。

(図表6-2-1)

図表6-2-1 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度



【地域別の状況】

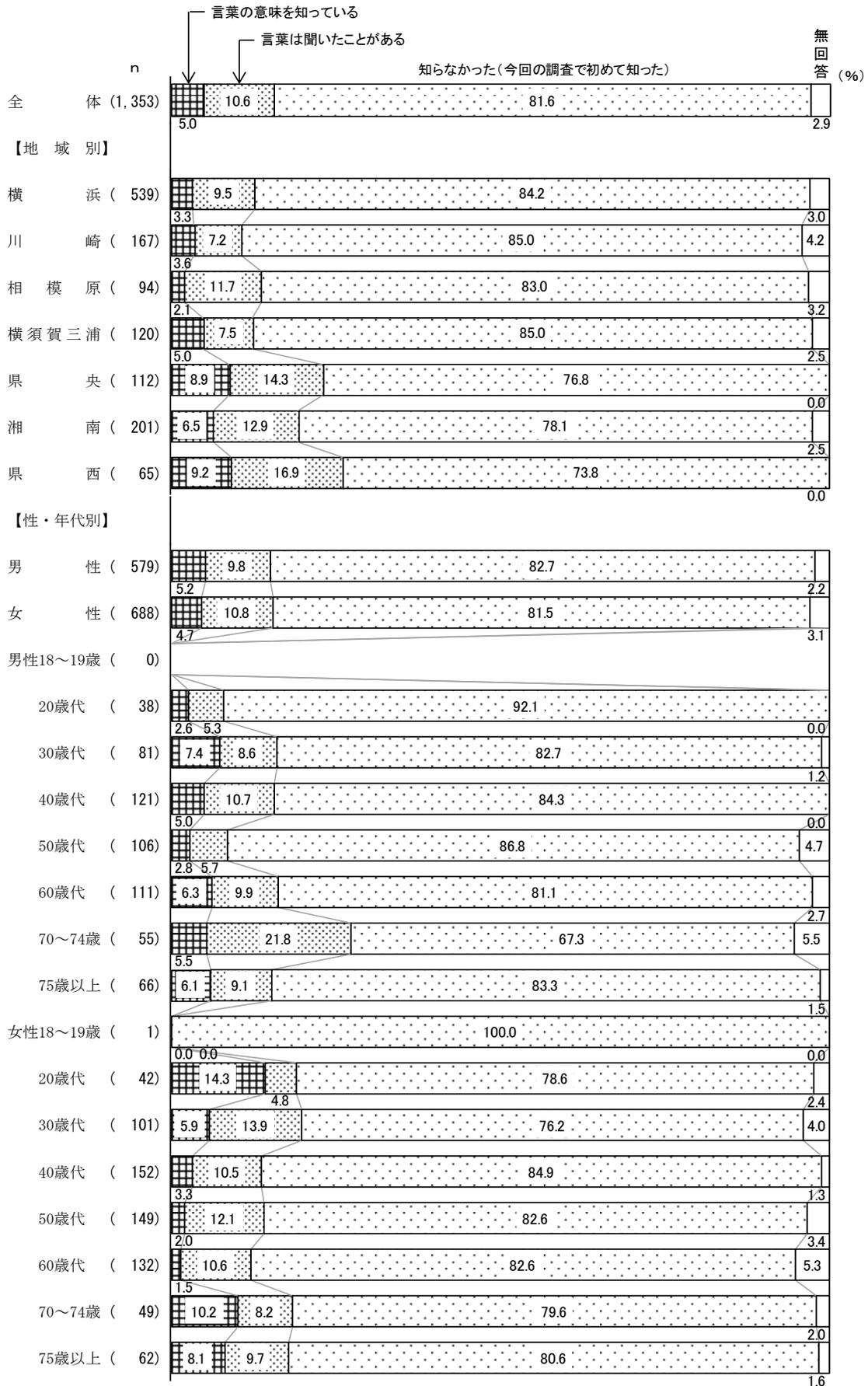
地域別にみると、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、川崎と横須賀三浦がともに85.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」は、県西が16.9%で最も多かった。(図表6-2-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の20歳代が92.1%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、男性の70～74歳が21.8%で最も多く、女性の30歳代(13.9%)・50歳代(12.1%)が続いた。

(図表6-2-2)

図表6-2-2 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度—地域別、性・年代別



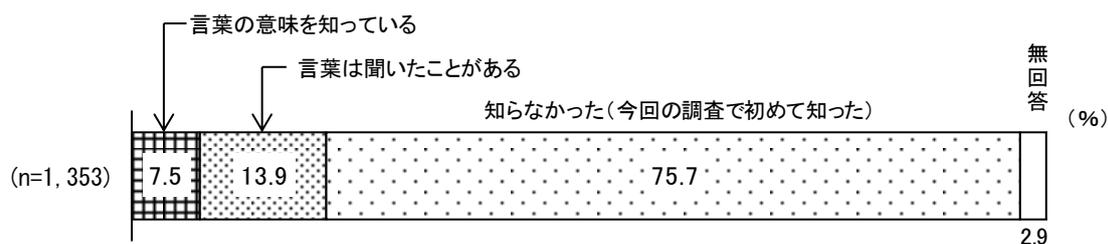
3 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度【問20】

【全体の状況】

「総合型地域スポーツクラブ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が75.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が13.9%であった。

(図表6-3-1)

図表6-3-1 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度



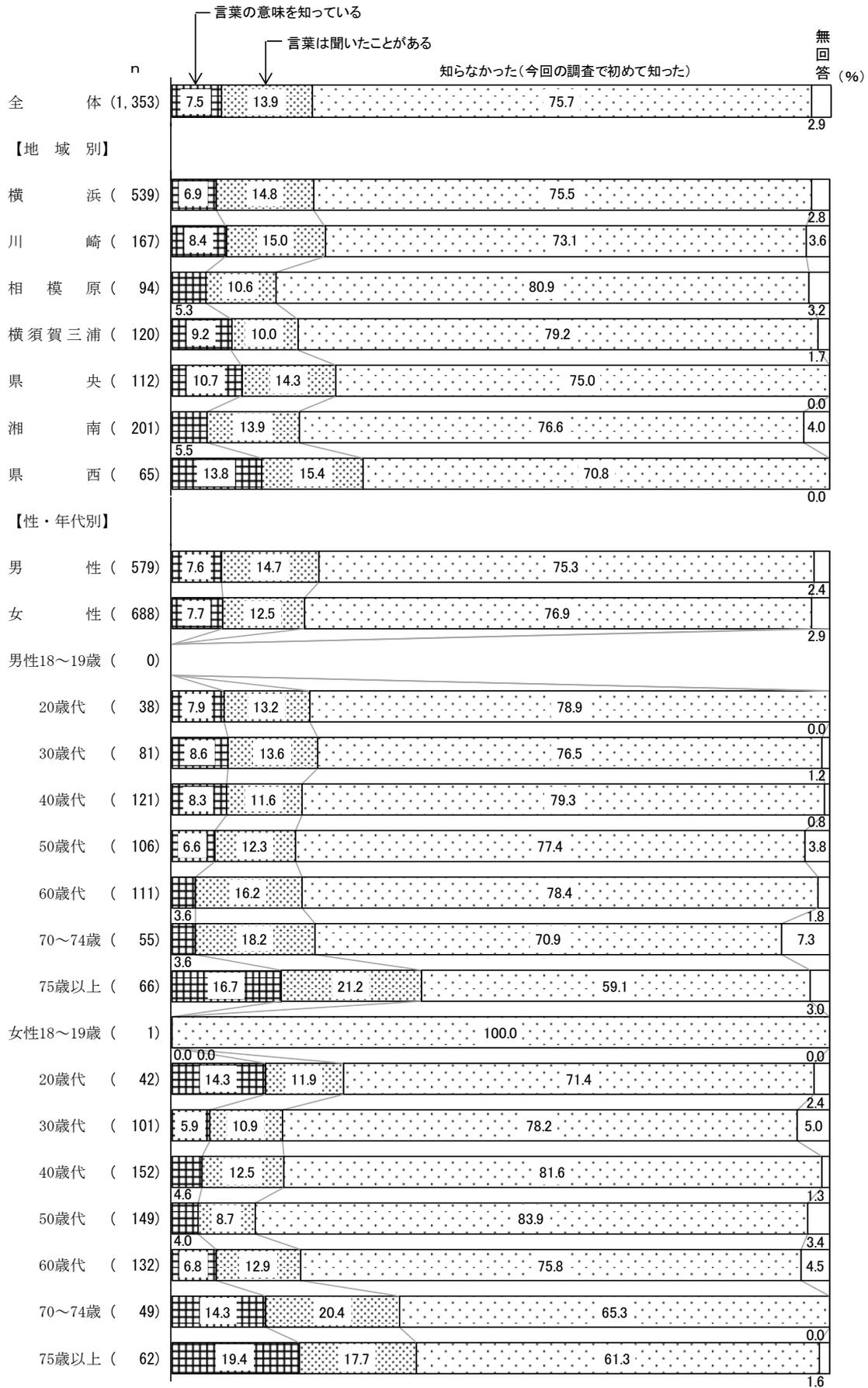
【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、相模原が80.9%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、県西が15.4%で最も多かった。(図表6-3-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の40歳代(81.6%)・50歳代(83.9%)がともに8割を超えた。また、「言葉は聞いたことがある」は、男性の75歳以上が21.2%で最も多く、次いで女性の70～74歳が20.4%であった。(図表6-3-2)

図表6-3-2 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度—地域別、性・年代別

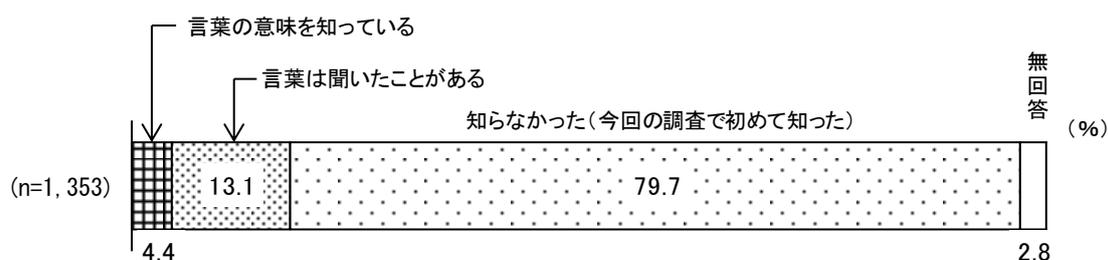


4 「かながわのパラスポーツ」の認知度【問21】

【全体の状況】

「かながわパラスポーツ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が79.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が13.1%であった。(図表6-4-1)

図表6-4-1 「かながわのパラスポーツ」の認知度



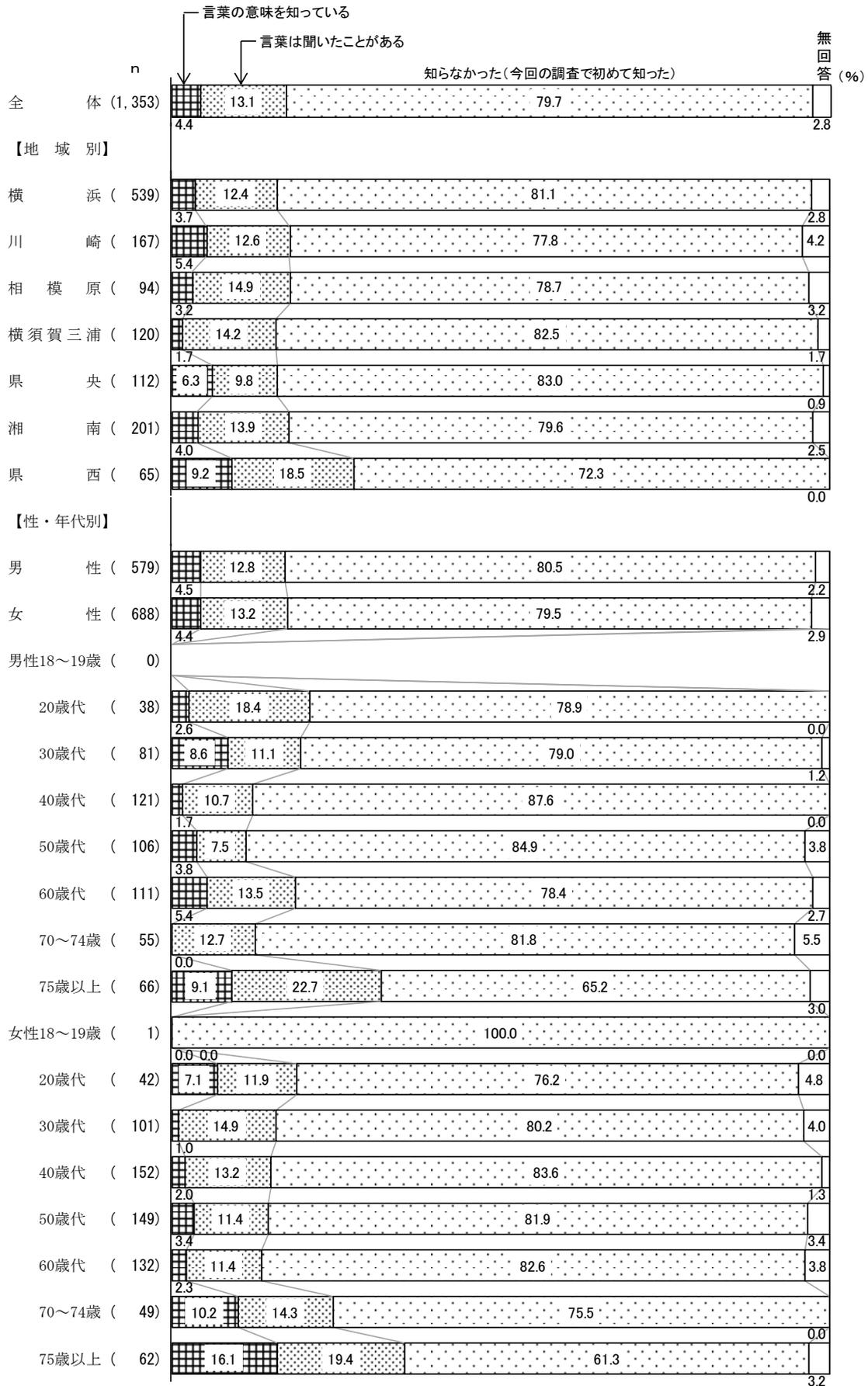
【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、県央 (83.0%)、横須賀三浦 (82.5%)、横浜 (81.1%) がそれぞれ8割を超えた。また、「言葉は聞いたことがある」は、県西が18.5%で最も多かった。(図表6-4-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の40歳代が87.6%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、男性の75歳以上が22.7%で最も多く、男性の20歳代 (18.4%) と女性の75歳以上 (19.4%) が約2割で続いた。(図表6-4-2)

図表6-4-2 「かながわのパラスポーツ」の認知度—地域別、性・年代別



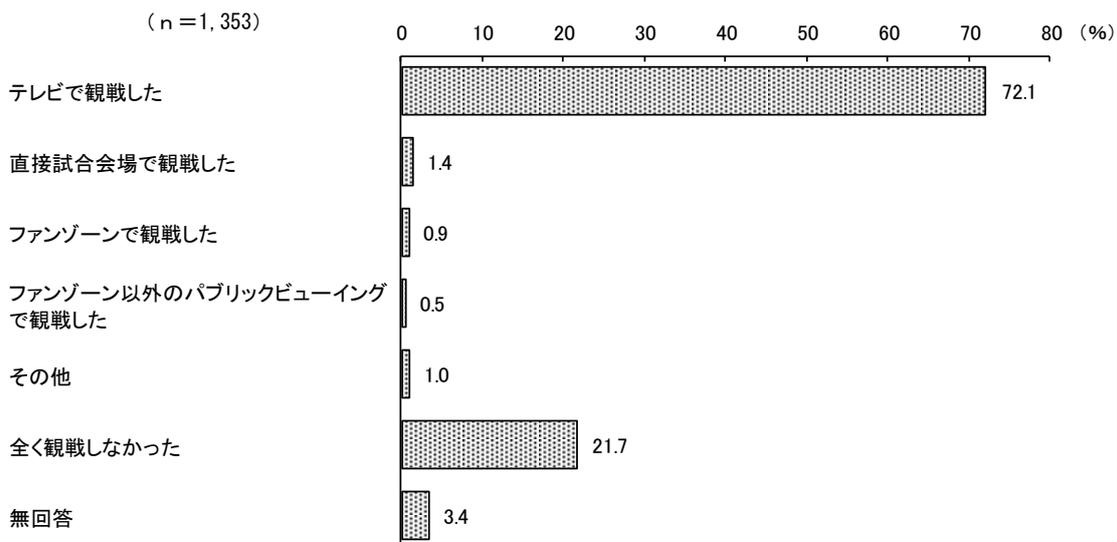
5 横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況【問22】

【全体の状況】

横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019を観戦したか複数回答で尋ねたところ、「テレビで観戦した」が72.1%で最も多く、次いで「全く観戦しなかった」が21.7%であった。

(図表6-5-1)

図表6-5-1 横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「テレビで観戦した」は、県央（78.6%）が最も多く、川崎（74.9%）と横浜（73.1%）が続いた。また、「全く観戦しなかった」は、県西が29.2%で最も多かった。(図表6-5-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「テレビで観戦した」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の50歳代（80.2%）、女性の60歳代（81.1%）・70～74歳（83.7%）がそれぞれ8割を超えた。また、「全く観戦しなかった」は、男性の20歳代が50.0%で最も多かった。(図表6-5-2)

図表6-5-2 横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況（複数回答）
—地域別、性・年代別

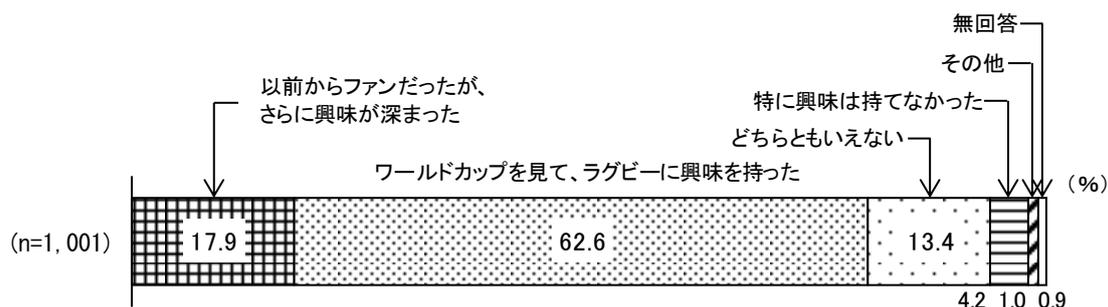
		(%)						
	n	テレビで観戦した	直接試合会場で観戦した	ファンゾーンで観戦した	ファンゾーン以外のパブリック	その他	全く観戦しなかった	無回答
全 体	1,353	72.1	1.4	0.9	0.5	1.0	21.7	3.4
【地 域 別】								
横 浜	539	73.1	1.5	1.7	0.7	0.9	21.2	2.8
川 崎	167	74.9	1.2	0.6	1.2	1.2	18.0	3.6
相 模 原	94	69.1	4.3	-	-	1.1	23.4	3.2
横 須 賀 三 浦	120	70.8	0.8	-	-	0.8	24.2	3.3
県 央	112	78.6	-	-	-	1.8	17.9	1.8
湘 南	201	67.7	1.0	0.5	0.5	1.0	25.9	3.5
県 西	65	63.1	1.5	1.5	-	-	29.2	4.6
【性・年代別】								
男 性	579	73.9	1.6	1.0	0.3	0.5	21.1	2.8
女 性	688	70.8	1.3	0.9	0.7	1.3	22.8	2.9
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	47.4	2.6	-	2.6	-	50.0	-
30歳代	81	76.5	1.2	2.5	1.2	-	19.8	1.2
40歳代	121	70.2	1.7	1.7	-	-	26.4	0.8
50歳代	106	80.2	1.9	-	-	1.9	12.3	3.8
60歳代	111	78.4	2.7	1.8	-	0.9	16.2	2.7
70～74歳	55	74.5	-	-	-	-	18.2	7.3
75歳以上	66	75.8	-	-	-	-	19.7	4.5
女性18～19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	57.1	4.8	-	4.8	-	31.0	2.4
30歳代	101	64.4	-	1.0	-	1.0	29.7	4.0
40歳代	152	61.2	2.0	2.0	1.3	2.0	32.9	1.3
50歳代	149	72.5	1.3	1.3	0.7	1.3	19.5	3.4
60歳代	132	81.1	0.8	-	-	1.5	12.9	4.5
70～74歳	49	83.7	-	-	-	2.0	14.3	-
75歳以上	62	77.4	1.6	-	-	-	17.7	3.2

6 ラグビーへの興味【問22-1】

【全体の状況】

横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況（問22）で「直接試合会場で観戦した」、「ファンゾーンで観戦した」、「ファンゾーン以外のパブリックビューイングで観戦した」、「テレビで観戦した」のいずれかを選択した1,001人にラグビーに対して興味を持ったか尋ねたところ、「ワールドカップを見て、ラグビーに興味を持った」が62.6%で最も多く、次いで「以前からファンだったが、さらに興味が深まった」が17.9%であった。（図表6-6-1）

図表6-6-1 ラグビーへの興味



【地域別の状況】

地域別にみると、「ワールドカップを見て、ラグビーに興味を持った」は、相模原（57.4%）と湘南（58.6%）を除く5地域（62.8%～69.8%）がそれぞれ6割を超えた。（図表6-6-2）

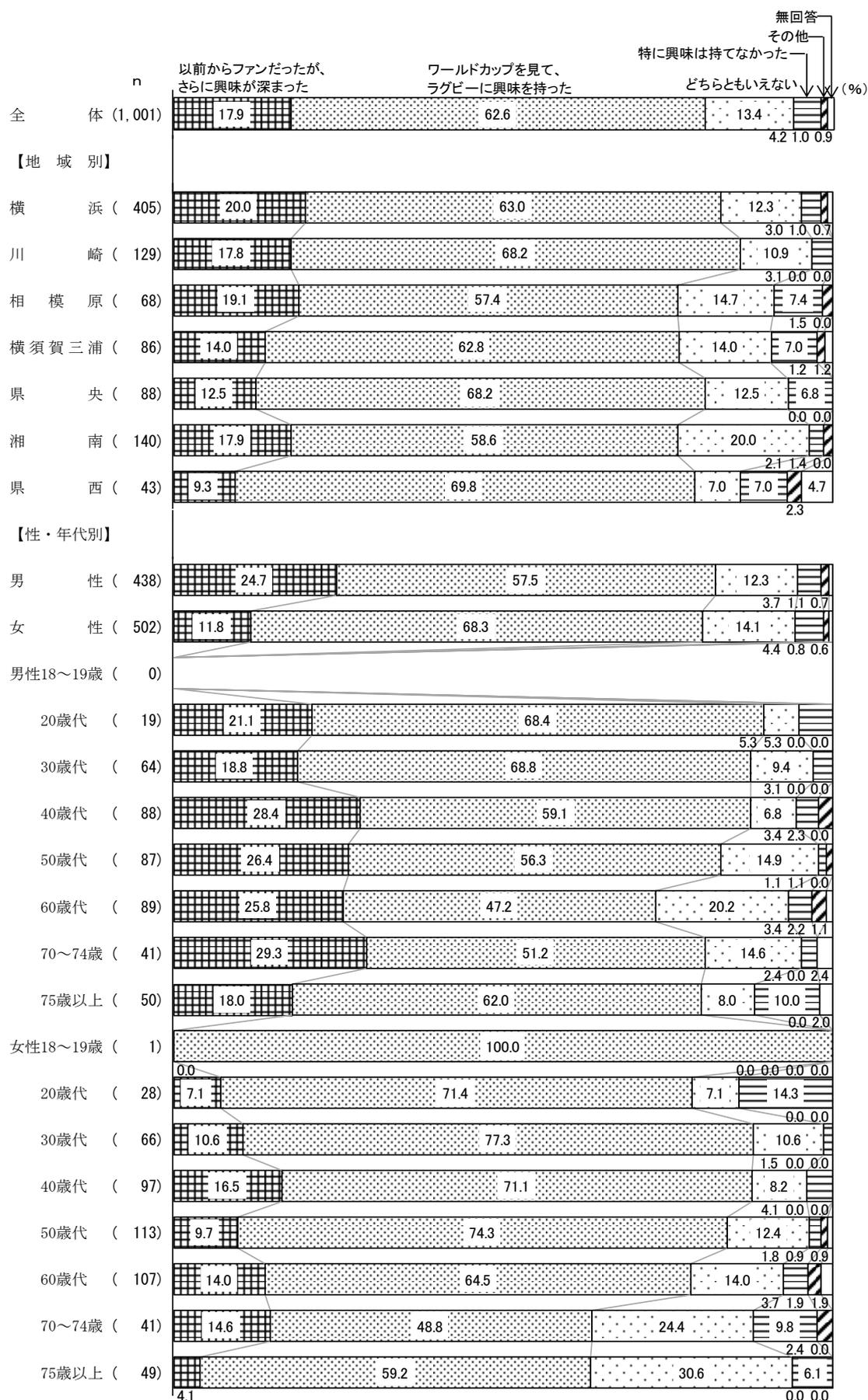
【性・年代別の状況】

性別にみると、「以前からファンだったが、さらに興味が深まった」は、男性（24.7%）が女性（11.8%）を12.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「ワールドカップを見て、ラグビーに興味を持った」は、サンプル数の少ない女性の20歳代以下を除くと、女性の30～50歳代（71.1%～77.3%）がそれぞれ7割を超えた。

（図表6-6-2）

図表6-6-2 ラグビーへの興味—地域別、性・年代別



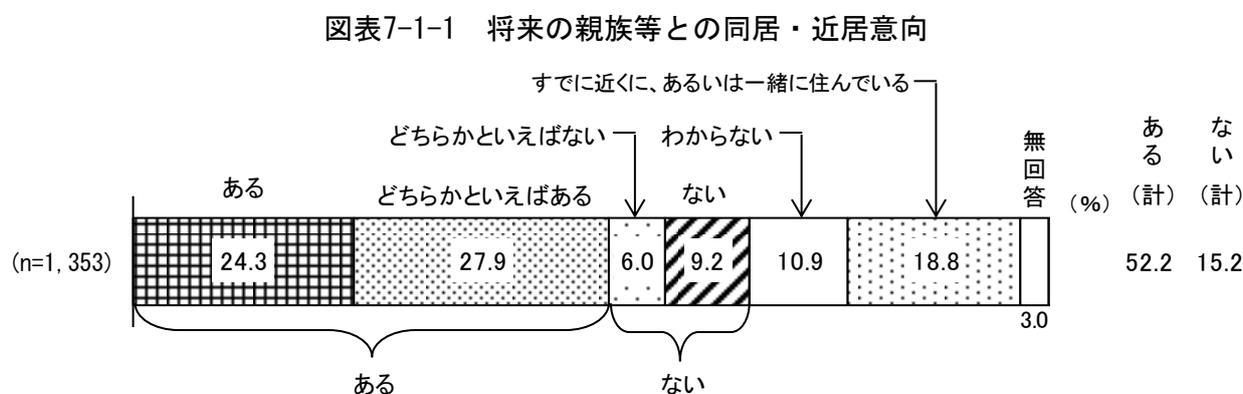
第7章 地域コミュニティ【問23～問25】

1 将来の親族等との同居・近居意向【問23】

【全体の状況】

将来、親や子、親族の近くに、あるいは一緒に住みたいという考えがあるか尋ねたところ、「ある」(24.3%)と「どちらかといえばある」(27.9%)を合わせた《ある》は52.2%であった。

一方、「ない」(9.2%)と「どちらかといえばない」(6.0%)を合わせた《ない》は15.2%であった。(図表7-1-1)



【地域別の状況】

地域別にみると、《ある》は、相模原(43.6%)と県央(41.1%)を除く5地域(50.0%~56.2%)がそれぞれ5割以上であった。(図表7-1-2)

一方、《ない》は、川崎が22.2%で最も多かった。

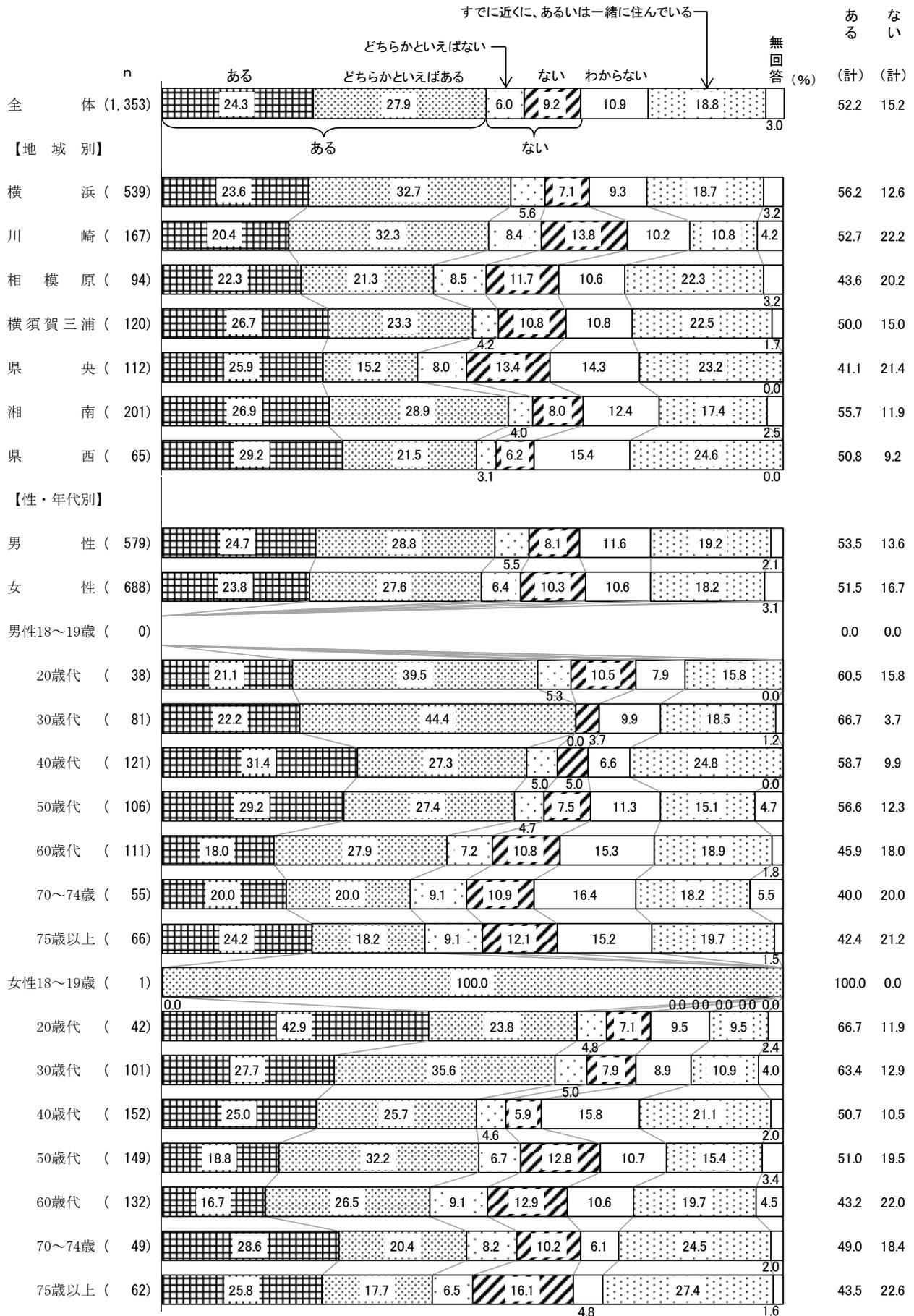
【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《ある》は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、男性の30歳代と女性の20歳代がともに66.7%であった。

一方、《ない》は、女性の75歳以上が22.6%で最も多く、次いで女性の60歳代が22.0%であった。

(図表7-1-2)

図表7-1-2 将来の親族等との同居・近居意向—地域別、性・年代別



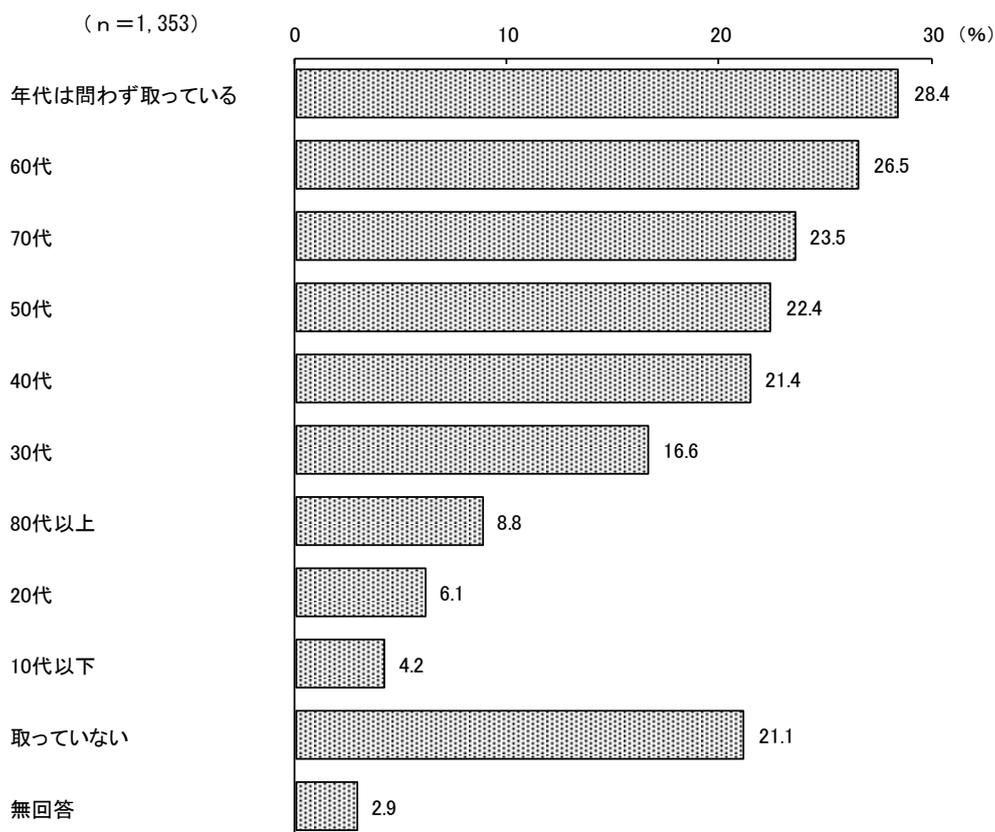
2 コミュニケーション相手の年代【問24】

【全体の状況】

日頃、地域において、どの年代の人とコミュニケーションを取っているか複数回答で尋ねたところ、「年代は問わず取っている」が28.4%で最も多く、「60代」(26.5%)と「70代」(23.5%)が続いた。

一方、「取っていない」は、21.1%であった。(図表7-2-1)

図表7-2-1 コミュニケーション相手の年代（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「年代は問わず取っている」は、県西が46.2%で最も多かった。また、「60代」は、横須賀三浦(36.7%)、相模原(34.0%)、湘南(31.8%)がそれぞれ3割を超えた。

一方、「取っていない」は、横浜が24.1%で最も多かった。(図表7-2-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「取っていない」は、男性(27.8%)が女性(16.0%)を11.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「年代は問わず取っている」は、女性の30歳代が37.6%で最も多く、次いで女性の70~74歳が32.7%であった。

一方、「取っていない」は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、女性の20歳代が38.1%で最も多く、次いで男性の50歳代が37.7%であった。(図表7-2-2)

図表7-2-2 コミュニケーション相手の年代（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

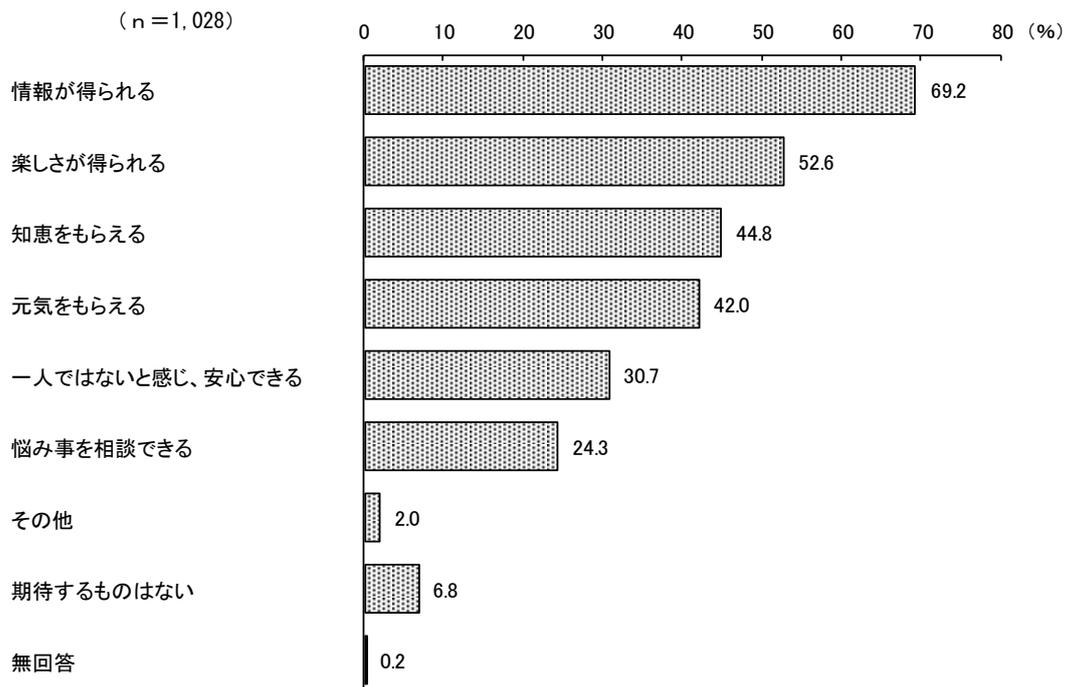
	n	年代は問わず取っている	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	取っていない	無回答
全体	1,353	28.4	4.2	6.1	16.6	21.4	22.4	26.5	23.5	8.8	21.1	2.9
【地域別】												
横浜	539	25.8	3.0	7.2	18.2	23.2	22.6	22.8	20.6	6.7	24.1	2.6
川崎	167	28.7	5.4	10.2	16.2	27.5	28.7	26.3	22.8	10.8	21.0	3.6
相模原	94	17.0	4.3	4.3	21.3	20.2	24.5	34.0	26.6	9.6	20.2	3.2
横須賀三浦	120	30.8	5.8	5.8	14.2	18.3	20.8	36.7	32.5	18.3	16.7	2.5
県央	112	32.1	4.5	3.6	17.9	20.5	21.4	21.4	22.3	4.5	23.2	0.9
湘南	201	31.3	5.0	4.0	15.4	17.4	20.9	31.8	25.9	8.5	17.9	2.5
県西	65	46.2	6.2	4.6	12.3	16.9	13.8	16.9	21.5	12.3	16.9	1.5
【性・年代別】												
男性	579	25.7	3.5	6.2	14.2	19.0	20.2	24.2	18.8	6.2	27.8	2.2
女性	688	31.1	5.1	6.3	19.8	24.3	25.0	27.6	26.2	10.6	16.0	2.9
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	31.6	10.5	26.3	15.8	18.4	13.2	15.8	2.6	5.3	36.8	-
30歳代	81	22.2	4.9	14.8	45.7	25.9	18.5	13.6	4.9	1.2	24.7	1.2
40歳代	121	29.8	5.0	3.3	18.2	36.4	24.8	14.9	9.9	5.0	27.3	-
50歳代	106	24.5	0.9	3.8	6.6	14.2	30.2	14.2	8.5	3.8	37.7	3.8
60歳代	111	19.8	1.8	2.7	4.5	9.9	23.4	45.9	26.1	6.3	27.9	1.8
70～74歳	55	30.9	1.8	1.8	3.6	14.5	10.9	38.2	43.6	14.5	20.0	5.5
75歳以上	66	27.3	3.0	3.0	3.0	4.5	3.0	25.8	45.5	10.6	18.2	4.5
女性18～19歳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
20歳代	42	31.0	-	21.4	21.4	14.3	19.0	11.9	2.4	4.8	38.1	2.4
30歳代	101	37.6	7.9	10.9	42.6	23.8	9.9	11.9	11.9	3.0	15.8	4.0
40歳代	152	31.6	11.8	3.3	31.6	46.7	16.4	11.2	15.1	3.9	16.4	2.0
50歳代	149	28.2	3.4	8.7	10.7	27.5	44.3	24.8	21.5	14.8	20.1	3.4
60歳代	132	30.3	1.5	1.5	12.1	10.6	31.1	50.0	31.1	12.1	12.9	3.8
70～74歳	49	32.7	2.0	-	2.0	8.2	12.2	55.1	59.2	10.2	4.1	-
75歳以上	62	27.4	1.6	4.8	4.8	11.3	25.8	41.9	67.7	30.6	4.8	3.2

3 コミュニケーションに期待しているもの【問24-1】

【全体の状況】

コミュニケーション相手の年代（問24）で「年代は問わず取っている」、「10代以下」、「20代」、「30代」、「40代」、「50代」、「60代」、「70代」、「80代以上」のいずれかを選択した1,028人に、その年代の方とのコミュニケーションに期待しているものを複数回答で尋ねたところ、「情報が得られる」が69.2%で最も多く、次いで「楽しさが得られる」が52.6%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 コミュニケーションに期待しているもの（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「情報が得られる」は、県央が76.5%で最も多く、次いで横須賀三浦が75.3%であった。また、「楽しさが得られる」は、川崎（49.2%）と県西（45.3%）を除く5地域（51.3%～58.8%）がそれぞれ5割を超えた。（図表7-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「悩み事を相談できる」は、女性（32.1%）が男性（13.8%）を18.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「情報が得られる」は、男女ともに50歳代（男性77.4%、女性77.2%）が最も多かった。また、「楽しさが得られる」は、女性の75歳以上が71.9%で最も多かった。（図表7-3-2）

図表7-3-2 コミュニケーションに期待しているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

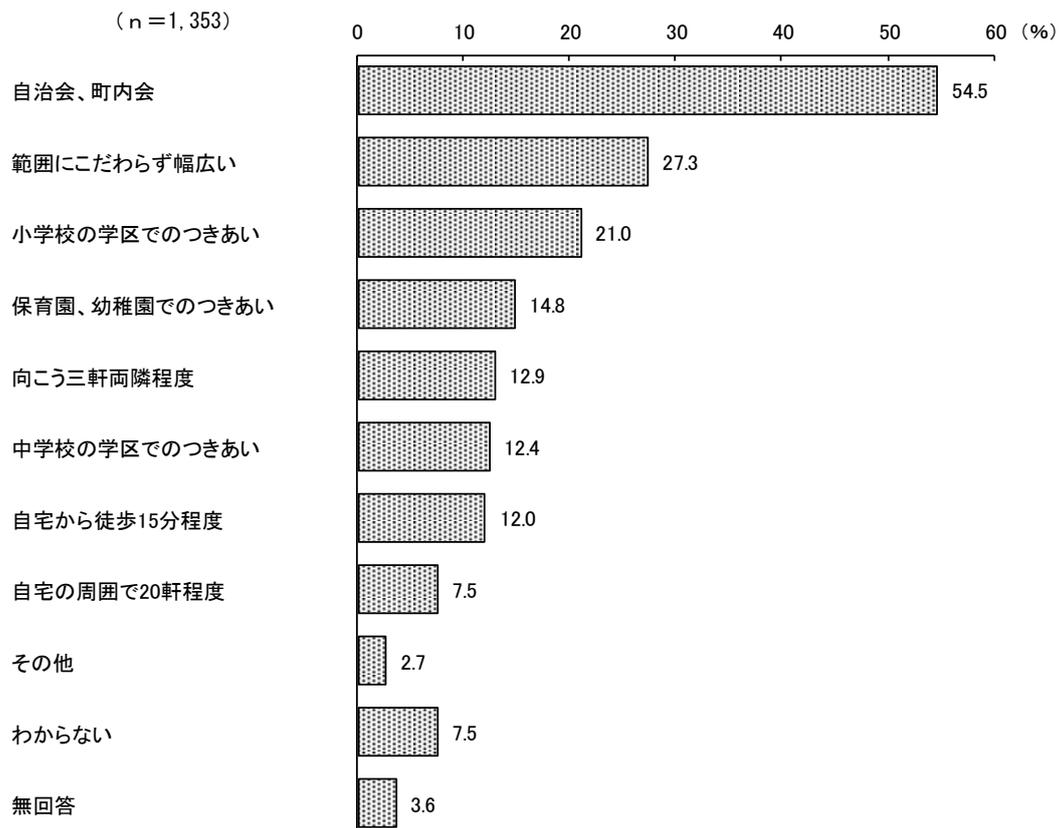
	n	情報が得られる	楽しさが得られる	知恵をもらえる	元気をもらえる	一人ではないと感じ、安心できる	悩み事を相談できる	その他	期待するものはない	無回答
全 体	1,028	69.2	52.6	44.8	42.0	30.7	24.3	2.0	6.8	0.2
【地 域 別】										
横 浜	395	70.6	51.9	40.8	41.8	30.4	25.1	2.8	8.9	0.3
川 崎	126	65.9	49.2	41.3	38.1	29.4	16.7	0.8	6.3	-
相 模 原	72	63.9	58.3	54.2	44.4	33.3	29.2	2.8	2.8	-
横 須 賀 三 浦	97	75.3	58.8	47.4	44.3	29.9	21.6	-	6.2	-
県 央	85	76.5	52.9	57.6	44.7	32.9	27.1	2.4	3.5	-
湘 南	160	64.4	51.3	43.1	40.0	31.9	29.4	1.9	7.5	0.6
県 西	53	67.9	45.3	52.8	43.4	26.4	24.5	3.8	3.8	-
【性・年代別】										
男 性	405	67.7	45.4	38.0	33.1	28.6	13.8	3.2	6.9	0.2
女 性	558	70.4	57.0	49.8	47.3	31.0	32.1	1.4	6.8	0.2
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	24	50.0	54.2	45.8	29.2	8.3	16.7	12.5	16.7	-
30歳代	60	66.7	48.3	53.3	35.0	35.0	28.3	3.3	8.3	-
40歳代	88	76.1	38.6	42.0	28.4	23.9	17.0	2.3	6.8	-
50歳代	62	77.4	46.8	29.0	35.5	25.8	11.3	-	6.5	-
60歳代	78	64.1	43.6	34.6	23.1	30.8	10.3	3.8	5.1	1.3
70～74歳	41	65.9	31.7	29.3	34.1	36.6	4.9	2.4	4.9	-
75歳以上	51	56.9	60.8	31.4	51.0	33.3	5.9	3.9	5.9	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	68.0	68.0	76.0	48.0	32.0	52.0	4.0	8.0	-
30歳代	81	64.2	46.9	54.3	35.8	35.8	35.8	2.5	11.1	-
40歳代	124	75.8	55.6	43.5	41.1	31.5	35.5	0.8	9.7	-
50歳代	114	77.2	51.8	50.9	54.4	22.8	34.2	0.9	7.9	-
60歳代	110	74.5	60.9	51.8	45.5	28.2	27.3	0.9	3.6	-
70～74歳	47	61.7	57.4	34.0	53.2	29.8	23.4	4.3	4.3	-
75歳以上	57	54.4	71.9	52.6	61.4	45.6	22.8	-	-	1.8

4 「地域コミュニティ」としてイメージする範囲【問25】

【全体の状況】

「地域コミュニティ」のイメージはどの範囲か複数回答で尋ねたところ、「自治会、町内会」が54.5%で最も多く、次いで「範囲にこだわらず幅広い」が27.3%であった。(図表7-4-1)

図表7-4-1 「地域コミュニティ」としてイメージする範囲（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「自治会、町内会」は、全地域（52.1%～56.9%）で5割台であった。また、「範囲にこだわらず幅広い」は、横須賀三浦が35.0%で最も多く、次いで県央が33.0%であった。

(図表7-4-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「範囲にこだわらず幅広い」は、女性（29.8%）が男性（23.1%）を6.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「自治会、町内会」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の50歳代が63.2%で最も多かった。(図表7-4-2)

図表7-4-2 「地域コミュニティ」としてイメージする範囲（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	自治会、町内会	範囲にこだわらず幅広い	小学校の学区でのつきあい	保育園、幼稚園でのつきあい	向こう三軒両隣程度	中学校の学区でのつきあい	自宅から徒歩15分程度	自宅の周囲で20軒程度	その他	わからない	無回答
全体	1,353	54.5	27.3	21.0	14.8	12.9	12.4	12.0	7.5	2.7	7.5	3.6
【地域別】												
横浜	539	56.2	23.6	23.6	17.1	11.7	13.4	11.7	5.6	2.0	8.2	3.2
川崎	167	52.1	26.3	20.4	14.4	9.0	16.2	15.0	5.4	3.6	10.2	6.0
相模原	94	53.2	25.5	19.1	12.8	13.8	8.5	11.7	9.6	2.1	7.4	3.2
横須賀三浦	120	55.0	35.0	15.0	10.8	16.7	9.2	12.5	15.8	6.7	5.0	3.3
県央	112	53.6	33.0	21.4	13.4	16.1	14.3	9.8	6.3	4.5	9.8	0.9
湘南	201	54.2	28.4	20.4	15.9	13.4	11.4	11.9	10.4	1.0	5.5	4.0
県西	65	56.9	32.3	21.5	10.8	12.3	12.3	6.2	6.2	1.5	6.2	1.5
【性・年代別】												
男性	579	56.8	23.1	20.0	12.6	12.6	12.6	11.1	7.4	2.8	7.8	3.8
女性	688	53.2	29.8	22.5	17.4	11.8	12.5	12.1	7.6	2.6	7.7	3.2
男性18~19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	50.0	21.1	31.6	18.4	7.9	23.7	15.8	2.6	2.6	10.5	2.6
30歳代	81	58.0	17.3	37.0	34.6	11.1	22.2	11.1	3.7	1.2	6.2	3.7
40歳代	121	57.0	22.3	38.0	21.5	8.3	20.7	12.4	6.6	1.7	9.9	0.8
50歳代	106	63.2	17.9	17.9	7.5	10.4	11.3	6.6	5.7	0.9	4.7	6.6
60歳代	111	53.2	28.8	4.5	3.6	10.8	3.6	10.8	6.3	2.7	9.9	5.4
70~74歳	55	54.5	25.5	1.8	-	21.8	3.6	12.7	10.9	5.5	9.1	5.5
75歳以上	66	57.6	30.3	4.5	-	24.2	4.5	10.6	18.2	7.6	4.5	1.5
女性18~19歳	1	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-
20歳代	42	54.8	19.0	40.5	45.2	11.9	33.3	9.5	7.1	-	11.9	2.4
30歳代	101	56.4	20.8	44.6	43.6	12.9	21.8	12.9	6.9	3.0	5.9	4.0
40歳代	152	59.2	26.3	36.2	24.3	9.9	14.5	8.6	4.6	3.3	5.9	1.3
50歳代	149	50.3	31.5	12.8	7.4	6.7	12.8	6.7	6.0	3.4	10.1	4.0
60歳代	132	47.0	36.4	9.8	6.1	11.4	3.8	12.1	9.1	1.5	7.6	4.5
70~74歳	49	55.1	36.7	8.2	-	10.2	4.1	22.4	12.2	4.1	10.2	-
75歳以上	62	50.0	37.1	1.6	-	29.0	1.6	25.8	12.9	1.6	4.8	4.8

第8章 地域社会との関わり【問26～問30】

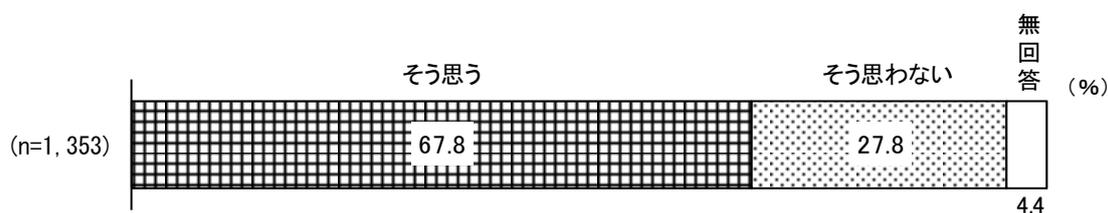
1 地域社会との関わり方に関する意識【問26】

【全体の状況】

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が67.8%であった。

一方、「そう思わない」は、27.8%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 地域社会との関わり方に関する意識



【地域別の状況】

地域別にみると、「そう思う」は、県西が73.8%で最も多かった。

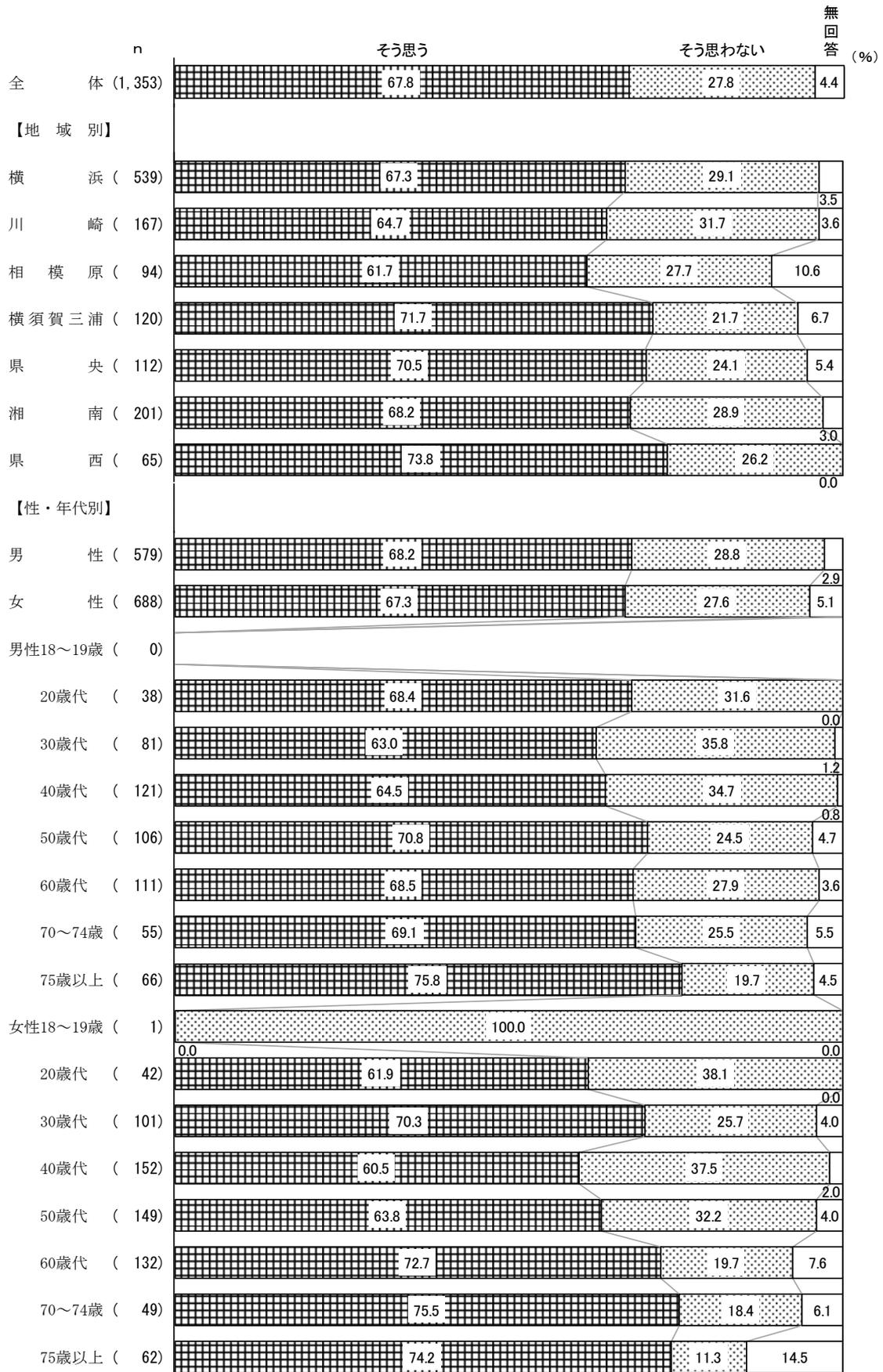
一方、「そう思わない」は、川崎が31.7%で最も多かった。(図表8-1-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「そう思う」は、男性の75歳以上が75.8%で最も多く、次いで女性の70～74歳が75.5%であった。

一方、「そう思わない」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が38.1%で最も多く、次いで女性の40歳代が37.5%であった。(図表8-1-2)

図表8-1-2 地域社会との関わり方に関する意識—地域別、性・年代別

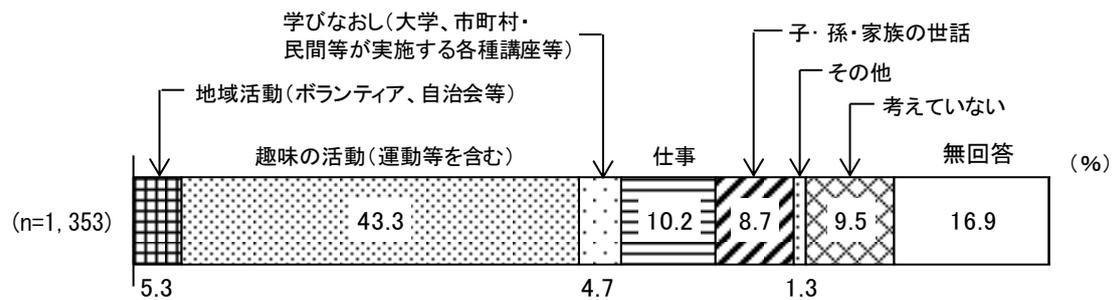


2 退職後や65歳以降の人生でやりたいこと【問27】

【全体の状況】

退職後や65歳以降の人生でやりたいと考えていることを尋ねたところ、「趣味の活動（運動等を含む）」が43.3%で最も多く、次いで「仕事」が10.2%であった。（図表8-2-1）

図表8-2-1 退職後や65歳以降の人生でやりたいこと



【地域別の状況】

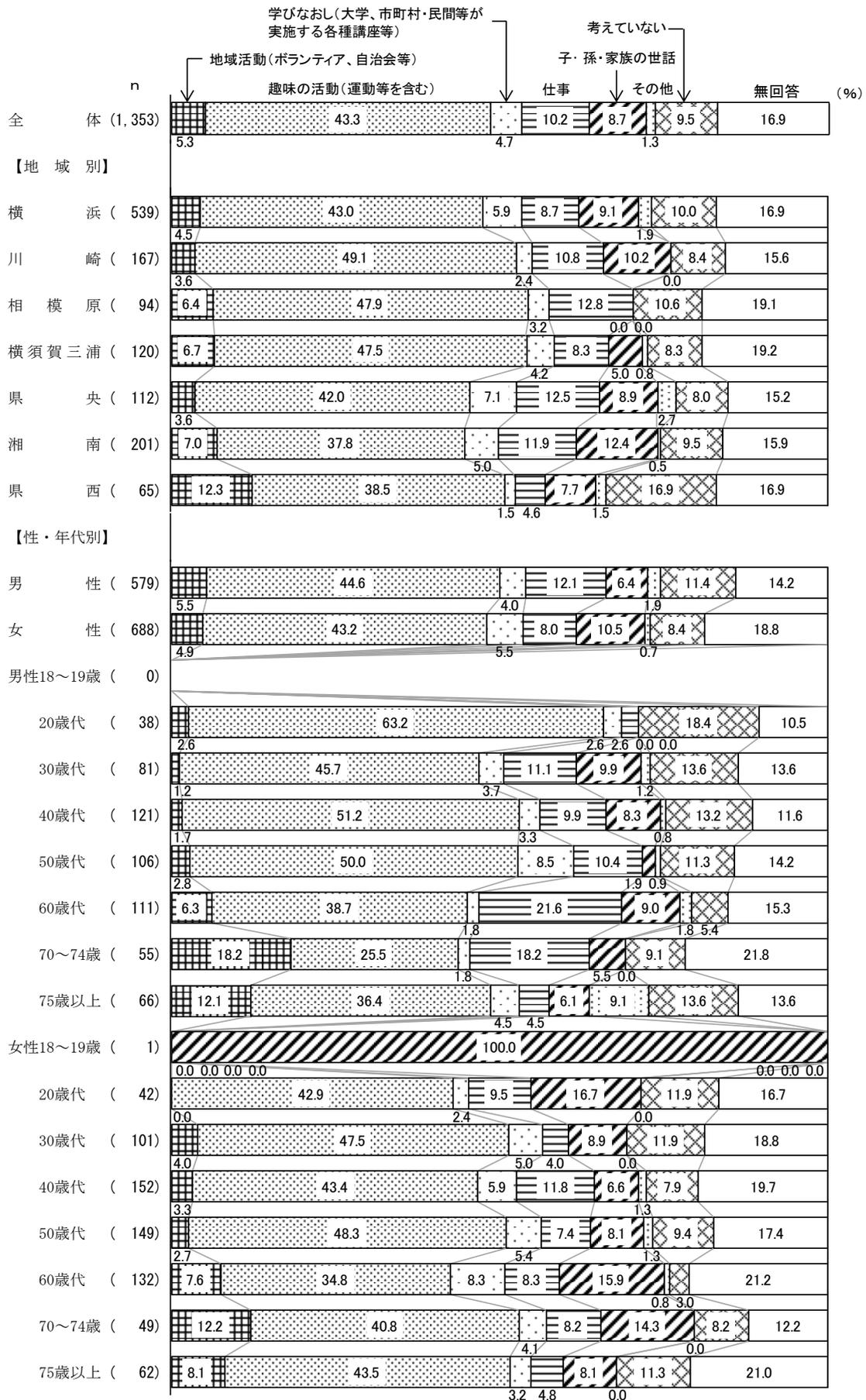
地域別にみると、「趣味の活動（運動等を含む）」は、川崎が49.1%で最も多く、相模原（47.9%）と横須賀三浦（47.5%）が続いた。また、「考えていない」は、県西が16.9%で最も多かった。

（図表8-2-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「趣味の活動（運動等を含む）」は、男性の20歳代が63.2%で最も多く、男性の40歳代（51.2%）・50歳代（50.0%）が続いた。（図表8-2-2）

図表8-2-2 退職後や65歳以降の人生でやりたいことー地域別、性・年代別



3 地域活動への参加頻度【問28】

【全体の状況】

地域活動（ボランティア、自治会等）の参加頻度について尋ねたところ、「参加していない」が53.4%で最も多く、次いで「年に1、2回程度」が15.2%であった。（図表8-3-1）

図表8-3-1 地域活動への参加頻度



【地域別の状況】

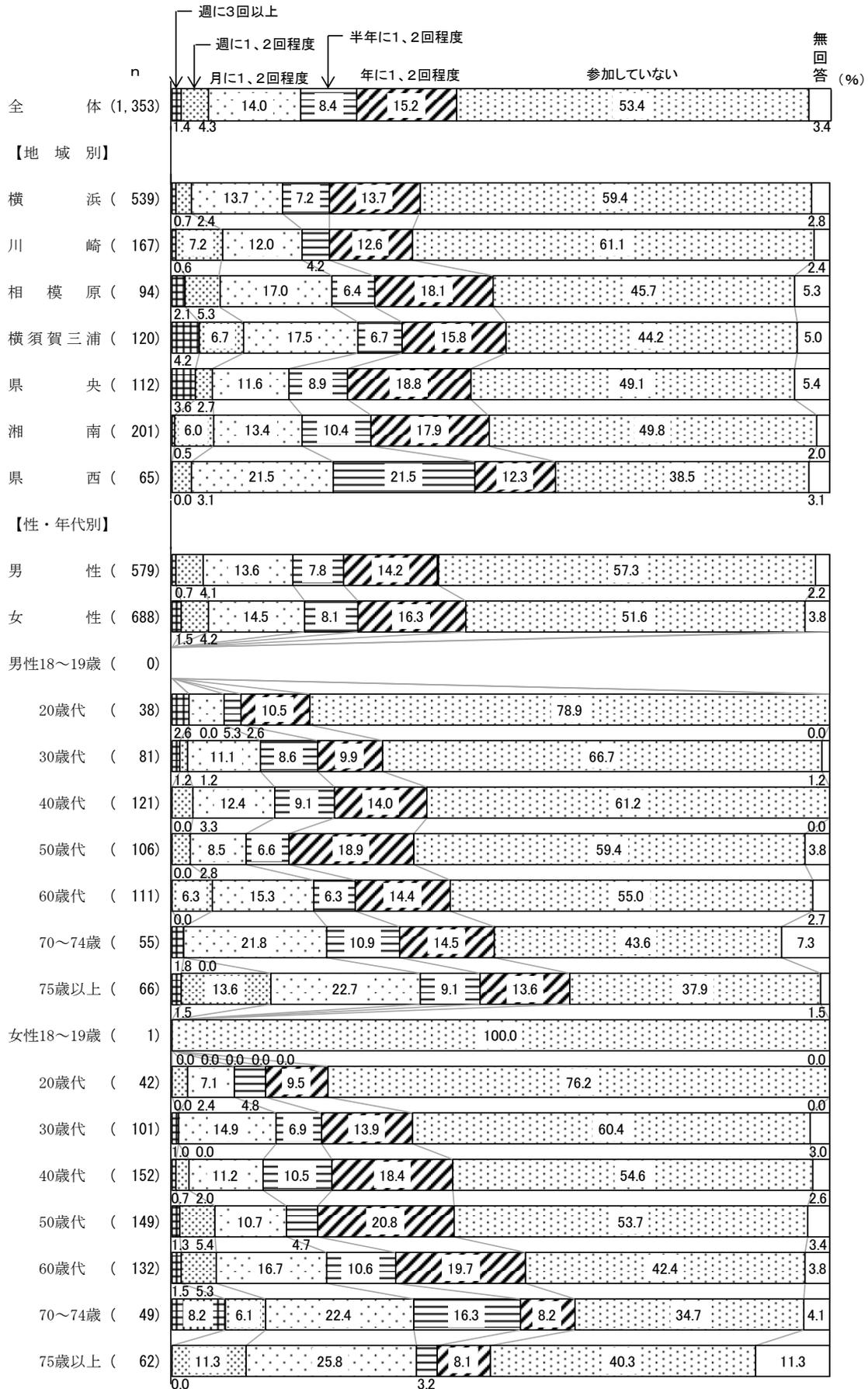
地域別にみると、「参加していない」は、川崎が61.1%で最も多く、次いで横浜が59.4%であった。（図表8-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「参加していない」は、男性（57.3%）が女性（51.6%）を5.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「参加していない」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男女ともに20歳代（男性78.9%、女性76.2%）が最も多かった。また、「月に1、2回程度」は、男女ともに75歳以上（男性22.7%、女性25.8%）が最も多かった。（図表8-3-2）

図表8-3-2 地域活動への参加頻度—地域別、性・年代別

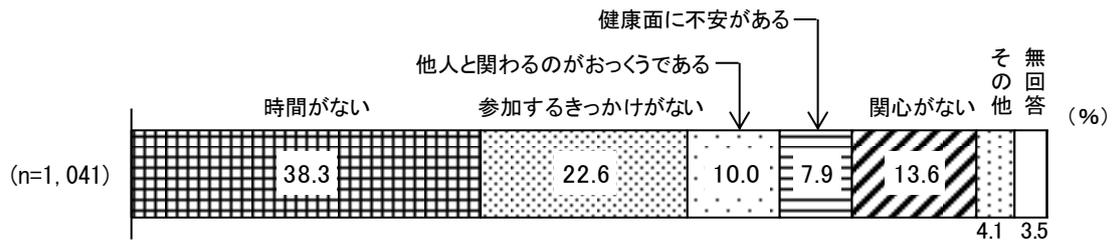


4 地域活動の参加の妨げとなる理由【問28-1】

【全体の状況】

地域活動への参加頻度（問28）で「半年に1、2回程度」、「年に1、2回程度」、「参加していない」のいずれかを選択した1,041人に地域活動の参加の妨げとなる理由を尋ねたところ、「時間がない」が38.3%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」が22.6%であった。（図表8-4-1）

図表8-4-1 地域活動の参加の妨げとなる理由



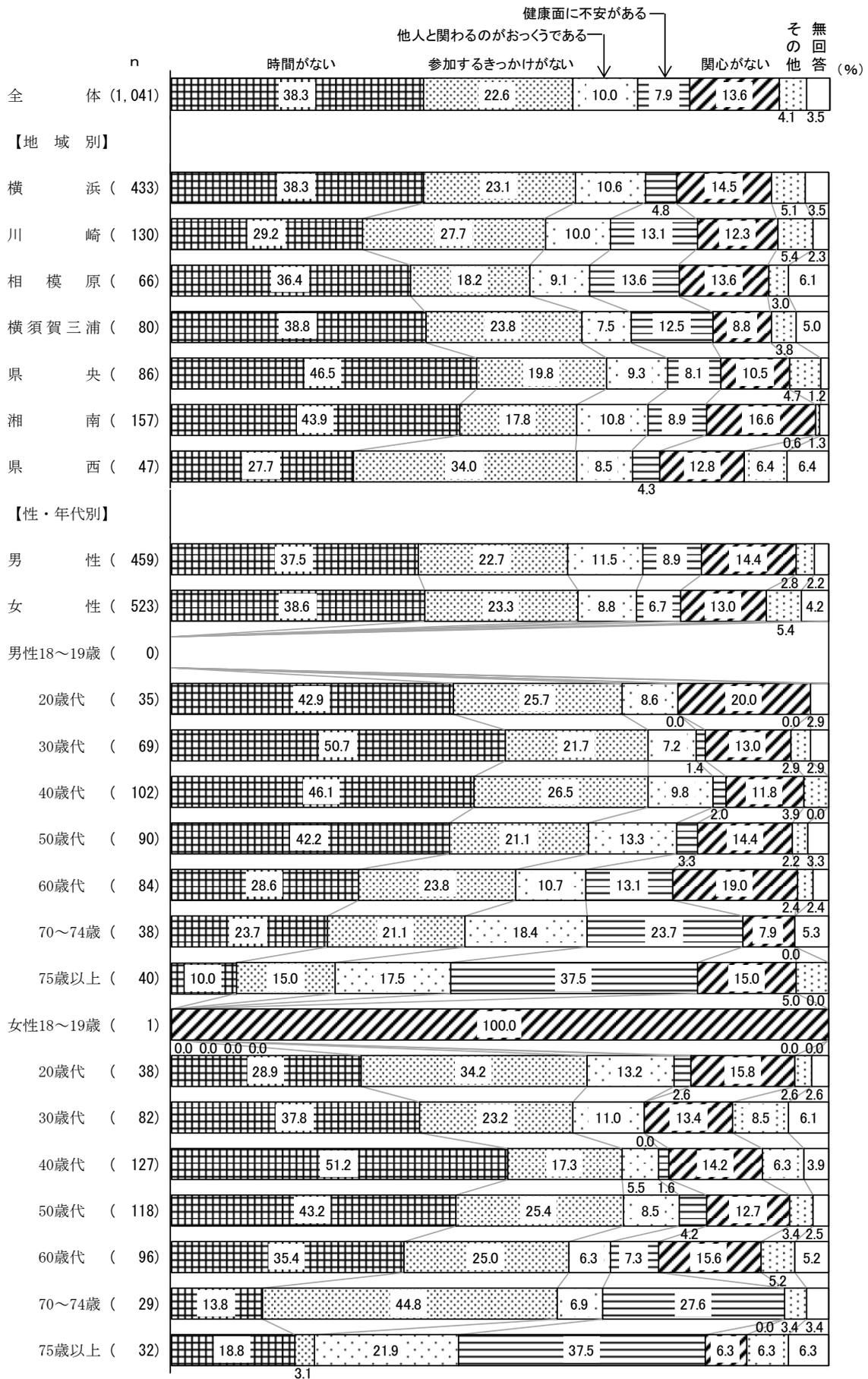
【地域別の状況】

地域別にみると、「時間がない」は、県央（46.5%）と湘南（43.9%）がともに4割台であった。また、「参加するきっかけがない」は、県西が34.0%で最も多く、川崎（27.7%）、横須賀三浦（23.8%）、横浜（23.1%）が2割台で続いた。（図表8-4-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「時間がない」は、男性の30歳代（50.7%）と女性の40歳代（51.2%）がともに5割を超えた。また、「参加するきっかけがない」は、女性の70～74歳が44.8%で最も多かった。（図表8-4-2）

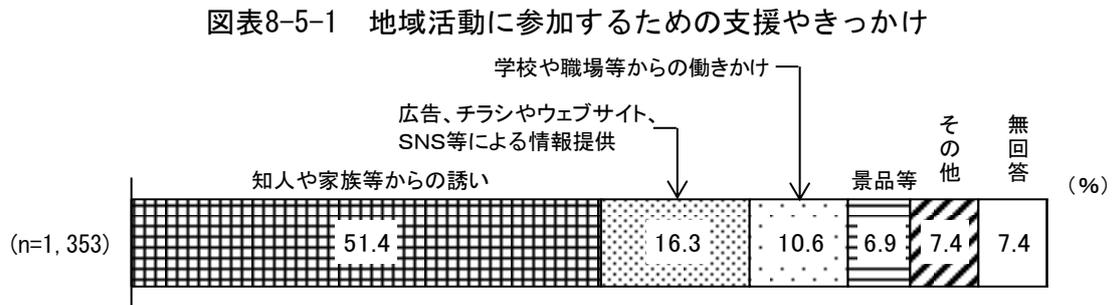
図表8-4-2 地域活動の参加の妨げとなる理由—地域別、性・年代別



5 地域活動に参加するための支援やきっかけ【問29】

【全体の状況】

地域活動に関して、どのような支援やきっかけがあれば参加しやすくなると思うか尋ねたところ、「知人や家族等からの誘い」が51.4%で最も多く、次いで「広告、チラシやウェブサイト、SNS等による情報提供」が16.3%であった。（図表8-5-1）



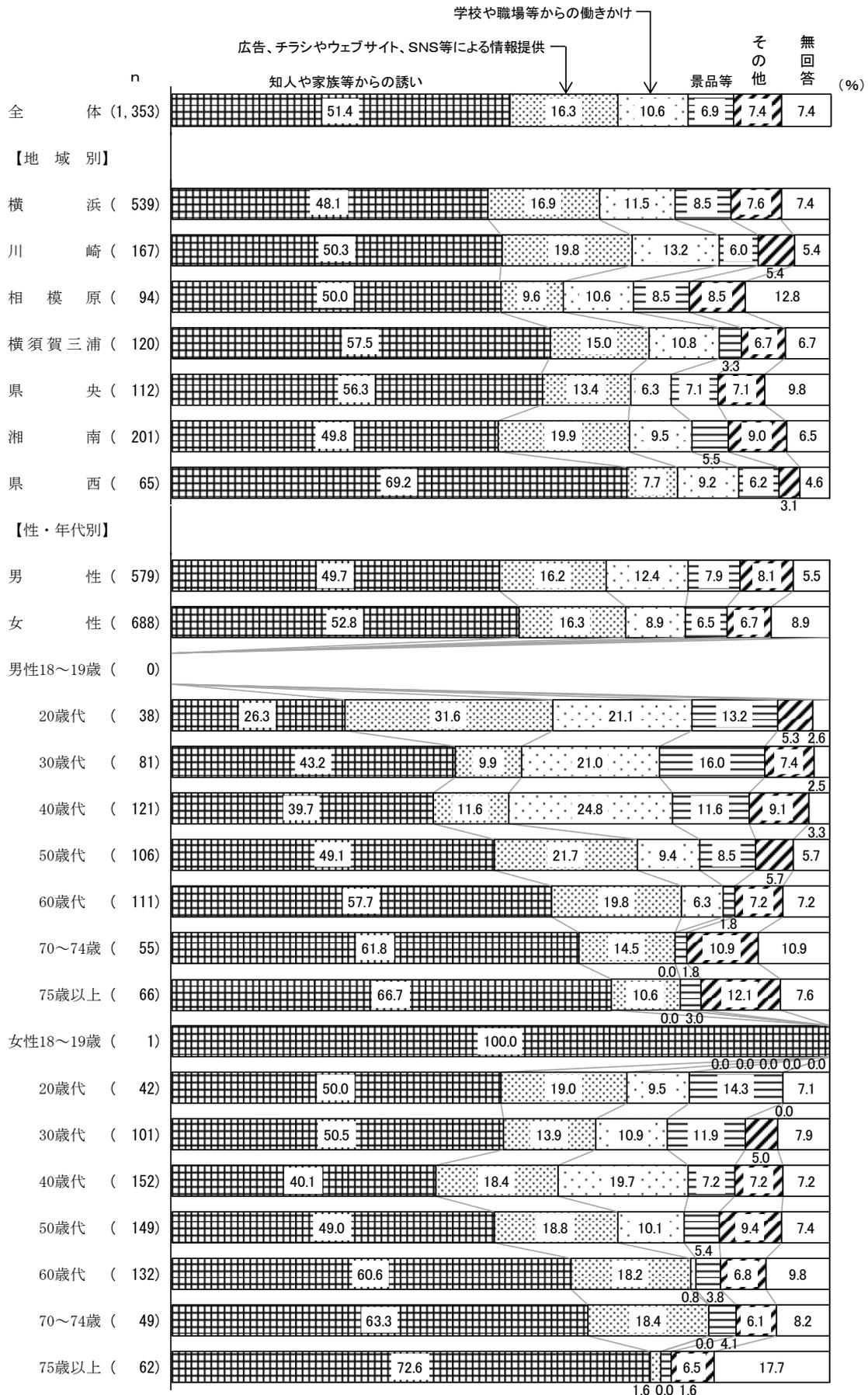
【地域別の状況】

地域別にみると、「知人や家族等からの誘い」は、県西が69.2%で最も多かった。また、「広告、チラシやウェブサイト、SNS等による情報提供」は、湘南が19.9%で最も多く、川崎（19.8%）と横浜（16.9%）が続いた。（図表8-5-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知人や家族等からの誘い」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男女ともに75歳以上（男性66.7%、女性72.6%）が最も多かった。また、「広告、チラシやウェブサイト、SNS等による情報提供」は、男性の20歳代が31.6%で最も多く、次いで男性の50歳代が21.7%であった。（図表8-5-2）

図表8-5-2 地域活動に参加するための支援やきっかけ—地域別、性・年代別

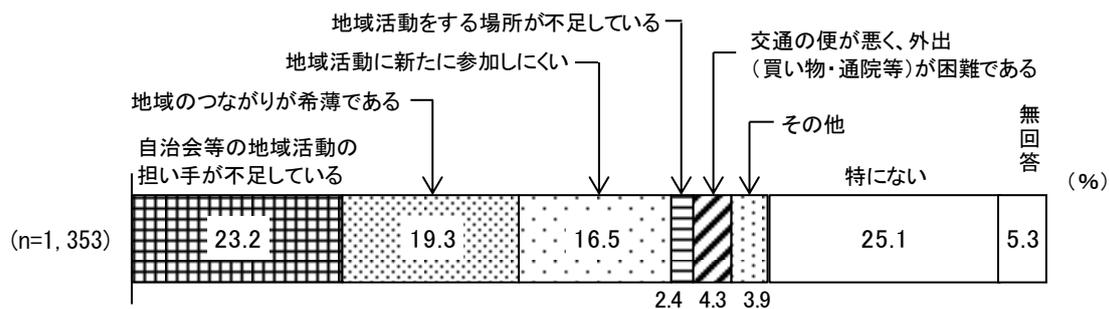


6 地域での課題【問30】

【全体の状況】

住んでいる地域で課題だと感じていることを尋ねたところ、「特にない」が25.1%で最も多く、次いで「自治会等の地域活動の担い手が不足している」が23.2%であった。(図表8-6-1)

図表8-6-1 地域での課題



【地域別の状況】

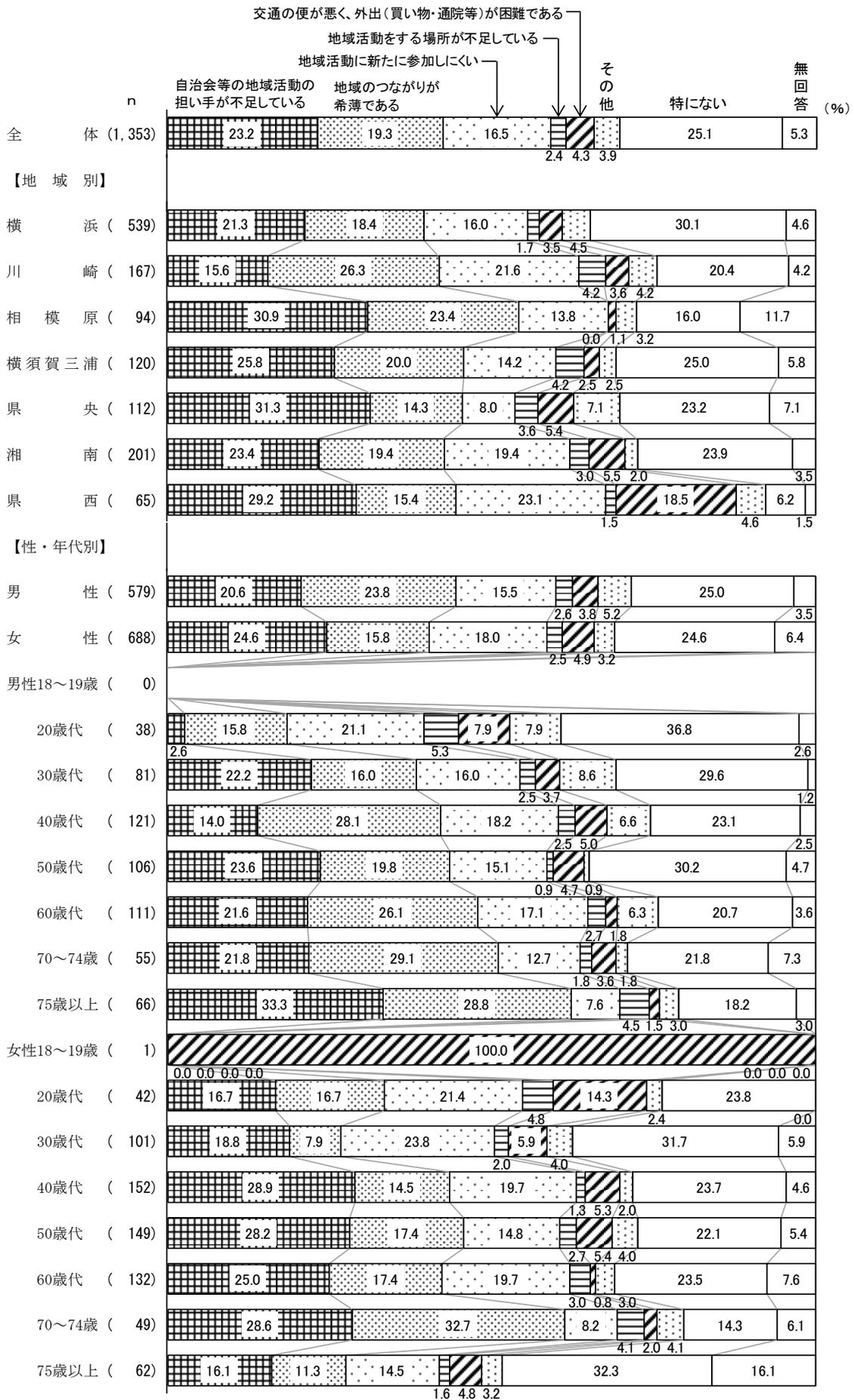
地域別にみると、「自治会等の地域活動の担い手が不足している」は、県央(31.3%)と相模原(30.9%)がともに約3割であった。また、「地域のつながりが希薄である」は、川崎が26.3%で最も多く、相模原(23.4%)と横須賀三浦(20.0%)が続いた。(図表8-6-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「地域のつながりが希薄である」は、男性(23.8%)が女性(15.8%)を8.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「自治会等の地域活動の担い手が不足している」は、男性の75歳以上が33.3%で最も多く、女性の40歳代(28.9%)・70~74歳(28.6%)が続いた。また、「地域のつながりが希薄である」は、男女ともに70~74歳(男性29.1%、女性32.7%)が最も多かった。(図表8-6-2)

図表8-6-2 地域での課題—地域別、性・年代別



第9章 「未病改善」の取組【問31～問33】

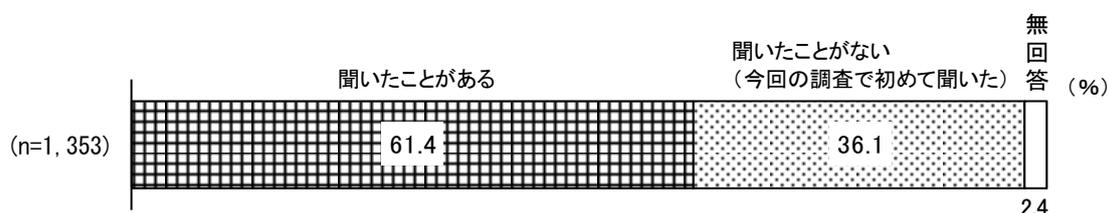
1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問31】

【全体の状況】

「未病（ME-BYO）」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」が61.4%であった。

一方、「聞いたことがない（今回の調査で初めて聞いた）」は、36.1%であった。（図表9-1-1）

図表9-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「聞いたことがある」は、県西が84.6%で最も多く、横須賀三浦（65.0%）と湘南（63.2%）が続いた。

一方、「聞いたことがない（今回の調査で初めて聞いた）」は、川崎が39.5%で最も多く、次いで県央が39.3%であった。（図表9-1-2）

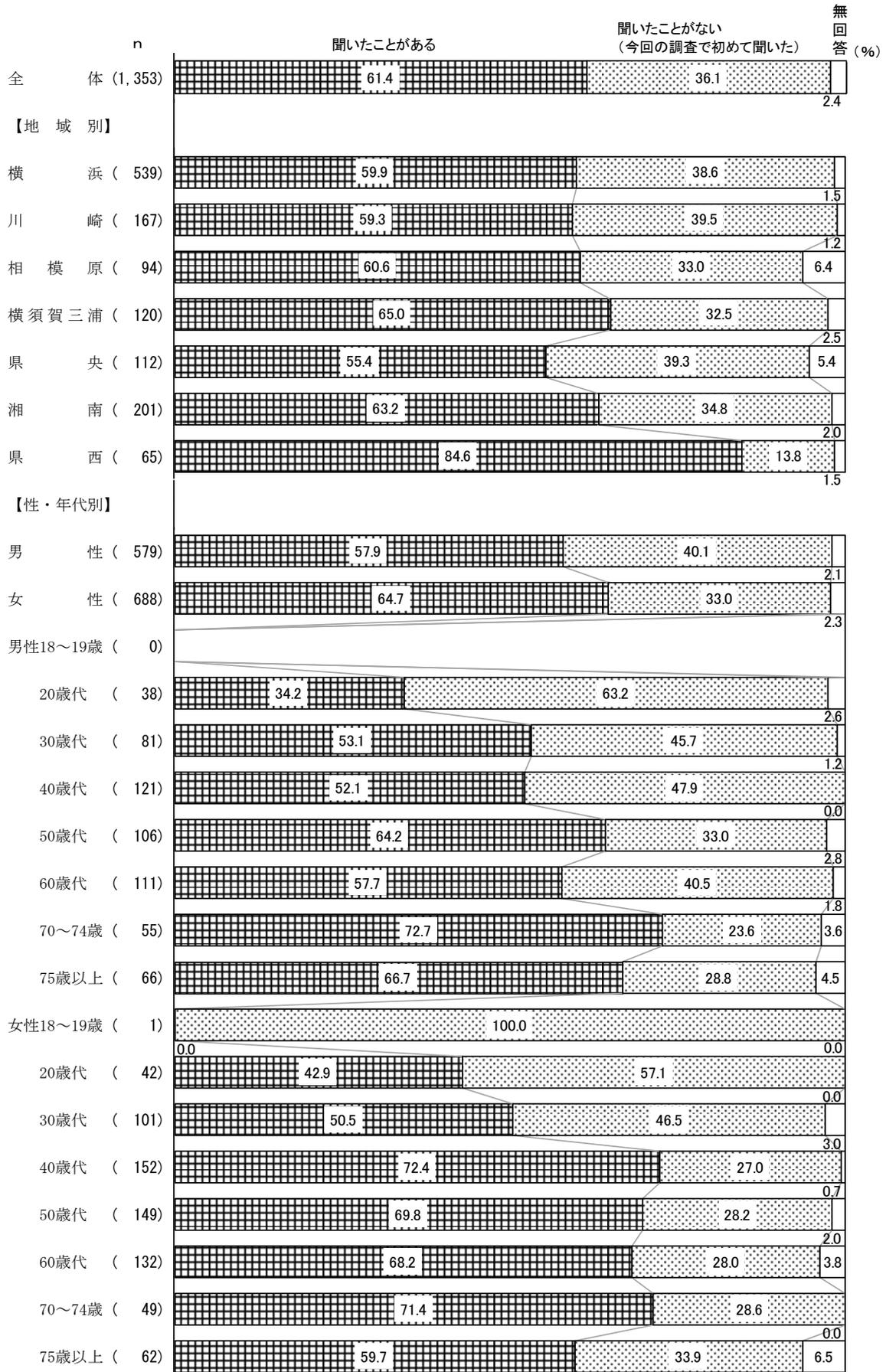
【性・年代別の状況】

性別にみると、「聞いたことがない（今回の調査で初めて聞いた）」は、男性（40.1%）が女性（33.0%）を7.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「聞いたことがある」は、男性の70～74歳（72.7%）、女性の40歳代（72.4%）・70～74歳（71.4%）がそれぞれ7割を超えた。

一方、「聞いたことがない（今回の調査で初めて聞いた）」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男女ともに20歳代（男性63.2%、女性57.1%）が最も多かった。（図表9-1-2）

図表9-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別



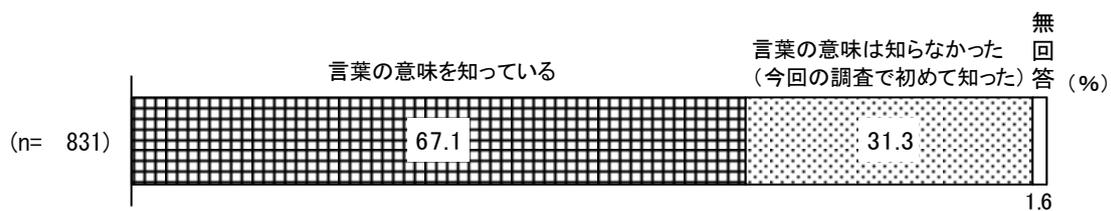
2 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度【問31-1】

【全体の状況】

「未病（ME－BYO）」の認知度（問31）で、「聞いたことがある」と回答した831人に、「未病（ME－BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が67.1%であった。

一方、「言葉の意味は知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、31.3%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は、県西（76.4%）と横須賀三浦（75.6%）がともに7割台であった。

一方、「言葉の意味は知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、相模原が43.9%で最も多く、次いで県央が41.9%であった。（図表9-2-2）

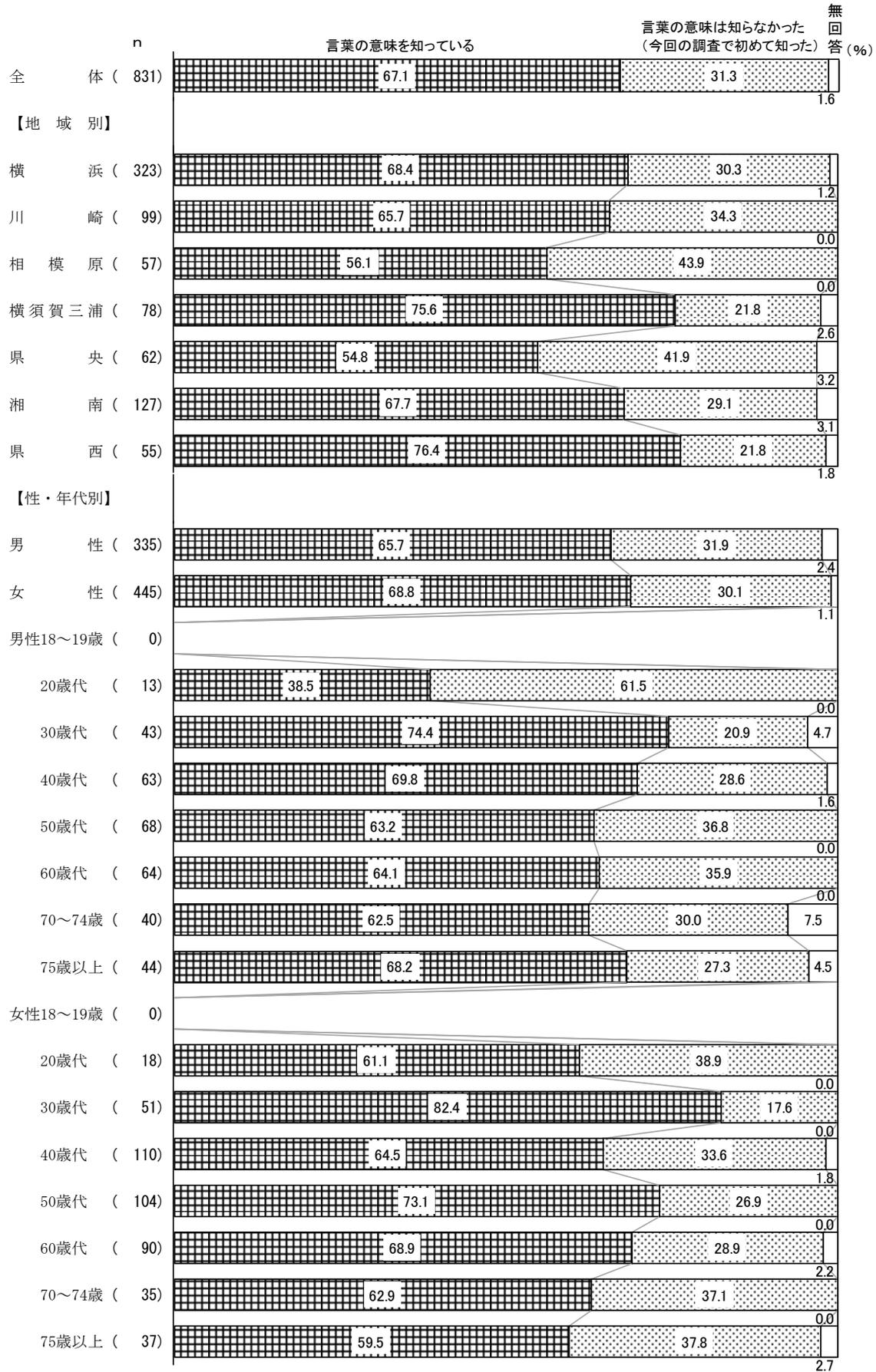
【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「言葉の意味を知っている」は、男女ともに30歳代（男性74.4%、女性82.4%）が最も多かった。

一方、「言葉の意味は知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男女の20歳代を除くと、女性の75歳以上が37.8%で最も多く、次いで女性の70～74歳が37.1%であった。

（図表9-2-2）

図表9-2-2 「未病 (ME-BYO)」の意味の認知度—地域別、性・年代別

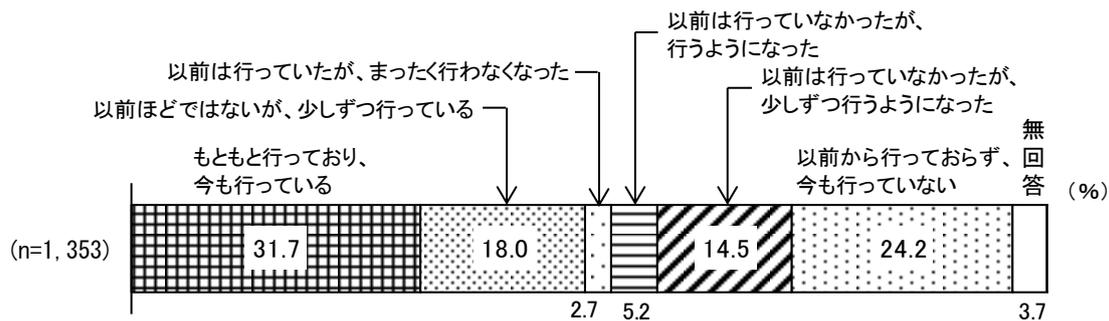


3 「未病改善」の取組の実践【問32】

【全体の状況】

過去の1年間で「未病改善」の取組（バランスの良い食事、運動、人との交流等）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」が31.7%で最も多く、次いで「以前から行っておらず、今も行っていない」が24.2%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 「未病改善」の取組の実践



【地域別の状況】

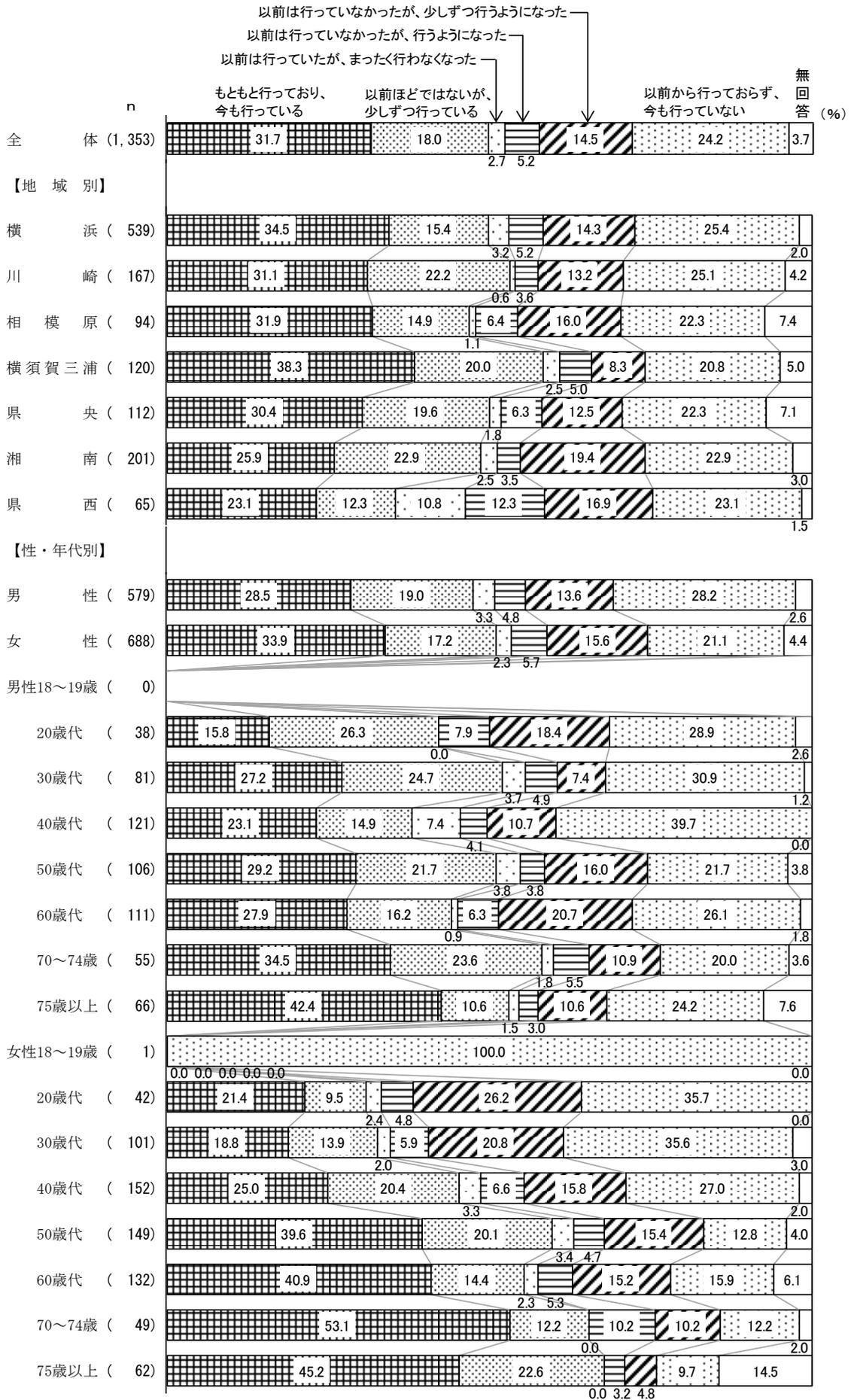
地域別にみると、「もともと行っており、今も行っている」は、横須賀三浦が38.3%で最も多く、次いで横浜が34.5%であった。また、「以前から行っておらず、今も行っていない」は、横浜が25.4%で最も多く、次いで川崎が25.1%であった。（図表9-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「以前から行っておらず、今も行っていない」は、男性（28.2%）が女性（21.1%）を7.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「もともと行っており、今も行っている」は、女性の70～74歳が53.1%で最も多く、男女の75歳以上（男性42.4%、女性45.2%）が続いた。また、「以前から行っておらず、今も行っていない」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の40歳代が39.7%で最も多く、女性の20歳代（35.7%）・30歳代（35.6%）が続いた。（図表9-3-2）

図表9-3-2 「未病改善」の取組の実践—地域別、性・年代別

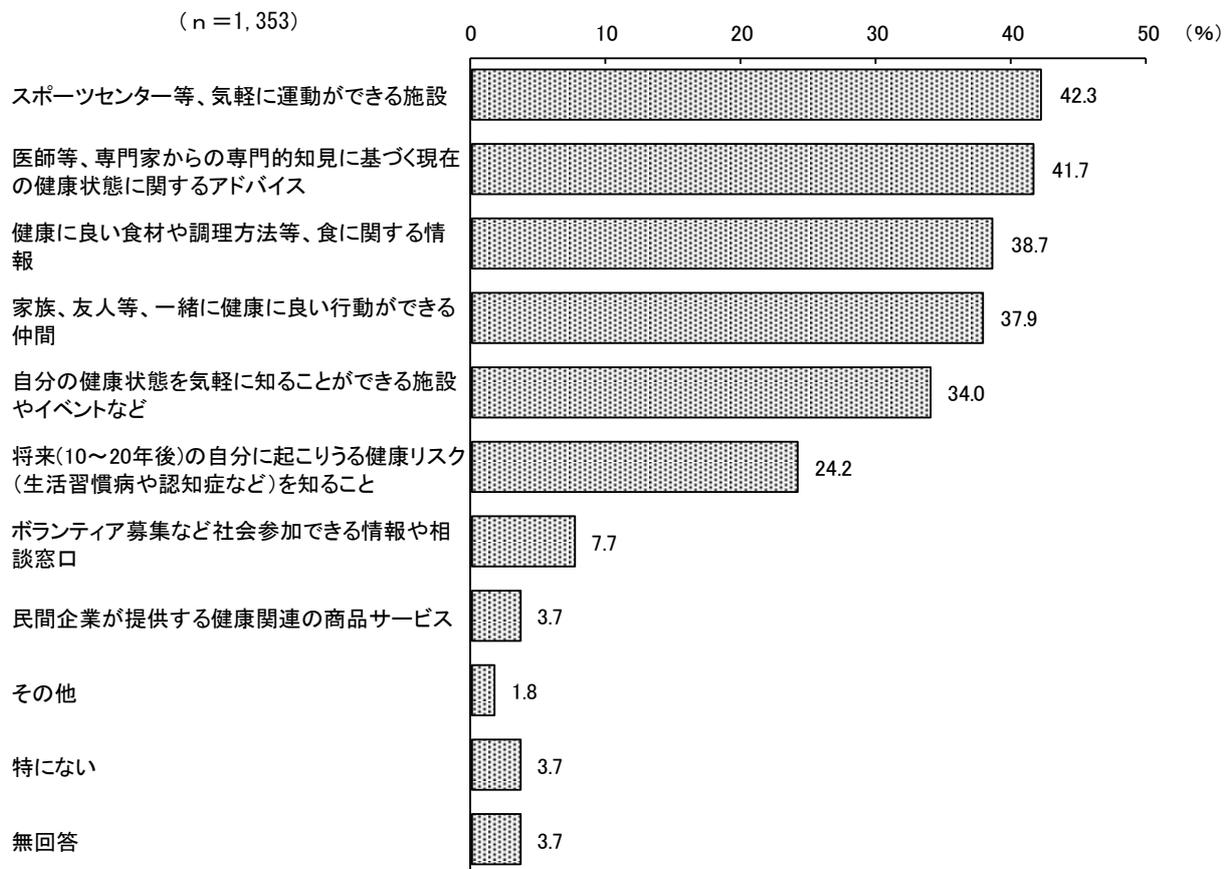


4 「未病改善」の取組に必要だと思うもの【問33】

【全体の状況】

「未病改善」の取組（バランスの良い食事、運動、人との交流等）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設」が42.3%で最も多く、「医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス」（41.7%）と「健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報」（38.7%）が約4割で続いた。（図表9-4-1）

図表9-4-1 「未病改善」の取組に必要だと思うもの（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設」は、川崎が48.5%で最も多かった。また、「健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報」は、湘南が45.3%で最も多かった。

（図表9-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスク（生活習慣病や認知症など）を知ること」は、女性（28.1%）が男性（20.0%）を8.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス」は、男性の70～74歳（50.9%）・75歳以上（57.6%）がともに5割を超えた。また、「スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設」は、男性の30歳代（54.3%）・50歳代（50.9%）がともに5割を超えた。（図表9-4-2）

図表9-4-2 「未病改善」の取組に必要なと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)													
	n	スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設	医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス	健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報	家族、友人等、一緒に健康に良い行動ができる仲間	自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど	認知症など）を知ること	将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスク（生活習慣病や	ボランティア相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特にない	無回答
全体	1,353	42.3	41.7	38.7	37.9	34.0	24.2	7.7	3.7	1.8	3.7	3.7	
【地域別】													
横浜	539	39.7	44.2	38.8	39.1	34.3	23.9	7.1	4.8	1.9	3.9	2.6	
川崎	167	48.5	38.9	33.5	39.5	36.5	22.2	10.8	3.6	1.2	3.0	4.2	
相模原	94	44.7	41.5	41.5	30.9	27.7	20.2	13.8	2.1	2.1	4.3	7.4	
横須賀三浦	120	40.0	42.5	41.7	32.5	33.3	25.8	4.2	3.3	0.8	3.3	6.7	
県央	112	45.5	32.1	32.1	34.8	32.1	24.1	7.1	6.3	2.7	4.5	5.4	
湘南	201	45.3	38.3	45.3	42.3	33.8	27.4	7.0	1.5	2.0	2.5	2.5	
県西	65	36.9	46.2	40.0	43.1	33.8	27.7	7.7	3.1	1.5	4.6	-	
【性・年代別】													
男性	579	42.5	45.1	37.7	35.8	32.3	20.0	6.7	3.6	1.9	4.7	4.0	
女性	688	42.6	37.8	40.6	40.8	34.6	28.1	8.7	4.1	1.7	2.8	3.2	
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	38	47.4	47.4	34.2	36.8	23.7	10.5	5.3	7.9	5.3	2.6	5.3	
30歳代	81	54.3	33.3	30.9	39.5	32.1	22.2	6.2	6.2	3.7	8.6	3.7	
40歳代	121	47.9	39.7	33.1	42.1	34.7	14.0	6.6	4.1	2.5	5.0	0.8	
50歳代	106	50.9	47.2	37.7	34.0	31.1	16.0	8.5	4.7	0.9	3.8	5.7	
60歳代	111	36.0	46.8	42.3	32.4	38.7	24.3	8.1	2.7	0.9	1.8	4.5	
70～74歳	55	27.3	50.9	40.0	23.6	29.1	30.9	7.3	-	-	5.5	5.5	
75歳以上	66	24.2	57.6	45.5	36.4	27.3	24.2	3.0	-	1.5	6.1	4.5	
女性18～19歳	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
20歳代	42	45.2	28.6	50.0	42.9	23.8	16.7	7.1	4.8	2.4	4.8	2.4	
30歳代	101	45.5	36.6	41.6	40.6	40.6	17.8	4.0	6.9	4.0	2.0	3.0	
40歳代	152	44.1	36.2	34.9	44.1	40.1	32.9	8.6	5.9	3.3	0.7	2.0	
50歳代	149	49.7	37.6	36.2	38.3	34.9	31.5	9.4	1.3	1.3	3.4	2.7	
60歳代	132	40.2	38.6	43.2	36.4	35.6	28.0	9.8	3.8	-	5.3	3.0	
70～74歳	49	42.9	40.8	36.7	30.6	26.5	42.9	18.4	6.1	-	2.0	2.0	
75歳以上	62	21.0	46.8	54.8	56.5	22.6	21.0	4.8	-	-	1.6	9.7	

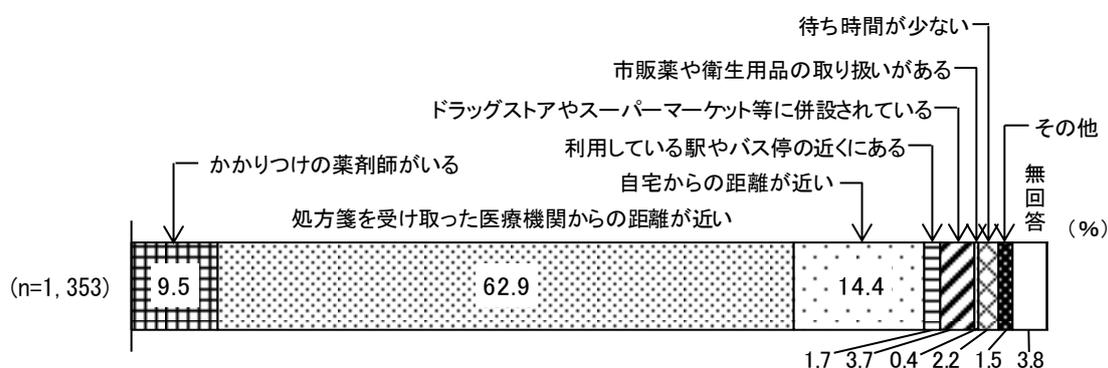
第10章 かかりつけ薬剤師・薬局【問34～問36】

1 薬局を選ぶ基準【問34】

【全体の状況】

医療機関で処方箋を受け取った場合、どのような基準で薬局を選ぶか尋ねたところ、「処方箋を受け取った医療機関からの距離が近い」が62.9%で最も多く、次いで「自宅からの距離が近い」が14.4%であった。（図表10-1-1）

図表10-1-1 薬局を選ぶ基準



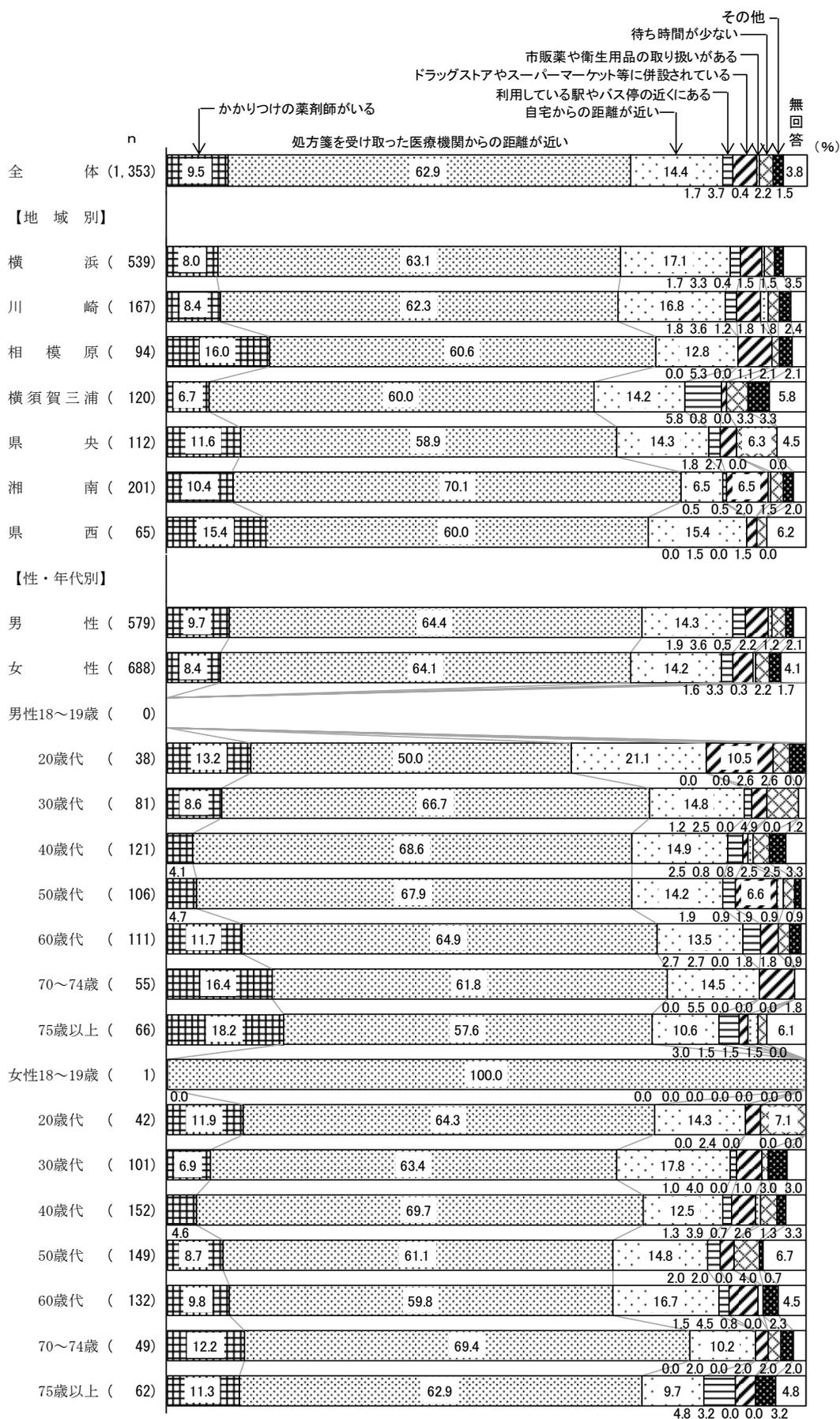
【地域別の状況】

地域別にみると、「処方箋を受け取った医療機関からの距離が近い」は、湘南が70.1%で最も多かった。また、「かかりつけの薬剤師がいる」は、相模原が16.0%で最も多く、次いで県西が15.4%であった。（図表10-1-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「かかりつけの薬剤師がいる」は、男性の75歳以上が18.2%で最も多く、次いで男性の70～74歳が16.4%であった。また、「自宅からの距離が近い」は、男性の20歳代が21.1%で最も多かった。（図表10-1-2）

図表10-1-2 薬局を選ぶ基準—地域別、性・年代別



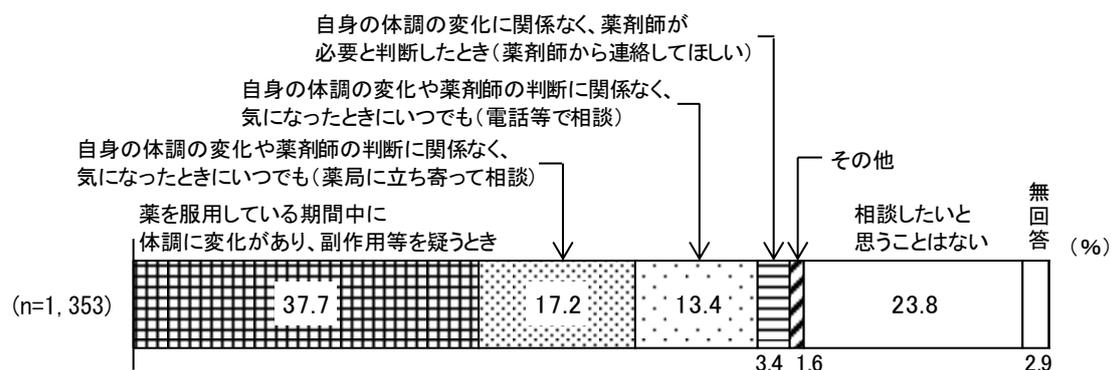
2 薬局の薬剤師への相談意向【問35】

【全体の状況】

薬局で調剤された薬を受け取る時以外に、いつどのように薬の効き目や副作用等に関することを、薬局の薬剤師に相談したいか尋ねたところ、「薬を服用している期間中に体調に変化があり、副作用等を疑うとき」が37.7%で最も多く、次いで「相談したいと思うことはない」が23.8%であった。

(図表10-2-1)

図表10-2-1 薬局の薬剤師への相談意向



【地域別の状況】

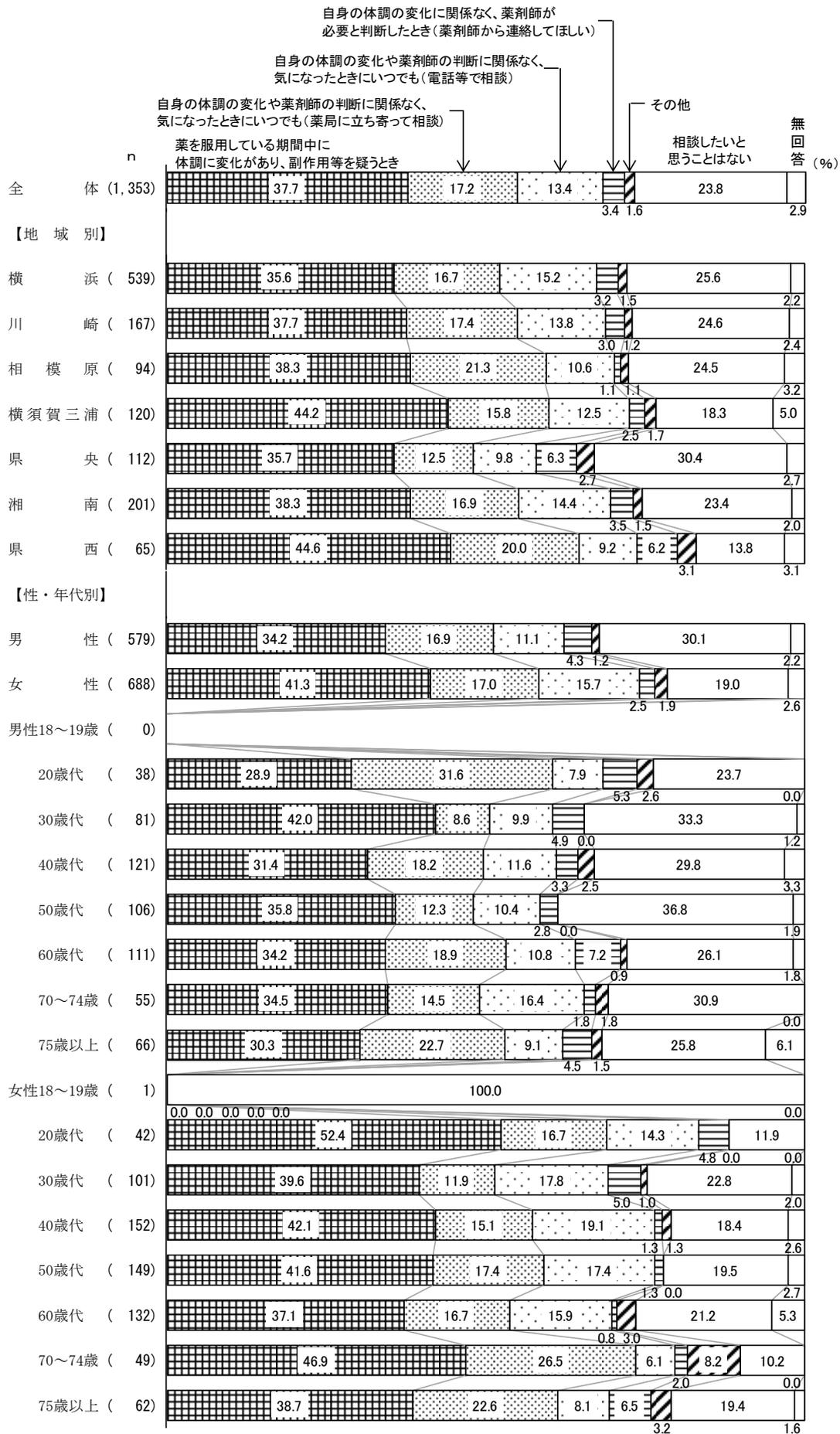
地域別にみると、「薬を服用している期間中に体調に変化があり、副作用等を疑うとき」は、県西(44.6%)と横須賀三浦(44.2%)がともに4割台であった。また、「自身の体調の変化や薬剤師の判断に関係なく、気になったときにいつでも(薬局に立ち寄って相談)」は、相模原(21.3%)と県西(20.0%)がともに2割以上であった。(図表10-2-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「相談したいと思うことはない」は、男性(30.1%)が女性(19.0%)を11.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「薬を服用している期間中に体調に変化があり、副作用等を疑うとき」は、女性の20歳代が52.4%で最も多く、次いで女性の70~74歳が46.9%であった。また、「自身の体調の変化や薬剤師の判断に関係なく、気になったときにいつでも(薬局に立ち寄って相談)」は、男性の20歳代が31.6%で最も多く、次いで女性の70~74歳が26.5%であった。(図表10-2-2)

図表10-2-2 薬局の薬剤師への相談意向—地域別、性・年代別

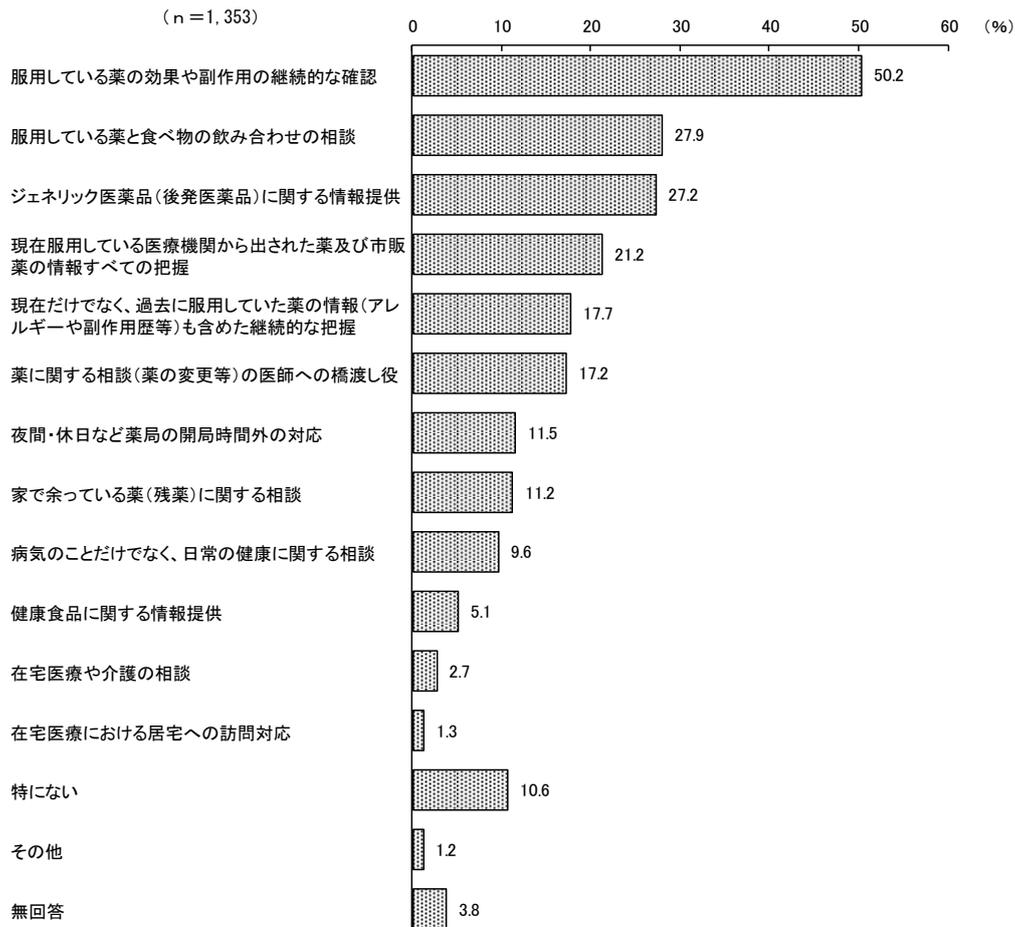


3 かかりつけの薬剤師・薬局に対するニーズ【問36】

【全体の状況】

かかりつけの薬剤師・薬局にどのようなことをしてほしいか複数回答(3つまで選択可)で尋ねたところ、「服用している薬の効果や副作用の継続的な確認」が50.2%で最も多く、「服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談」(27.9%)と「ジェネリック医薬品(後発医薬品)に関する情報提供」(27.2%)が続いた。(図表10-3-1)

図表10-3-1 かかりつけの薬剤師・薬局に対するニーズ(複数回答)



【地域別の状況】

地域別にみると、「服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談」は、県央(37.5%)と横須賀三浦(31.7%)がともに3割を超えた。また、「現在服用している医療機関から出された薬及び市販薬の情報すべての把握」は、県西が30.8%で最も多かった。(図表10-3-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「現在だけでなく、過去に服用していた薬の情報(アレルギーや副作用歴等)も含めた継続的な把握」は、女性(21.2%)が男性(14.0%)を7.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「服用している薬の効果や副作用の継続的な確認」は、男性の70~74歳(60.0%)と女性の75歳以上(62.9%)がともに6割以上であった。また、「服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談」は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、女性の20歳代が42.9%で最も多かった。(図表10-3-2)

図表10-3-2 かかりつけの薬剤師・薬局に対するニーズ（複数回答）—地域別、性・年代別

(96)

	n	服用している薬の効果が副作用の継続的な確認	服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談	ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する情報提供	現在服用している医療機関から出された薬及び市販薬の情報すべての把握	現在だけでなく、過去に服用していた薬の情報（アレルギーや副作用歴等）も含めた継続的な把握	薬に関する相談（薬の変更等）の医師への橋渡し役	夜間・休日など薬局の開局時間外の対応	家で余っている薬（残薬）に関する相談	病気のことだけでなく、日常の健康に関する相談	健康食品に関する情報提供	在宅医療や介護の相談	在宅医療における居宅への訪問対応	特にない	その他	無回答
全体	1,353	50.2	27.9	27.2	21.2	17.7	17.2	11.5	11.2	9.6	5.1	2.7	1.3	10.6	1.2	3.8
【地域別】																
横浜	539	46.8	28.4	25.6	19.5	20.4	15.8	11.3	10.6	8.9	5.0	2.6	1.1	12.1	1.3	3.7
川崎	167	53.3	28.7	23.4	20.4	18.6	22.2	8.4	10.2	9.0	5.4	3.0	-	9.6	1.2	4.2
相模原	94	46.8	22.3	26.6	22.3	18.1	14.9	18.1	8.5	5.3	3.2	1.1	3.2	11.7	1.1	4.3
横須賀三浦	120	55.0	31.7	21.7	22.5	6.7	15.0	14.2	13.3	11.7	6.7	5.8	0.8	8.3	1.7	6.7
県央	112	49.1	37.5	33.0	18.8	17.0	16.1	8.9	13.4	10.7	5.4	2.7	0.9	14.3	-	1.8
湘南	201	52.7	23.9	34.3	25.9	16.9	17.9	9.0	11.4	12.4	5.0	2.0	2.0	10.9	1.0	1.0
県西	65	55.4	26.2	30.8	30.8	20.0	18.5	15.4	15.4	12.3	4.6	4.6	1.5	3.1	1.5	4.6
【性・年代別】																
男性	579	47.5	27.5	30.1	20.4	14.0	15.7	10.5	8.8	10.4	5.0	3.6	1.0	14.0	0.9	3.5
女性	688	52.6	29.1	25.3	22.4	21.2	18.5	12.2	13.2	9.0	4.8	2.0	1.3	8.1	1.3	3.3
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	50.0	23.7	18.4	21.1	21.1	5.3	15.8	5.3	21.1	5.3	2.6	-	13.2	5.3	-
30歳代	81	35.8	38.3	29.6	12.3	18.5	12.3	14.8	9.9	7.4	7.4	1.2	2.5	16.0	1.2	4.9
40歳代	121	39.7	32.2	27.3	16.5	14.9	14.9	18.2	9.1	9.9	4.1	4.1	0.8	16.5	-	5.8
50歳代	106	47.2	24.5	30.2	19.8	16.0	17.0	9.4	10.4	5.7	2.8	4.7	0.9	17.0	-	3.8
60歳代	111	50.5	20.7	34.2	24.3	12.6	19.8	7.2	5.4	10.8	5.4	1.8	0.9	12.6	-	1.8
70～74歳	55	60.0	21.8	30.9	21.8	10.9	14.5	-	5.5	20.0	3.6	7.3	-	7.3	1.8	1.8
75歳以上	66	59.1	27.3	33.3	30.3	4.5	19.7	4.5	15.2	7.6	7.6	4.5	1.5	10.6	1.5	3.0
女性18～19歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	31.0	42.9	26.2	16.7	33.3	4.8	16.7	11.9	14.3	7.1	-	-	11.9	-	-
30歳代	101	52.5	32.7	27.7	23.8	25.7	19.8	13.9	18.8	6.9	3.0	-	-	6.9	1.0	5.0
40歳代	152	42.8	25.7	26.3	21.1	21.1	21.1	13.2	17.8	9.2	3.3	2.6	-	7.9	2.0	3.9
50歳代	149	59.7	32.2	24.8	22.1	20.1	21.5	16.1	10.1	8.7	3.4	2.0	0.7	5.4	0.7	3.4
60歳代	132	56.8	28.8	27.3	18.9	18.9	14.4	8.3	9.8	6.8	8.3	3.0	2.3	11.4	2.3	3.8
70～74歳	49	57.1	22.4	26.5	32.7	18.4	20.4	6.1	8.2	10.2	8.2	-	4.1	6.1	2.0	-
75歳以上	62	62.9	19.4	14.5	27.4	16.1	19.4	8.1	11.3	12.9	3.2	4.8	4.8	9.7	-	3.2

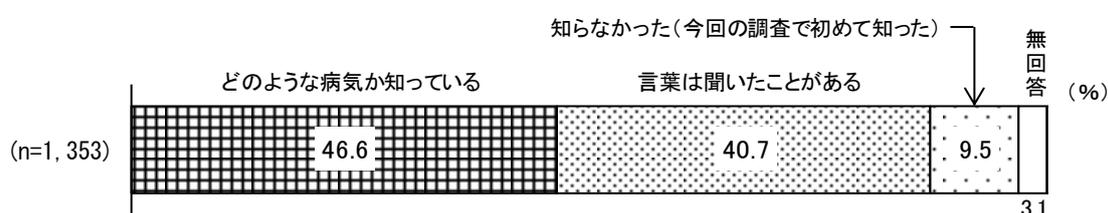
第11章 肝炎・アルコール依存症対策【問37～問39】

1 ウイルス性肝炎の認知度【問37】

【全体の状況】

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「どのような病気か知っている」が46.6%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が40.7%であった。(図表11-1-1)

図表11-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



【地域別の状況】

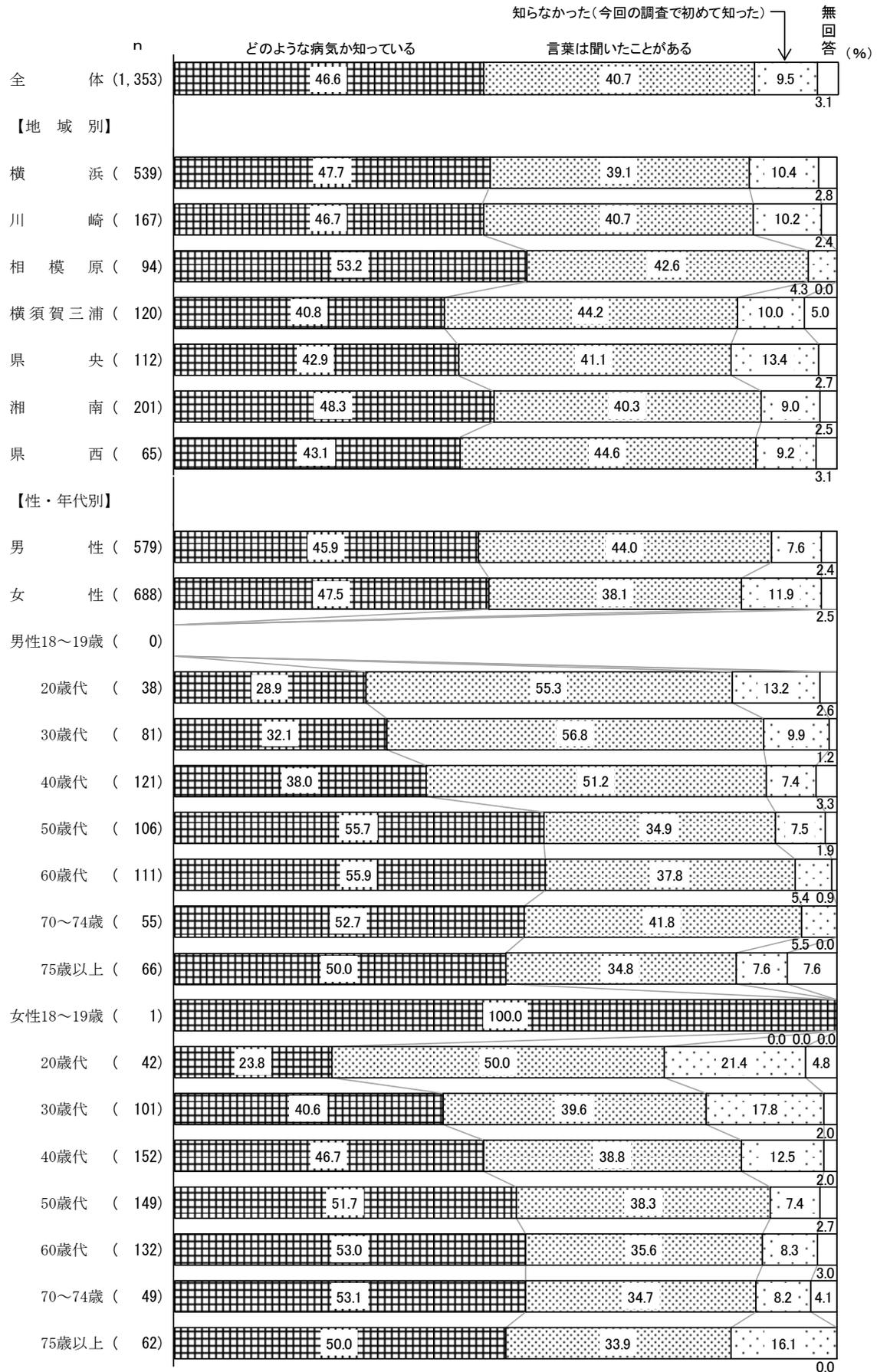
地域別にみると、「どのような病気か知っている」は、相模原が53.2%で最も多く、次いで湘南が48.3%であった。また、「言葉は聞いたことがある」は、横浜(39.1%)を除く6地域(40.3%~44.6%)がそれぞれ4割を超えた。(図表11-1-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「言葉は聞いたことがある」は、男性(44.0%)が女性(38.1%)を5.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「どのような病気か知っている」は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、男性の60歳代が55.9%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、男性の20~40歳代(51.2%~56.8%)、女性の20歳代(50.0%)がそれぞれ5割以上であった。(図表11-1-2)

図表11-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別



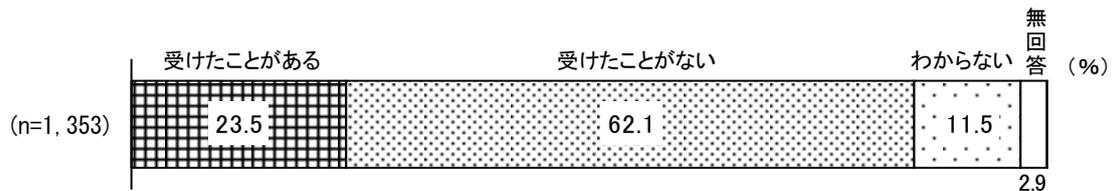
2 「肝炎ウイルス検査」の受診状況【問38】

【全体の状況】

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるか尋ねたところ、「を受けたことがある」が23.5%であった。

一方、「を受けたことがない」は、62.1%であった。(図表 11-2-1)

図表11-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受診状況



【地域別の状況】

地域別にみると、「を受けたことがある」は、県西（15.4%）を除く6地域（20.8%～25.5%）がそれぞれ2割を超えた。

一方、「を受けたことがない」は、県西が70.8%で最も多かった。(図表11-2-2)

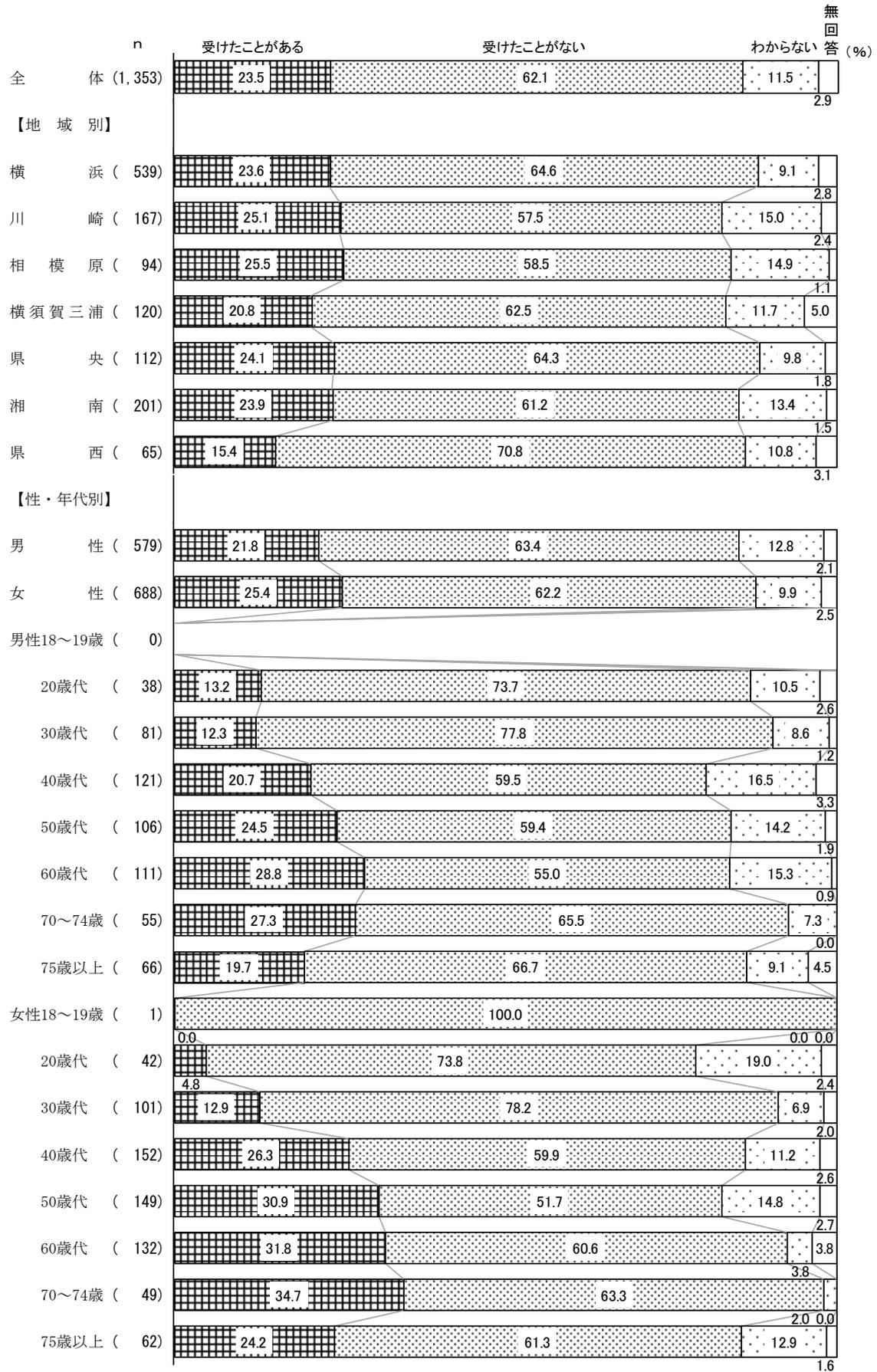
【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「を受けたことがある」は、女性の50歳代（30.9%）・60歳代（31.8%）・70～74歳（34.7%）がそれぞれ3割を超えた。

一方、「を受けたことがない」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の20歳代（73.7%）・30歳代（77.8%）、女性の20歳代（73.8%）・30歳代（78.2%）がそれぞれ7割を超えた。

(図表11-2-2)

図表11-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受診状況—地域別、性・年代別

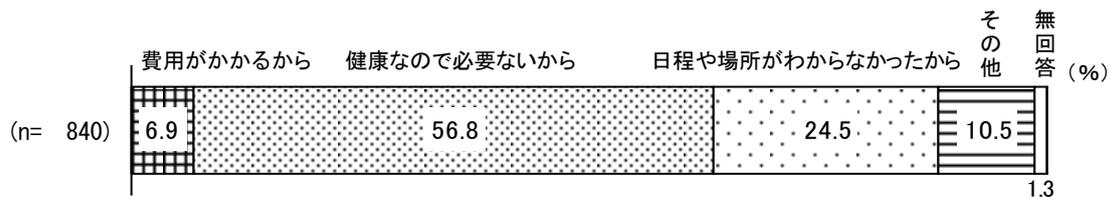


3 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由【問38-1】

【全体の状況】

「肝炎ウイルス検査」の受診状況（問38）で肝炎ウイルス検査を「受けたことがない」と回答した840人に、受診しない理由について尋ねたところ、「健康なので必要ないから」が56.8%で最も多く、次いで「日程や場所がわからなかったから」が24.5%であった。（図表11-3-1）

図表11-3-1 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由



【地域別の状況】

地域別にみると、「健康なので必要ないから」は、県西が65.2%で最も多かった。また、「日程や場所がわからなかったから」は、相模原が29.1%で最も多く、次いで湘南が28.5%であった。

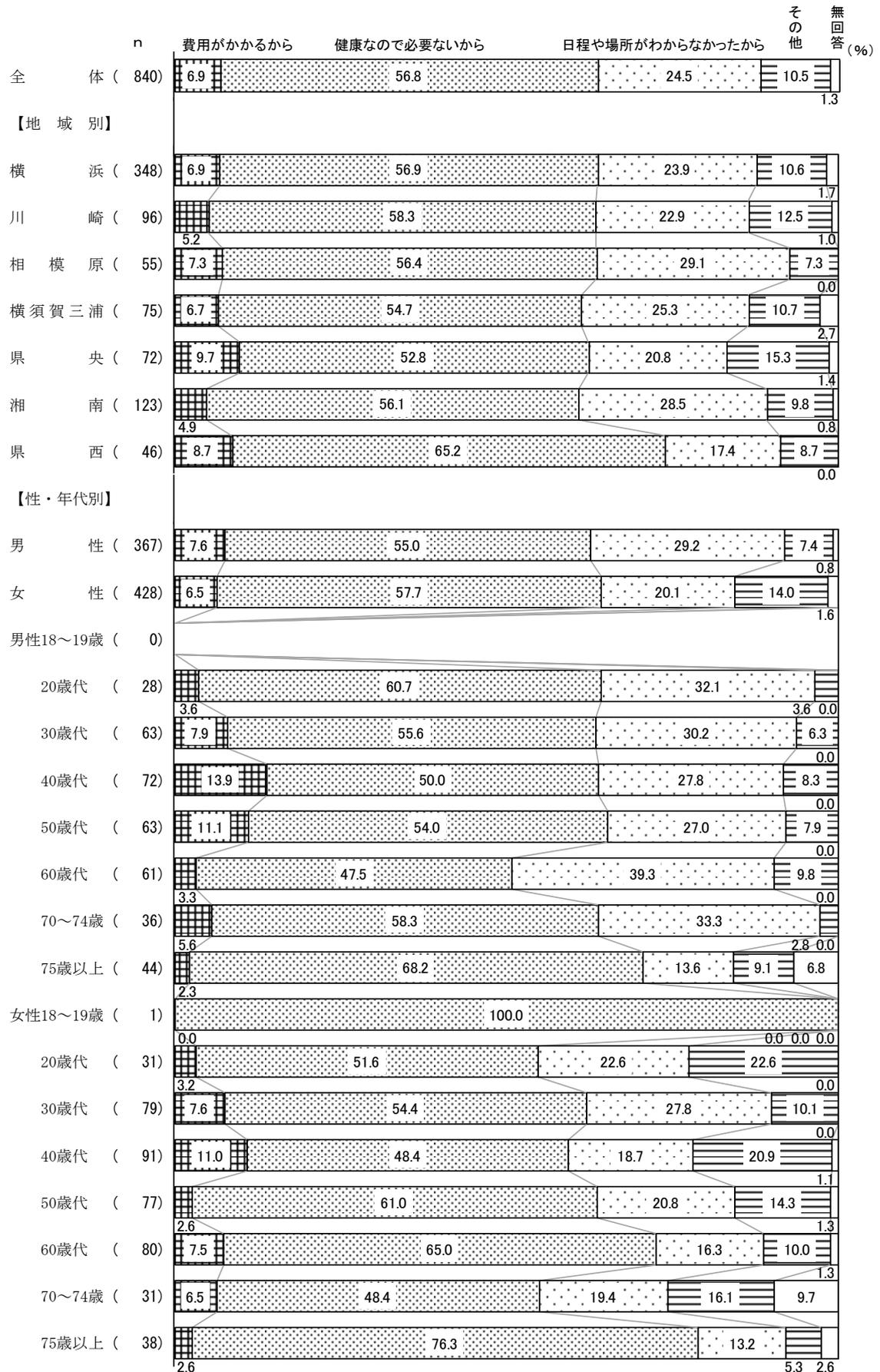
（図表11-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「日程や場所がわからなかったから」は、男性（29.2%）が女性（20.1%）を9.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「健康なので必要ないから」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が76.3%で最も多かった。また、「日程や場所がわからなかったから」は、男性の60歳代が39.3%で最も多く、男性の20歳代（32.1%）・70～74歳（33.3%）が続いた。（図表11-3-2）

図表11-3-2 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由—地域別、性・年代別

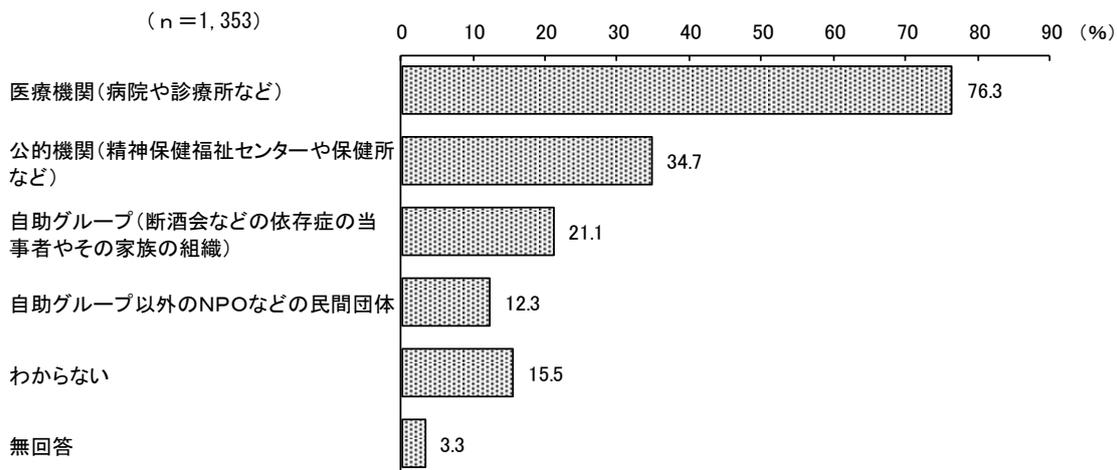


4 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの【問39】

【全体の状況】

アルコール依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関（病院や診療所など）」が76.3%で最も多く、次いで「公的機関（精神保健福祉センターや保健所など）」が34.7%であった。（図表11-4-1）

図表11-4-1 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「医療機関（病院や診療所など）」は、全地域（72.1%～78.3%）で7割を超えた。また、「公的機関（精神保健福祉センターや保健所など）」は、川崎（28.7%）と県西（29.2%）を除く5地域（30.0%～37.5%）がそれぞれ3割以上であった。（図表11-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「公的機関（精神保健福祉センターや保健所など）」は、女性（39.5%）が男性（29.9%）を9.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、「医療機関（病院や診療所など）」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の50歳代（84.0%）・60歳代（81.1%）、女性の40歳代（86.2%）がそれぞれ8割を超えた。また、「公的機関（精神保健福祉センターや保健所など）」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の40歳代（40.1%）・60歳代（45.5%）・70～74歳（46.9%）・75歳以上（41.9%）がそれぞれ4割を超えた。（図表11-4-2）

図表11-4-2 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

		(%)					
	n	医療機関 (病院や診療所など)	公的機関 (保健所など) (精神保健福祉センターや)	の自 助者 グループ やその 家族の 組織) (断酒会などの 依存症)	間自 助グル ープ 以外の NPO などの 民	わ から ない	無 回 答
全 体	1,353	76.3	34.7	21.1	12.3	15.5	3.3
【地 域 別】							
横 浜	539	78.3	37.5	21.5	13.2	14.7	2.0
川 崎	167	77.8	28.7	22.8	15.0	13.8	3.6
相 模 原	94	72.3	36.2	22.3	13.8	19.1	4.3
横 須 賀 三 浦	120	76.7	30.0	24.2	12.5	12.5	4.2
県 央	112	76.8	35.7	23.2	13.4	15.2	3.6
湘 南	201	72.1	36.3	18.4	9.5	18.9	3.5
県 西	65	76.9	29.2	12.3	9.2	16.9	3.1
【性・年代別】							
男 性	579	75.1	29.9	16.8	10.7	16.8	3.3
女 性	688	78.6	39.5	25.1	14.5	14.0	2.3
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	68.4	28.9	13.2	5.3	26.3	2.6
30歳代	81	74.1	29.6	22.2	17.3	18.5	1.2
40歳代	121	71.9	26.4	16.5	14.0	20.7	3.3
50歳代	106	84.0	32.1	17.9	12.3	9.4	2.8
60歳代	111	81.1	32.4	18.0	11.7	14.4	0.9
70～74歳	55	72.7	30.9	14.5	3.6	21.8	-
75歳以上	66	65.2	27.3	10.6	-	13.6	13.6
女性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
20歳代	42	66.7	31.0	19.0	14.3	26.2	2.4
30歳代	101	75.2	29.7	20.8	7.9	16.8	2.0
40歳代	152	86.2	40.1	27.0	23.0	9.9	2.0
50歳代	149	79.2	38.9	27.5	14.8	13.4	2.7
60歳代	132	75.8	45.5	25.0	12.9	13.6	4.5
70～74歳	49	77.6	46.9	22.4	4.1	10.2	-
75歳以上	62	79.0	41.9	27.4	14.5	16.1	-

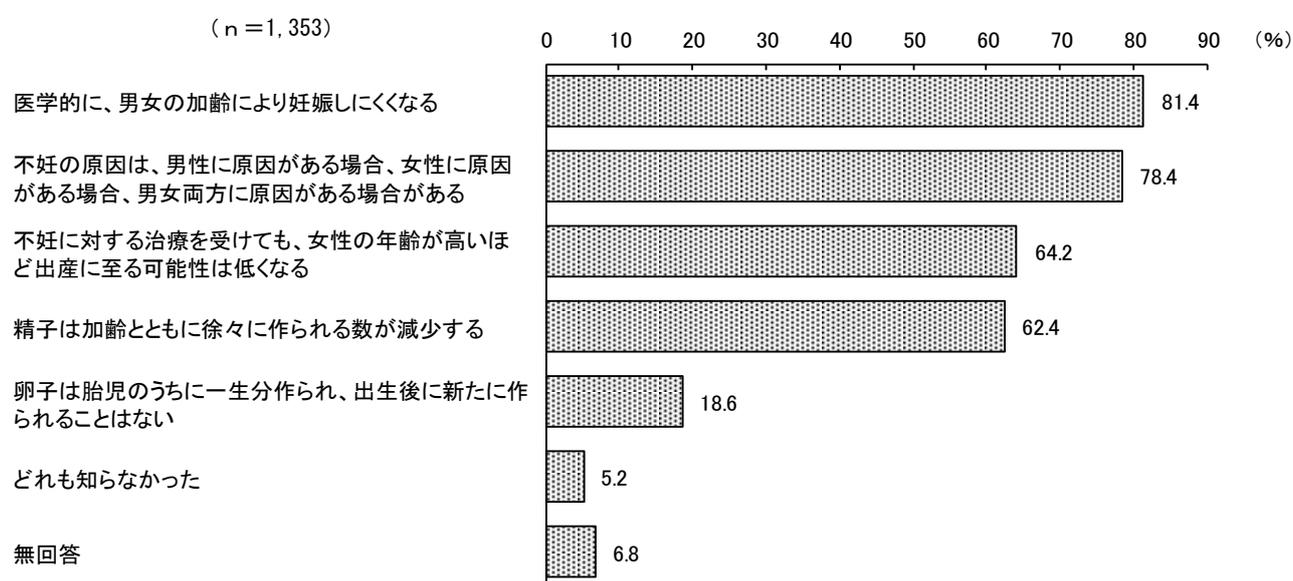
第12章 妊娠・出産等に関するライフプランニング【問40～問42】

1 妊娠・出産等について知っていること【問40】

【全体の状況】

妊娠・出産等について知っていることを複数回答で尋ねたところ、「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」が81.4%で最も多く、次いで「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」が78.4%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 妊娠・出産等について知っていること（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」は、川崎が86.2%で最も多く、次いで横浜が85.0%であった。また、「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」は、横浜が83.7%で最も多く、次いで川崎が81.4%であった。（図表12-1-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなる」は、女性（72.4%）が男性（58.4%）を14.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の30～50歳代（91.9%～93.1%）がそれぞれ9割を超えた。

（図表12-1-2）

図表12-1-2 妊娠・出産等について知っていること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

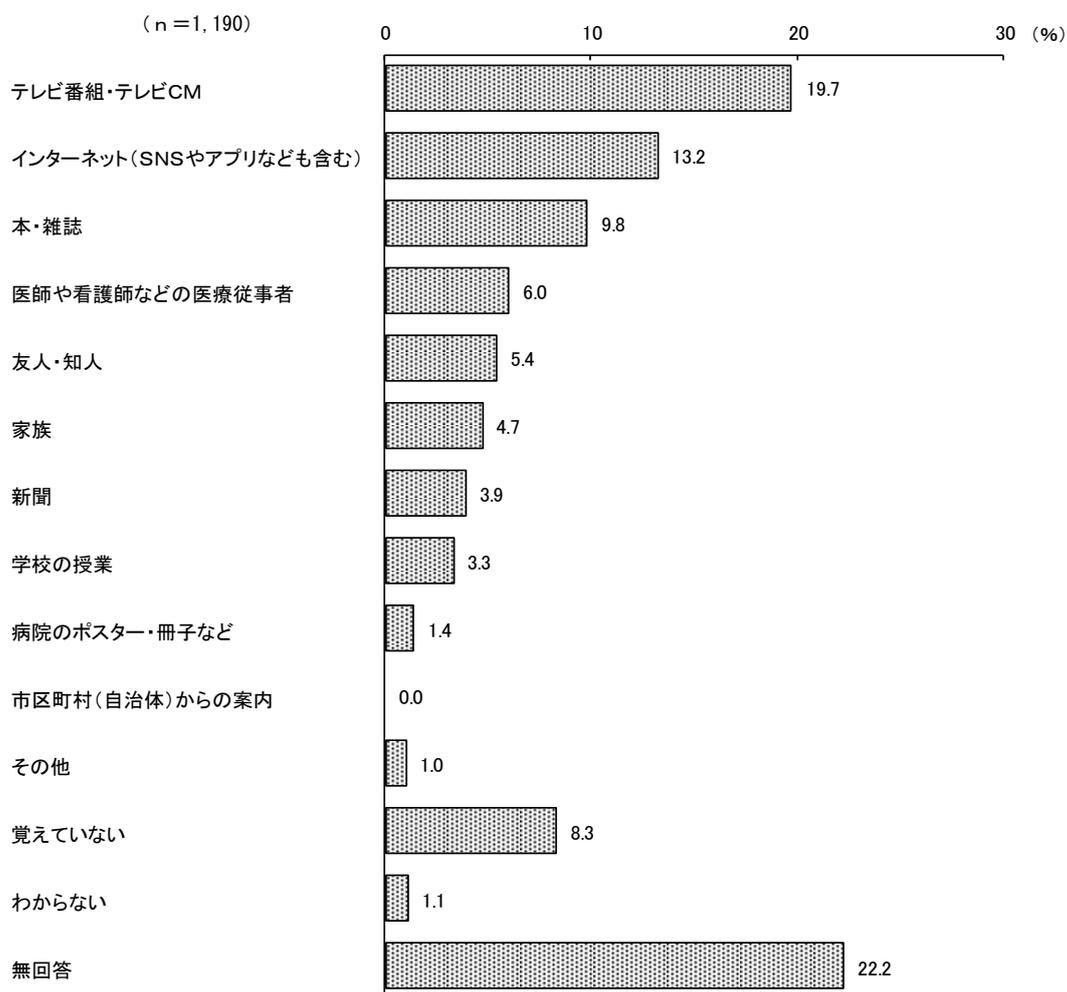
	n	医学的に、 多くの男女の 加齢により妊 娠しにくくなる	原因がある場 合がある場合 がある場合、 男女両方に 原因がある場 合がある場合	不妊の原因は、 男性に原因が ある場合、女 性に原因があ る場合	年齢が高くなる ほど治療を受 ける可能性は 低い	不妊に対する 治療を受けて も、女性性の 低下	精子は加齢と ともに徐々に 減少する	卵子は新たな に作られるこ とはない、出 生後は胎児の うちの一生涯 分は作られな い	どれも知らな かった	無回答
全 体	1,353	81.4	78.4	64.2	62.4	18.6	5.2	6.8		
【地 域 別】										
横 浜	539	85.0	83.7	68.8	67.2	21.7	4.1	4.3		
川 崎	167	86.2	81.4	70.1	63.5	22.2	4.2	6.6		
相 模 原	94	80.9	77.7	61.7	63.8	20.2	3.2	10.6		
横 須 賀 三 浦	120	76.7	72.5	53.3	55.0	13.3	5.8	8.3		
県 央	112	80.4	75.0	64.3	61.6	17.9	7.1	8.0		
湘 南	201	75.6	73.6	59.2	56.7	13.9	7.5	7.5		
県 西	65	78.5	70.8	64.6	55.4	10.8	9.2	7.7		
【性・年代別】										
男 性	579	79.8	73.4	58.4	65.6	14.5	7.1	7.3		
女 性	688	85.3	85.6	72.4	61.5	22.8	3.6	4.4		
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-		
20歳代	38	84.2	81.6	57.9	76.3	36.8	10.5	2.6		
30歳代	81	88.9	87.7	79.0	75.3	17.3	6.2	1.2		
40歳代	121	86.0	77.7	66.1	67.8	17.4	7.4	3.3		
50歳代	106	84.0	76.4	60.4	66.0	15.1	7.5	2.8		
60歳代	111	74.8	70.3	52.3	60.4	9.0	9.0	4.5		
70～74歳	55	74.5	72.7	49.1	70.9	10.9	3.6	14.5		
75歳以上	66	60.6	43.9	33.3	47.0	4.5	4.5	30.3		
女性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-		
20歳代	42	83.3	78.6	57.1	69.0	26.2	11.9	-		
30歳代	101	93.1	94.1	86.1	68.3	43.6	1.0	2.0		
40歳代	152	92.8	92.1	80.9	72.4	31.6	1.3	2.0		
50歳代	149	91.9	87.9	73.8	65.8	18.1	2.7	2.7		
60歳代	132	75.0	78.8	67.4	56.8	12.9	5.3	7.6		
70～74歳	49	79.6	83.7	61.2	38.8	8.2	2.0	8.2		
75歳以上	62	66.1	71.0	54.8	37.1	8.1	8.1	11.3		

2 妊娠・出産や不妊に関する情報の入手先【問40-1】

【全体の状況】

妊娠・出産等について知っていること（問40）で「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」、「卵子は胎児のうちに一生分作られ、出生後に新たに作られることはない」、「精子は加齢とともに徐々に作られる数が減少する」、「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」、「不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなる」のいずれかを選択した1,190人に妊娠・出産や不妊に関する情報をどこから入手しているかを複数回答で尋ねたところ、「テレビ番組・テレビCM」が19.7%で最も多く、次いで「インターネット（SNSやアプリなども含む）」が13.2%であった。（図表12-2-1）

図表12-2-1 妊娠・出産や不妊に関する情報の入手先（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「テレビ番組・テレビCM」は、県西が29.6%で最も多かった。また、「インターネット（SNSやアプリなども含む）」は、川崎が20.1%で最も多かった。（図表12-2-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「テレビ番組・テレビCM」は、女性の50歳代が29.1%で最も多く、次いで男性の60歳代が28.1%であった。また、「インターネット（SNSやアプリなども含む）」は、男女ともに30歳代（男性28.0%、女性28.6%）が最も多かった。（図表12-2-2）

図表12-2-2 妊娠・出産や不妊に関する情報の入手先（複数回答）－地域別、性・年代別

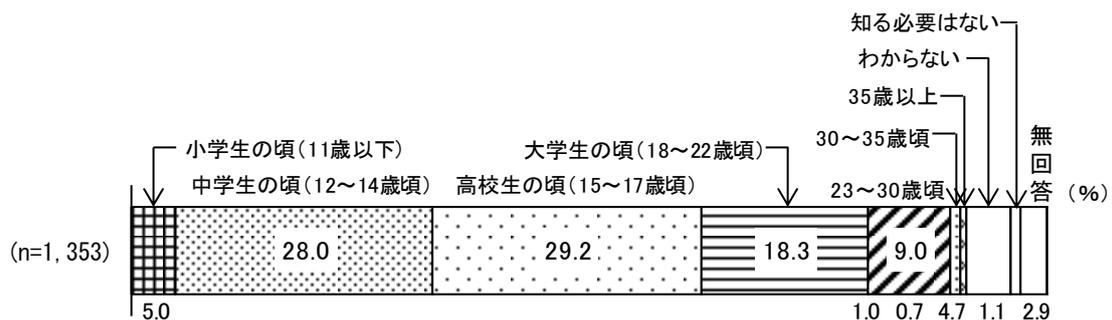
	n	テレビ番組・テレビCM	インターネット（SNSやアプリなども含む）	本・雑誌	医師や看護師などの医療従事者	友人・知人	家族	新聞	学校の授業	病院のポスター・冊子など	市区町村（自治体）からの案内	その他	覚えていない	わからない	無回答	
全体	1,190	19.7	13.2	9.8	6.0	5.4	4.7	3.9	3.3	1.4	-	1.0	8.3	1.1	22.2	
【地域別】																
横浜	494	16.8	16.2	9.3	7.1	4.3	4.0	4.0	3.0	1.6	-	1.4	8.7	1.4	22.1	
川崎	149	22.1	20.1	8.1	5.4	3.4	5.4	1.3	2.7	0.7	-	1.3	8.7	-	20.8	
相模原	81	14.8	12.3	11.1	4.9	7.4	4.9	4.9	4.9	2.5	-	-	9.9	1.2	21.0	
横須賀三浦	103	24.3	5.8	8.7	1.9	6.8	6.8	6.8	1.9	1.0	-	1.9	9.7	-	24.3	
県央	95	20.0	8.4	8.4	7.4	8.4	5.3	5.3	3.2	1.1	-	1.1	11.6	3.2	16.8	
湘南	171	22.8	8.2	12.3	6.4	5.3	5.3	2.9	3.5	1.2	-	-	4.7	1.2	26.3	
県西	54	29.6	11.1	9.3	-	1.9	5.6	5.6	5.6	1.9	-	-	7.4	-	22.2	
【性・年代別】																
男性	496	19.4	14.7	11.1	4.0	4.8	7.1	3.8	3.6	1.4	-	1.2	9.9	1.6	17.3	
女性	633	20.4	12.5	8.7	7.4	5.4	2.8	3.9	2.8	1.3	-	0.9	7.3	0.6	25.9	
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	33	9.1	27.3	6.1	6.1	-	3.0	-	33.3	-	-	-	12.1	-	3.0	
30歳代	75	17.3	28.0	5.3	6.7	4.0	5.3	1.3	2.7	1.3	-	2.7	4.0	-	21.3	
40歳代	108	21.3	19.4	8.3	4.6	6.5	10.2	0.9	3.7	0.9	-	0.9	9.3	1.9	12.0	
50歳代	95	20.0	16.8	7.4	6.3	3.2	8.4	5.3	1.1	2.1	-	1.1	8.4	2.1	17.9	
60歳代	96	28.1	3.1	13.5	1.0	4.2	4.2	6.3	-	3.1	-	-	15.6	2.1	18.8	
70～74歳	45	15.6	6.7	17.8	2.2	4.4	11.1	4.4	-	-	-	4.4	13.3	2.2	17.8	
75歳以上	43	9.3	-	27.9	-	11.6	4.7	9.3	-	-	-	-	7.0	2.3	27.9	
女性18～19歳	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
20歳代	37	10.8	18.9	8.1	2.7	2.7	2.7	-	16.2	-	-	2.7	8.1	-	27.0	
30歳代	98	18.4	28.6	9.2	8.2	2.0	2.0	-	2.0	1.0	-	1.0	4.1	-	23.5	
40歳代	147	14.3	20.4	7.5	5.4	4.8	-	2.0	2.7	2.0	-	1.4	8.2	1.4	29.9	
50歳代	141	29.1	7.1	9.2	5.7	4.3	3.5	2.1	0.7	0.7	-	-	8.5	0.7	28.4	
60歳代	115	20.9	1.7	10.4	13.0	7.0	2.6	6.1	2.6	1.7	-	1.7	10.4	0.9	20.9	
70～74歳	44	22.7	2.3	6.8	11.4	13.6	4.5	13.6	-	2.3	-	-	2.3	-	20.5	
75歳以上	50	22.0	2.0	8.0	4.0	8.0	10.0	12.0	2.0	-	-	-	4.0	-	28.0	

3 妊娠・出産と年齢との関係について知っておきたい年代【問41】

【全体の状況】

男女の加齢により妊娠しにくくなるなど、妊娠・出産と年齢との関係についての情報をいつごろに知っておくのがよいと思うか尋ねたところ、「高校生の頃（15～17歳頃）」が29.2%で最も多く、次いで「中学生の頃（12～14歳頃）」が28.0%であった。（図表12-3-1）

図表12-3-1 妊娠・出産と年齢との関係について知っておきたい年代



【地域別の状況】

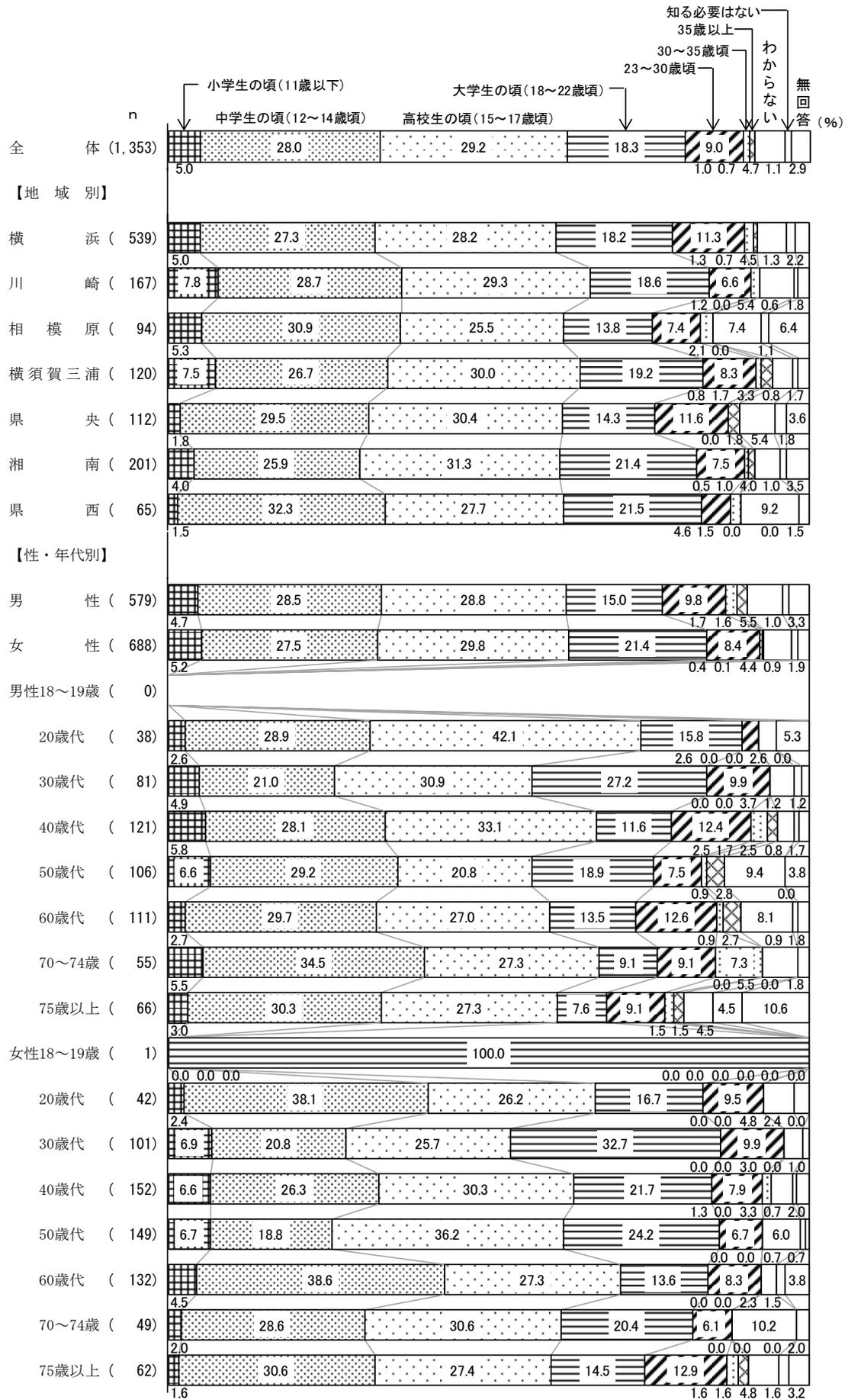
地域別にみると、「高校生の頃（15～17歳頃）」は、湘南（31.3%）、県央（30.4%）、横須賀三浦（30.0%）がそれぞれ3割以上であった。また、「中学生の頃（12～14歳頃）」は、県西が32.3%で最も多かった。（図表12-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「大学生の頃（18～22歳頃）」は、女性（21.4%）が男性（15.0%）を6.4ポイント上回った。

性・年代別にみると、「高校生の頃（15～17歳頃）」は、男性の20歳代が42.1%で最も多かった。また、「中学生の頃（12～14歳頃）」は、女性の60歳代が38.6%で最も多く、次いで女性の20歳代が38.1%であった。（図表12-3-2）

図表12-3-2 妊娠・出産と年齢との関係について知っておきたい年代—地域別、性・年代別



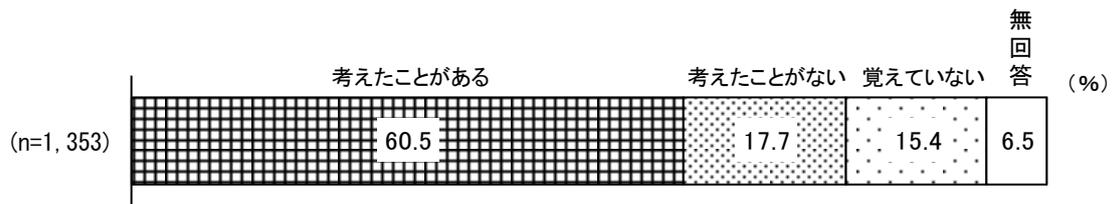
4 妊娠・出産等に関するライフプランの有無【問42】

【全体の状況】

「将来、自分が子どもを持つのか持たないのか、どのようにその希望を実現するか」といった観点から人生設計（ライフプラン）を考えたことがあるか尋ねたところ、「考えたことがある」が60.5%であった。

一方、「考えたことがない」は、17.7%であった。（図表12-4-1）

図表12-4-1 妊娠・出産等に関するライフプランの有無



【地域別の状況】

地域別にみると、「考えたことがある」は、横浜が66.0%で最も多く、次いで県央が64.3%であった。

一方、「考えたことがない」は、県西が26.2%で最も多く、次いで横須賀三浦が24.2%であった。

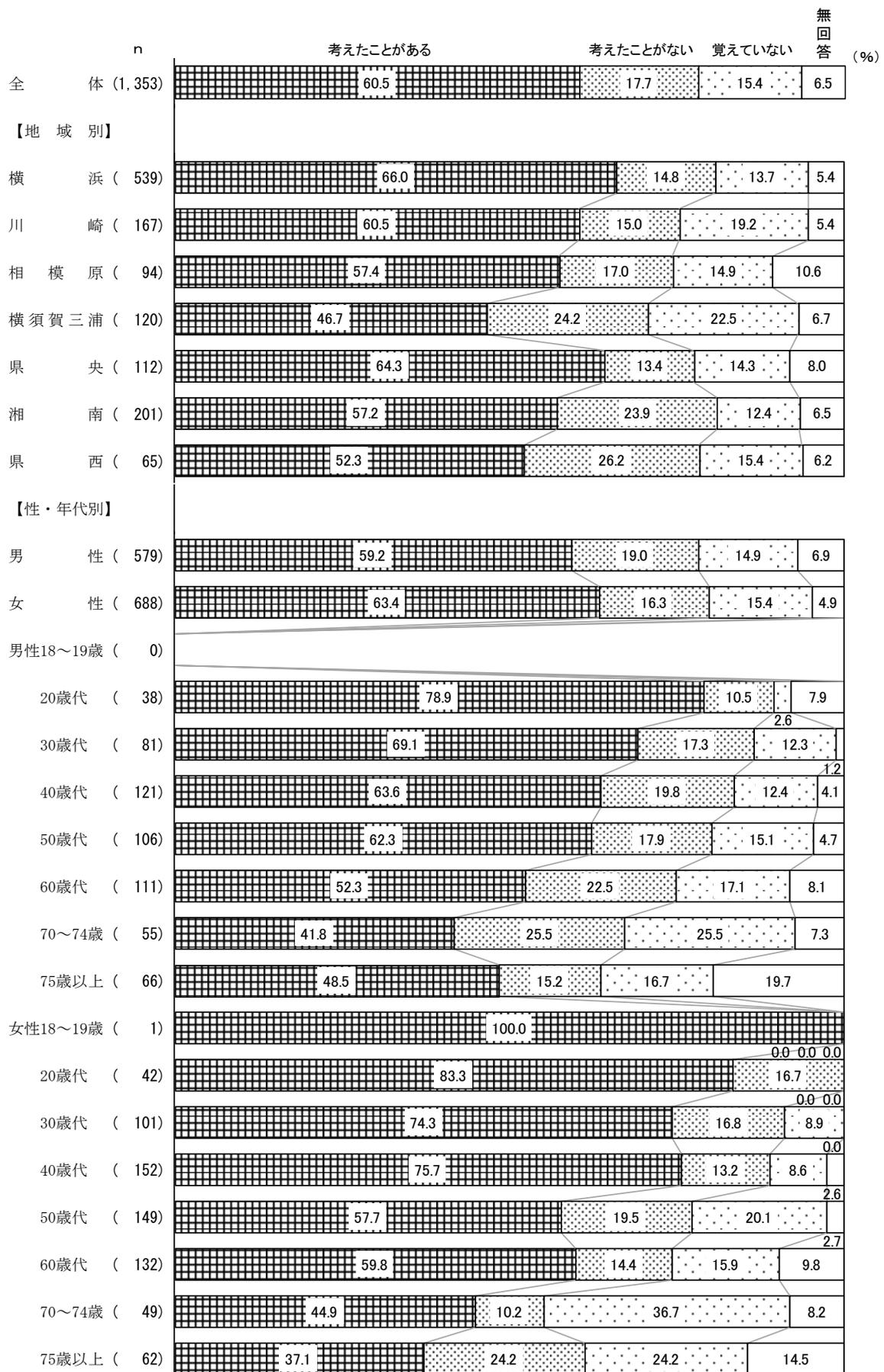
（図表12-4-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「考えたことがある」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男女ともに20歳代（男性78.9%・女性83.3%）が最も多かった。

一方、「考えたことがない」は、男性の70～74歳が25.5%で最も多く、次いで女性の75歳以上が24.2%であった。（図表12-4-2）

図表12-4-2 妊娠・出産等に関するライフプランの有無－地域別、性・年代別



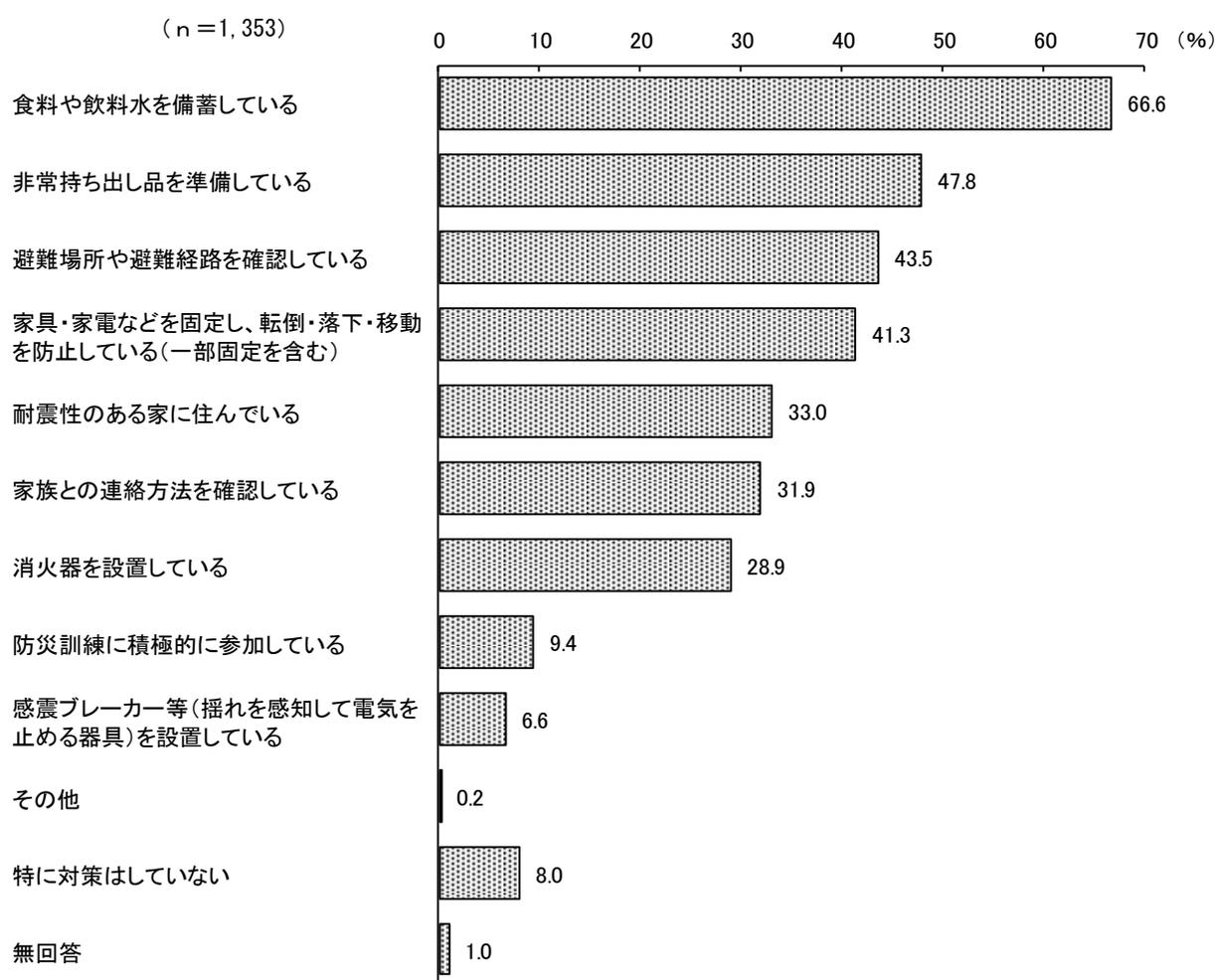
第13章 地震対策の取組【問43～問46】

1 大きな地震に備えた対策【問43】

【全体の状況】

神奈川県では、首都直下地震や南海トラフ地震、神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水を備蓄している」が66.6%で最も多く、次いで「非常持ち出し品を準備している」が47.8%であった。（図表13-1-1）

図表13-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「食料や飲料水を備蓄している」は、横須賀三浦が73.3%で最も多く、次いで横浜が68.5%であった。また、「非常持ち出し品を準備している」は、横須賀三浦が50.0%で最も多かった。（図表13-1-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「避難場所や避難経路を確認している」は、女性（47.7%）が男性（39.7%）を8.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「食料や飲料水を備蓄している」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の50歳代（71.1%）・60歳代（75.8%）・70～74歳（71.4%）がそれぞれ7割を越えた。

（図表13-1-2）

図表13-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

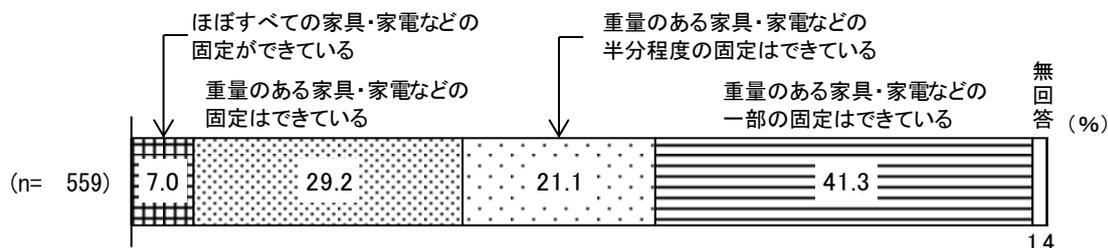
	n	食料や飲料水を備蓄している	非常持ち出し品を準備している	避難場所や避難経路を確認している	家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している（一部固定を含む）	耐震性のある家に住んでいる	家族との連絡方法を確認している	消火器を設置している	防災訓練に積極的に参加している	地震ブレーカー等（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している	その他	特に対策はしていない	無回答
全体	1,353	66.6	47.8	43.5	41.3	33.0	31.9	28.9	9.4	6.6	0.2	8.0	1.0
【地域別】													
横浜	539	68.5	48.2	43.2	41.9	36.5	31.9	35.1	8.3	5.0	0.4	7.2	0.2
川崎	167	67.7	48.5	42.5	44.3	30.5	35.9	21.6	6.6	5.4	-	7.8	0.6
相模原	94	55.3	44.7	41.5	39.4	36.2	33.0	25.5	13.8	6.4	-	10.6	1.1
横須賀三浦	120	73.3	50.0	57.5	34.2	27.5	37.5	32.5	16.7	9.2	-	6.7	-
県央	112	65.2	47.3	39.3	40.2	34.8	24.1	23.2	8.9	8.0	-	8.0	2.7
湘南	201	66.7	47.8	41.8	44.3	27.4	28.9	24.9	9.0	8.0	0.5	8.5	1.0
県西	65	55.4	41.5	46.2	40.0	30.8	35.4	16.9	10.8	7.7	-	12.3	3.1
【性・年代別】													
男性	579	65.3	47.5	39.7	42.3	33.9	30.1	28.0	10.2	5.9	0.2	9.8	1.0
女性	688	68.3	48.3	47.7	41.1	33.4	34.0	30.1	8.6	6.4	0.3	6.4	-
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	55.3	36.8	21.1	28.9	26.3	34.2	5.3	-	2.6	-	21.1	2.6
30歳代	81	64.2	45.7	35.8	37.0	34.6	30.9	18.5	9.9	1.2	-	9.9	1.2
40歳代	121	67.8	48.8	40.5	46.3	34.7	38.0	20.7	7.4	3.3	-	9.9	-
50歳代	106	66.0	46.2	40.6	47.2	47.2	26.4	31.1	10.4	6.6	-	2.8	1.9
60歳代	111	64.0	48.6	39.6	37.8	24.3	24.3	30.6	9.0	4.5	0.9	13.5	-
70～74歳	55	65.5	54.5	47.3	40.0	29.1	30.9	40.0	18.2	7.3	-	12.7	-
75歳以上	66	68.2	48.5	45.5	50.0	33.3	27.3	45.5	16.7	18.2	-	6.1	3.0
女性18～19歳	1	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	42	64.3	50.0	42.9	33.3	19.0	33.3	11.9	4.8	4.8	-	7.1	-
30歳代	101	65.3	43.6	43.6	34.7	42.6	31.7	23.8	3.0	1.0	1.0	10.9	-
40歳代	152	61.8	46.1	54.6	43.4	40.8	35.5	22.4	5.9	2.6	-	4.6	-
50歳代	149	71.1	48.3	47.0	44.3	34.2	33.6	26.2	8.7	3.4	-	8.7	-
60歳代	132	75.8	50.8	47.7	48.5	27.3	35.6	46.2	13.6	9.8	0.8	3.0	-
70～74歳	49	71.4	49.0	51.0	30.6	28.6	36.7	40.8	12.2	18.4	-	4.1	-
75歳以上	62	66.1	53.2	40.3	37.1	24.2	30.6	38.7	12.9	16.1	-	6.5	-

2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度【問43-1】

【全体の状況】

大きな地震に備えた対策（問43）で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している（一部固定を含む）」と回答した559人に、家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策がどの程度までできているか尋ねたところ、「重量のある家具・家電などの一部は固定はできている」が41.3%で最も多く、次いで「重量のある家具・家電などの固定はできている」が29.2%であった。（図表13-2-1）

図表13-2-1 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度



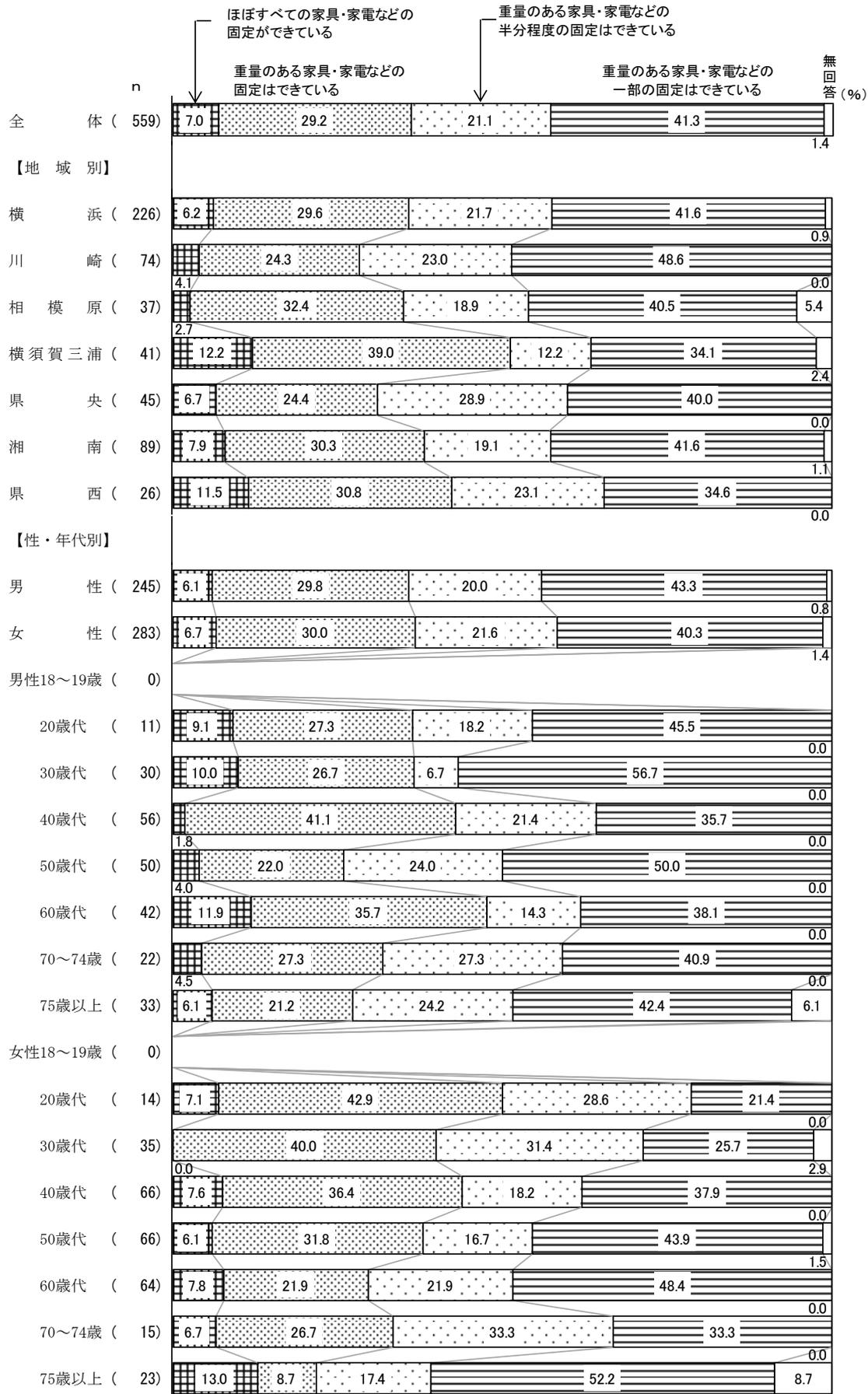
【地域別の状況】

地域別にみると、「重量のある家具・家電などの一部は固定はできている」は、横須賀三浦（34.1%）と県西（34.6%）を除く5地域（40.0%～48.6%）がそれぞれ4割以上であった。また、「重量のある家具・家電などの固定はできている」は、横須賀三浦が39.0%で最も多かった。（図表13-2-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「重量のある家具・家電などの一部は固定はできている」は、男性の30歳代（56.7%）・50歳代（50.0%）、女性の75歳以上（52.2%）がそれぞれ5割以上であった。また、「重量のある家具・家電などの固定はできている」は、サンプル数の少ない女性の20歳代を除くと、男性の40歳代（41.1%）と女性の30歳代（40.0%）がともに4割以上であった。（図表13-2-2）

図表13-2-2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度—地域別、性・年代別

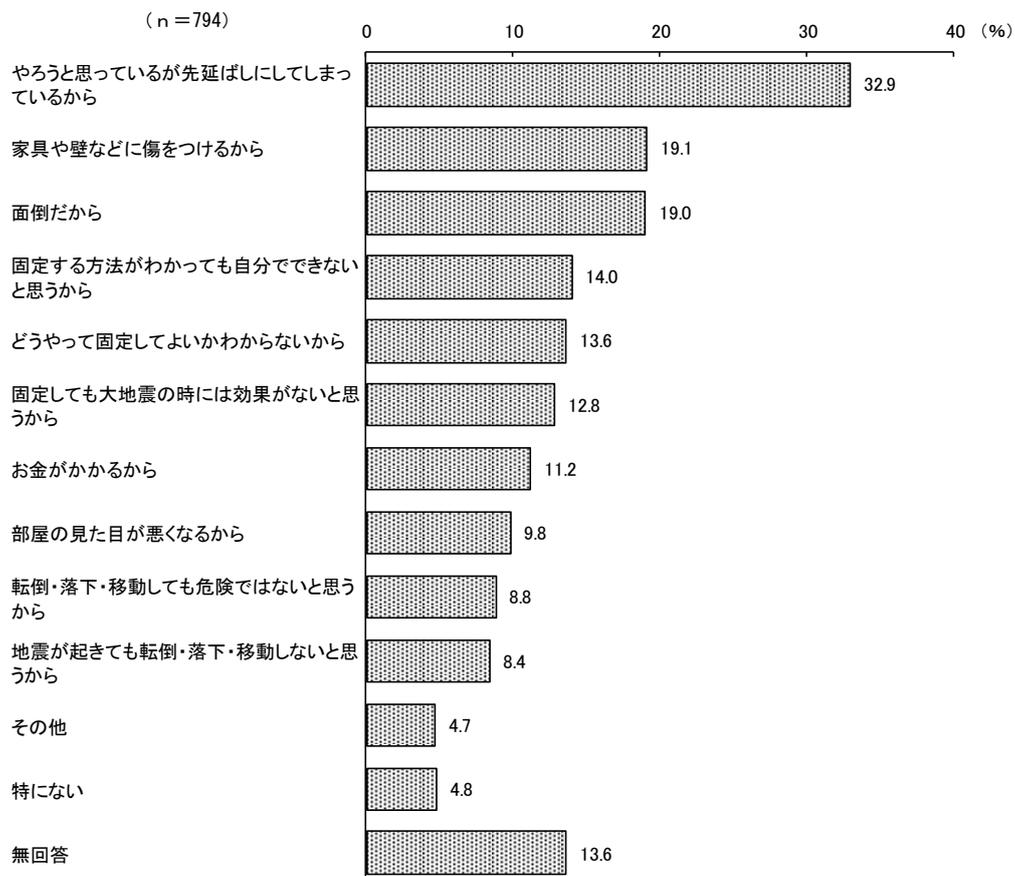


3 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由【問43-2】

【全体の状況】

大きな地震に備えた対策（問43）で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している（一部固定を含む）」と回答しなかった794人に、家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由を複数回答で尋ねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」が32.9%で最も多く、「家具や壁などに傷をつけるから」（19.1%）と「面倒だから」（19.0%）が約2割で続いた。（図表13-3-1）

図表13-3-1 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」は、横浜が37.1%で最も多く、横須賀三浦（36.7%）と湘南（34.8%）が3割台で続いた。また、「家具や壁などに傷をつけるから」は、横浜（23.3%）と川崎（21.5%）がともに2割を超えた。「面倒だから」は、相模原（22.8%）、横浜（22.7%）、川崎（20.4%）がそれぞれ2割を超えた。（図表13-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「固定する方法がわかっても自分でできないと思うから」は、女性（18.5%）が男性（9.3%）を9.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」は、女性の20歳代が46.4%で最も多かった。また、「固定する方法がわかっても自分でできないと思うから」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が35.9%で最も多く、次いで女性の70～74歳が26.5%であった。（図表13-3-2）

図表13-3-2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由（複数回答）
—地域別、性・年代別

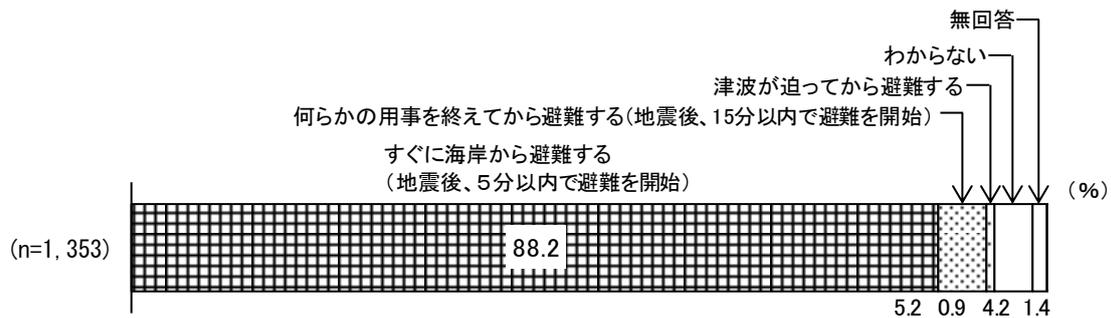
		(%)													
	n	てやろうと思っ てしまっている が先延ばしにし ているから	家具や壁など に傷をつける から	面倒だから	固定する 方法がわか っても自分 でできな いと思う から	い ど う や っ て 固 定 し て よ い か わ か ら な い	固 定 し て も 大 地 震 の 時 に は 効 果 が な い と 思 う か ら	お 金 が か か る か ら	部 屋 の 見 た 目 が 悪 く な る か ら	転 倒 ・ 落 下 ・ 移 動 し て も 危 険 で は な い と 思 う か ら	地 震 が 起 き て も 転 倒 ・ 落 下 ・ 移 動 し な い と 思 う か ら	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全 体	794	32.9	19.1	19.0	14.0	13.6	12.8	11.2	9.8	8.8	8.4	4.7	4.8	13.6	
【地 域 別】															
横 浜	313	37.1	23.3	22.7	13.4	13.7	11.8	13.7	11.5	9.3	8.0	4.2	3.5	10.9	
川 崎	93	28.0	21.5	20.4	15.1	9.7	15.1	7.5	10.8	8.6	5.4	5.4	5.4	8.6	
相 模 原	57	26.3	12.3	22.8	12.3	10.5	10.5	8.8	12.3	10.5	10.5	7.0	8.8	10.5	
横 須 賀 三 浦	79	36.7	16.5	11.4	20.3	22.8	15.2	15.2	8.9	8.9	5.1	3.8	3.8	8.9	
県 央	67	22.4	17.9	14.9	10.4	11.9	9.0	7.5	10.4	10.4	13.4	6.0	4.5	20.9	
湘 南	112	34.8	17.9	18.8	14.3	14.3	13.4	8.9	7.1	7.1	8.9	5.4	3.6	18.8	
県 西	39	23.1	15.4	7.7	17.9	10.3	15.4	7.7	5.1	5.1	15.4	5.1	15.4	15.4	
【性・年代別】															
男 性	334	29.9	23.1	23.1	9.3	11.7	12.6	14.4	12.3	10.8	10.8	4.2	5.1	15.6	
女 性	405	34.8	18.0	16.5	18.5	15.6	12.6	8.4	8.6	7.7	6.4	5.7	4.9	9.6	
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	27	25.9	25.9	29.6	7.4	14.8	3.7	18.5	11.1	3.7	7.4	3.7	7.4	3.7	
30歳代	51	29.4	35.3	37.3	9.8	17.6	11.8	15.7	21.6	13.7	13.7	5.9	5.9	7.8	
40歳代	65	33.8	16.9	26.2	4.6	10.8	6.2	12.3	10.8	9.2	7.7	6.2	6.2	18.5	
50歳代	56	33.9	26.8	16.1	7.1	12.5	12.5	16.1	14.3	10.7	8.9	3.6	5.4	10.7	
60歳代	69	30.4	23.2	26.1	11.6	11.6	17.4	17.4	8.7	11.6	10.1	4.3	4.3	14.5	
70～74歳	33	30.3	18.2	9.1	15.2	9.1	15.2	15.2	15.2	6.1	9.1	3.0	3.0	27.3	
75歳以上	33	18.2	12.1	9.1	12.1	3.0	21.2	3.0	3.0	18.2	21.2	-	3.0	30.3	
女性18～19歳	1	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	28	46.4	32.1	39.3	17.9	28.6	7.1	14.3	7.1	3.6	-	3.6	-	10.7	
30歳代	66	34.8	22.7	24.2	12.1	19.7	10.6	12.1	7.6	4.5	1.5	6.1	1.5	12.1	
40歳代	86	34.9	24.4	12.8	17.4	16.3	9.3	9.3	11.6	8.1	8.1	4.7	7.0	4.7	
50歳代	83	30.1	15.7	16.9	13.3	12.0	10.8	8.4	12.0	6.0	8.4	9.6	6.0	8.4	
60歳代	68	32.4	7.4	13.2	17.6	10.3	13.2	8.8	2.9	11.8	7.4	5.9	8.8	10.3	
70～74歳	34	38.2	14.7	8.8	26.5	17.6	26.5	-	11.8	14.7	5.9	5.9	-	11.8	
75歳以上	39	38.5	12.8	5.1	35.9	10.3	17.9	2.6	5.1	5.1	10.3	-	5.1	15.4	

4 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動【問44】

【全体の状況】

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」が88.2%で最も多かった。（図表13-4-1）

図表13-4-1 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動



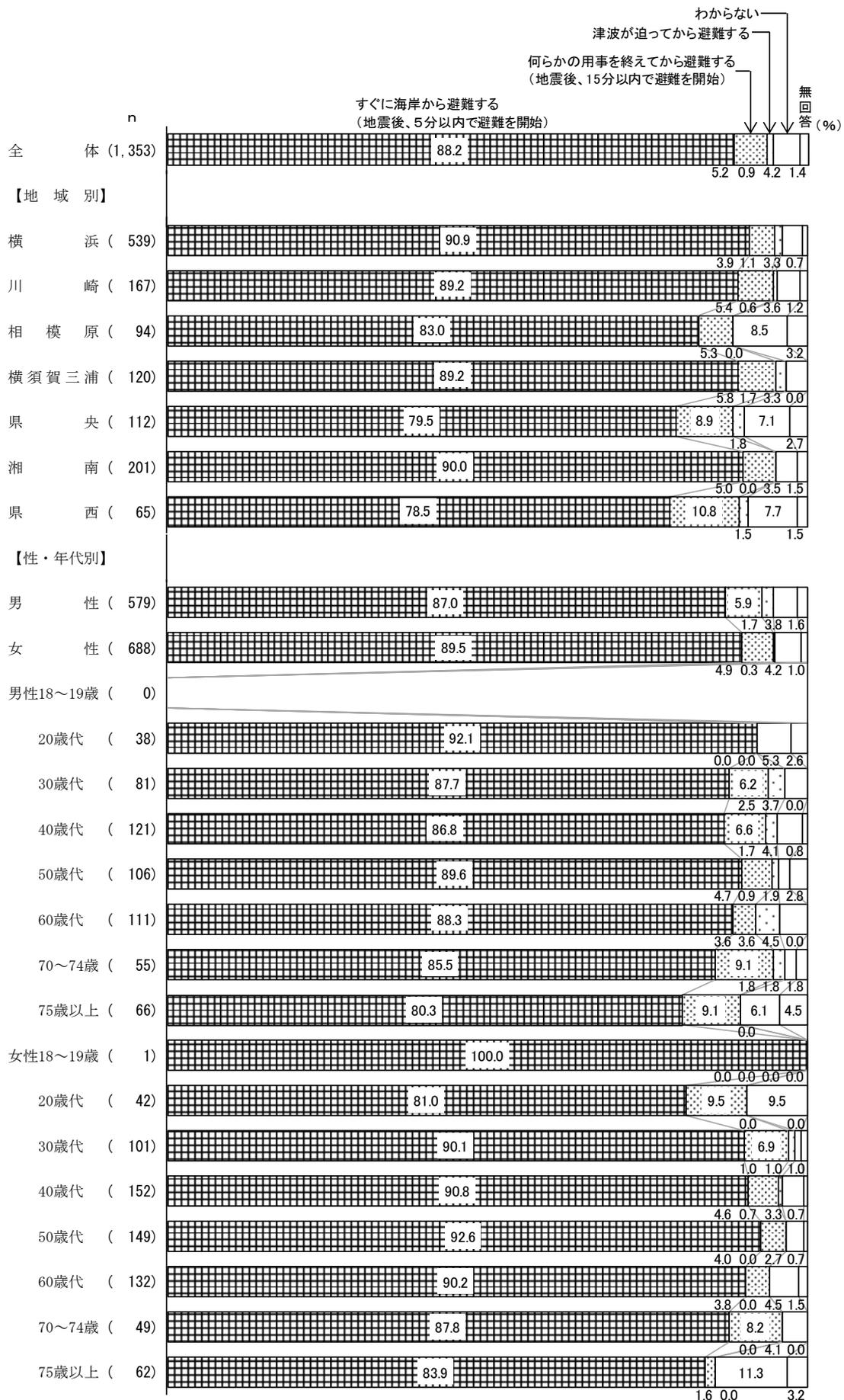
【地域別の状況】

地域別にみると、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」は、横浜（90.9%）と湘南（90.0%）がともに9割以上であった。（図表13-4-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の20歳代（92.1%）、女性の30～60歳代（90.1%～92.6%）がそれぞれ9割を超えた。（図表13-4-2）

図表13-4-2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動—地域別、性・年代別



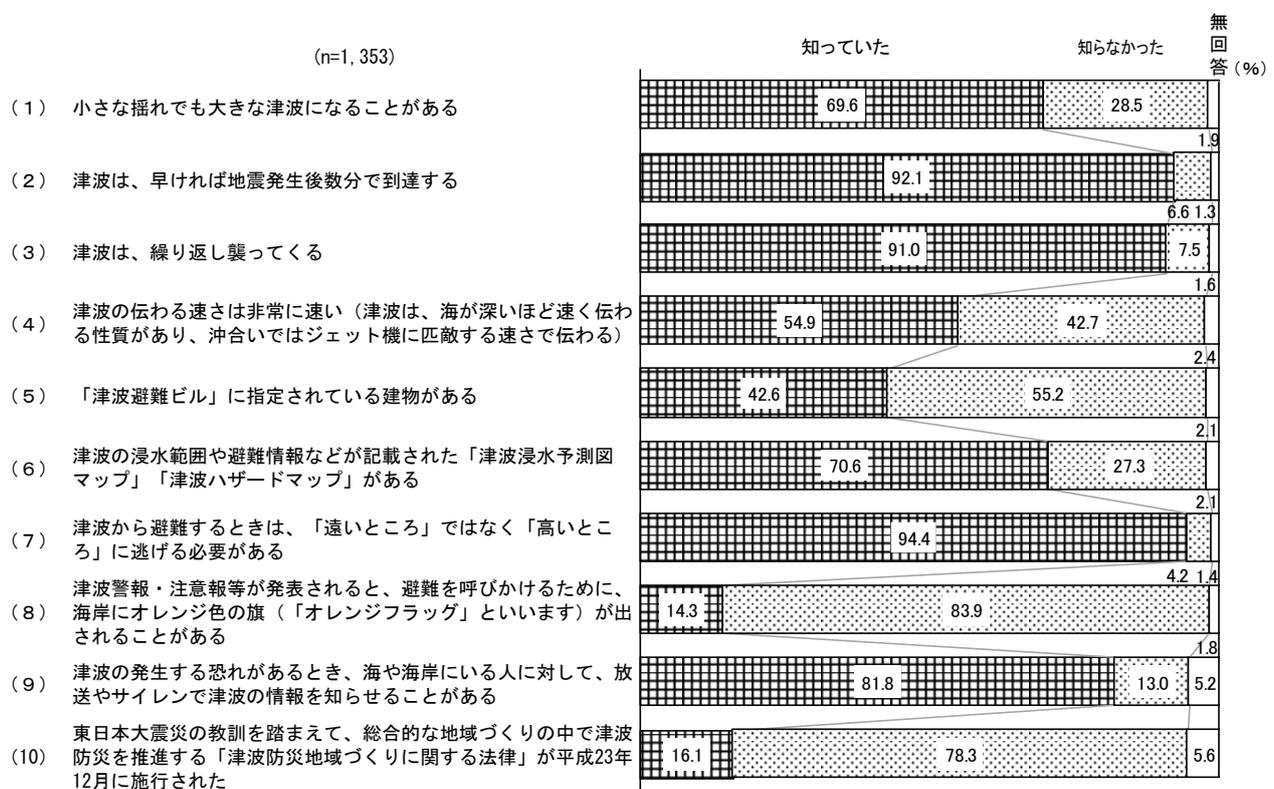
5 津波に対する知識【問45】

【全体の状況】

津波に関する10項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「(7)津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」(94.4%)、「(2)津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」(92.1%)、「(3)津波は、繰り返し襲ってくる」(91.0%)がそれぞれ9割を超えた。

一方、「知らなかった」では、「(8)津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗（『オレンジフラッグ』といいます）が出されることがある」が83.9%で最も多かった。（図表13-5-1）

図表13-5-1 津波に対する知識



【地域別の状況】

「知っていた」の割合を地域別にみると、「(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある」では、川崎 (76.6%) と相模原 (73.4%) がともに7割台であった。「(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」では、県西 (89.2%) と県央 (86.6%) を除く5地域 (90.4%~97.0%) がそれぞれ9割を超えた。「(3) 津波は、繰り返し襲ってくる」では、県央 (88.4%) と相模原 (86.2%) を除く5地域 (90.8%~94.2%) がそれぞれ9割を超えた。「(5) 『津波避難ビル』に指定されている建物がある」では、県西が60.0%で最も多く、次いで湘南が53.2%であった。「(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された『津波浸水予測図マップ』『津波ハザードマップ』がある」では、川崎 (66.5%) と相模原 (58.5%) を除く5地域 (71.1%~79.6%) がそれぞれ7割を超えた。

(図表13-5-2)

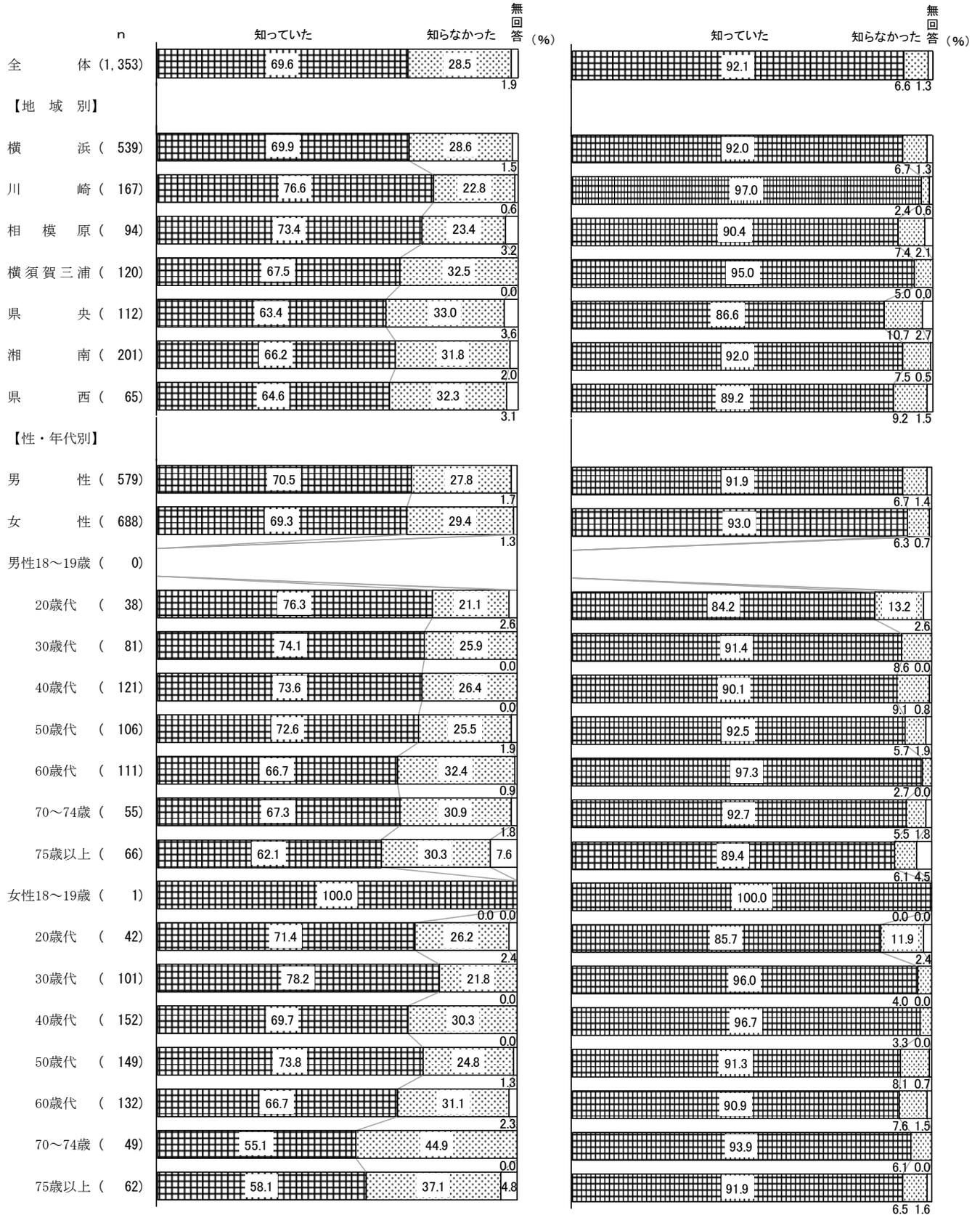
【性・年代別の状況】

「知っていた」の割合を性・年代別にみると、「(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある」では、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、男性の20~50歳代 (72.6%~76.3%)、女性の20歳代 (71.4%)・30歳代 (78.2%)・50歳代 (73.8%) がそれぞれ7割を超えた。「(4) 津波の伝わる速さは非常に速い (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)」では、男性の60歳代 (64.9%)、女性の20歳代 (61.9%)・50歳代 (61.7%) がそれぞれ6割を超えた。「(5) 『津波避難ビル』に指定されている建物がある」では、男性の60歳代が55.0%で最も多く、男女の40歳代 (男性50.4%、女性50.7%) が続いた。「(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された『津波浸水予測図マップ』『津波ハザードマップ』がある」では、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、女性の30歳代が88.1%で最も多く、次いで男性の30歳代が82.7%であった。「(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある」では、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、男性の40歳代 (91.7%) と女性の75歳以上 (91.9%) がともに約9割であった。(図表13-5-2)

図表13-5-2 津波に対する知識—地域別、性・年代別

(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある

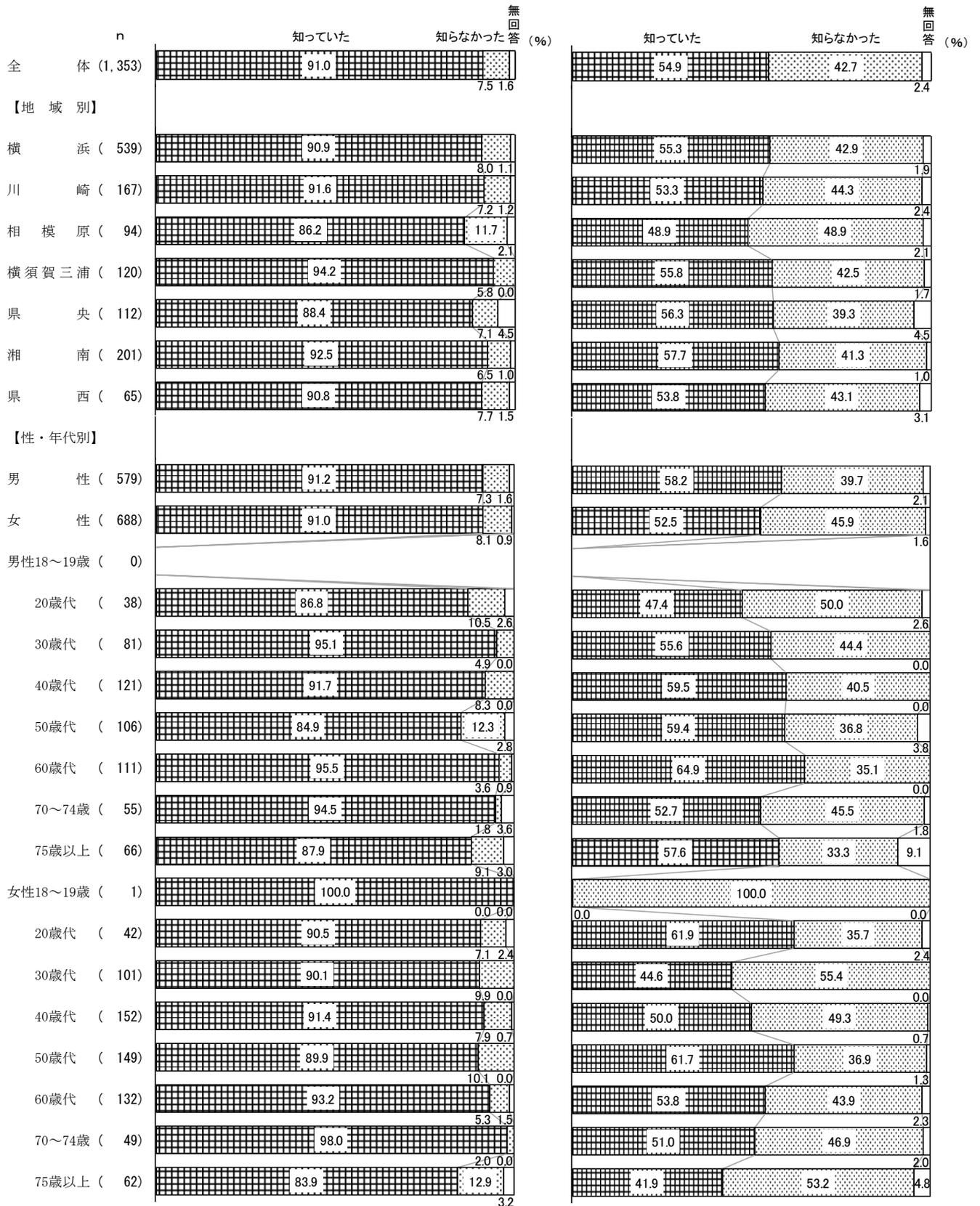
(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する



図表13-5-2 津波に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(3) 津波は、繰り返し襲ってくる

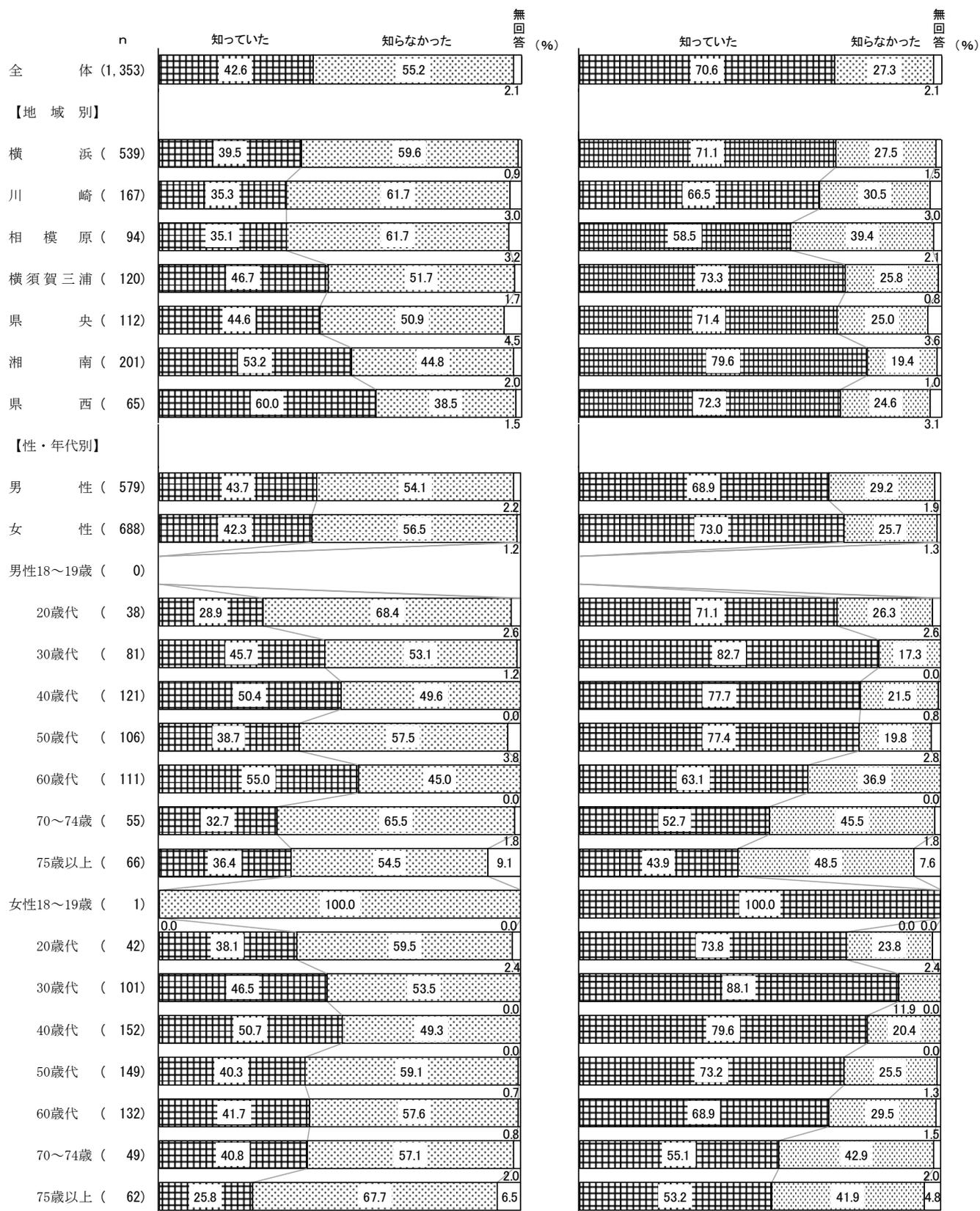
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い
 (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)



図表13-5-2 津波に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある

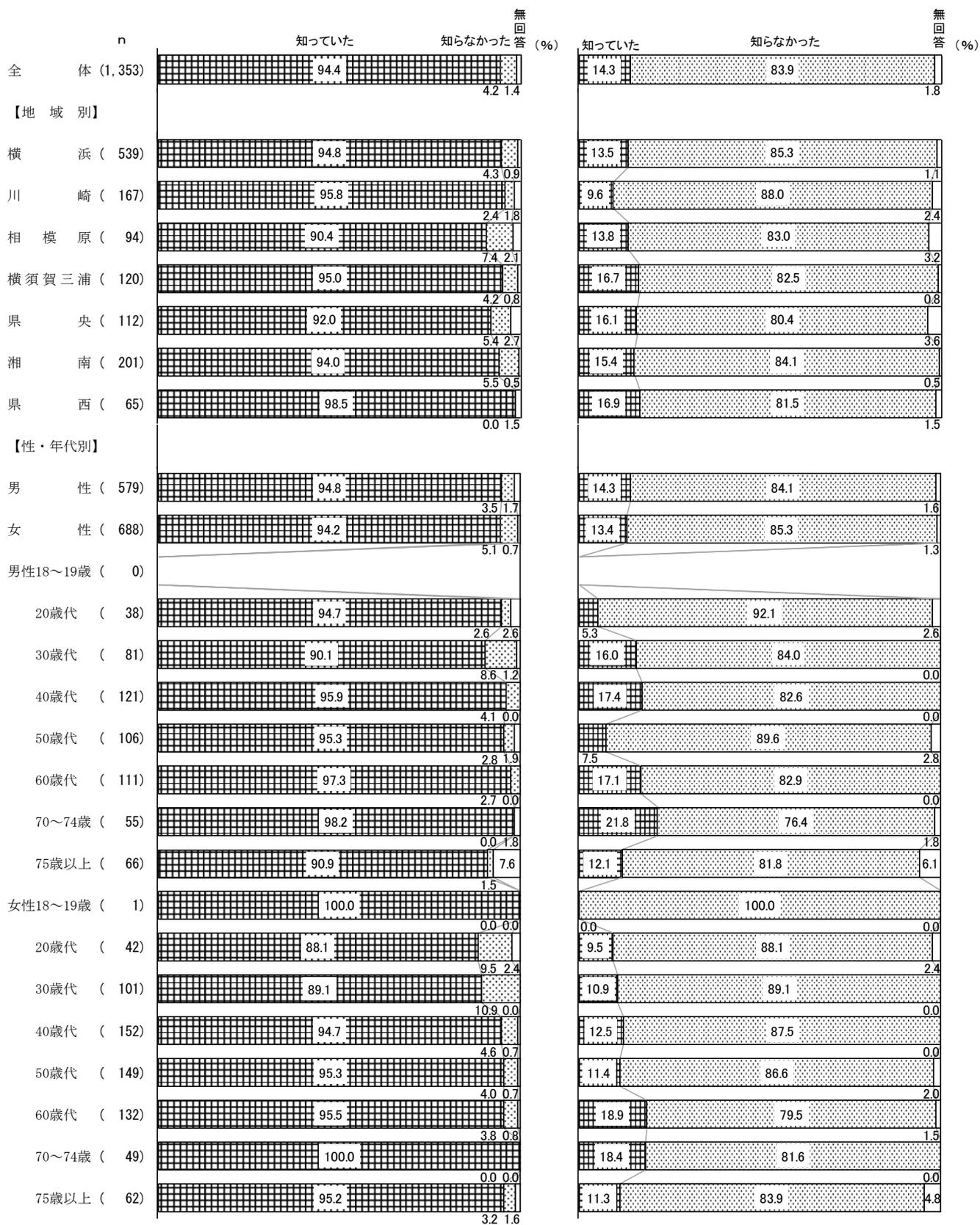
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある



図表13-5-2 津波に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある

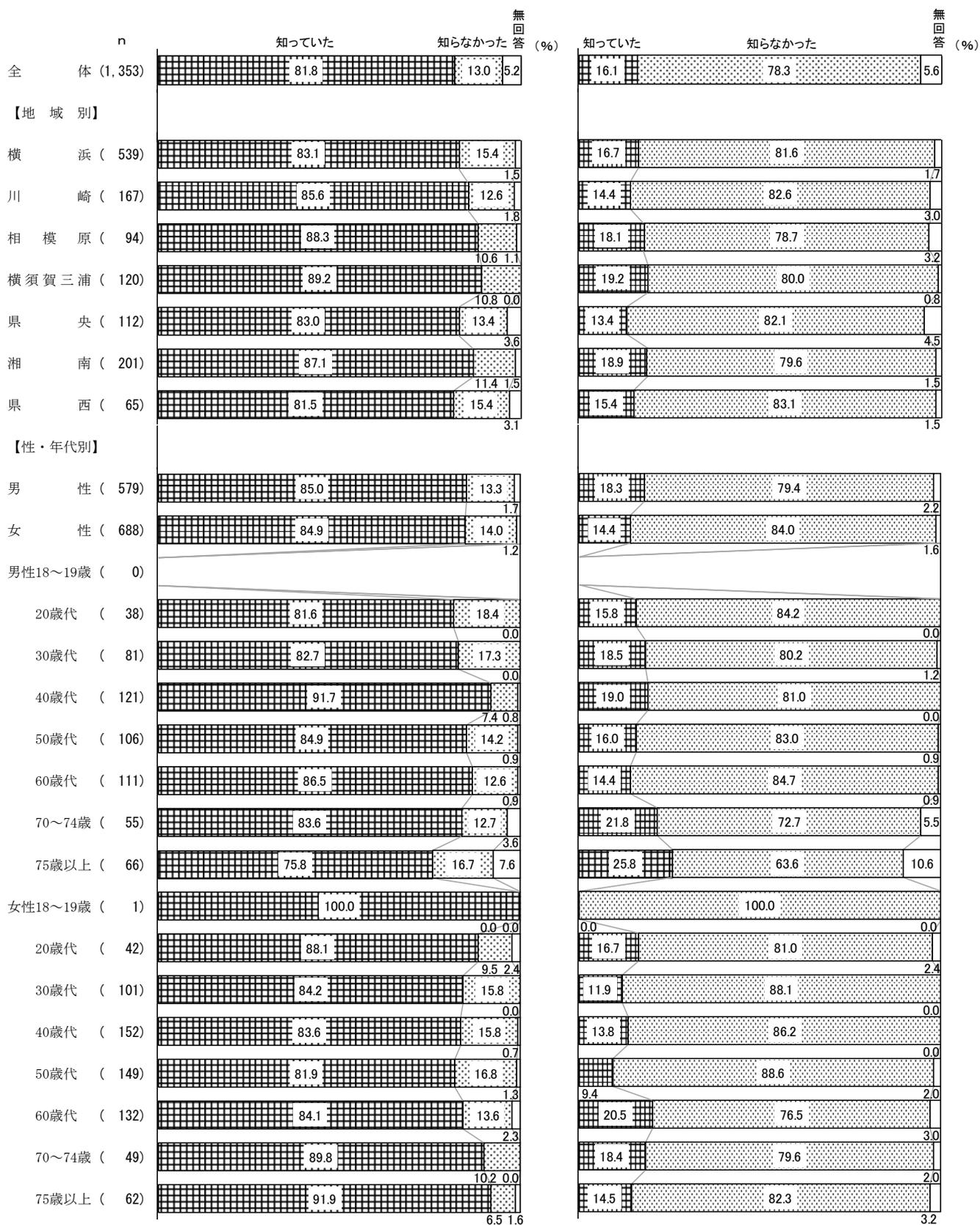
(8) 津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗（「オレンジフラッグ」といいます）が出されることがある



図表13-5-2 津波に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある

(10) 東日本大震災の教訓を踏まえて、総合的な地域づくりの中で津波防災を推進する「津波防災地域づくりに関する法律」が平成23年12月に施行された



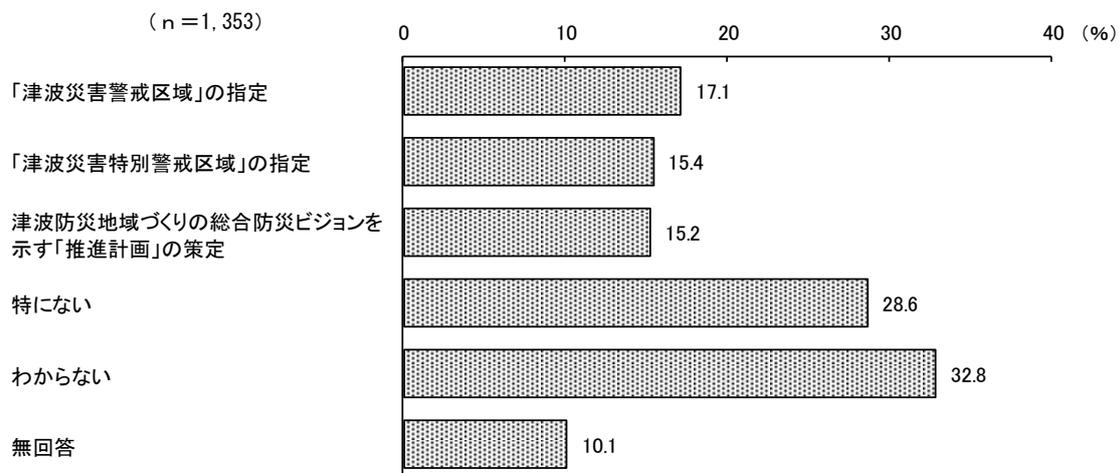
6 津波に対して実施が望まれる制度【問46】

【全体の状況】

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、「『津波災害警戒区域』の指定」が17.1%で最も多く、「『津波災害特別警戒区域』の指定」(15.4%)と「津波防災地域づくりの総合防災ビジョンを示す『推進計画』の策定」(15.2%)が続いた。

(図表13-6-1)

図表13-6-1 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「『津波災害警戒区域』の指定」は、横須賀三浦が29.2%で最も多かった。また、「『津波災害特別警戒区域』の指定」は、横須賀三浦が32.5%で最も多かった。(図表13-6-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「『津波災害警戒区域』の指定」は、女性の20歳代が31.0%で最も多く、次いで男性の50歳代が24.5%であった。(図表13-6-2)

図表13-6-2 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）—地域別、性・年代別
(%)

	n	「津波災害警戒区域」の指定	「津波災害特別警戒区域」の指定	津波防災地域づくりの総合防災ビジョンを示す「推進計画」の策定	特にない	わからない	無回答
全 体	1,353	17.1	15.4	15.2	28.6	32.8	10.1
【地 域 別】							
横 浜	539	16.1	14.3	16.1	34.1	32.7	5.8
川 崎	167	15.0	13.2	10.8	34.1	37.1	3.0
相 模 原	94	12.8	9.6	10.6	33.0	37.2	12.8
横 須 賀 三 浦	120	29.2	32.5	26.7	14.2	26.7	9.2
県 央	112	10.7	7.1	8.0	43.8	34.8	5.4
湘 南	201	21.9	18.9	18.4	17.9	38.3	8.0
県 西	65	21.5	20.0	18.5	20.0	33.8	7.7
【性・年代別】							
男 性	579	18.0	15.2	15.4	34.7	29.0	6.0
女 性	688	17.0	16.4	16.4	26.2	38.2	6.8
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	38	15.8	10.5	18.4	21.1	39.5	-
30歳代	81	23.5	14.8	19.8	23.5	39.5	-
40歳代	121	18.2	16.5	18.2	33.9	28.9	5.0
50歳代	106	24.5	20.8	18.9	35.8	20.8	6.6
60歳代	111	11.7	13.5	13.5	39.6	30.6	6.3
70～74歳	55	14.5	10.9	7.3	45.5	25.5	9.1
75歳以上	66	15.2	13.6	7.6	37.9	24.2	15.2
女性18～19歳	1	-	-	-	-	100.0	-
20歳代	42	31.0	23.8	23.8	23.8	28.6	2.4
30歳代	101	10.9	13.9	15.8	25.7	47.5	3.0
40歳代	152	15.1	16.4	16.4	27.0	40.8	4.6
50歳代	149	18.1	17.4	17.4	24.2	38.9	7.4
60歳代	132	15.2	14.4	12.1	25.8	36.4	9.8
70～74歳	49	20.4	16.3	14.3	30.6	22.4	18.4
75歳以上	62	21.0	17.7	21.0	29.0	37.1	4.8

第14章 自転車損害賠償責任保険等への加入【問47～問48】

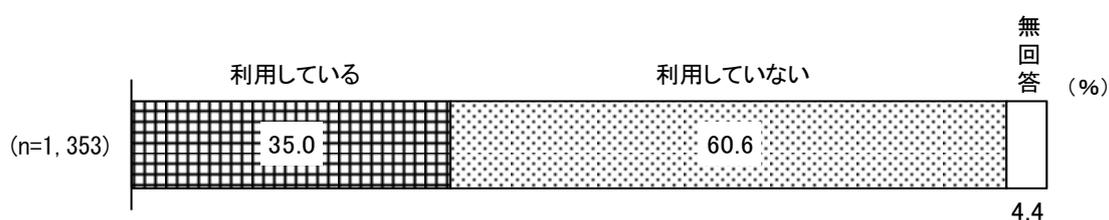
1 自転車の利用状況【問47】

【全体の状況】

通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が35.0%であった。

一方、「利用していない」は、60.6%であった。(図表14-1-1)

図表14-1-1 自転車の利用状況



【地域別の状況】

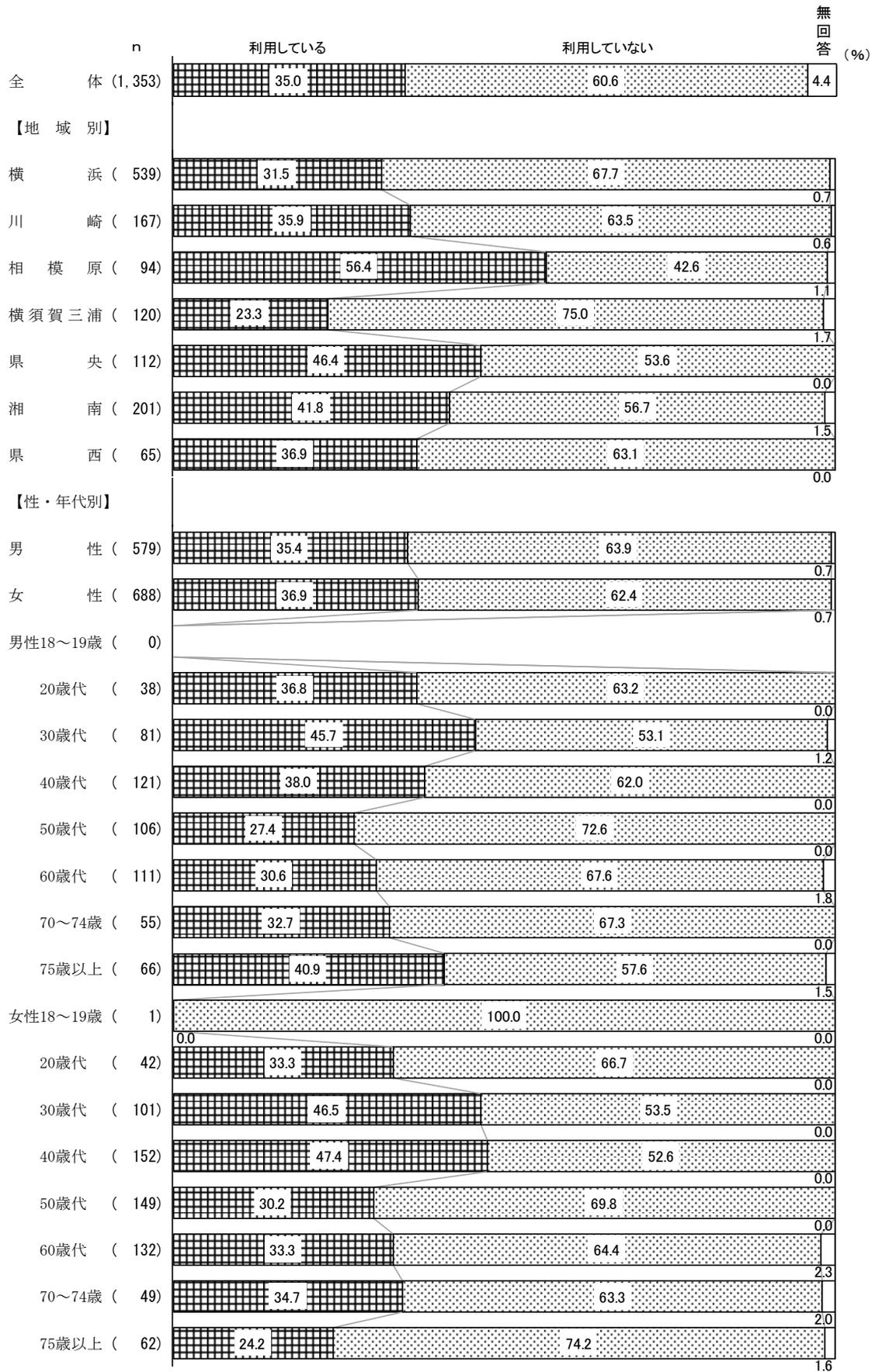
地域別にみると、「利用している」は、相模原が56.4%で最も多く、次いで県央が46.4%であった。一方、「利用していない」は、横須賀三浦が75.0%で最も多かった。(図表14-1-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「利用している」は、女性の40歳代が47.4%で最も多く、次いで女性の30歳代が46.5%であった。

一方、「利用していない」は、男性の50歳代(72.6%)と女性の75歳以上(74.2%)がともに7割台であった。(図表14-1-2)

図表14-1-2 自転車の利用状況—地域別、性・年代別



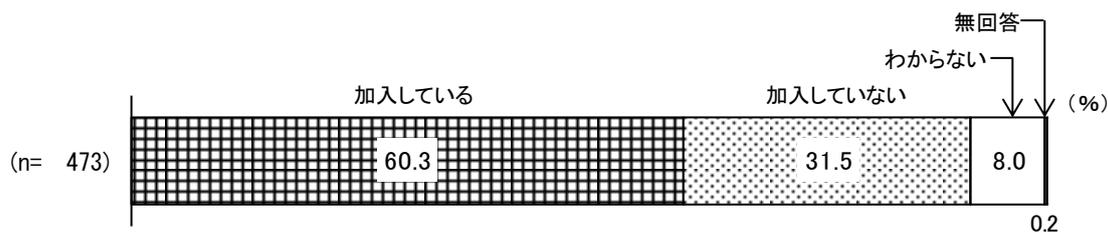
2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況【問47-1】

【全体の状況】

自転車の利用状況（問47）で、「利用している」と回答した473人に、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険（自転車損害賠償責任保険等）に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が60.3%であった。

一方、「加入していない」は、31.5%であった。（図表14-2-1）

図表14-2-1 自転車損害賠償責任保険等への加入状況



【地域別の状況】

地域別にみると、「加入している」は、相模原が71.7%で最も多かった。

一方、「加入していない」は、サンプル数の少ない県西を除くと、県央が40.4%で最も多かった。

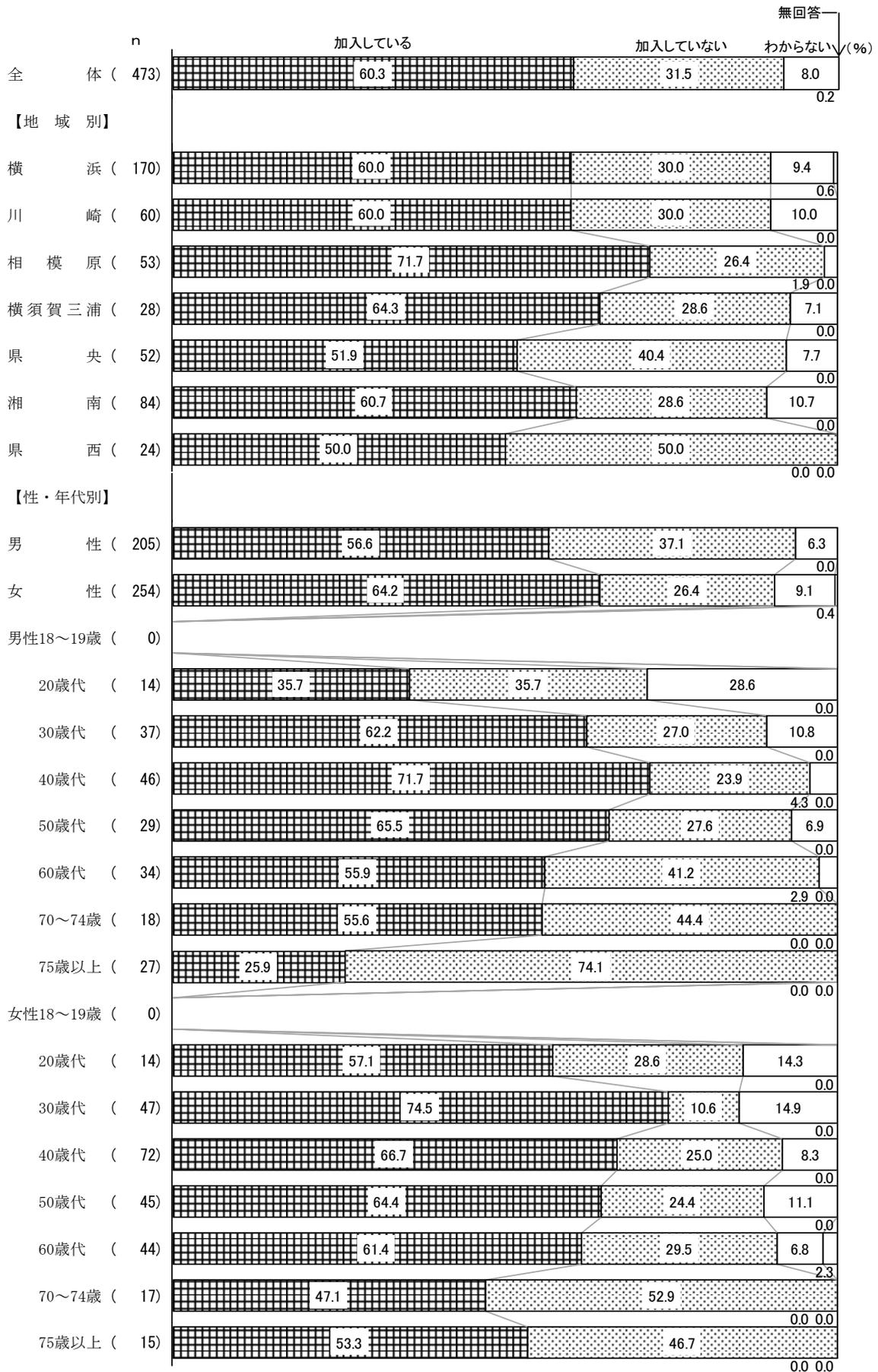
（図表14-2-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「加入していない」は、男性（37.1%）が女性（26.4%）を10.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「加入している」は、男性の40歳代（71.7%）と女性の30歳代（74.5%）がともに7割を超えた。（図表14-2-2）

図表14-2-2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況—地域別、性・年代別



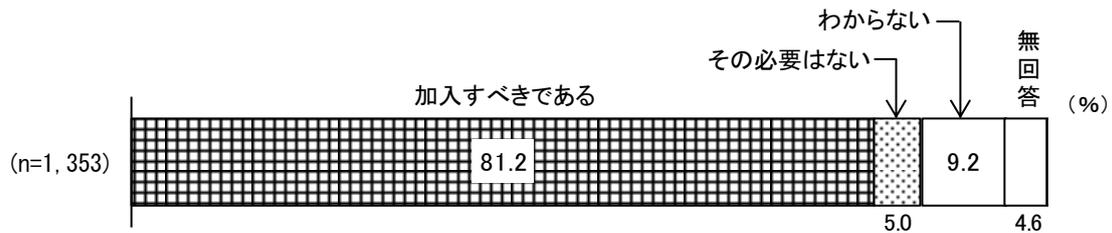
3 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え【問48】

【全体の状況】

すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に参加することについてどう思うか尋ねたところ、「加入すべきである」が81.2%であった。

一方、「その必要はない」は、5.0%であった。(図表14-3-1)

図表14-3-1 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え



【地域別の状況】

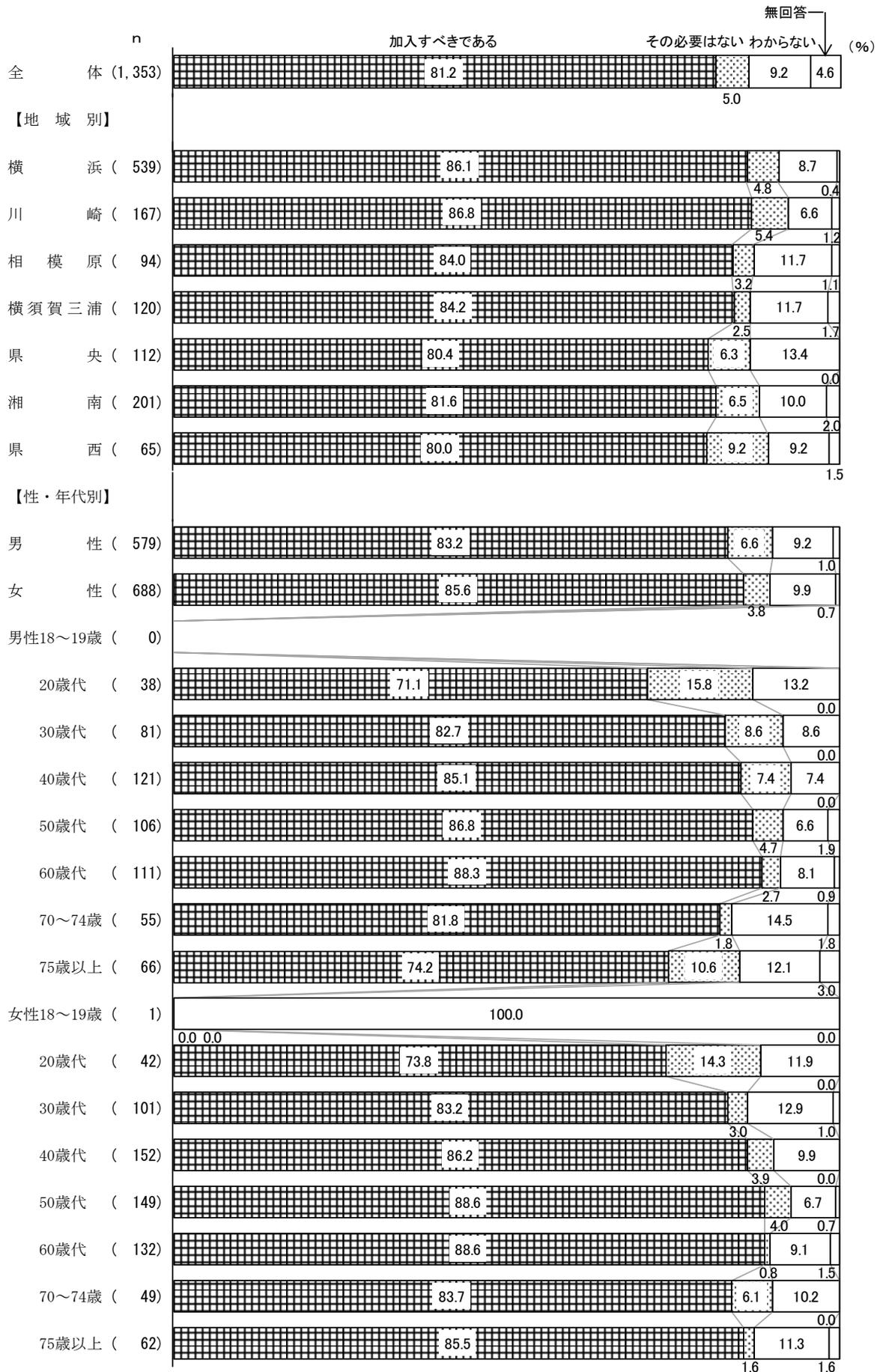
地域別にみると、「加入すべきである」は、全地域（80.0%～86.8%）で8割以上であった。なお、「その必要はない」は、全地域（2.5%～9.2%）で1割に満たなかった。(図表14-3-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「加入すべきである」は、女性の50歳代・60歳代がともに88.6%であった。一方、「その必要はない」は、男女ともに20歳代（男性15.8%、女性14.3%）が最も多かった。

(図表14-3-2)

図表14-3-2 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え—地域別、性・年代別



第IV部 調査テーマへの自由意見

調査テーマへの自由意見

質問の最後に、調査テーマに対しての意見、提案などを自由に記述してもらったところ、回答者1,353人のうち、12.0%に相当する163人から多岐にわたる意見が寄せられた。

(1) 気候変動への適応

- 気候変動の悪影響がこの3年～4年程でさらに加速していることを実感しております。地球規模で取り組まないと手遅れになる、もはや、手遅れでしょうか。恐怖であります。一人ひとりでは間に合いません。景気も良くないですが、企業・県・国・世界が取り組んでほしいです。(横浜・女性・50歳代)
- 津波は、海から遠い地域なのでピンとこないが、今年の台風の影響で、河川の氾濫等、身近にある危険を実感した。(横浜・女性・50歳代)
- 台風、地震やその他災害時のアナウンスが防災無線では、何を言っているか聞こえない。避難勧告などはメールで確認できて助かった。(湘南・女性・50歳代)
- 最近の台風被害、大雨による水害について、確かに自然災害であることに間違いはないのですが、私は人災の部分が大きいとっております。ダム湖や湖・河川等の底土の除去が日頃より行なわれていないための災害と考えます。ダム湖等の関係者の話によりますと、湖の有効活用期限は約20年と言われます。周囲に自生する樹木の枯葉の堆積や上流から流れ入る土砂等によって底が浅くなるそうで、その量は私たち一般人には想像ができないほどのことです。それに対し浚渫(しゅんせつ)作業は行なわれていない、ということです。なお、ダム湖管理者は大雨の時に湖水の水量が大幅に増加することを心配しておりました。今回の大雨による増水によって城山ダムは緊急放流を行いました。同じ様に各県各地の河川の決壊なども、底泥の堆積と考えることができます。浚渫(しゅんせつ)は多額の費用がかかるため、各自治体とも手を付けたがりませんが、残土の利用についても考えられると思います。(横浜・男性・75歳以上)

(2) 環境に配慮した生活

- 環境問題に関して興味のあるなしの差が大きいため、知識、興味を一人ひとりが持つためには、企業をあげて研修参加に取り組むことが、始まりの一步だと思います。(湘南・女性・30歳代)
- 環境問題は地球規模の課題であり、森林生態学を教える立場から興味あるものでした。有機栽培がすべて環境に良いものではないこと、環境に優しいという用語はあいまいなものであると思いました。(横浜・女性・60歳代)

(3) 生物多様性

- 神奈川県は他県と違い、外来種除去をあまり積極的に行っていないことは評価できます。外来種を除去する前に環境を改善する方が大切です。(横浜・男性・40歳代)
- 1～4のテーマに関しては、人間側の都合だけの視点であり、動植物の生態系を侵食しているのは人間側ではないかと思う。(湘南・男性・40歳代)

(4) 鳥獣被害

- 住んでいる街の公園でタイワンリスが繁殖し、その地域が、どんどん広がっているのがとても気になります。公園に来る人が餌をあげることもあり、外来種の害について知らない方も多いのではないかと思います。(横浜・女性・70~74歳)
- 現在の日本の動物保護法は、実態に即しておらず、行き過ぎた保護をしている、と思います。シカが増えすぎて、逆に自然を食い荒して破壊していることは、全国各地で報道されていますが、三浦半島や近隣の房総半島ではたぬき、猿、カラスが多すぎます。農作物(小さな家庭菜園)を食べられて、わなでたぬきを捕えても、町役場の職員が来て「法律により釈放します。」と言われ、ナンセンスだと思います。(横須賀三浦・女性・75歳以上)
- 日本にも猿、イノシシ、熊など、たくさんの種類の動物が生息しています。では、私たちはこれら動物と共に生きて行くことについての知識があるのでしょうか。日本人全体が共生について勉強する必要があるのではないかと思います。儲かるからといって売れる木材のみを植え続けるから、彼らは里に降りて来るのです。彼らは調理した料理の方が、生の栗や木の皮などの方よりうまいのを知っております。人が出払った無人の家に上りこんでおひつのふたを開けてご飯を食べます。わな・鉄砲で駆除するより山の頂き近くに彼らの好む実の成る木を植えることだと思います。そのために彼ら個々の、最も好きな食材を知る必要があります。また、その行動や生活範囲等も知るべきでしょう。(横浜・男性・75歳以上)

(5) かながわの広報

- 県のたよりの内容をもっと増やしても良いのでは。(横須賀三浦・男性・75歳以上)
- アンケートの内容は、知らないことが多かった。これらを県民に知らせる方法を考えてほしい。月1回の県の広報紙(細かな情報(お知らせ)が多過ぎてあまり見ない。)、tvk(ほとんど見ない。)、ホームページ(必要なときに、まれに見る程度)等は、私にとっては、あまり役に立ちません。県には、メルマガもあるようですが、それぞれのセクションごとのようです。できれば県全体の横断的な総合的なメルマガ(国の「首相官邸」のようなもの)を希望します。(湘南・男性・70~74歳)
- 情報化社会であるが、AIなどにより興味のある情報や広告ばかりで、県や市の情報が届きにくくなっていると感じる。(湘南・男性・40歳代)
- 基本的に若い世代は神奈川県のことをテレビでもネットでも見ません。必要な時に役所に行くだけです。今回の調査のように個別郵便で来れば、見る機会になるので良いと思います。ですので、できるだけそういう宣伝にお金をかけずに、補助、手当、給付などの目に見えて分かるところにお金を使ってください。電気自動車の購入補助なども先着であったりするので。(相模原・男性・40歳代)

(6) スポーツ

- 神奈川県としてベイスターズやマリノス、フロンターレを応援して盛り上げてほしい。(川崎・男性・30歳代)
- ラグビーワールドカップ、最高でした。相模原にヤクルトスワローズを呼んでほしい。相模原ヤクルトスワローズにしましょう。(相模原・男性・20歳代)

- スポーツをするのがとても好きなのですが、スポーツをする場所がなく、スポーツをするのを諦めてしまいます。また、スポーツをするところがあったとしても、知り合いとスポーツをするだけで終わってしまい、もう少し、知らない人や、誰とでも一緒に気軽にスポーツができる大会のようなものがあると、とても良いなと感じました。また、いろいろなスポーツをやりたいです。自分が中学や学生の時にやっていたスポーツ以外のスポーツができる人が身近にいれば、楽しそうだと思います。(県西・女性・20歳代)

(7) 地域コミュニティ

- 地域のボランティアをしています。担い手が年々減り、高齢化が進んでいます。次世代に少しでも良いものを残したいと思っています。(相模原・女性・60歳代)
- 地域コミュニティに関して、ママが孤立しないような支援の充実と、結びつけの取組をお願いします。孤独との戦いが、21世紀の重要なテーマになるものと考えます。幼稚園の情報発信が弱く、ママ友頼みなので、仲が悪くても、付き合い続けなければならないストレスによる精神的負荷が大きいように感じます。(横浜・男性・30歳代)
- 地域コミュニティに一番興味がある。大型マンションに住んでいるが、もっとつながりがほしい。子育てをしている時期は、子どもを通じた付き合いや、つながりがあるが、老後のつながりに不安がある。(横浜・女性・50歳代)

(8) 地域社会との関わり

- 今は年を取っても働いている人が多く、この先もっと多くなると思いますが、そうなりますます地域活動に参加することは難しくなります。PTAもそうですが、無駄なイベントの会合などはやめて、必要なことを効率よく短時間でできるようにすれば、参加しやすくなるのではないのでしょうか。(横浜・女性・50歳代)
- 自治会の活動が、何十年も前からやっていることを続けていて、今の暮らしや地域に住む年代と内容が合っていないから、続けることが難しいにもかかわらず、続けることがコミュニティ活動だという感じがあります。もっと今の暮らしや地域と合った自治会活動が必要だと思っています。(湘南・女性・40歳代)
- 地域社会との関わりで、地域活動というとハードルが高いですが、ご近所さんのちょっとした困りごとのお手伝いが、誰でも気軽に参加できる仕組みのようなものがあればと思います。(川崎・女性・60歳代)
- 比較的新しい地区で暮らしており、従来は、地元の方々が頑張って地域活動(祭り、老人会、公園清掃など)を牽引してくれていましたが、これからそれを外部からの転入者へ徐々に引継ぐ(一緒になって)ことが課題です。小さなイベントなどでも、自治体が少しでも支援する姿勢をみせることで、地域での盛り上がりは、衰えることなく継続し、良い方向へ行けると思います。(横浜・男性・70~74歳)
- 自治会の会館がありますが、自治会の活動のためだけでなく、フラッと立寄って、雑談できる、音楽などが聴ければ良いと思います。(横浜・男性・75歳以上)

(9) 「未病改善」の取組

- 病気とまではいかないが、何となく体調が悪いときに相談できる場所があれば良いと思います。病院に行くには大げさに感じてしまい、我慢してしまうので。(川崎・女性・30歳代)

(10) かかりつけ薬剤師・薬局

- 薬剤師に質問する前に、ネット等で調べていたりすると、それ以上の新しい回答はなかったりする。相談というより医師・医療機関との連携を強くしてほしい。(川崎・女性・50歳代)

(11) 肝炎・アルコール依存症対策

- 昭和56年頃に、肝がんの手術を受けた。その後、GOT、GOP等の数値は安定しているが、B型か、C型かは、承知していません。(横浜・男性・75歳以上)

(12) 妊娠・出産等に関するライフプランニング

- 問41に関して、小・中・高とそれぞれに伝える必要がある。伝える内容のレベルを変更する必要はあるが、教師や兄弟姉妹など、伝えるきっかけはあるはず。(川崎・女性・30歳代)
- 女性の社会進出が叫ばれますが、若いうちに、ライフプランニングとともに身体の変化をきちんと学ぶべきだと思います。(横須賀三浦・女性・50歳代)
- 不妊治療で2人の子どもを産みました。助成金はとても助かりましたが、やはり負担は大きかったです。治療代を将来の子どもの貯金にできたらいいのにと何度も思いました。妊娠する前も子どもを産んだ後も、そんな心配がないような生活がしたいです。(横浜・女性・30歳代)
- 子どもを2人、神奈川県で出産しました。神奈川県内に産院が少なく、その兼ね合いか、出産費用も高くして出産前後は家計を圧迫し、3人目が欲しくても、なかなか踏み切れません。子育てにさまざまな制度があり、利用しても家計は苦しいです。働きに出たくてもためらう人が多いこと、ライフプランを立てて出産したとしても苦労が目に見えていて、若いうちに出産に踏み切れず、30代になってやっとお金に余裕が出てきたころには、不妊治療で多額の費用が掛かります。もっと子育てしなくなる県にしてほしいです。(川崎・女性・30歳代)

(13) 地震対策の取組

- 防災情報について、避難場所の周知、どのような災害が起きた場合にどこに避難するべきなのか等、防災について知らずにいることが多くあります。パンフレットや冊子を作り、全家庭に配ってはどうでしょうか。いざという時に混乱しないような対策をとるべきだと思います。(相模原・女性・20歳代)
- 自動車のラジオでは、緊急ブザーが鳴りますが、テレビでも実施された方が良いと思います。(横須賀三浦・男性・75歳以上)
- 地震が起きたとき、全員が避難所へ入れないことや、食料や水も自分で数日分確保しておかないといけないということをもっと知らせるべきです。「誰かが助けてくれる。」という気持ちはいけないということを意識して広報してください(横浜・女性・60歳代)

- 関東大震災があった場合、帰宅困難者が多数出ると思います。首都圏内に勤める方々向けのハザードマップ等の作成を検討してほしいです。(県央・男性・75歳以上)
- 私の住んでいる地域は、近年の降水量から考えると、水没の可能性がある地域です。水害、地震、火災等が発生した場合、近くにまったく避難場所がありません。小、中、高校へは、高齢者が移動できません。是非、民間施設との連携によって、高齢者の避難場所を確保してほしいです。(横浜・女性・70～74歳)
- 津波についての対策をしっかりとってほしい。多摩川の対策をお願いします。(川崎・男性・50歳代)
- 水害用のハザードマップを見ましたが、分かりにくかったです。分かりやすいハザードマップを作っていただきたいです。(湘南・女性・40歳代)
- 地震等による災害時の被害軽減、景観、安心の観点から電柱をなくして地中化を進めてほしい。(県央・女性・50歳代)

(14) 自転車損害賠償責任保険等への加入

- 自転車保険と共に自転車にも交通ルールを守るための免許のようなものがほしい。電動自転車が、かなりのスピードで走るので危ない。(横浜・女性・60歳代)
- 交通ルールを学ぶ授業が必要だと思う。自動車免許までは必要ないが、ルールを知らずに自転車に乗る人がほとんどだと思う。家庭では、やっていないと思う。(川崎・女性・30歳代)
- 日頃、自転車通勤をしていますが、左側通行を守らない方が多く危ない、保険加入も必要だと思うが、マナーが悪い人を改善しなくてはならないと思う。(横須賀三浦・女性・50歳代)

(15) 県政一般

- 自然の変化に耐えられる環境ではない。税金を投資してインフラ整備に力を入れてほしい。(川崎・男性・50歳代)
- 神奈川県がやっていることが、いまいちピンとこない。市町村と国の間にあり中途半端である。親近感がない。県職員は何をやっていて、誰に対して誰のために仕事をしていますか。(湘南・女性・60歳代)
- 警官の夏服の改善について、知事から警察へ提言してほしい。5月になると、公務員・会社員はノーネクタイとなるが、警察のみネクタイを着用して仕事をしている。今年、現場の若い警官がワイシャツまで汗ビショリになって仕事をしていた。鉄板のベストも着用しているので暑くて大変だと言っていた。他の勤め人と同様5月から夏服にするよう警察へ申し入れてほしい。(相模原・男性・60歳代)
- 教育に関して、大学の無償化(日本人、外国人問わず)を希望。(相模原・女性・75歳以上)
- 台風19号の被害で武蔵小杉がニュースに取り上げられていたが、下沼部や中丸子も被害が大きいのに関わらず報道されなかった。被災地の支援を行政がしっかり行ってほしい。今後の災害対策もきちんと行ってほしい。(川崎・男性・30歳代)
- 今後は、大型店、集合住宅、レジャー施設が進出する場合は、必ず、法律によって、駐車場、屋上空間などを避難できる場所として設置する義務付けをしてほしい。企業は、地域によって支えられているのであるから。(横浜・女性・70～74歳)

- 県単位ではなく市区町村の取組の方が大事だと感じました。横浜市のホームページはチェックしますが、神奈川県ホームページは、見たことがありません。(横浜・女性・40歳代)
- 県として、少子化等に対する、取組が見えない。(横浜・男性・60歳代)
- 原発に頼らないシステムを行政が率先して取り組んでほしい。(横浜・女性・50歳代)
- 運転免許証の返納について、その後の交通手段等、不便さを補う制度が必要であると痛感している。是非、実施の方向を示してほしい。この調査では少し触れられていないが、重要である。(湘南・男性・75歳以上)
- いつになったら無認可の保育園への補助をしてくれるのですか。スポーツやカジノに割く財源を、なぜ、保育従事者に割けないのか。(横浜・女性・30歳代)
- 現在はI R = カジノ = ギャンブル依存症となってしまうが、間違った風評を止めるべき。県市のアピールに問題がある。外国の総合リゾート、例えばシンガポールのマリーナベイサンズは家族連れで楽しむリゾートでカジノはその中の一つにすぎない。(横浜・男性・60歳代)
- 県道57号沿いに住んでいる者です。住居の前がすぐ道路になっているのですが、県道のため大型車の通りが多く、スピードをかなり出している大型車が多いです。そのため、通るたびに家屋の揺れが激しく、精神に来る時があります。歩道を歩いていても恐怖を感じます。小さな子どもも大勢歩く歩道の横を猛スピードで大型車が通ります。道路にランプを設置したり、信号の切り替え時間を調整するなどして、スピード対策をしていただけないでしょうか。(相模原・女性・30歳代)
- 公共施設へのアクセスや移動の方法について論じてほしい。(県央・男性・60歳代)

(16) その他(世論調査について等)

- 質問が偏っている。限定的。政治、福祉、など、多方面にニーズはあるはずです。(湘南・女性・50歳代)
- 現在のお仕事に関する設問で、職種の選択肢が少ない。職種の定義がよく分からない。(横浜・男性・20歳代)
- 質問数が多すぎる。テーマが多すぎてすべて熟考して答えるには無理があり、正確な回答を得ることができないのではないかと感じます。またボランティアという言葉が多く出ていますが、その定義があいまいのように思います。経済的に苦しい人が多い現代、有償でなければ行動に移すことは難しいのではないかと感じます。(湘南・女性・50歳代)
- 今回の調査は税金で行われていることと思いますが、この調査を実施する意味があるのか、納得できません。この調査結果で、行政の役割、仕事内容、県のこの先の方向性が変わるのでしょうか。このような調査そのものが税金の無駄遣いになっていないのか、と思います。(横浜・女性・50歳代)
- 独身なので終活に向けて、少しずつ準備しています。身内に迷惑をかけないように。(横浜・女性・60歳代)
- 質問によっては回答内容が多過ぎる場合がある。重複しているのではと思う内容もあった。(県央・男性・75歳以上)
- このアンケートは、家族の中で私にしか届いていません。県民全員に出して一人ひとりの意見を聞いた方が良いのではと思う。環境問題などは、一人ひとりが考えなければいけない。気候変動問題もみんなが考えるべき問題だと思う。(川崎・女性・50歳代)

- テーマではないのですが、折り目のある位置にちょうどホチキスの針があり、どうしたら良いか分かりませんでした。あと、用語の説明が大変勉強になりました。提出して手元に置いておけないのが残念です。(川崎・女性・50歳代)
- 「今後の県の施策を検討する基礎資料とする」とありますが、質問の内容が多岐にわたり過ぎていたと思いました。ピンポイントとまでは言わないが、一つのテーマを掘り下げた方が良いのではと思いました。できれば、年代別に同じアンケートで調査するなど。(横浜・女性・75歳以上)
- 集計が大変なのは分かりますが、質問に対する選択肢が大雑把で、少ないと思う。このアンケートがどう活かされるのかが見えてこない(横浜・女性・40歳代)
- 調査結果よりも、この調査をどう活かすのか、活かしたのかを知りたい。たとえば、問22はどう活かされるのか、聞いてどうするのか、想像がつかない。(湘南・女性・50歳代)
- 県民調査は、県民の利益に反映されなければならない。(横浜・男性・60歳代)
- テーマではありませんが、誰もがスマホ、パソコンを持っているわけではありません。情報を何でもかんでもホームページなどに載せるのをなくしてほしい(横須賀三浦・女性・40歳代)
- 改めて聞かれると、知っているつもりだった(よく理解していなかった)ということが多く感じました。県の情報を有効活用したいと思った。(湘南・女性・40歳代)
- なぜ、今、この質問なのか、目的、理由が分からない。(横浜・男性・50歳代)
- 質問文や選択肢が長いものは、若い世代は回答しないおそれがあると感じる。(横浜・男性・50歳代)
- 知らなかった単語や項目を知ることができる良い機会になった。(横浜・女性・20歳代)
- 未就学の子どもがいて、二人目を妊娠している状況で、フルタイムで勤めています。実家は遠方で頼りません。その状況でこの量のアンケートの回答は非常に負担を感じました。また、「回答一時保存確認」というところが最後までスクロールしないと出てこないことに不便を感じました。下までスクロールせずとも途中で保存できるようにしていただけると、私のような環境の方でも、この量のアンケートへの回答がしやすいと思います。(湘南・女性・30歳代)
- このようなアンケートを実施することは、県民の意識を県が把握する上で、非常に有意義だと思います。なお、回答画面を開いてから30分を超えると入力内容が消えるというのは、アンケートのボリュームからすると、特に慣れてない方には短すぎると思います。せめて60分は必要だと思います。(横浜・男性・30歳代)

第 V 部 調査票と単純集計結果

調査票と単純集計結果

調査期間 令和元年11月1日～11月25日
標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,353 (45.1%)
*「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
*比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
合計が100%にならないことがある。

令和元年度(2019年)

神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【アンケートのテーマ】

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1 気候変動への適応 | 8 地域社会との関わり |
| 2 環境に配慮した生活 | 9 「未病改善」の取組 |
| 3 生物多様性 | 10 かかりつけ薬剤師・薬局 |
| 4 鳥獣被害 | 11 肝炎・アルコール依存症対策 |
| 5 かながわの広報 | 12 妊娠・出産等に関するライフプランニング |
| 6 スポーツ | 13 地震対策の取組 |
| 7 地域コミュニティ | 14 自転車損害賠償責任保険等への加入 |

◆ 記入上の注意

- 1 この調査のご回答は、封筒のあて名のご本人様にお願いいたします。
- 2 お名前、ご住所の記入は不要です。
- 3 お答えは、直接、この調査票のあてはまる番号を○で囲んでください。
- 4 ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 5 わかる質問だけお答えいただければ結構です。

▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、11月25日(月)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)

▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。**

この調査票についてわからないことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ 電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15 (土日祝日は閉庁)

○ 問合せフォーム (11月25日までの期間限定)

県民ニーズ調査HP (<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

の下部に掲載している「令和元年度調査対象者」向けお問合せフォームから送信してください。

気候変動への適応

問1 あなたは、「気候変動への適応」について知っていますか。(○は1つ) (n=1,353)(%)

- | | | | |
|---------------|------|------------------------|-----------|
| 1 知っている | 42.9 | 3 知らなかった(今回の調査で初めて知った) | 26.8 |
| 2 言葉は聞いたことがある | 27.1 | | (無回答 3.3) |

近年、気温上昇や大雨の頻度増加などの気候変動により、健康や自然災害などの分野への影響がすでに現れており、今後地球温暖化が進むとこれらの影響はさらに大きくなる恐れがあります。こうした気候変動の影響による被害を避けたり、軽減することを「気候変動への適応」といいます。

問2 あなたは、「気候変動への適応」に関心がありますか。(○は1つ) (n=1,353)(%)

- | | | | | | |
|-----------------|------|-----------------|-----|---------|-----------|
| 1 関心がある | 52.0 | 3 どちらかといえば関心がない | 4.2 | 5 わからない | 2.1 |
| 2 どちらかといえば関心がある | 37.6 | 4 関心がない | 1.1 | | (無回答 3.0) |

【問2で「1、2(関心がある)とお答えの方に】

問2-1 次の「気候変動への適応」の中から、あなたが特に関心のあるものを2つまで選んでください。(○は2つまで) (n=1,213)(%)

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 1 リンゴやミカン、米などの農作物の品質が低下することへの対処 | 8.2 |
| 2 海藻が消失して貝などの漁獲量が減少するなど、水産業への被害の対処 | 7.0 |
| 3 ダムや湖の水温が上昇し、水質が悪化することへの対処 | 3.2 |
| 4 気温・水温の上昇により森林や海、湖などの生態系が変化することへの対処 | 35.4 |
| 5 水害をもたらす高い波や土砂災害などの自然災害が増加することへの対処 | 53.8 |
| 6 熱中症や蚊による感染症などの健康被害が拡大することへの対処 | 16.8 |
| 7 強い台風や激しい雨による交通・電気・水道などのインフラへの被害の対処 | 65.5 |
| 8 その他 | 0.6 |

(無回答 3.6)

【問2で「3、4(関心がない)とお答えの方に】

問2-2 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しいと思うのはなぜですか。次の中から2つまで選んでください。(○は2つまで) (n=72)(%)

- | | |
|---|------|
| 1 気候変動によりどのような影響があるのかよくわからないから | 30.6 |
| 2 気候変動による影響の危機感が感じられないから | 29.2 |
| 3 具体的に何をしたらいいのかわからないから | 41.7 |
| 4 「気候変動への適応」は個人よりも国や自治体、大企業が率先して取り組むべきだから | 20.8 |
| 5 その他 | 8.3 |
| 6 特に理由はない | 11.1 |

(無回答 一)

環境に配慮した生活

- 問3 あなたは、多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)
- | | | | | | |
|------------|------|--------------|------|-------------|------|
| 1 購入したいと思う | 29.1 | 2 購入したいと思わない | 17.7 | 3 どちらともいえない | 51.1 |
|------------|------|--------------|------|-------------|------|
- (無回答 2.1)
- 問4 あなたは、多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)
- | | | | | | |
|------------|------|--------------|------|-------------|------|
| 1 購入したいと思う | 45.1 | 2 購入したいと思わない | 10.9 | 3 どちらともいえない | 42.1 |
|------------|------|--------------|------|-------------|------|
- (無回答 1.9)
- 問5 あなたは、興味のある環境問題について情報を収集していますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)
- | | | | | | |
|----------|------|-----------|------|-------------|------|
| 1 収集している | 24.0 | 2 収集していない | 43.2 | 3 どちらともいえない | 30.3 |
|----------|------|-----------|------|-------------|------|
- (無回答 2.5)
- 問6 あなたは、NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)
- | | | | |
|----------------------|------|-------------|-----------|
| 1 参加したいと思う、すでに参加している | 11.2 | 3 どちらともいえない | 55.3 |
| 2 参加したいと思わない | 31.6 | | (無回答 1.9) |
- 問7 あなたは、企業等の持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)
- | | | | | | |
|--------------|------|----------------|------|-------------|------|
| 1 生かされていると思う | 42.1 | 2 生かされていると思わない | 20.7 | 3 どちらともいえない | 35.1 |
|--------------|------|----------------|------|-------------|------|
- (無回答 2.1)

生物多様性

- 問8 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)
- | | | | |
|-----------------------|------|------------------------|-----------|
| 1 言葉の意味を知っている | 37.0 | 3 知らなかった(今回の調査で初めて知った) | 28.5 |
| 2 意味は知らないが言葉は聞いたことがある | 32.2 | | (無回答 2.4) |

「生物多様性」とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。※

こうした様々な自然や生きものたちが育む水や空気、食べ物などの恵みにより、私たちの暮らしは支えられています。

そのことを理解し、生物多様性を守り、その恵みを将来に引き継いでいくことが大切です。

※ 専門的には、「生態系」、「生物の種」、「遺伝子」の3つのレベルで違いがあることをいいます。(生物多様性に関する条約より)

- 問9 神奈川県における生物多様性の保全について、あなたは、どの取組が重要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(○は3つまで) (n=1, 353) (%)
- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組 | 84.8 |
| 2 希少な動植物を保護する取組 | 38.7 |
| 3 外来生物を防除する取組 | 59.8 |
| 4 野生動物による被害を軽減する取組 | 25.9 |
| 5 一人ひとりの「生物多様性の理解と行動」に役立つ取組 | 33.5 |
| 6 その他 | 1.0 |
| 7 わからない | 3.5 |
- (無回答 2.4)

問 10 生物多様性について知る、または行動する機会として、あなたは、どの取組に参加したいと
 思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1	生物多様性の保全などに関する講座や研修会	15.6
2	自然や生きものとふれあう自然観察会	30.5
3	身近な生きものの生息状況などを調査する活動	17.3
4	緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動	37.5
5	みどりの保全などに対する募金や寄付	20.7
6	その他	1.7
7	参加したいとは思わない	17.8

(無回答 10.2)

鳥獣被害

問 11 神奈川県では、人と野生鳥獣とのあつれきにより、農林業被害、人身被害、生活被害などが発
 生しています。そのような被害を及ぼす野生鳥獣として、次の中からあなたが知っているものを
 すべて選んでください。(〇はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1	サル	68.4	6	ハクビシン	61.2	11	ムクドリ	33.2
2	イノシシ	74.2	7	タヌキ	33.8	12	カラス	75.4
3	ニホンジカ	33.1	8	アナグマ	11.2	13	その他	1.8
4	ツキノワグマ	29.3	9	クリハラリス(タイワンリス)	23.7	14	どれも知らなかった	1.9
5	アライグマ	39.4	10	ヒヨドリ	15.2			

(無回答 3.8)

問 12 あなたが、神奈川県で鳥獣被害が生じる原因だと思うことは何ですか。次の中からあてはまる
 ものをすべて選んでください。(〇はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1	農業従事者の高齢化	28.7	7	地球温暖化による生息環境の変化	56.2
2	狩猟者の減少	29.7	8	外来生物の移入	46.6
3	中山間地域※の過疎化	34.1	9	野生鳥獣の生態に関する知識のなさ	22.8
4	耕作放棄地の増加	32.0	10	その他	4.4
5	観光客による餌付け	41.6	11	わからない	4.5
6	収穫されない果実や廃棄された野菜等による誘引	19.6			

(無回答 3.6)

※ 中山間地域とは、山間地及びその周辺で、傾斜地が多いなど地形的条件が悪い地域をいいます。

問 13 鳥獣被害問題を解決するために、あなたは、どのような取組であれば参加したいと思えますか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1	農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修	28.8
2	鳥獣被害の見分け方を学ぶ研修	17.0
3	鳥獣被害を防ぐためのやぶ刈作業※、防護柵の設置等の実技研修	19.3
4	狩猟免許の取得	6.4
5	担い手不足解消のための農業ボランティア	19.2
6	その他	4.4
7	わからない	36.7

(無回答 6.7)

※ 草木が生い茂るやぶは、鳥獣の隠れ場になり、体の大きな野生鳥獣を農地に近づけやすくしてしまいます。

かながわの広報

問 14 神奈川県では、「県のたより」などの広報紙や県提供のテレビ・ラジオ番組、インターネット、ホームページなどを通じて、いろいろな県政情報をお伝えしています。あなたは、神奈川県が県政の情報を十分に伝えていると思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 伝えていると思う	9.3	4 伝えていないと思う	9.8
2 どちらかといえば伝えていると思う	38.9	5 わからない	23.8
3 どちらかといえば伝えていないと思う	14.2		(無回答 4.1)

問 15 神奈川県が県政情報をお伝えする広報媒体について、知っているものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	75.2	5 県のホームページ	29.6
2 県のインターネット動画サイト「かなチャンTV」	5.3	6 県のSNS (Twitter、Facebookなど)	3.7
3 県提供のテレビ番組 (tvk「カナフルTV」)	18.0	7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	24.2
4 県提供のラジオ番組 (FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	14.0	8 新聞での紙面広報	19.4
		9 タウン誌、ミニコミ誌など	25.3
		10 知っているものはない	8.1
			(無回答 4.3)

問 16 あなたは、神奈川県の情報(事業や行事、お知らせなど)を、どこから入手していますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	64.2	7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	19.5
2 県のインターネット動画サイト「かなチャンTV」	1.7	8 新聞での紙面広報	22.0
3 県提供のテレビ番組 (tvk「カナフルTV」)	10.3	9 テレビ・ラジオのニュースなど	24.2
4 県提供のラジオ番組 (FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	7.1	10 一般のホームページ	7.5
5 県のホームページ	16.9	11 一般のTwitterやFacebook	3.9
6 県のSNS (Twitter、Facebookなど)	3.2	12 タウン誌、ミニコミ誌など	20.0
		13 家族や知人、町内会など周囲の人から	19.1
		14 その他	0.8
		15 どこからも入手していない	9.5
			(無回答 3.7)

問 17 神奈川県が情報を発信する上で、今後、積極的に力を入れたほうがよいと思う広報の方法は何か。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(○は3つまで) (n=1, 353) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	45.7	5 県のホームページ	27.1
2 県のインターネット動画サイト「かなチャンTV」	7.3	6 県のSNS (Twitter、Facebookなど)	14.7
3 県提供のテレビ番組 (tvk「カナフルTV」)	13.8	7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	19.4
4 県提供のラジオ番組 (FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	6.9	8 新聞での紙面広報	20.3
		9 タウン誌、ミニコミ誌など	17.6
		10 その他	3.1
		11 特になし	9.2
			(無回答 11.0)

スポーツ

問 18 あなたは、この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 週に5日以上(年251日以上)	10.2	5 月に1~3日程度(年12日~50日)	14.2
2 週に3日程度(年151日~250日)	15.9	6 3ヶ月に1~2日程度(年4日~11日)	6.6
3 週に2日程度(年101日~150日)	14.6	7 年に1~3日程度	11.7
4 週に1日程度(年51日~100日)	13.5	8 わからない	10.1

(無回答 3.3)

※ 1日30分とは、1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。

また、運動やスポーツとは、ルールや決まりに基づいて活動する陸上競技や球技、武道だけではなく、体操、ダンス、レクリエーションとして行われる身体活動や、ウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問 19 あなたは、「3033(サマルササ)運動※」について知っていますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 言葉の意味を知っている	5.0	3 知らなかった(今回の調査で初めて知った)	81.6
2 言葉は聞いたことがある	10.6		(無回答 2.9)

※ **3033(サマルササ)運動**とは、1日30分、週3回、3ヶ月間継続して運動やスポーツを行い、運動やスポーツを暮らしの一部として習慣化する取組のことをいいます。

問 20 あなたは、「総合型地域スポーツクラブ※」について知っていますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 言葉の意味を知っている	7.5	3 知らなかった(今回の調査で初めて知った)	75.7
2 言葉は聞いたことがある	13.9		(無回答 2.9)

※ **総合型地域スポーツクラブ**とは、地域住民が主体となって運営する多種目、多世代、多志向型のスポーツクラブのことをいいます。

問 21 あなたは、「かながわパラスポーツ※」について知っていますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 言葉の意味を知っている	4.4	3 知らなかった(今回の調査で初めて知った)	79.7
2 言葉は聞いたことがある	13.1		(無回答 2.8)

※ **かながわパラスポーツ**とは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることをいいます。

問 22 あなたは、この秋横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019を観戦しましたか。

(○はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1 直接試合会場で観戦した	1.4
2 ファンゾーン※で観戦した	0.9
3 ファンゾーン以外のパブリックビューイング※で観戦した	0.5
4 テレビで観戦した	72.1
5 その他	1.0
6 全く観戦しなかった	21.7

次のページの
問 22-1 にお答え
ください。

(無回答 3.4)

※ **ファンゾーン**とは、ラグビーワールドカップ2019の開催期間中、各開催都市に設置されるイベントスペースです。

※ **パブリックビューイング**とは、広場や競技場などに大型スクリーンを設置し、大勢でスポーツの試合などを見ることをいいます。

【問 22 で「1～4（観戦した）」とお答えの方に】

問 22-1 ラグビーワールドカップ 2019 を観戦して、ラグビーに対して興味を持ちましたか。

(○は1つ) (n=1,001) (%)

1 以前からファンだったが、さらに興味が深まった	17.9
2 ワールドカップを見て、ラグビーに興味を持った	62.6
3 どちらともいえない	13.4
4 特に興味は持てなかった	4.2
5 その他	1.0

(無回答 0.9)

地域コミュニティ

問 23 あなたは将来、親や子、親族の近くに、あるいは一緒に住みたいという考えがありますか。(○は1つ)

(n=1,353) (%)

1 ある	24.3	4 ない	9.2
2 どちらかといえばある	27.9	5 わからない	10.9
3 どちらかといえばない	6.0	6 すでに近くに、あるいは一緒に住んでいる	18.8

(無回答 3.0)

問 24 あなたは日頃、地域において、どの年代の人とコミュニケーションを取っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

(n=1,353) (%)

1 年代は問わず取っている	28.4	4 30代	16.6	7 60代	26.5	10 取っていない	21.1
2 10代以下	4.2	5 40代	21.4	8 70代	23.5		
3 20代	6.1	6 50代	22.4	9 80代以上	8.8		

(無回答 2.9)



【問 24 で「1～9（取っている）」とお答えの方に】

問 24-1 その年代の方とのコミュニケーションに期待しているものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

(n=1,028) (%)

1 楽しさが得られる	52.6	5 知恵をもらえる	44.8
2 元気をもらえる	42.0	6 一人ではないと感じ、安心できる	30.7
3 悩み事を相談できる	24.3	7 その他	2.0
4 情報が得られる	69.2	8 期待するものはない	6.8

(無回答 0.2)

【全員の方がお答えください】

問 25 あなたが思い描く「地域コミュニティ」のイメージはどの範囲ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

(n=1,353) (%)

1 範囲にこだわらず幅広い	27.3	6 保育園、幼稚園でのつきあい	14.8
2 向こう三軒両隣程度	12.9	7 小学校の学区でのつきあい	21.0
3 自宅の周囲で 20 軒程度	7.5	8 中学校の学区でのつきあい	12.4
4 自治会、町内会	54.5	9 その他	2.7
5 自宅から徒歩 15 分程度	12.0	10 わからない	7.5

(無回答 3.6)

地域社会との関わり

問 26 長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしていますか。(○は1つ)
(n=1, 353) (%)

1 そう思う 67.8 2 そう思わない 27.8 (無回答 4.4)

問 27 あなたが退職後や 65 歳以降の人生でやりたいと考えていること(すでに迎えている方は現在やっていること)は何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)
(n=1, 353) (%)

1 地域活動(ボランティア、自治会等)	5.3	5 子・孫・家族の世話	8.7
2 趣味の活動(運動等を含む)	43.3	6 その他	1.3
3 学びなおし(大学、市町村・民間等が実施する各種講座等)	4.7	7 考えていない	9.5
4 仕事	10.2		(無回答 16.9)

問 28 地域活動(ボランティア、自治会等)の参加頻度について、次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)
(n=1, 353) (%)

1 週に3回以上	1.4	4 半年に1、2回程度	8.4
2 週に1、2回程度	4.3	5 年に1、2回程度	15.2
3 月に1、2回程度	14.0	6 参加していない	53.4
			(無回答 3.4)

【問 28 で 4、5、6 のいずれかをお選びの方に】 ←

問 28-1 地域活動の参加の妨げとなる理由として特にあてはまるものを1つ選んでください。

(○は1つ) (n=1, 041) (%)

1 時間がない	38.3	4 健康面に不安がある	7.9
2 参加するきっかけがない	22.6	5 関心がない	13.6
3 他人と関わるのがおっくうである	10.0	6 その他	4.1

(無回答 3.5)

【全員の方がお答えください】

問 29 地域活動に関して、あなたはどのような支援やきっかけがあれば参加しやすくなると思いますか。次の中から特にあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)
(n=1, 353) (%)

1 知人や家族等からの誘い	51.4	4 景品等	6.9
2 広告、チラシやウェブサイト、SNS等による情報提供	16.3	5 その他	7.4
3 学校や職場等からの働きかけ	10.6		(無回答 7.4)

問 30 あなたが住んでいる地域について、特に課題だと感じていることは何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)
(n=1, 353) (%)

1 自治会等の地域活動の担い手が不足している	23.2
2 地域のつながりが希薄である	19.3
3 地域活動に新たに参加しにくい	16.5
4 地域活動をする場所が不足している	2.4
5 交通の便が悪く、外出(買い物・通院等)が困難である	4.3
6 その他	3.9
7 特にない	25.1

(無回答 5.3)

「未病改善」の取組

問 31 あなたは、「未病(ME-BYO)」という言葉を知っていますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

- | | | | |
|------------|------|--------------------------|------|
| 1 聞いたことがある | 61.4 | 2 聞いたことがない(今回の調査で初めて聞いた) | 36.1 |
| | | (無回答 2.4) | |

「未病」とは、健康と病気を二分論の概念で捉えるのではなく、心身の状態は「健康」と「病気」の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。

健康 未病 病気

【問31で「1 聞いたことがある」とお答えの方に】

問 31-1 あなたは、「未病(ME-BYO)」の言葉の意味を知っていますか。(○は1つ) (n=831) (%)

- | | | | |
|---------------|------|------------------------------|------|
| 1 言葉の意味を知っている | 67.1 | 2 言葉の意味は知らなかった(今回の調査で初めて知った) | 31.3 |
| | | (無回答 1.6) | |

【全員の方がお答えください】

問 32 あなたは、過去の1年間で「未病改善※」の取組(バランスの良い食事、運動、人との交流等)を以前と比べて行うようになったと思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

- | | |
|-----------------------------|------|
| 1 もともと行っており、今も行っている | 31.7 |
| 2 以前ほどではないが、少しずつ行っている | 18.0 |
| 3 以前は行っていたが、まったく行わなくなった | 2.7 |
| 4 以前は行っていなかったが、行うようになった | 5.2 |
| 5 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった | 14.5 |
| 6 以前から行っておらず、今も行っていない | 24.2 |

(無回答 3.7)

※「未病改善」とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことです。神奈川県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組を進めています。

「食」： 毎日の食生活を見直し、健康的な食生活へ改善すること。オーラルフレイル(心身の機能の低下につながる口腔機能の虚弱な状態)対策も重要です。

「運動」： 日常生活にスポーツや運動を取り入れること。質の良い睡眠も重要です。運動には、陸上競技や球技、武道などだけでなく、レクリエーションとして行われる身体活動やウォーキング、ラジオ体操なども含まれます。

「社会参加」： ボランティアや趣味の活動等で他者と交流し、社会とのつながりを持つこと。

問 33 あなたが、「未病改善」の取組(バランスの良い食事、運動、人との交流等)をするにあたって必要だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(○は3つまで)

(n=1, 353) (%)

- | | |
|---|------|
| 1 医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス | 41.7 |
| 2 健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報 | 38.7 |
| 3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口 | 7.7 |
| 4 スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設 | 42.3 |
| 5 家族、友人等、一緒に健康に良い行動ができる仲間 | 37.9 |
| 6 自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど | 34.0 |
| 7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス | 3.7 |
| 8 将来(10~20年後)の自分に起こりうる健康リスク(生活習慣病や認知症など)を知ること | 24.2 |
| 9 その他 | 1.8 |
| 10 特になし | 3.7 |

(無回答 3.7)

かかりつけ薬剤師・薬局

かかりつけ薬剤師・薬局は、一人ひとりの服薬状況を把握し、薬の飲み合わせや副作用などの相談をはじめ、日常の健康相談に応じる役割を担っています。

問 34 あなたは、医療機関で処方箋を受け取った場合、どのような基準で薬局を選びますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(〇は1つ) (n=1, 353) (%)

1	かかりつけの薬剤師がいる	9.5
2	処方箋を受け取った医療機関からの距離が近い	62.9
3	自宅からの距離が近い	14.4
4	利用している駅やバス停の近くにある	1.7
5	ドラッグストアやスーパーマーケット等に併設されている	3.7
6	市販薬や衛生用品の取り扱いがある	0.4
7	待ち時間が少ない	2.2
8	その他	1.5

(無回答 3.8)

問 35 あなたは、薬局で調剤された薬を受け取る時以外に、いつどのように薬の効き目や副作用等に関することを、薬局の薬剤師に相談したいですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(〇は1つ) (n=1, 353) (%)

1	薬を服用している期間中に体調に変化があり、副作用等を疑うとき	37.7
2	自身の体調の変化や薬剤師の判断に関係なく、気になったときにいつでも(薬局に立ち寄って相談)	17.2
3	自身の体調の変化や薬剤師の判断に関係なく、気になったときにいつでも(電話等で相談)	13.4
4	自身の体調の変化に関係なく、薬剤師が必要と判断したとき(薬剤師から連絡してほしい)	3.4
5	その他	1.6
6	相談したいと思うことはない	23.8

(無回答 2.9)

問 36 あなたは、かかりつけの薬剤師・薬局にどのようなことをしてほしいですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで) (n=1, 353) (%)

(かかりつけの薬剤師・薬局を決めていない方は、決めたものと仮定してお答えください)

1	服用している薬の効果や副作用の継続的な確認	50.2
2	現在服用している医療機関から出された薬及び市販薬の情報すべての把握	21.2
3	現在だけでなく、過去に服用していた薬の情報(アレルギーや副作用歴等)も含めた継続的な把握	17.7
4	服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談	27.9
5	薬に関する相談(薬の変更等)の医師への橋渡し役	17.2
6	家で余っている薬(残薬)に関する相談	11.2
7	夜間・休日など薬局の開局時間外の対応	11.5
8	在宅医療や介護の相談	2.7
9	在宅医療における居宅への訪問対応	1.3
10	病気のことだけでなく、日常の健康に関する相談	9.6
11	健康食品に関する情報提供	5.1
12	ジェネリック医薬品(後発医薬品)に関する情報提供	27.2
13	特になし	10.6
14	その他	1.2

(無回答 3.8)

肝炎・アルコール依存症対策

問 37 あなたは、ウイルス性肝炎という病気を知っていますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

肝炎は、肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気で、日本では特にB型、C型のウイルス性肝炎にかかる人が多くなっています。ウイルス性肝炎は、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。神奈川県では、肝炎の早期発見、早期治療のために県保健福祉事務所と県内の一部の医療機関で無料でのB型及びC型肝炎ウイルス検査を実施しています。

1 どのような病気か知っている 46.6 3 知らなかった(今回の調査で初めて知った) 9.5
2 言葉は聞いたことがある 40.7 (無回答 3.1)

問 38 あなたは、これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがありますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 受けたことがある 23.5 2 受けたことがない 62.1 3 わからない 11.5 (無回答 2.9)

【問38で「2 受けたことがない」とお答えの方に】

問 38-1 「肝炎ウイルス検査」を受けなかった主な理由を1つ選んでください。(○は1つ) (n=840) (%)

1 費用がかかるから 6.9 3 日程や場所がわからなかったから 24.5
2 健康なので必要ないから 56.8 4 その他 10.5 (無回答 1.3)

【全員の方がお答えください】

問 39 アルコール依存症について、相談できる場所として次の中から知っているものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1 医療機関(病院や診療所など) 76.3
2 公的機関(精神保健福祉センターや保健所など) 34.7
3 自助グループ(断酒会などの依存症の当事者やその家族の組織) 21.1
4 自助グループ以外のNPOなどの民間団体 12.3
5 わからない 15.5
(無回答 3.3)

妊娠・出産等に関するライフプランニング

問 40 神奈川県では、妊娠・出産等に関する正しい知識の普及啓発を行っています。

妊娠・出産等について、次の中からあなたが知っているものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1 医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる 81.4
2 卵子は胎児のうちに一生分作られ、出生後に新たに作られることはない 18.6
3 精子は加齢とともに徐々に作られる数が減少する 62.4
4 不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある 78.4
5 不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなる 64.2
6 どれも知らなかった 5.2
(無回答 6.8)

【問40で「1～5(知っている)」とお答えの方に】

問 40-1 こうした妊娠・出産や不妊に関する情報をどこから入手していますか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1, 190) (%)

1 家族 4.7 8 医師や看護師などの医療従事者 6.0
2 友人・知人 5.4 9 学校の授業 3.3
3 テレビ番組・テレビCM 19.7 10 市区町村(自治体)からの案内 —
4 本・雑誌 9.8 11 その他 1.0
5 新聞 3.9 12 覚えていない 8.3
6 インターネット(SNSやアプリなども含む) 13.2 13 わからない 1.1
7 病院のポスター・冊子など 1.4 (無回答 22.2)

【全員の方がお答えください】

問 41 男女の加齢により妊娠しにくくなるなど、妊娠・出産と年齢との関係についての情報を、いづ
 ころに知っておくのがよいと思いますか。(○は1つ) (n=1, 353) (%)

1 小学生の頃 (11歳以下)	5.0	4 大学生の頃 (18~22歳頃)	18.3	7 35歳以上	0.7
2 中学生の頃 (12~14歳頃)	28.0	5 23~30歳頃	9.0	8 わからない	4.7
3 高校生の頃 (15~17歳頃)	29.2	6 30~35歳頃	1.0	9 知る必要はない	1.1

(無回答 2.9)

問 42 「将来、自分が子どもを持つのか持たないのか、どのようにその希望を実現するか」といった
 観点からの人生設計(ライフプラン)について、あなたは考えたことがありますか。(○は1つ)

(n=1, 353) (%)

1 考えたことがある	60.5	2 考えたことがない	17.7	3 覚えていない	15.4
------------	------	------------	------	----------	------

(無回答 6.5)

地震対策の取組

問 43 神奈川県では、首都直下地震や南海トラフ地震、神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘され
 るなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっています。

あなたの家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。あてはまるものを
 すべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1, 353) (%)

1 非常持ち出し品を準備している	47.8
2 食料や飲料水を備蓄している	66.6
3 耐震性のある家に住んでいる	33.0
4 家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している(一部固定を含む)	41.3
5 避難場所や避難経路を確認している	43.5
6 家族との連絡方法を確認している	31.9
7 防災訓練に積極的に参加している	9.4
8 感震ブレーカー等(揺れを感知して電気を止める器具)を設置している	6.6
9 消火器を設置している	28.9
10 その他	0.2
11 特に対策はしていない	8.0

「4」に○をつけた方

「4」に○をつけ
 なかった方は次の
 ページの間 43-2へ

(無回答 1.0)

【問43で「4 家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」とお答えの方に】

問 43-1 家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策は、どの程度までできてい
 ますか。(○は1つ) (n=559) (%)

1 ほぼすべての家具・家電などの固定ができています	7.0
2 重量のある家具・家電などの固定はできています	29.2
3 重量のある家具・家電などの半分程度の固定はできています	21.1
4 重量のある家具・家電などの一部の固定はできています	41.3

(無回答 1.4)

【問43で「4 家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」に○をつけなかった方に】

問 43-2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも） (n=794) (%)

1	どうやって固定してよいかわからないから	13.6
2	固定する方法がわかっても自分でできないと思うから	14.0
3	部屋の見た目が悪くなるから	9.8
4	家具や壁などに傷をつけるから	19.1
5	面倒だから	19.0
6	お金がかかるから	11.2
7	地震が起きても転倒・落下・移動しないと思うから	8.4
8	転倒・落下・移動しても危険ではないと思うから	8.8
9	固定しても大地震の時には効果がないと思うから	12.8
10	やろうと思っているが先延ばしにしているから	32.9
11	その他	4.7
12	特にない	4.8

(無回答 13.6)

【全員の方がお答えください】

問 44 海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、あなたはどのように行動しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。（○は1つ） (n=1,353) (%)

1	すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）	88.2
2	何らかの用事を終えてから避難する（地震後、15分以内で避難を開始）	5.2
3	津波が迫ってから避難する	0.9
4	わからない	4.2

(無回答 1.4)

問 45 あなたは次のことを知っていましたか。「知っていた」、「知らなかった」のどちらかに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ） (n=1,353) (%)

	知っていた	知らなかった	無回答
(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある	69.6	28.5	1.9
(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する	92.1	6.6	1.3
(3) 津波は、繰り返し襲ってくる	91.0	7.5	1.6
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い(津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)	54.9	42.7	2.4
(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある	42.6	55.2	2.1
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある	70.6	27.3	2.1
(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある	94.4	4.2	1.4
(8) 津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗（「オレンジフラッグ」といいます）が出されることがある	14.3	83.9	1.8

	知っていた	知らなかった	無回答
(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある	81.8	13.0	5.2
(10) 東日本大震災の教訓を踏まえて、総合的な地域づくりの中で津波防災を推進する「津波防災地域づくりに関する法律」が平成23年12月に施行された	16.1	78.3	5.6

問46 神奈川県では、平成27年3月に、津波防災地域づくりに関する法律（以下、「津波法」といいます。）に基づく「津波浸水想定」を公表しました。このことを踏まえ、現在、県では具体的な津波対策の促進に繋がる津波災害警戒区域の指定について、沿岸市町の意向や法の趣旨等を踏まえ、指定を進める意向のある地域から段階的に進めていくこととしています。津波法には、津波に対する警戒避難体制の整備をより確実なものとするために次のような制度があります。

「津波災害警戒区域」の指定

津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域です。津波から「逃げる」ために、避難訓練の実施、津波ハザードマップの作成、避難施設の確保等、警戒避難体制を特に整備すべき区域です。建物の建築や開発行為は制限されません。

「津波災害特別警戒区域」の指定

津波災害警戒区域のうち、津波が発生した場合、建物が損壊・浸水し、住民等の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。身体的な理由などにより、津波から逃げるのが難しい住民等が、建物の中にも津波を「避ける」ことができるよう、社会福祉施設、医療施設、学校等を建築する場合などに、一定の規制があります。

「推進計画」の策定

津波防災地域づくりを推進するために市町村が作成する計画で、市町村が実施する施策だけでなく、国・都道府県・地域住民など多様な主体によるハード（津波防護施設の整備）・ソフト（避難訓練の実施等）のあらゆる施策を計画に位置付けることができます。

津波に対する防災・減災の観点から、あなたが住んでいる地域で実施が望まれる制度はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも） (n=1,353) (%)

1 「津波災害警戒区域」の指定	17.1
2 「津波災害特別警戒区域」の指定	15.4
3 津波防災地域づくりの総合防災ビジョンを示す「推進計画」の策定	15.2
4 特にない	28.6
5 わからない	32.8

(無回答 10.1)

自転車損害賠償責任保険等への加入

問47 あなたは、通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用していますか。（○は1つ） (n=1,353) (%)

1 利用している	35.0	2 利用していない	60.6	(無回答 4.4)
----------	------	-----------	------	-----------

【問47で「1 利用している」とお答えの方に】

問47-1 あなたは、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険（自転車損害賠償責任保険等）に加入していますか。（○は1つ） (n=473) (%)

1 加入している	60.3	2 加入していない	31.5	3 わからない	8.0
----------	------	-----------	------	---------	-----

(無回答 0.2)

神奈川県内では、自転車利用中に歩行者と衝突し、転倒させる重大事故が発生しているほか、国内では、過去に自転車利用者側に9,000万円を超える賠償金が課せられた事例もあります。

自転車損害賠償責任保険等とは、このような自転車利用中の交通事故で、相手の生命、身体の被害に係る損害を補填する保険や共済のことを言います。

自転車損害賠償責任保険等には、自転車専用の保険や自動車保険・火災保険等の特約（個人賠償責任保険）のほか、PTA保険や自転車安全整備店での点検・整備を受けたことで加入できるTSマーク付帯保険などがあります。

【全員の方がお答えください】

問 48 あなたは、すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に参加することについてどう思いますか。（○は1つ） (n=1, 353) (%)

- | | | | | | |
|------------|------|-----------|-----|---------|-----|
| 1 加入すべきである | 81.2 | 2 その必要はない | 5.0 | 3 わからない | 9.2 |
|------------|------|-----------|-----|---------|-----|
- (無回答 4.6)

...

● 最後に集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きます。（個人を特定するものではありません。）

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1, 353) (%)

- | | |
|--|------|
| 1 横浜（横浜市） | 39.8 |
| 2 川崎（川崎市） | 12.3 |
| 3 相模原（相模原市） | 6.9 |
| 4 横須賀三浦（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町） | 8.9 |
| 5 県央（厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村） | 8.3 |
| 6 湘南（平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町） | 14.9 |
| 7 県西（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町） | 4.8 |

(無回答 4.1)

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1, 353) (%)

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 男性 | 42.8 | 2 女性 | 50.8 |
|------|------|------|------|
- (無回答 6.4)

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。（2019年11月1日時点） (n=1, 353) (%)

- | | | | | | |
|----------|-----|-----------|------|-----------|------|
| 1 18～19歳 | 0.1 | 6 40～44歳 | 9.4 | 11 65～69歳 | 10.4 |
| 2 20～24歳 | 1.4 | 7 45～49歳 | 11.2 | 12 70～74歳 | 8.3 |
| 3 25～29歳 | 4.5 | 8 50～54歳 | 9.6 | 13 75～79歳 | 6.4 |
| 4 30～34歳 | 5.6 | 9 55～59歳 | 9.5 | 14 80歳以上 | 4.4 |
| 5 35～39歳 | 8.0 | 10 60～64歳 | 7.5 | | |
- (無回答 3.8)

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。（同居、別居は問いません。）次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はあてはまるものすべて） (n=1, 353) (%)

- | | | | |
|---------------|------|---------------|------|
| 1 小学校入学前 | 12.2 | 6 大学、大学院等在学中 | 7.4 |
| 2 小学校在学中 | 13.7 | 7 学校教育終了 [未婚] | 22.7 |
| 3 中学校在学中 | 6.9 | 8 学校教育終了 [既婚] | 25.6 |
| 4 高校在学中 | 7.8 | 9 その他 | 3.5 |
| 5 短大、専門学校等在学中 | 0.7 | 10 子どもはいない | 23.8 |
- (無回答 4.5)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つ) (n=1,353) (%)

1 一人暮らし(単身世帯)	9.9	4 祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	5.9
2 夫婦のみ(1世代世帯)	28.5	5 その他の世帯	4.8
3 親と子の世帯(2世代世帯)	50.0		(無回答 0.8)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中からそれぞれ1つ選び○で囲んでください。

(n=1,353) (%)		(n=845) (%)	
1 自営業主	5.6	ア 農林水産業	0.5
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.6	イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	5.6
3 勤め (フルタイム)	39.0	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.9
4 勤め (パートタイム)	16.1	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	8.8
5 内職	0.2	オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	19.1
6 主婦・主夫 (勤めについていない)	17.8	カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	23.9
7 学生	0.9	キ 教育職(教諭、保育士など)	6.2
8 無職	15.1	ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	9.8
9 その他	1.0	ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	19.2
(無回答 2.8)		(無回答 2.2)	

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

163人(12.0%)から自由意見が寄せられました。

今後調査してほしいテーマがございましたら、ご自由にお書きください。

152人(11.2%)から自由意見が寄せられました。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月25日(月)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。